

甲賀市市政に関する意識調査報告書

令和7年12月
甲賀市

目 次

I	調査の実施概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の設計	1
3	調査票の配布・回収の状況	1
4	標本抽出計画と集計にあたっての整理事項	1
5	本報告書における集計方法、数値の取り扱いについて	3
II	回答者の属性	4
III	調査結果	9
1	市政全体に関する満足度について	9
(1)	甲賀市の住みやすさ	9
(2)	暮らしの「満足度」と「重要度」	12
(3)	現在の暮らしに幸せを感じるか	104
(4)	甲賀市への愛着	109
(5)	甲賀市の魅力を自慢できるか	112
(6)	定住意向	115
(7)	市政への関心	118
2	自治振興交付金について	120
(1)	今後の敬老事業のあり方について	120
3	組回覧（回覧板）について	122
(1)	組回覧（回覧板）の活用状況	122
(2)	組回覧（回覧板）の入手方法	124
4	外国人市民との共生について	126
(1)	「やさしい日本語」の認知度	126
(2)	「やさしい日本語」の使用意向	128
(3)	外国人に対して「やさしい日本語」の使用場面	130
(4)	日本に居住している外国人に関する人権問題	132
(5)	ヘイトスピーチについての認識	134
(6)	市内に外国人が増えることについて	136
(7)	市内に外国人が増えることについて望ましい理由	138
(8)	市内に外国人が増えることについて望ましくない理由	140
5	人権に関することについて	142
(1)	「人権が尊重されるまち」になっていると感じるか	142
(2)	人権に関する取組の参加状況（過去3年以内）	144
(3)	人権の尊重されるまちの実現に向けた考え方	146

6 市の情報発信について	148
7 スポーツについて	194
(1) 1回30分以上の運動頻度	194
(2) スポーツボランティア活動の参加意向.....	196
資料：アンケート調査票	198

I 調査の実施概要

1 調査の目的

市民の市政についての意見や評価を、意識調査により統計的に把握し、今後の市政を推進するための基礎資料とすることを目的に調査を実施した。

2 調査の設計

- 調査地域：甲賀市全域
- 調査対象：市内在住の18歳以上の男女
- 調査標本数：3,000人
- 調査抽出法：層化二段無作為抽出法（抽出台帳：住民基本台帳、旧町5地域別）
- 調査方法：郵送配布・郵送回収、またはインターネットによる回答
- 調査時期：令和7年7月27日～8月19日

3 調査票の配布・回収の状況

- 配布数：3,000件
 - 回収件数（率）：1,214件（40.5%）
 - 有効回答数（率）：1,213件（40.4%）
- うち郵送回収：808件（66.6%）、インターネット回答405件（33.4%）

4 標本抽出計画と集計にあたっての整理事項

① 標本抽出計画と集計母数（集計対象数）

今回の調査では、アンケート調査配布数（標本数）を市内5地域と母集団構成比に応じて配分した。

地域別の回収率は甲賀地域が51.8%で最も多く、以下、甲南地域が42.4%、水口地域が38.3%、信楽地域が37.6%、土山地域が33.1%と続いている。

有効回答の構成比と母集団構成比をみると、概ね母集団構成比と近くなっている。

	標本抽出計画				有効回答			前回回収率 (令和6年)
	母集団	母集団構成比	抽出標本数	標本構成比	回収数	構成比	回収率	
水口地域	34,066	45.7%	1,380	46.0%	528	43.5%	38.3%	31.3%
土山地域	6,042	8.1%	245	8.2%	81	6.7%	33.1%	44.3%
甲賀地域	7,939	10.7%	311	10.4%	161	13.3%	51.8%	44.8%
甲南地域	17,385	23.3%	708	23.6%	300	24.7%	42.4%	37.9%
信楽地域	9,049	12.1%	356	11.9%	134	11.0%	37.6%	39.0%
不明・無回答	-	-	-	-	9	0.7%	-	-
合計	74,481	100%	3,000	100%	1,213	100%	40.4%	36.6%

年代別の回収率は60歳代が58.4%で最も多く、以下、70歳以上が52.8%、50歳代が40.0%、40歳代が31.7%、30歳代が26.3%、20歳代以下が18.0%と続いている。

有効回答の構成比と母集団構成比をみると、有効回答は年齢層が高い構成であることがわかる。

	標本抽出計画				有効回答			前回回収率 (令和6年)
	母集団	母集団構成比	抽出標本数	標本構成比	回収数	構成比	回収率	
20歳代以下	10,597	14.2%	433	14.4%	78	6.4%	18.0%	15.6%
30歳代	8,993	12.1%	377	12.6%	99	8.2%	26.3%	22.9%
40歳代	11,148	15.0%	445	14.8%	141	11.6%	31.7%	24.2%
50歳代	12,293	16.5%	472	15.7%	189	15.6%	40.0%	35.0%
60歳代	11,123	14.9%	423	14.1%	247	20.4%	58.4%	49.4%
70歳以上	20,327	27.3%	850	28.3%	449	37.0%	52.8%	54.4%
不明・無回答	-	-	-	-	10	0.8%	-	-
合計	74,481	100%	3,000	100%	1,213	100%	40.4%	36.6%

② 調査結果の精度

今回の調査は標本調査のため、本結果から甲賀市の18歳以上の人口（母集団）の意識や要望等を推定することができる。ただし、今回の結果が抽出調査のため、数字の誤差を考慮する必要がある。そこで、どの程度の誤差があるのかを以下の数式で求めた。

世論調査では、信頼度95%（同じ調査を対象を変えて行った場合に、100回中95回は同様の結果が得られると考えてもよい）の水準を求めることが一般的とされており、これに基づき、今回の調査における標本測定値の標本誤差を算出した。その結果、標本誤差=2.79%（小数第3位四捨五入）となり、母集団の回答は今回のアンケート調査結果の±2.79%の区間に95%の確率で存在すると言える。

$$\varepsilon = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

ε：標本誤差

±1.96：信頼度95%の時の係数

N：母集団数（調査時点の甲賀市の18歳以上人口：74,481） n：標本数（有効回答数：1,213）

P：標本測定値0.5（50%（0.5）のときに最大となるため0.5で計算）

5 本報告書における集計方法、数値の取り扱いについて

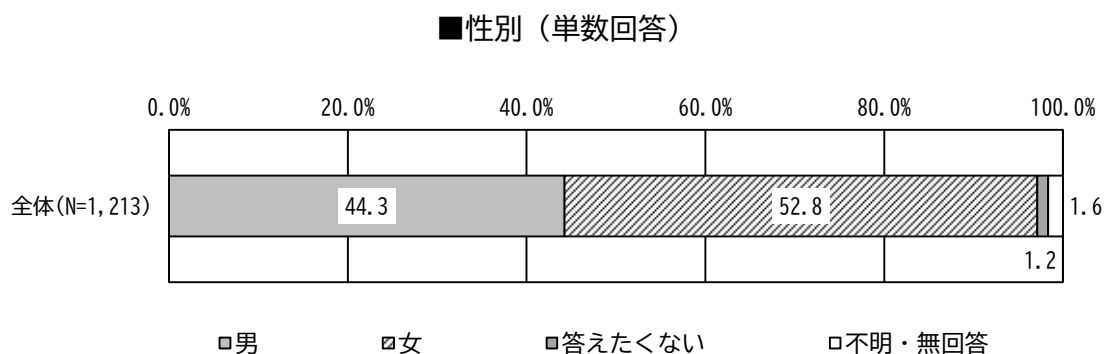
- ・ 回答結果は、各項目の不明を含む有効サンプル数に対する百分比(%)で示し、百分比は小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを表示している。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合がある。
- ・ 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの比率を示している。そのため、合計が100.0%を超える場合がある。
- ・ 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものである。
- ・ 図表中の「N」は集計対象者総数または、回答者限定設問の限定条件に該当者数を示している。

Ⅱ 回答者の属性

① 性別

＜問１＞ あなたの性別を教えてください。（○は１つ）

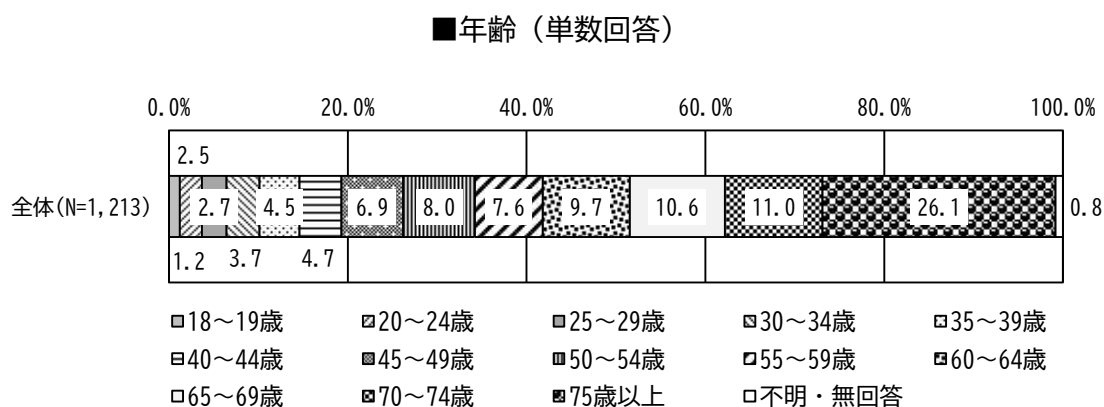
性別は、「男」が44.3%、「女」が52.8%、「答えたくない」が1.2%となっている。



② 年齢

＜問２＞ あなたの年齢は、7月1日現在でいくつですか。（○は１つ）

年齢は、「75歳以上」が26.1%で最も多くなっており、以下、「70～74歳」が11.0%、「65～69歳」が10.6%と続いている。

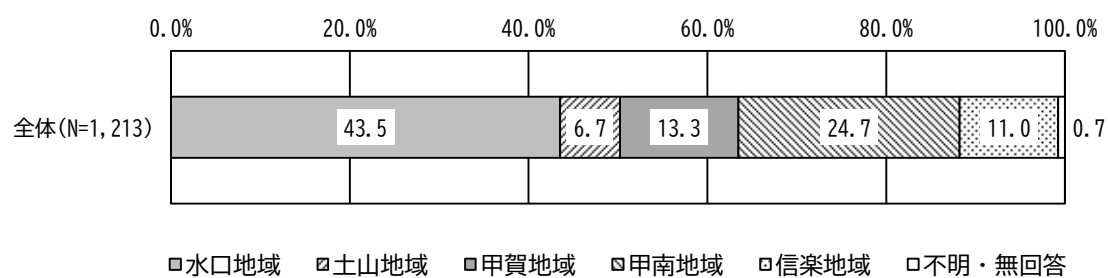


③ 居住地域

「問3」 あなたのお住まいの地域はどちらですか。(○は1つ)

居住地域は、「水口地域」が43.5%で最も多くなっており、以下、「甲南地域」が24.7%、「甲賀地域」が13.3%、「信楽地域」が11.0%、「土山地域」が6.7%と続いている。

■居住地域（単数回答）

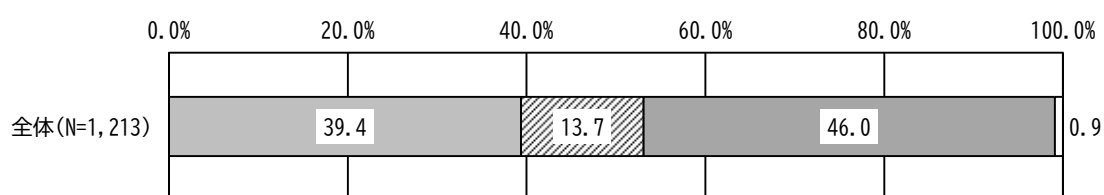


④ 甲賀市の居住歴

≪問4≫ あなたは、いつから甲賀市に住んでいますか。(○は1つ)
 <問4-1> 問4で「甲賀市で生まれて、市外に転出後、再び転入した」または「市外で生まれて甲賀市に転入した」と回答された方におたずねします。
 転入後、何年ぐらい甲賀市に住んでいますか。(○は1つ)

甲賀市の居住歴は、「市外で生まれて甲賀市に転入した」が46.0%で最も多くなっており、以下、「生まれてからずっと甲賀市に住んでいる」が39.4%、「甲賀市で生まれて、市外に転出後、再び転入した」が13.7%と続いている。

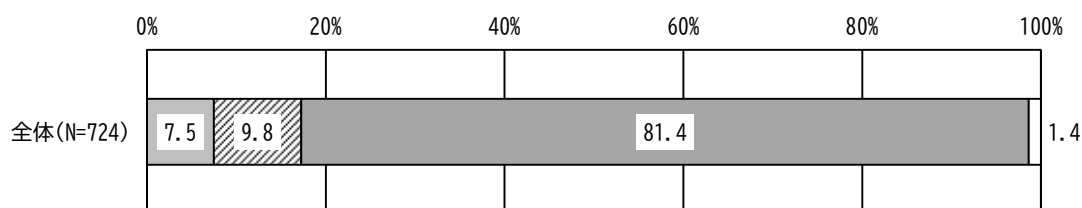
■ 甲賀市の居住歴（単数回答）



- ☐ 生まれてからずっと甲賀市に住んでいる
- ☐ 甲賀市で生まれて、市外に転出後、再び転入した
- ☐ 市外で生まれて甲賀市に転入した
- ☐ 不明・無回答

転入後の居住年数は、「10年以上」が81.4%で最も多くなっており、以下、「3年～10年未満」が9.8%、「3年未満」が7.5%と続いている。

■ 転入後の居住年数（単数回答）



- ☐ 3年未満
- ☐ 3年から10年未満
- ☐ 10年以上
- ☐ 不明・無回答

⑤ 世帯（同居）構成

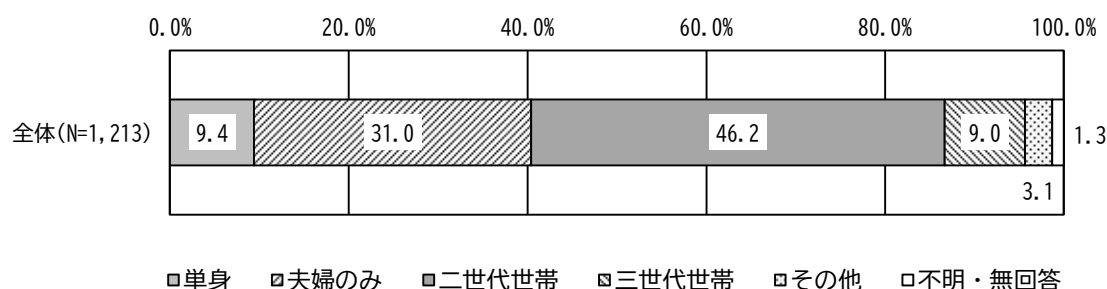
《問5》 あなたの世帯（同居）の構成はどれですか。（○は1つ）

＜問5-1＞ 問5で「二世帯世帯（親・子）」「三世帯世帯（親・子・孫）」「その他」のいずれかに回答された方におたずねします。

あなたに、就学前または就学しているお子様・お孫様（同居）はおられますか。
（○はいくつでも）※別居されているお子様・お孫様は含みません。

世帯（同居）構成は、「二世帯世帯」が46.2%で最も多くなっており、以下、「夫婦のみ」が31.0%、「単身」が9.4%、「三世帯世帯」が9.0%と続いている。

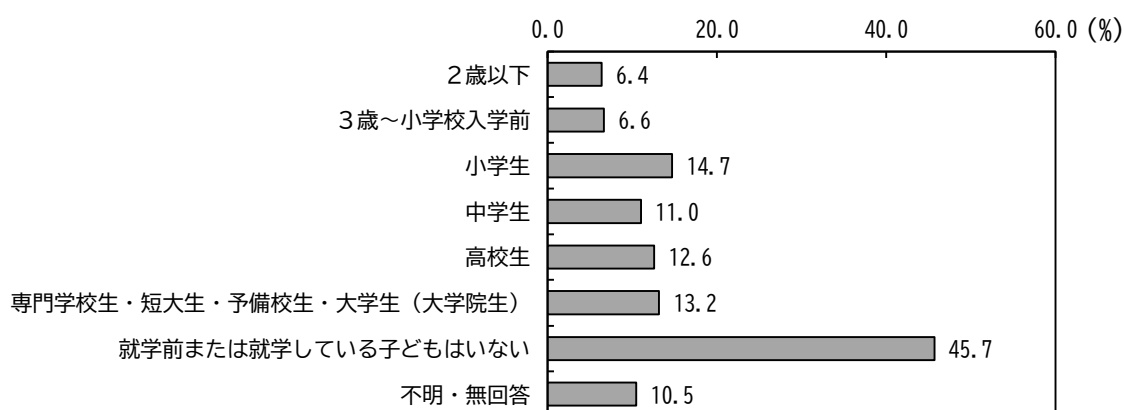
■世帯構成（単数回答）



同居の子どもの年代は、「就学前または就学している子どもはいない」が45.7%で最も多くなっており、以下、「小学生」が14.7%、「専門学校生・短大生・予備校生・大学生（大学院生）」が13.2%、「高校生」が12.6%、「中学生」が11.0%と続いている。

■同居の子どもの年代（複数回答）

■全体(N=707)



⑥ 職業

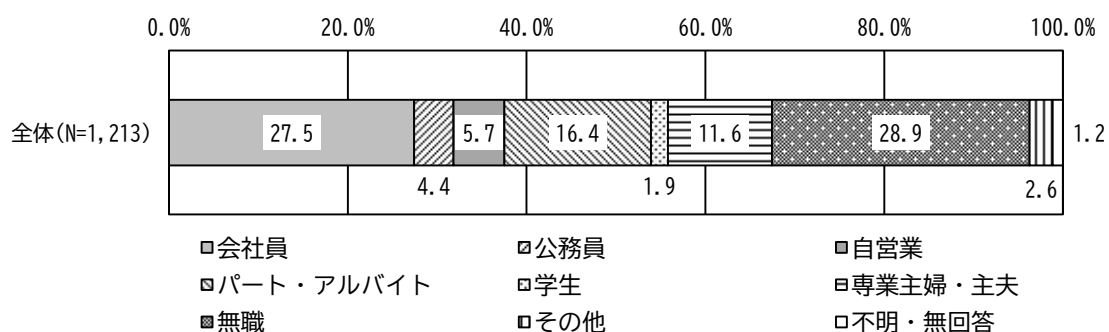
＜問 6＞ あなたの職業等は何ですか。（○は1つ）

＜問 6-1＞ 問6で「会社員」「公務員」「自営業」「パート・アルバイト」「学生」のいずれかに回答された方におたずねします。

あなたの勤務地（通学地）はどちらですか。（○は1つ）

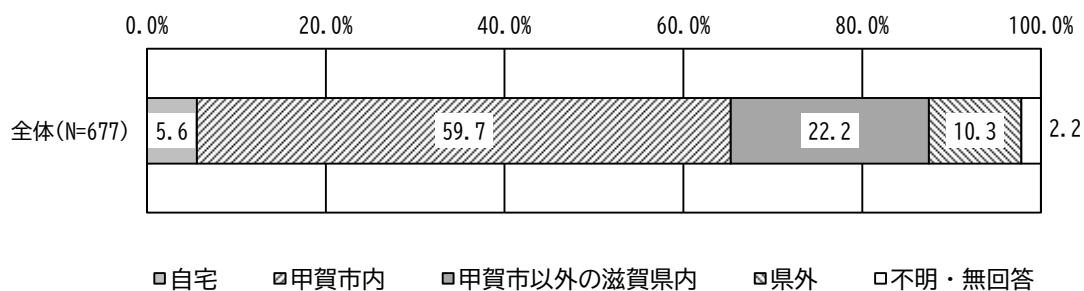
職業は、「無職」が28.9%で最も多くなっており、以下、「会社員」が27.5%、「パート・アルバイト」が16.4%と続いている。

■職業（単数回答）



勤務地（通学地）は、「甲賀市内」が59.7%で最も多くなっており、以下、「甲賀市以外の滋賀県内」が22.2%、「県外」が10.3%、「自宅」が5.6%と続いている。

■勤務地（通学地）（単数回答）



Ⅲ 調査結果

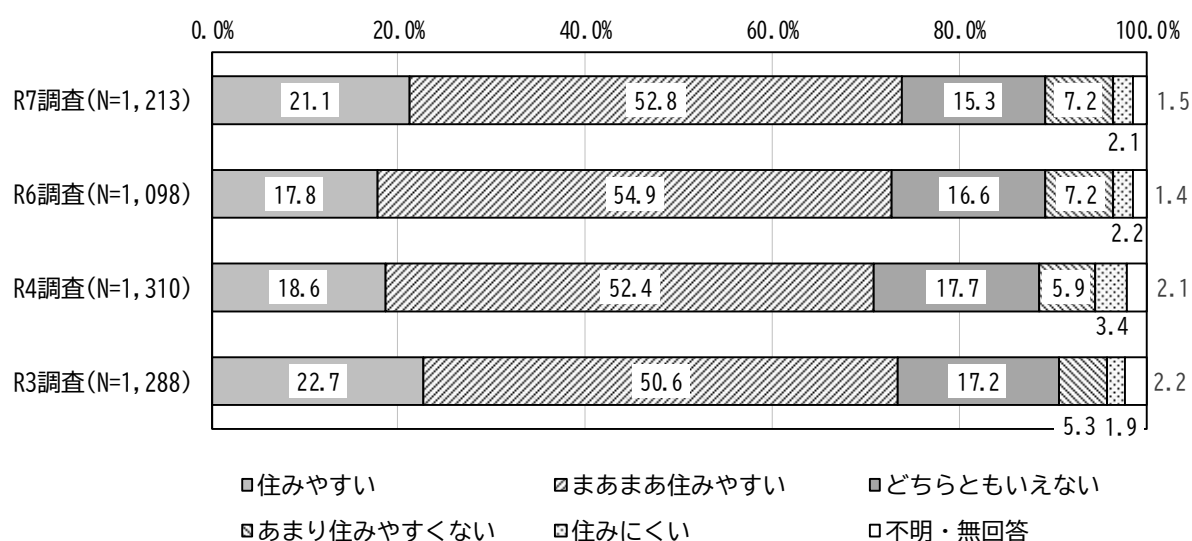
1 市政全体に関する満足度について

(1) 甲賀市の住みやすさ

「問 7」 あなたは、甲賀市の住みやすさについてどのように感じておられますか。(○は1つ)

令和3年度調査からの推移をみると、令和4年度から「住みやすい」と「まあまあ住みやすい」を合わせた『住みやすい』の割合は増加している。

■甲賀市の住みやすさ（単数回答）



●全体でみると、「まあまあ住みやすい」が52.8%で最も多くなっており、以下、「住みやすい」が21.1%、「どちらともいえない」が15.3%、「あまり住みやすくない」が7.2%と続いている。『住みやすい』は73.9%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「まあまあ住みやすい」が最も多くなっている。『住みやすい』の割合をみると、男性は74.6%、女性は73.8%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「まあまあ住みやすい」が最も多くなっている。『住みやすい』の割合をみると、最も多いのは30歳代で87.9%、以下、40歳代で78.7%、20歳代以下で74.3%と続いている。

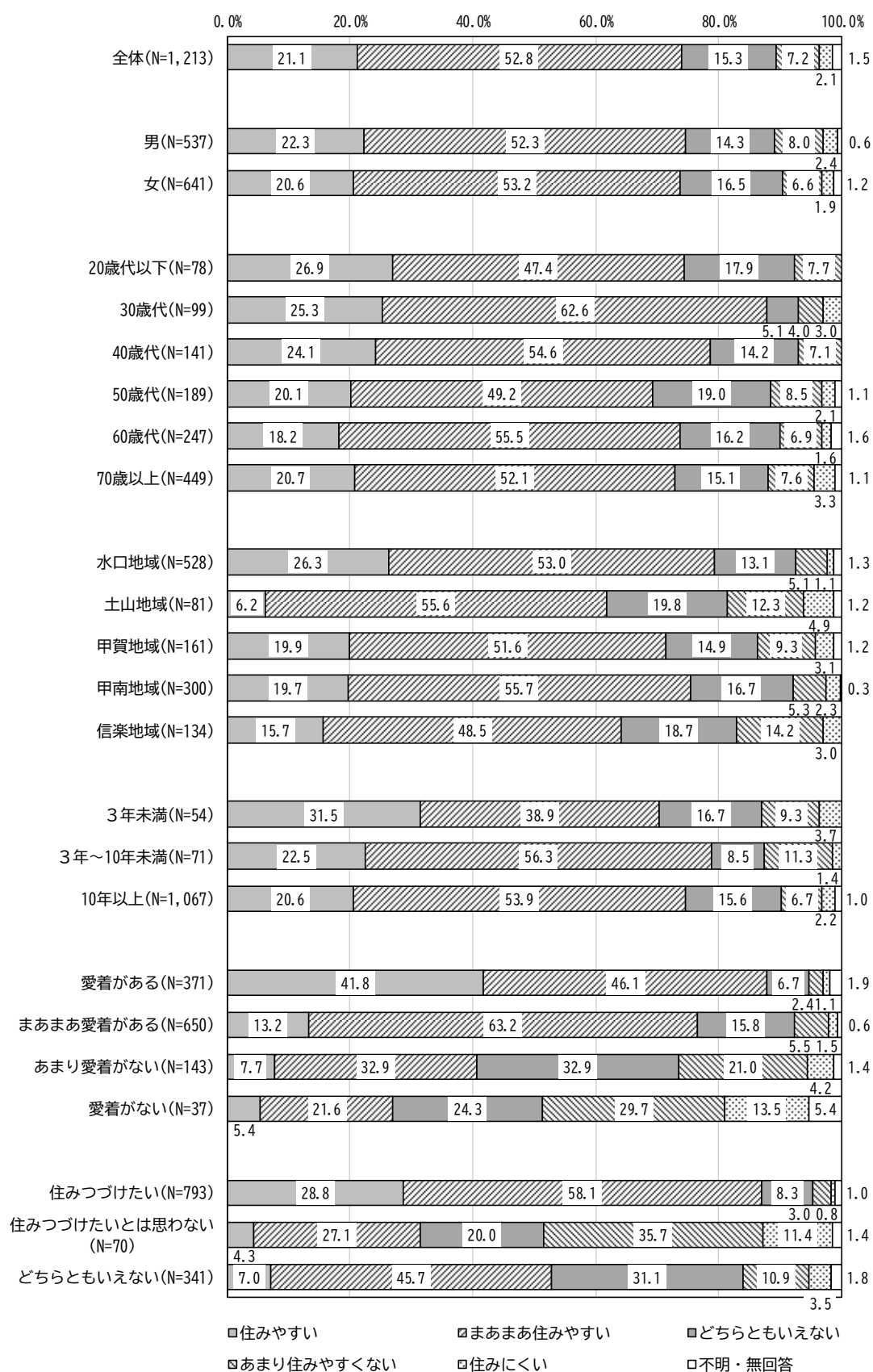
●居住地域別にみると、すべての地域において「まあまあ住みやすい」が最も多くなっている。『住みやすい』の割合をみると、最も多いのは水口地域で79.3%、以下、甲南地域で75.4%、甲賀地域で71.5%、信楽地域で64.2%、土山地域で61.8%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「まあまあ住みやすい」が最も多くなっている。『住みやすい』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で78.8%、以下、10年以上で74.5%、3年未満で70.4%と続いている。

●愛着別にみると、“愛着がある”、“まあまあ愛着がある”、“あまり愛着がない”は「まあまあ住みやすい」が、“愛着がない”は「あまり住みやすくない」が最も多くなっている（“あまり愛着がない”は「どちらともいえない」と同率）。『住みやすい』の割合をみると、最も多いのは“愛着がある”で87.9%、以下、“まあまあ愛着がある”で76.4%、“あまり愛着がない”で40.6%、“愛着がない”で27.0%と続いており、愛着があるにつれて多くなっている。

●定住意向別にみると、“住みつづけたい”、“どちらともいえない”は「まあまあ住みやすい」が、“住みつづけたいとは思わない”は「あまり住みやすくない」が最も多くなっている。『住みやすい』の割合をみると、最も多いのは“住みつづけたい”で86.9%、以下、“どちらともいえない”で52.7%、“住みつづけたいとは思わない”で31.4%と続いている。

■甲賀市の住みやすさ（単数回答）



※「10年以上」は、「転入後の居住年数10年以上」と「生まれてからずっと甲賀市に住んでいる」の合計。
以下の図表すべてにおいて同様。

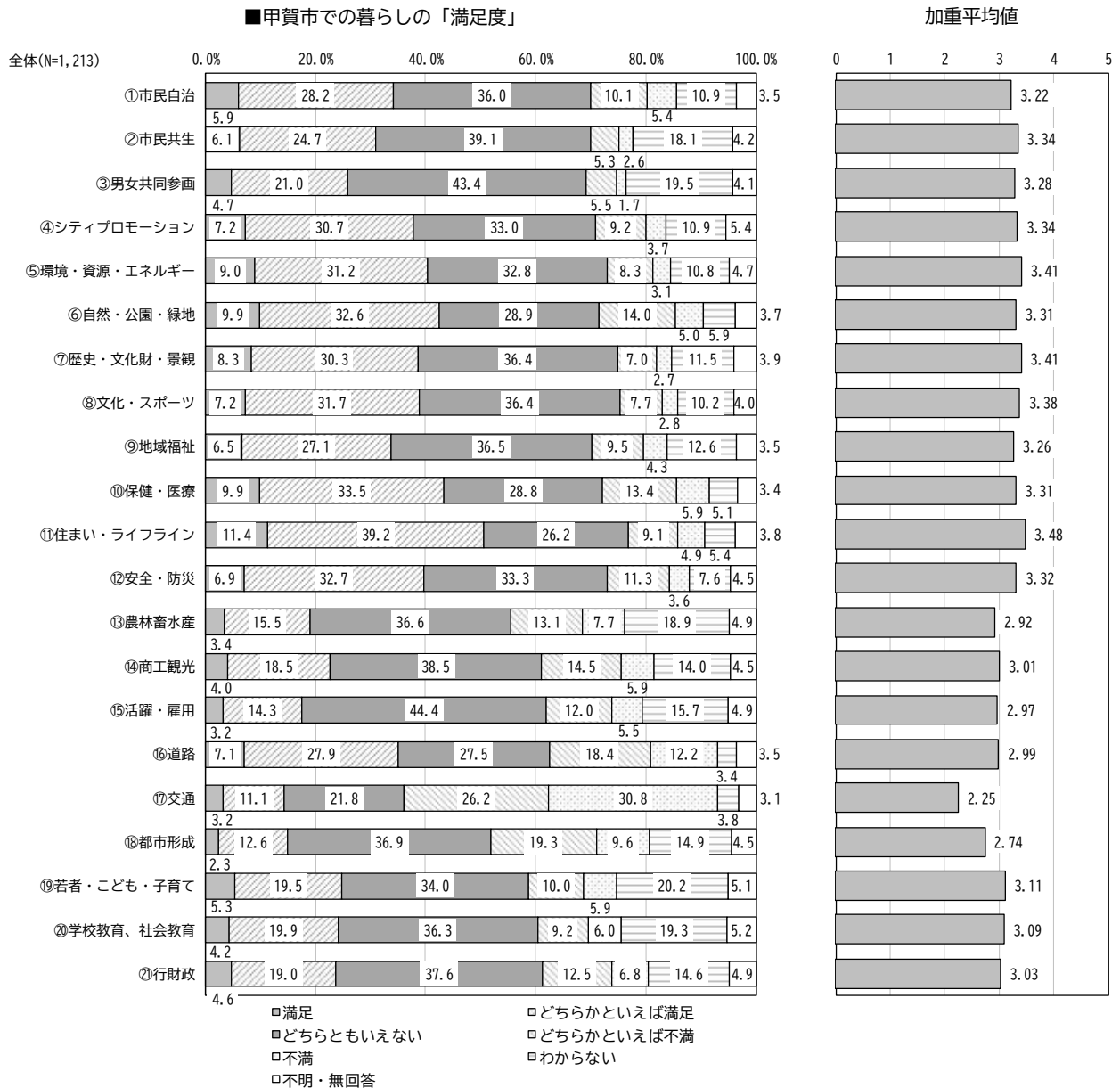
(2) 暮らしの「満足度」と「重要度」

《問8》 あなたの甲賀市での暮らしの「満足度」と「重要度」についておたずねします。
以下の①～⑳のそれぞれの項目について、右の欄の1～6の中から満足度合い、重要度合いに最も近いものを選んでください。(それぞれ○は1つ)

【満足度】

●全体でみると、「満足」が最も多いのは「住まい・ライフライン」で11.4%、以下、「自然・公園・緑地」「保健・医療」が同率で9.9%と続いている。「不満」が最も多いのは「交通」で30.8%、以下、「道路」で12.2%、「都市形成」で9.6%と続いている。

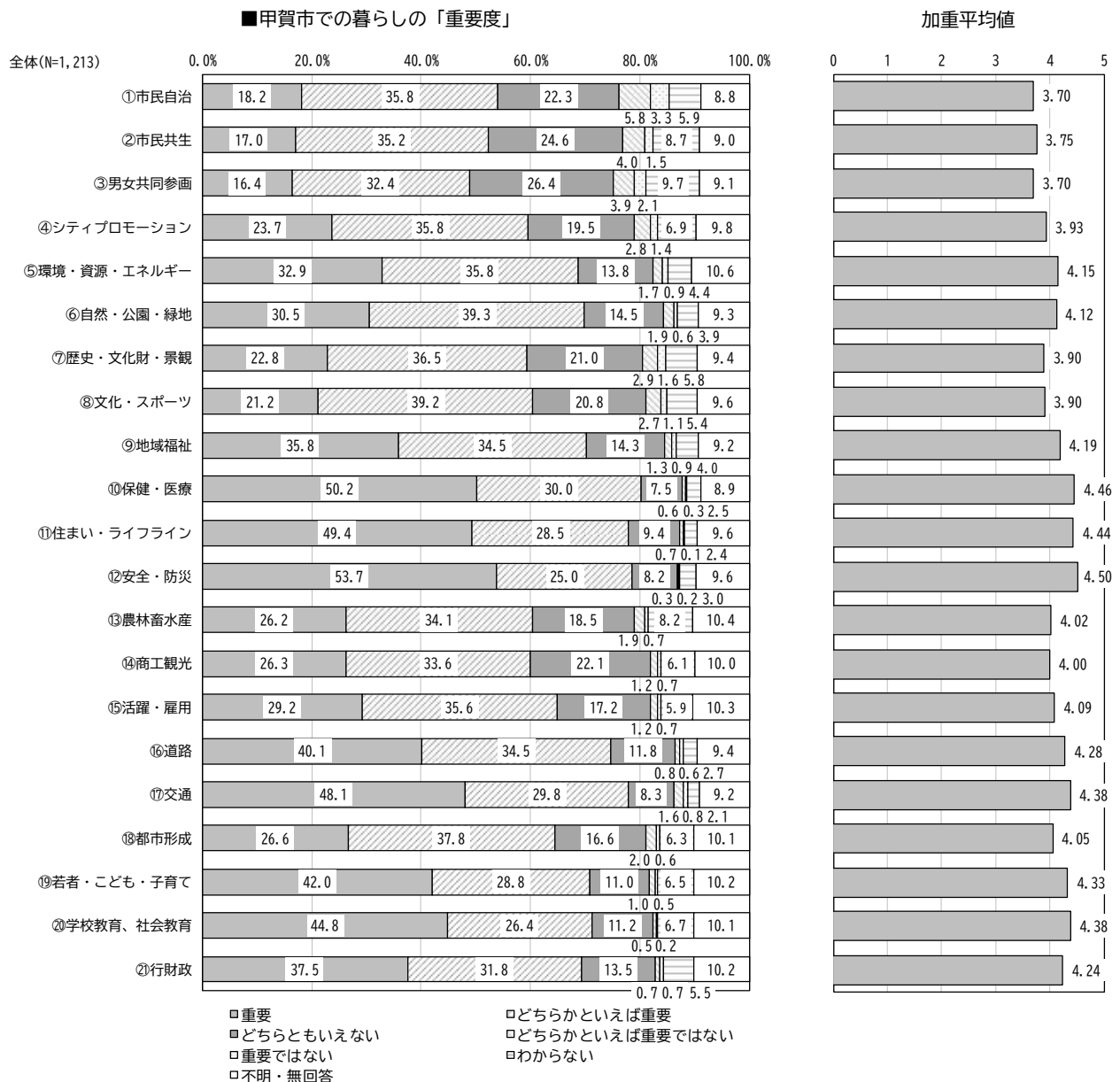
●加重平均値（「満足」を5点、「どちらかといえば満足」を4点、「どちらともいえない」を3点、「どちらかといえば不満」を2点、「不満」を1点とした場合）でみると、最も高いのは「住まい・ライフライン」で3.48点、以下、「環境・資源・エネルギー」「歴史・文化財・景観」が同値で3.41点で続いている。



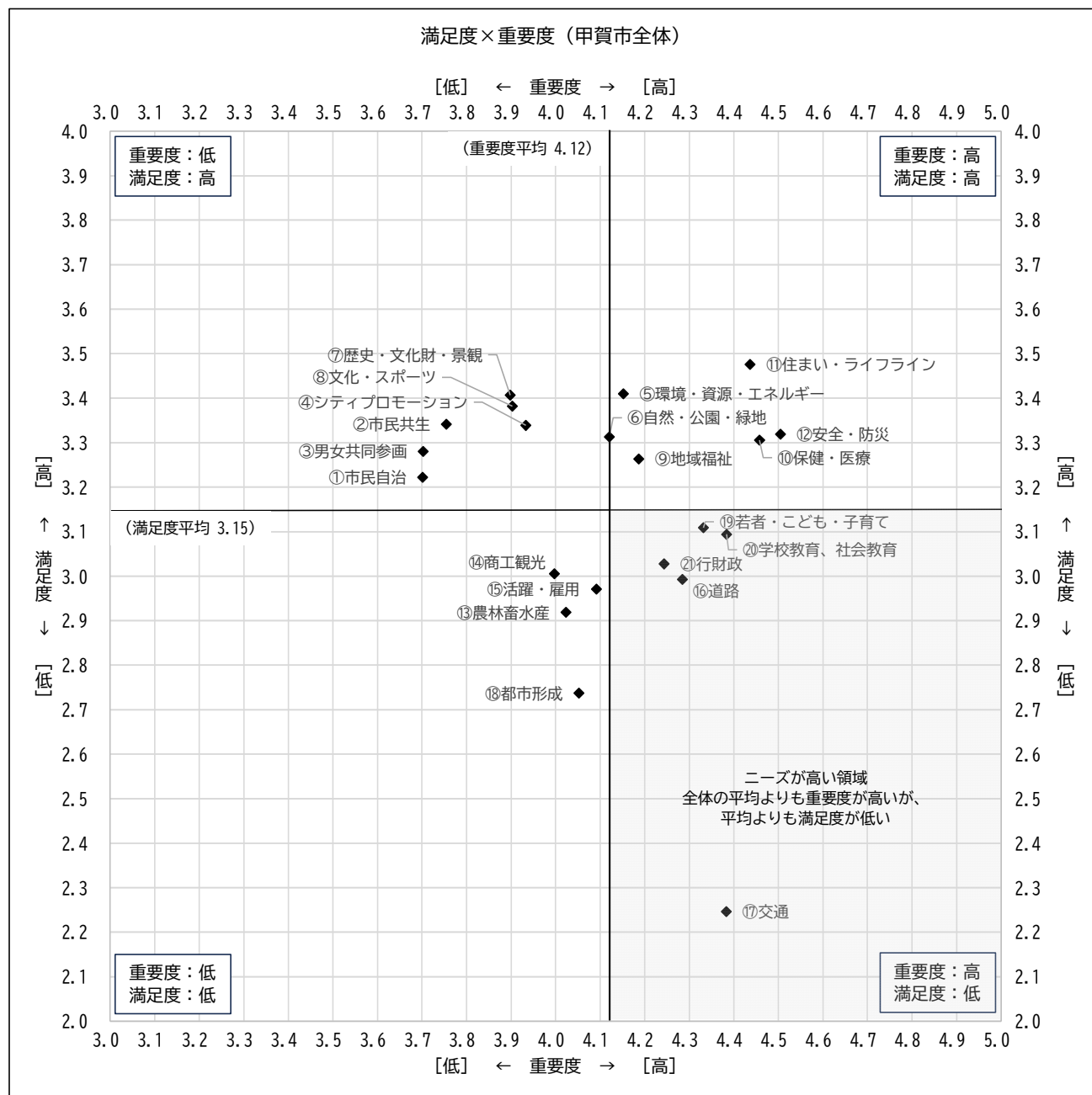
【重要度】

●全体でみると、「重要」が最も多いのは「安全・防災」で53.7%、以下、「保健・医療」で50.2%、「住まい・ライフライン」で49.4%と続いている。「重要ではない」が最も多いのは「市民自治」で3.3%、以下、「男女共同参画」で2.1%、「歴史・文化財・景観」で1.6%と続いている。

●加重平均値（「重要」を5点、「どちらかといえば重要」を4点、「どちらともいえない」を3点、「どちらかといえば重要ではない」を2点、「重要ではない」を1点とした場合）でみると、最も高いのは「安全・防災」で4.50点、以下、「保健・医療」で4.46点、「住まい・ライフライン」で4.44点と続いている。

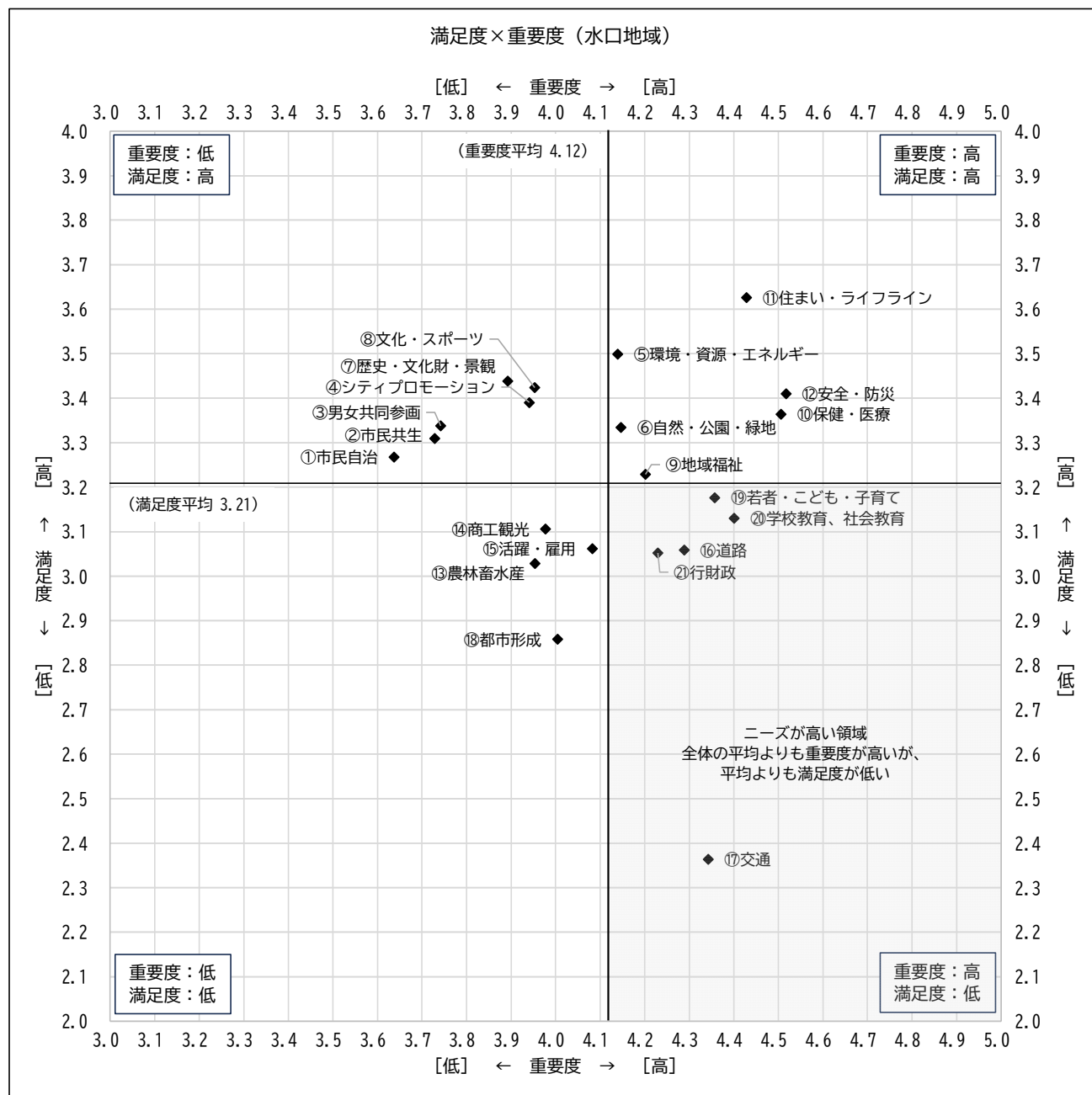


満足度を縦軸、重要度を横軸とし、全項目の加重平均値の平均を原点とした2次元上にそれぞれを配置した場合、「道路」「交通」「若者・子ども・子育て」「学校教育、社会教育」「行財政」の5項目は、縦軸より右、横軸より下に位置している。これらは、全体の平均より重要度は高いが、低い満足度しか得られていない「ニーズの高い領域」と見なせる。



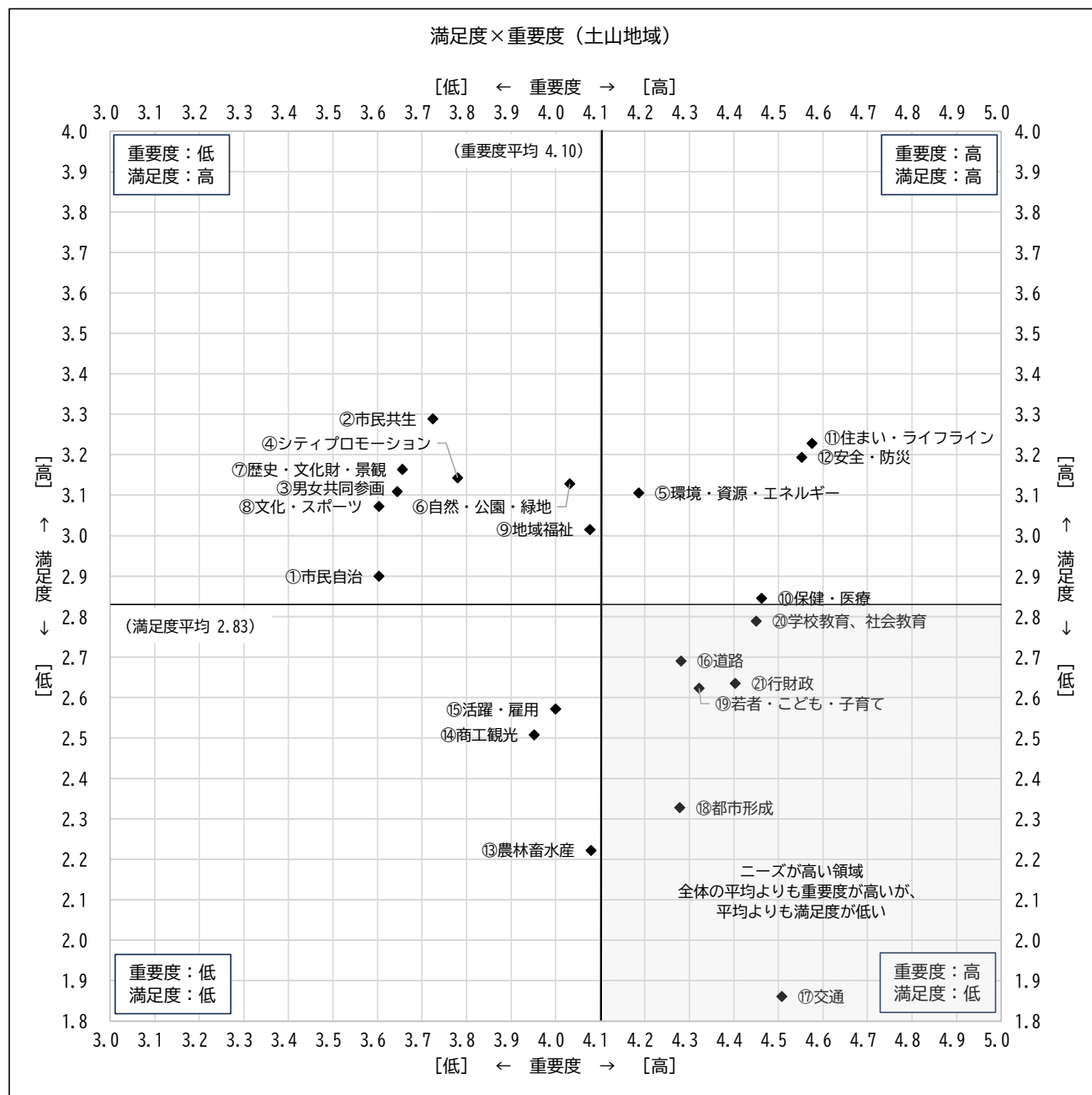
※全体の満足度平均 3.15 重要度平均 4.12 を中心として2軸4象限にプロットしている。

水口地域では、「道路」「交通」「若者・子ども・子育て」「学校教育、社会教育」「行財政」の5項目は、縦軸より右、横軸より下に位置している。これらは、全体の平均より重要度は高いが、低い満足度しか得られていない「ニーズの高い領域」と見なせる。



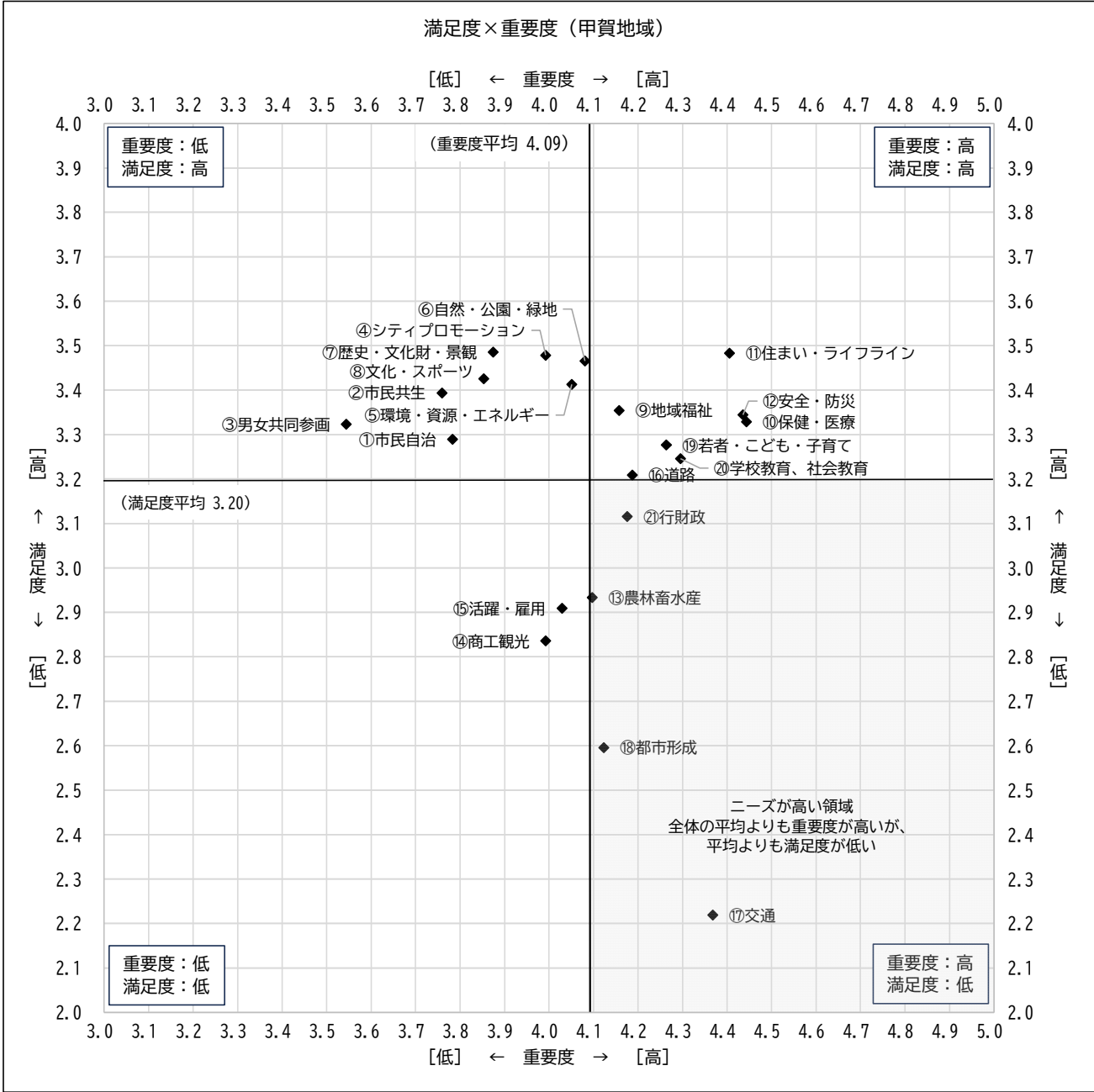
※水口地域の満足度平均 3.21 重要度平均 4.12 を中心として2軸4象限にプロットしている。

土山地域について、「道路」「交通」「都市形成」「若者・こども・子育て」「学校教育、社会教育」「行財政」の6項目は、縦軸より右、横軸より下に位置している。これらは、全体の平均より重要度は高いが、低い満足度しか得られていない「ニーズの高い領域」と見なせる。



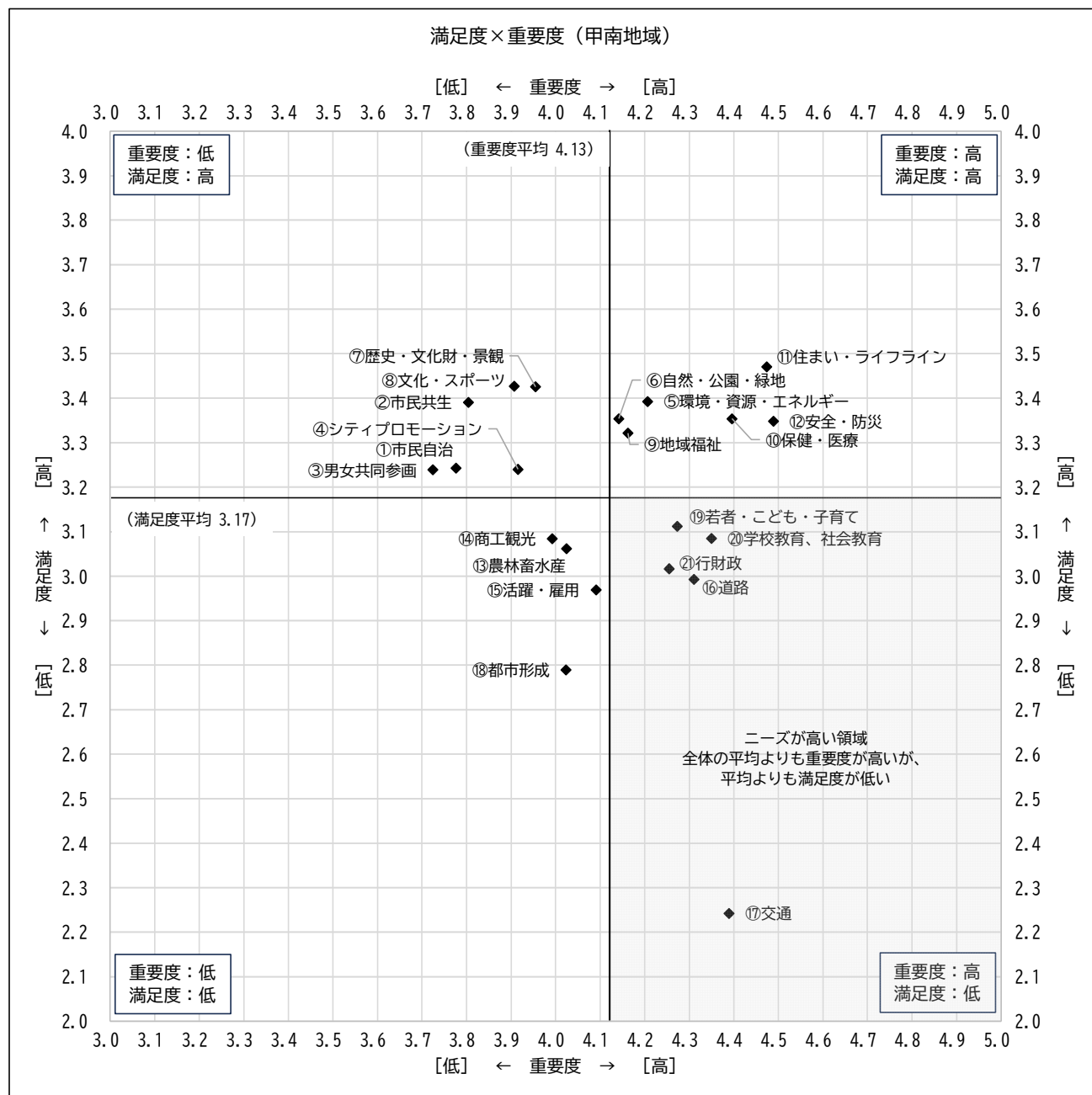
※土山地域の満足度平均 2.83 重要度平均 4.10 を中心として2軸4象限にプロットしている。

甲賀地域について、「農林畜水産」「交通」「都市形成」「行財政」の4項目は、縦軸より右、横軸より下に位置している。これらは、全体の平均より重要度は高いが、低い満足度しか得られていない「ニーズの高い領域」と見なせる。



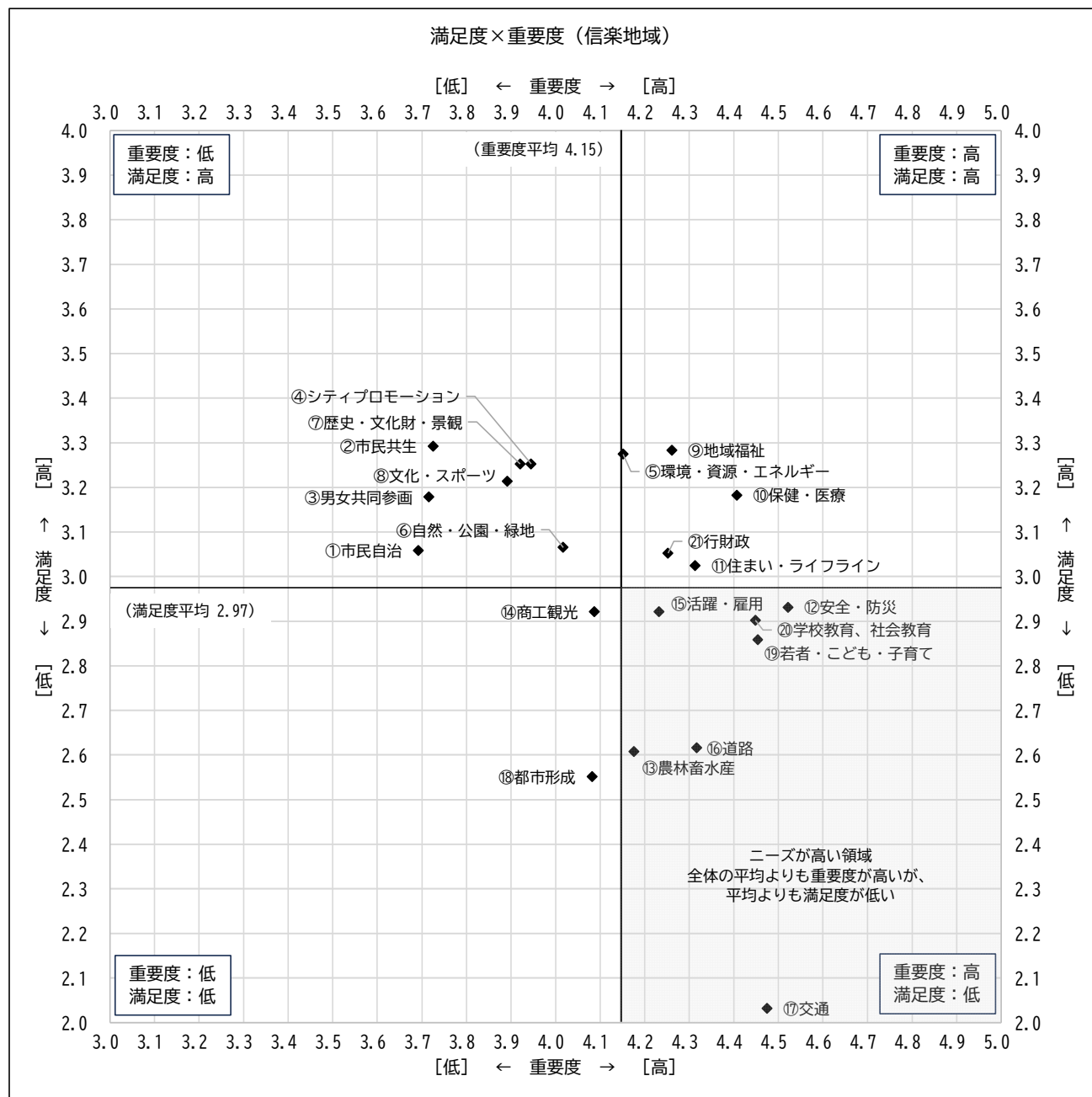
※甲賀地域の満足度平均 3.20 重要度平均 4.09 を中心として 2 軸 4 象限にプロットしている。

甲南地域について、「道路」「交通」「若者・こども・子育て」「学校教育、社会教育」「行財政」の5項目は、縦軸より右、横軸より下に位置している。これらは、全体の平均より重要度は高いが、低い満足度しか得られていない「ニーズの高い領域」と見なせる。



※甲南地域の満足度平均 3.17 重要度平均 4.13 を中心として2軸4象限にプロットしている。

信楽地域について、「安全・防災」「農林畜水産」「活躍・雇用」「道路」「交通」「若者・子ども・子育て」「学校教育、社会教育」の7項目は、縦軸より右、横軸より下に位置している。これらは、全体の平均より重要度は高いが、低い満足度しか得られていない「ニーズの高い領域」と見なせる。



※信楽地域の満足度平均 2.97 重要度平均 4.15 を中心として2軸4象限にプロットしている。

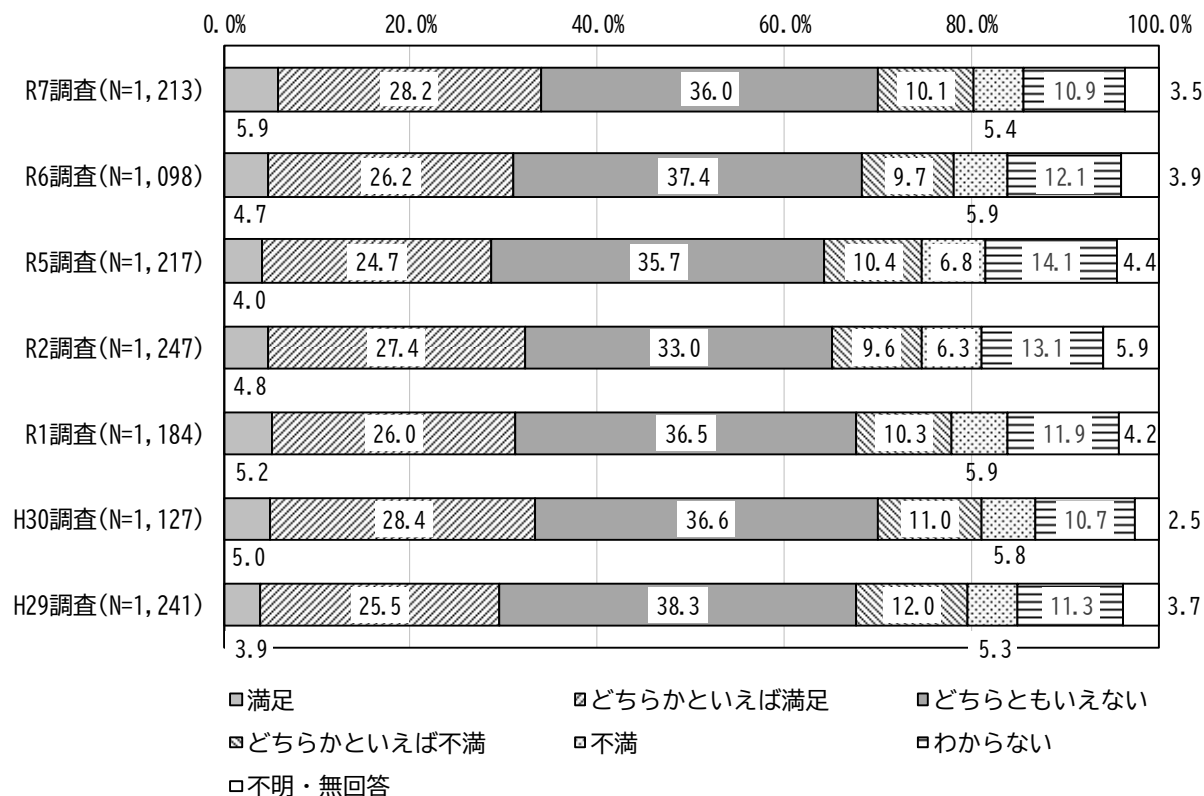
【1. あふれる愛にあなたも仲間】

① 市民自治（区・自治会、自治振興会、まちづくり協議会、市民活動）

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合は増加している。

①市民自治 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらともいえない」が 36.0%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば満足」が 28.2%、「わからない」が 10.9%、「どちらかといえば不満」が 10.1%、「満足」が 5.9%、「不満」が 5.4%と続いている。『満足』は 34.1%となっている。

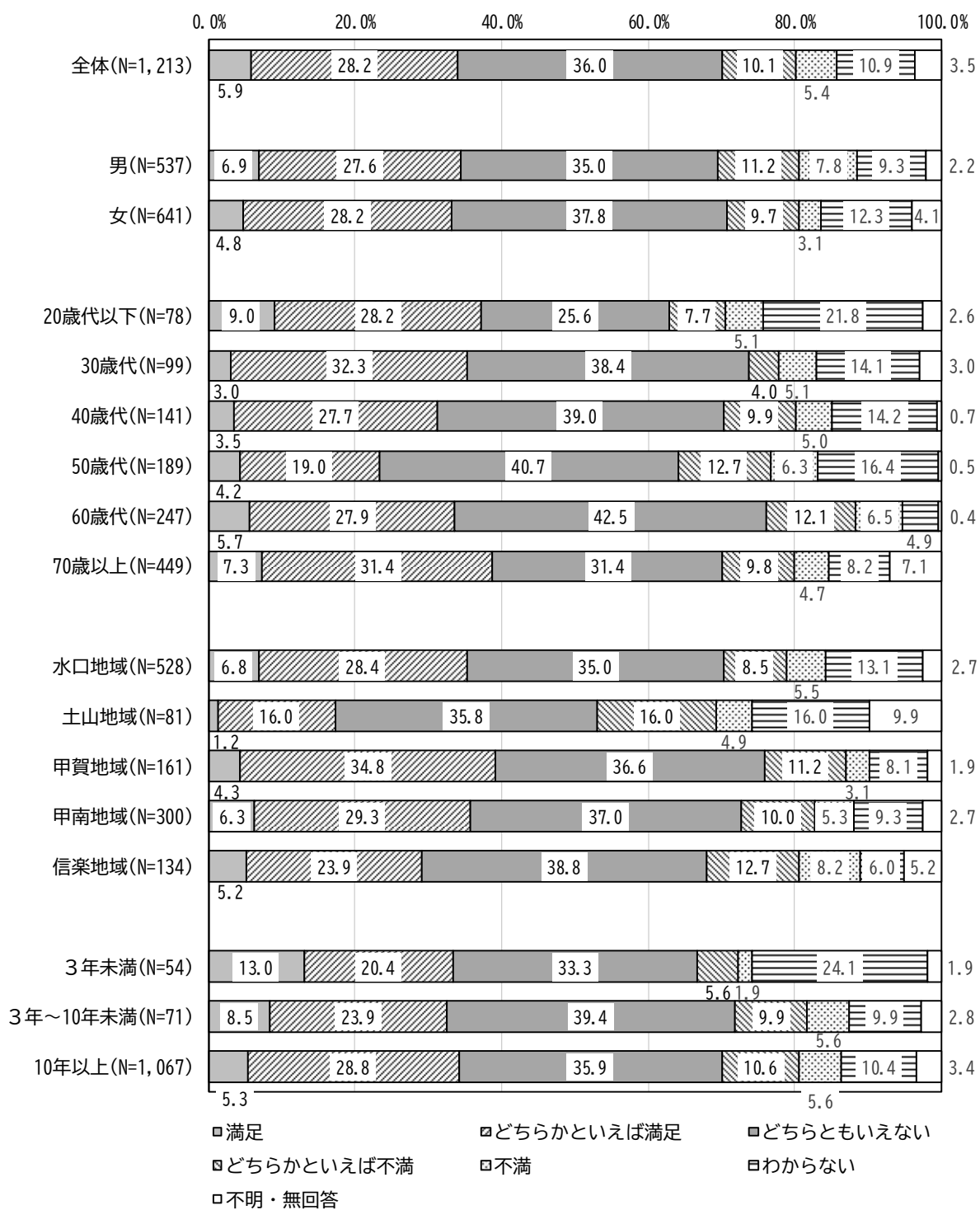
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 34.5%、女性は 33.0%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「どちらかといえば満足」が、その他の年代は「どちらともいえない」が最も多くなっている（70 歳以上は「どちらかといえば満足」と同率）。『満足』の割合をみると、最も多いのは 70 歳以上で 38.7%、以下、20 歳代以下で 37.2%、30 歳代で 35.3%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 39.1%、以下、甲南地域で 35.6%、水口地域で 35.2%、信楽地域で 29.1%、土山地域で 17.2%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらともいえない」が最も多くなっている。
『満足』の割合をみると、最も多いのは10年以上で34.1%、以下、3年未満で33.4%、3年～10年未満で32.4%と続いている。

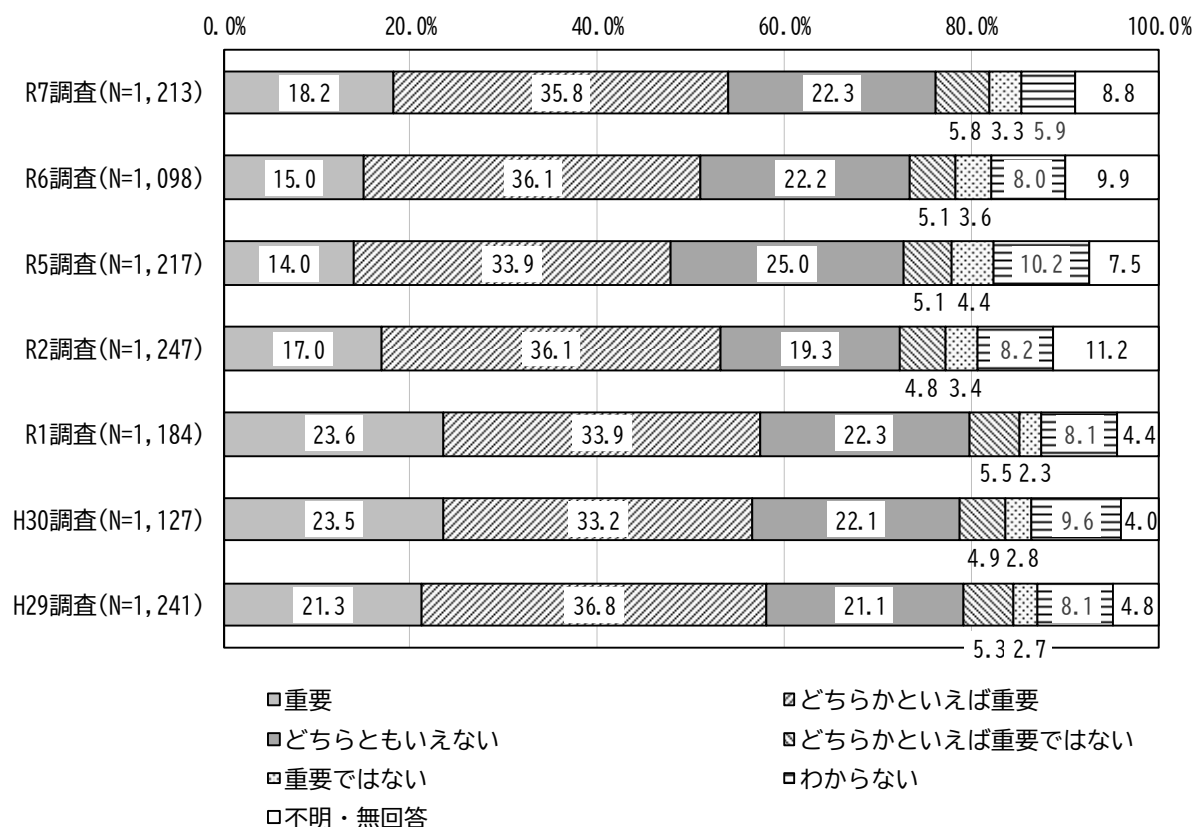
①市民自治 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

①市民自治 重要度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 35.8%で最も多くなっており、以下、「どちらともいえない」が 22.3%、「重要」が 18.2%、「わからない」が 5.9%、「どちらかといえば重要ではない」が 5.8%、「重要ではない」が 3.3%と続いている。『重要』は 54.0%となっている。

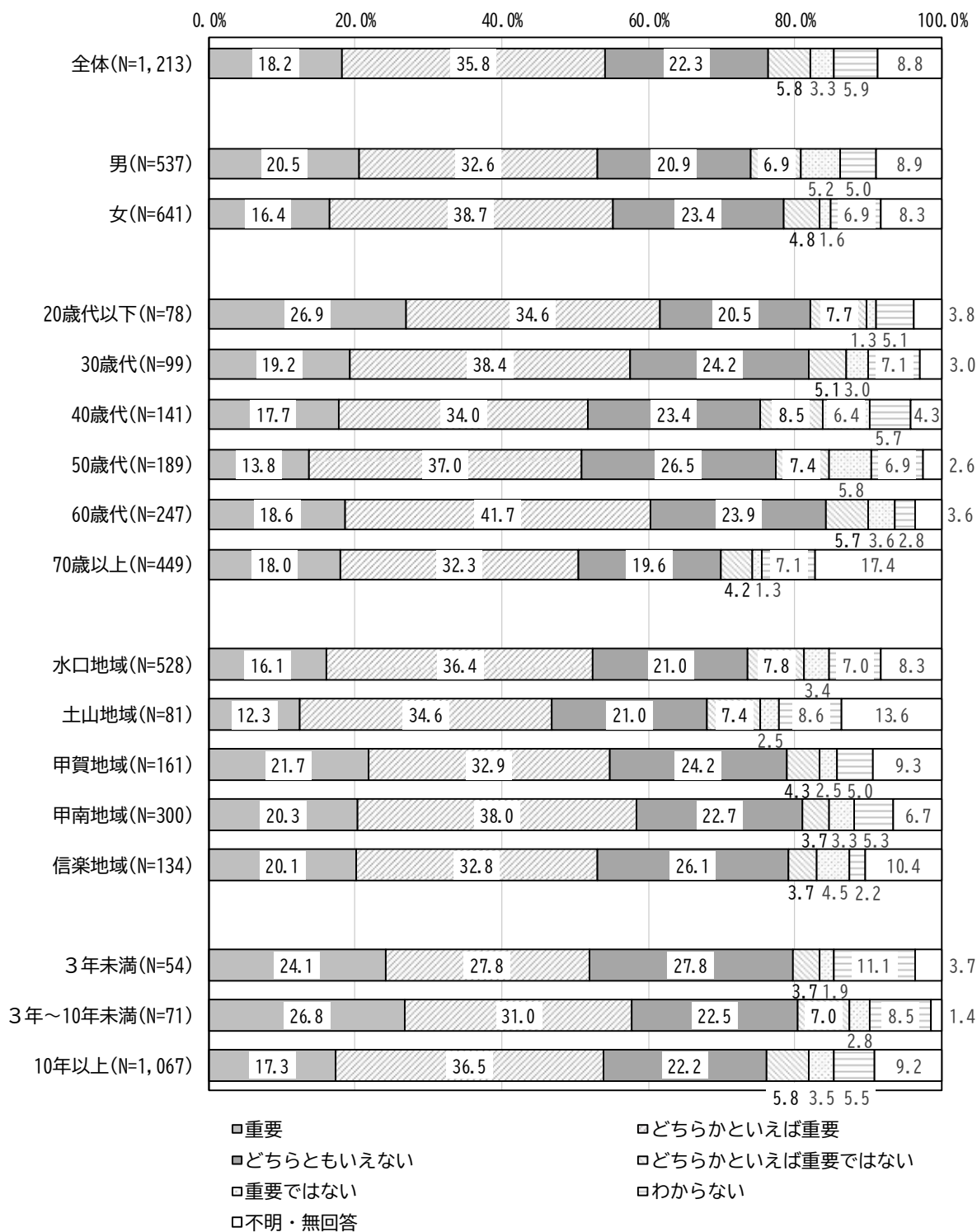
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 53.1%、女性は 55.1%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 61.5%、以下、60 歳代で 60.3%、30 歳代で 57.6%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 58.3%、以下、甲賀地域で 54.6%、信楽地域で 52.9%、水口地域で 52.5%、土山地域で 46.9%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている（3 年未満は「どちらともいえない」と同率）。『重要』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 57.8%、以下、10 年以上で 53.8%、3 年未満で 51.9%と続いている。

①市民自治 重要度（単数回答）

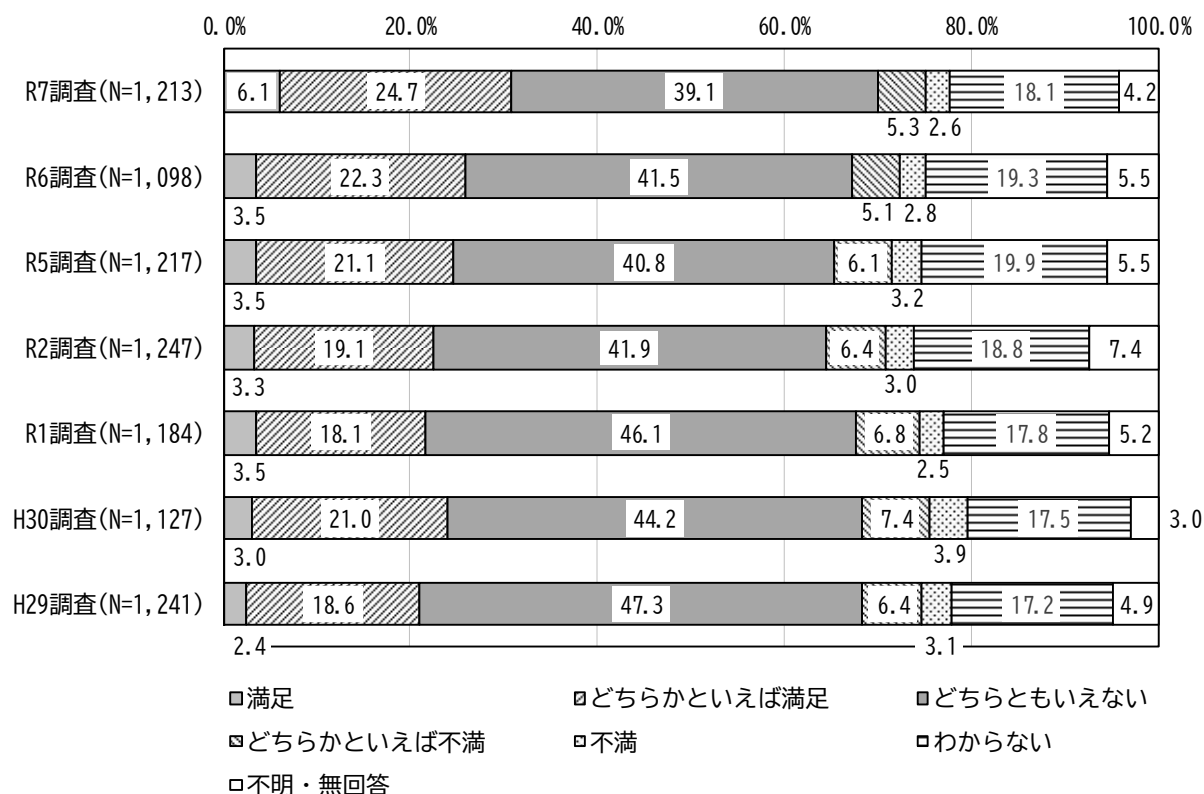


② 市民共生（人権、多文化共生）

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和元年度から「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合が増加している。

②市民共生 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらともいえない」が39.1%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば満足」が24.7%、「わからない」が18.1%、「満足」が6.1%、「どちらかといえば不満」が5.3%、「不満」が2.6%と続いている。『満足』は30.8%となっている。

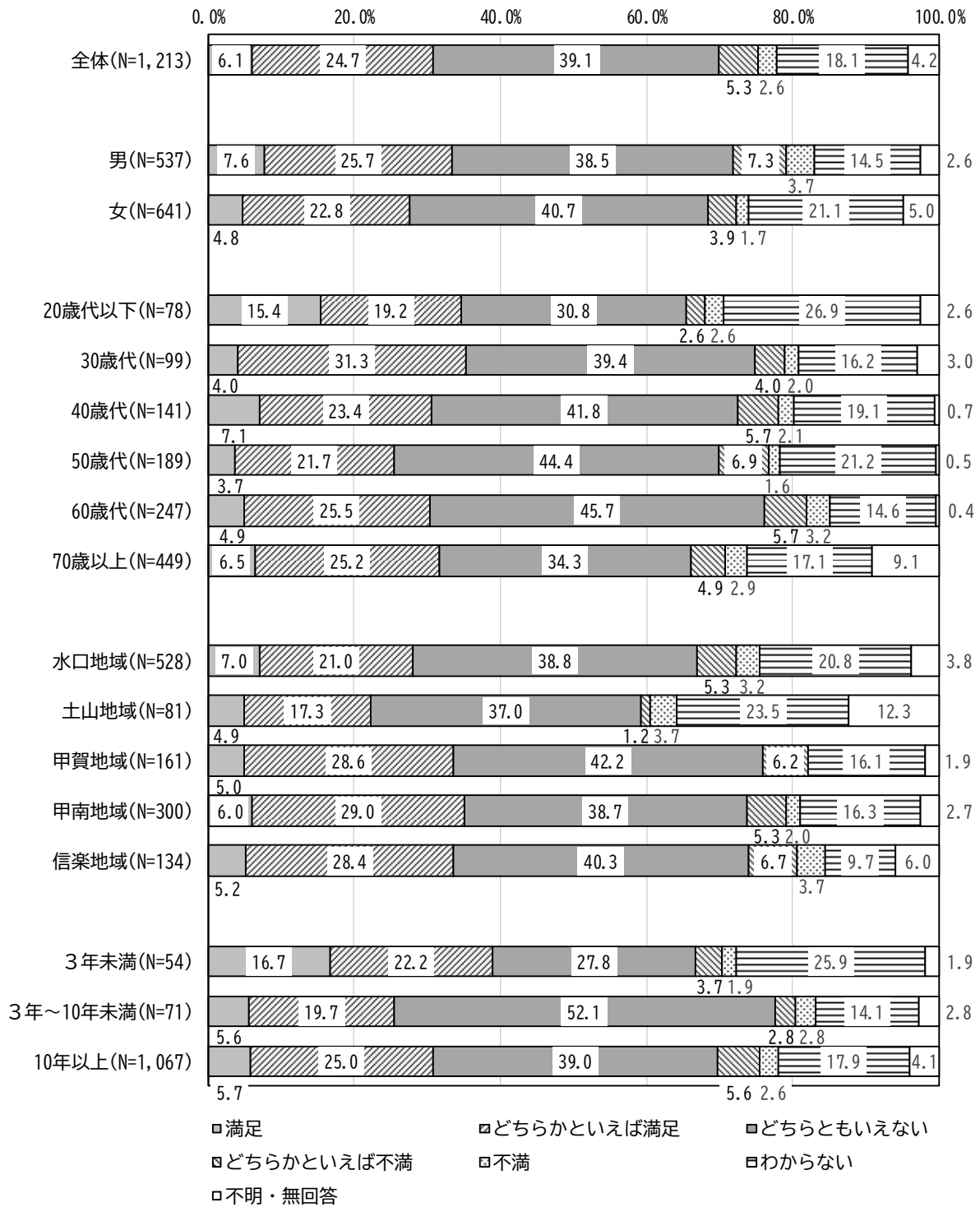
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は33.3%、女性は27.6%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは30歳代で35.3%、以下、20歳代以下で34.6%、70歳以上で31.7%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で35.0%、以下、信楽地域、甲賀地域で33.6%、水口地域で28.0%、土山地域で22.2%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは3年未満で38.9%、以下、10年以上で30.7%、3年～10年未満で25.3%と続いている。

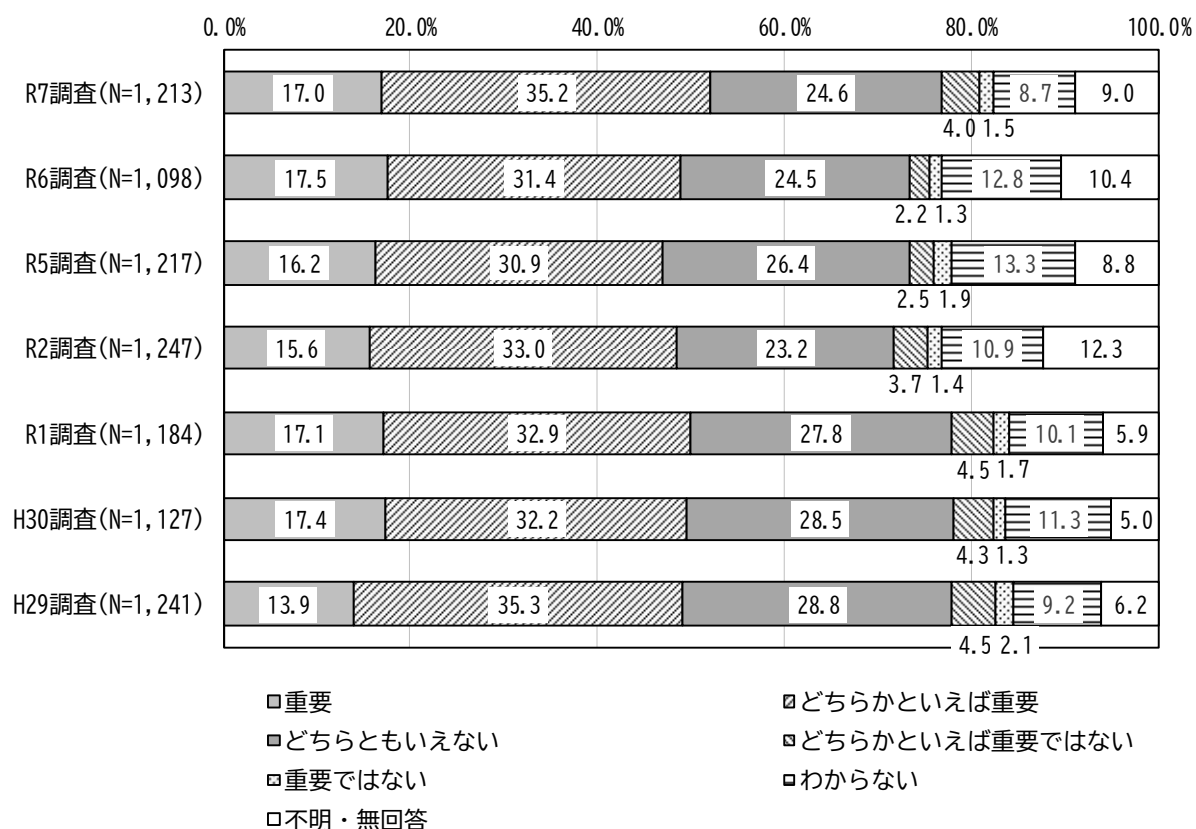
②市民共生 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

②市民共生 重要度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 35.2%で最も多くなっており、以下、「どちらともいえない」が 24.6%、「重要」が 17.0%、「わからない」が 8.7%、「どちらかといえば重要ではない」が 4.0%、「重要ではない」が 1.5%と続いている。『重要』は 52.2%となっている。

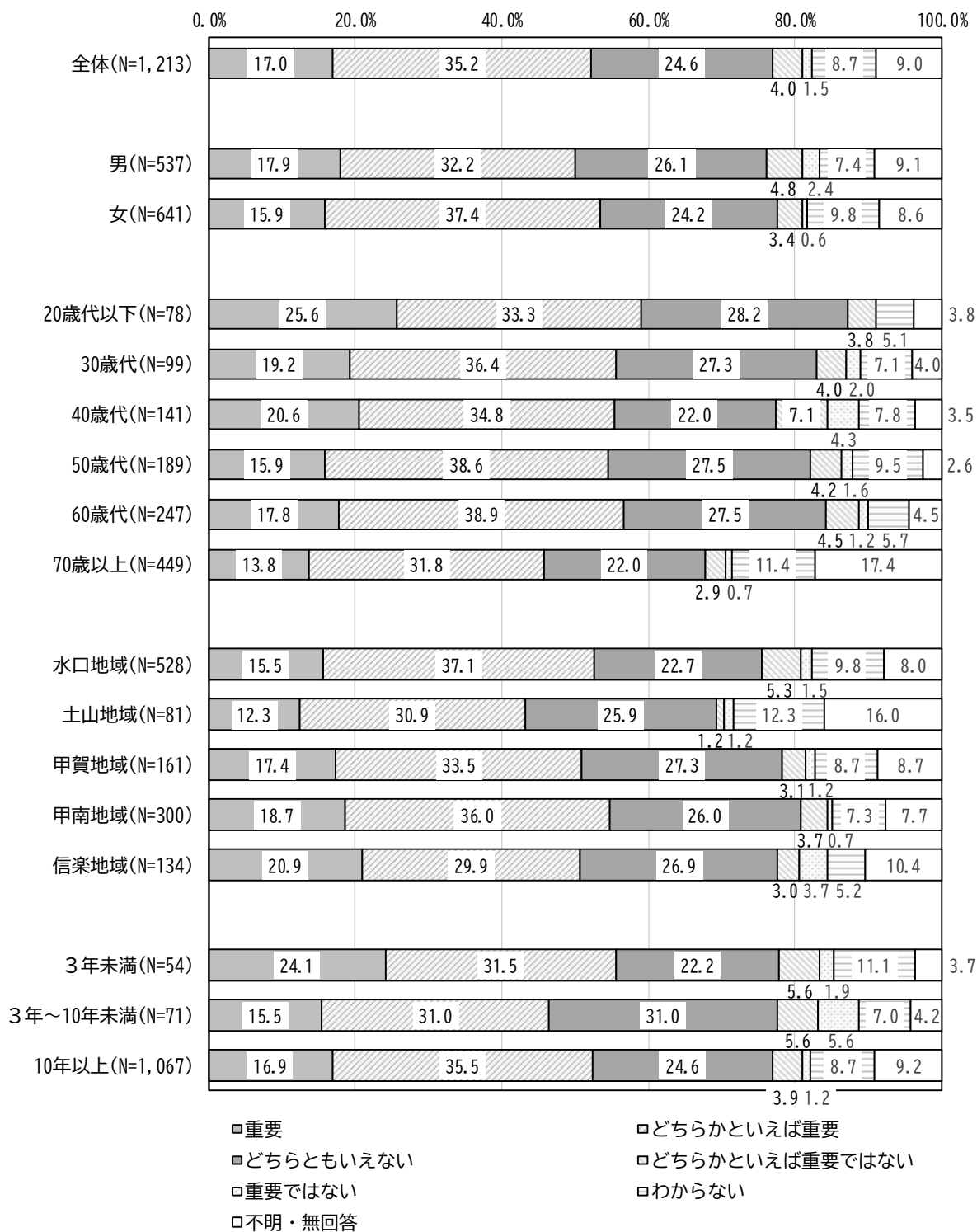
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 50.1%、女性は 53.3%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 58.9%、以下、60 歳代で 56.7%、30 歳代で 55.6%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 54.7%、以下、水口地域で 52.6%、甲賀地域で 50.9%、信楽地域で 50.8%、土山地域で 43.2%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている（3 年～10 年未満は「どちらともいえない」と同率）。『重要』の割合をみると、最も多いのは 3 年未満で 55.6%、以下、10 年以上で 52.4%、3 年～10 年未満で 46.5%と続いている。

②市民共生 重要度（単数回答）

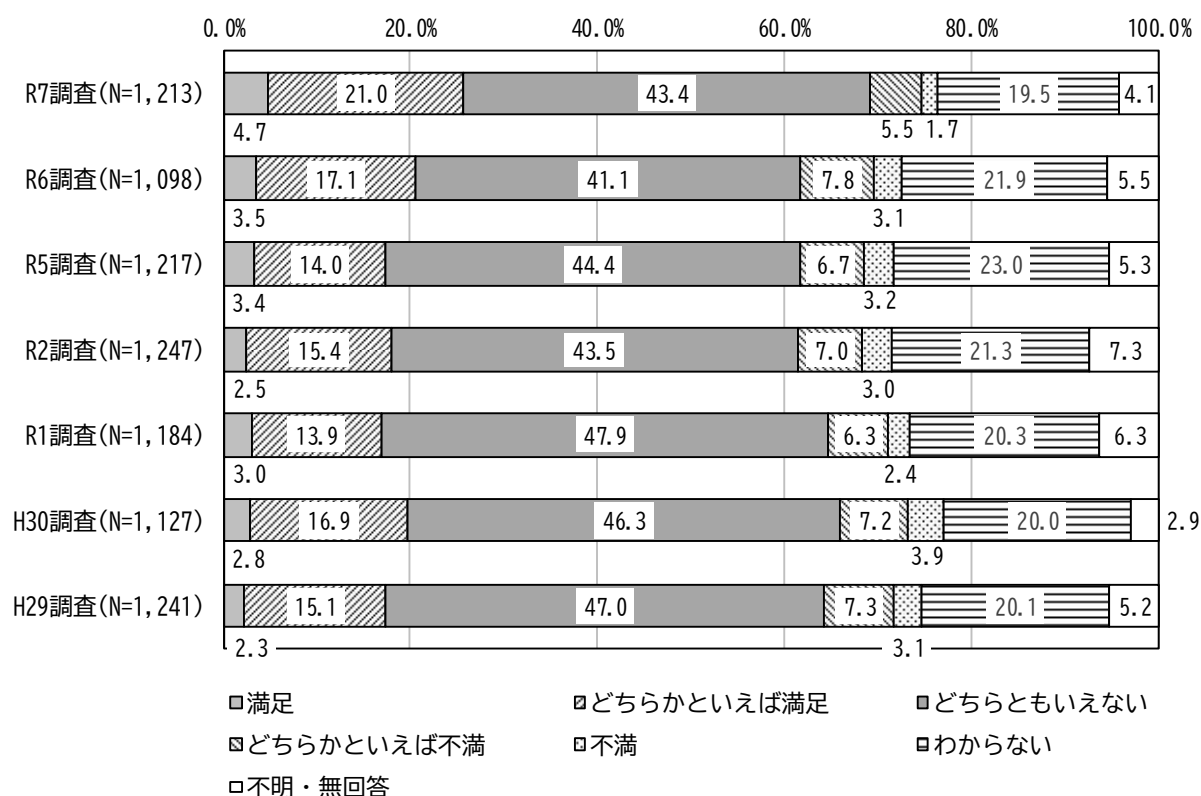


③ 男女共同参画

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合が増加している。

③男女共同参画 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらともいえない」が 43.4%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば満足」が 21.0%、「わからない」が 19.5%、「どちらかといえば不満」が 5.5%、「満足」が 4.7%、「不満」が 1.7%と続いている。『満足』は 25.7%となっている。

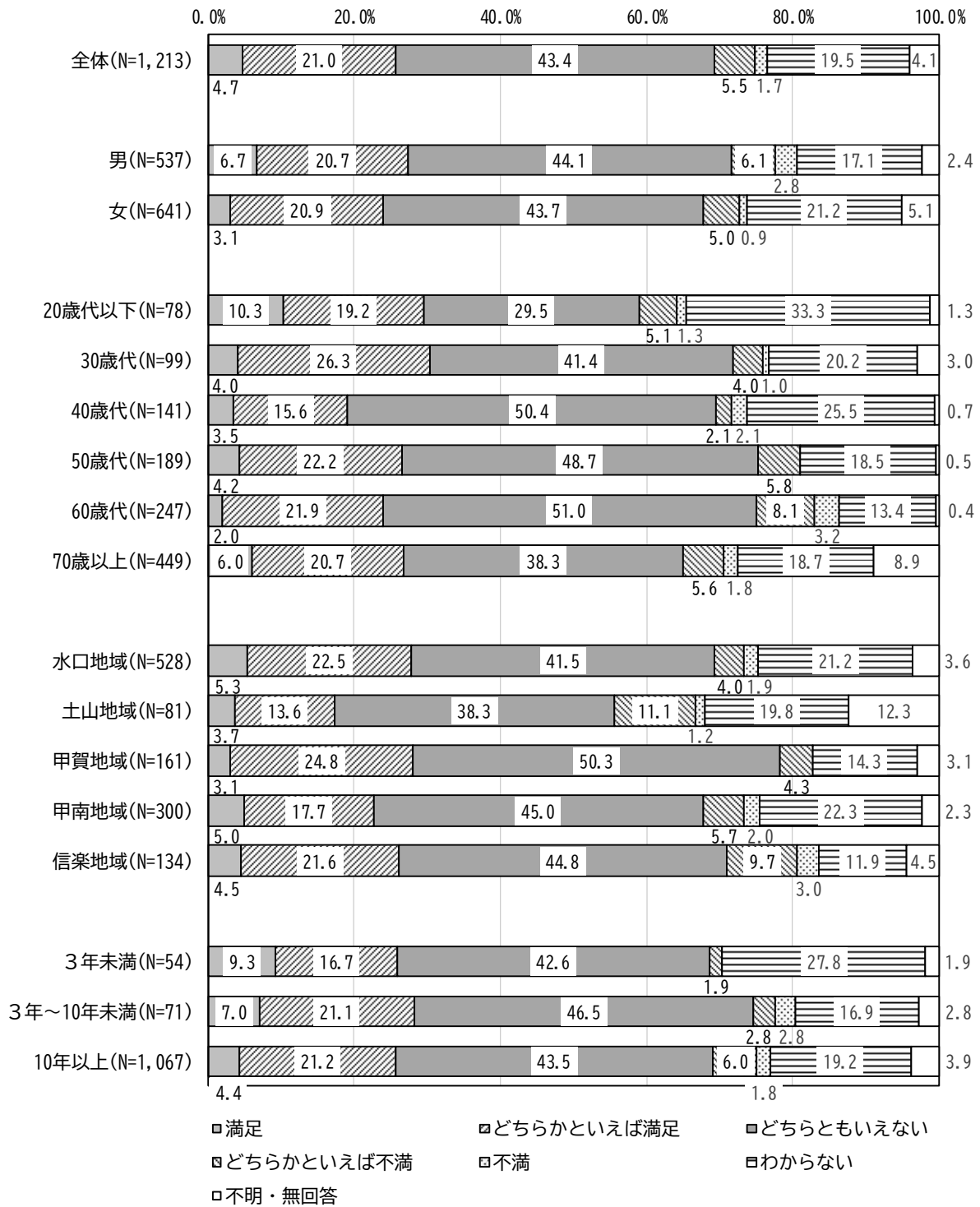
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 27.4%、女性は 24.0%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「わからない」が、その他の年代は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 30.3%、以下、20 歳代以下で 29.5%、70 歳以上で 26.7%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 27.9%、以下、水口地域で 27.8%、信楽地域で 26.1%、甲南地域で 22.7%、土山地域で 17.3%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 28.1%、以下、3 年未満で 26.0%、10 年以上で 25.6%と続いている。

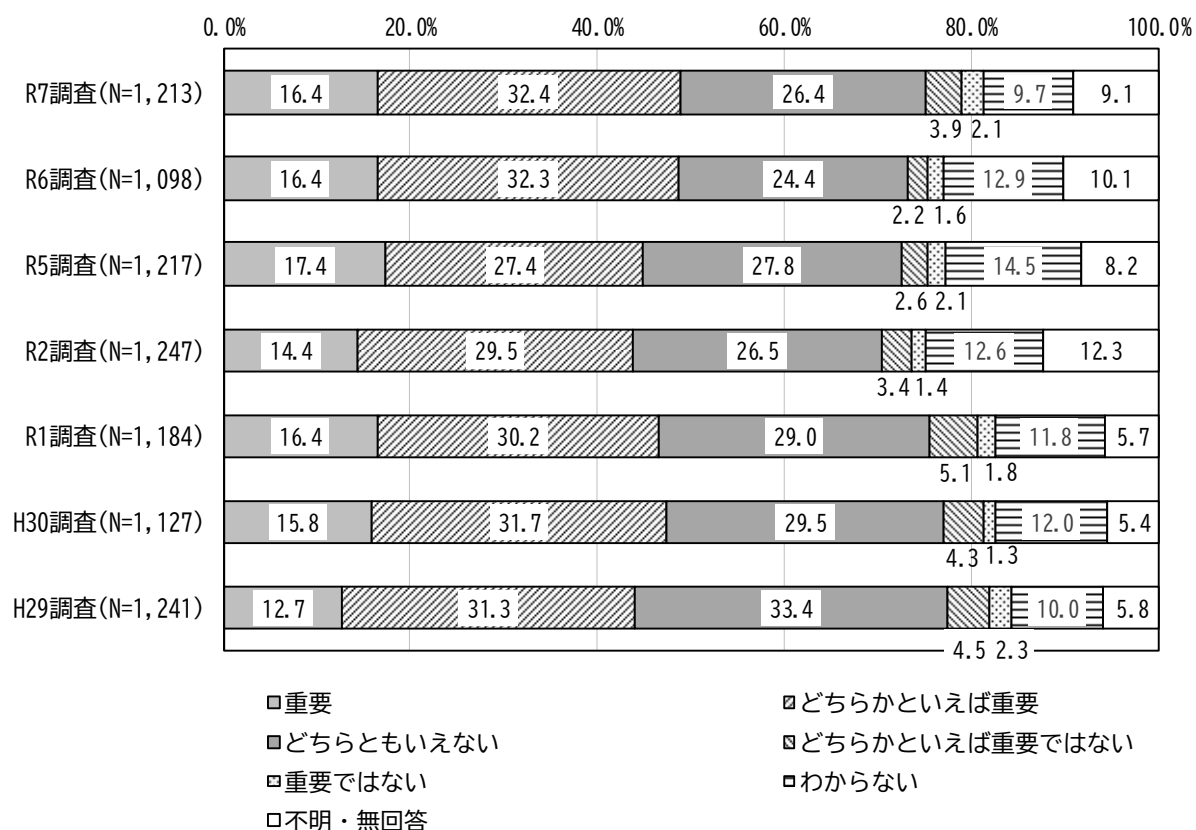
③男女共同参画 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 2 年度から「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

③男女共同参画 重要度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 32.4%で最も多くなっており、以下、「どちらともいえない」が 26.4%、「重要」が 16.4%、「わからない」が 9.7%、「どちらかといえば重要ではない」が 3.9%、「重要ではない」が 2.1%と続いている。『重要』は 48.8%となっている。

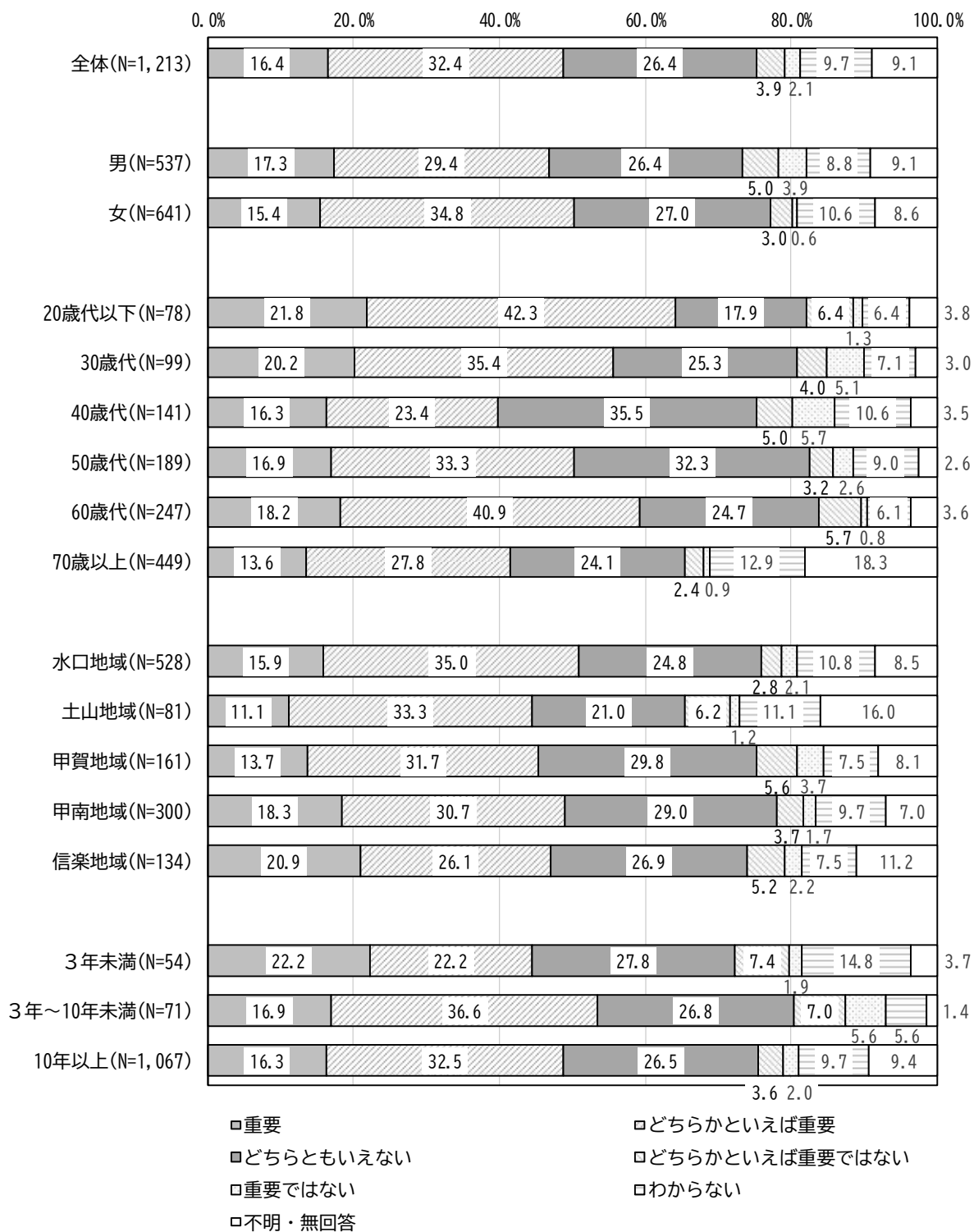
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 46.7%、女性は 50.2%となっている。

●年代別にみると、40 歳代は「どちらともいえない」が、その他の年代は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 64.1%、以下、60 歳代で 59.1%、30 歳代で 55.6%と続いている。

●居住地域別にみると、信楽地域は「どちらともいえない」が、その他の地域は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 50.9%、以下、甲南地域で 49.0%、信楽地域で 47.0%、甲賀地域で 45.4%、土山地域で 44.4%と続いている。

●居住年数別にみると、3年未満は「どちらともいえない」が、その他の年数は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で53.5%、以下、10年以上で48.8%、3年未満で44.4%と続いている。

③男女共同参画 重要度（単数回答）

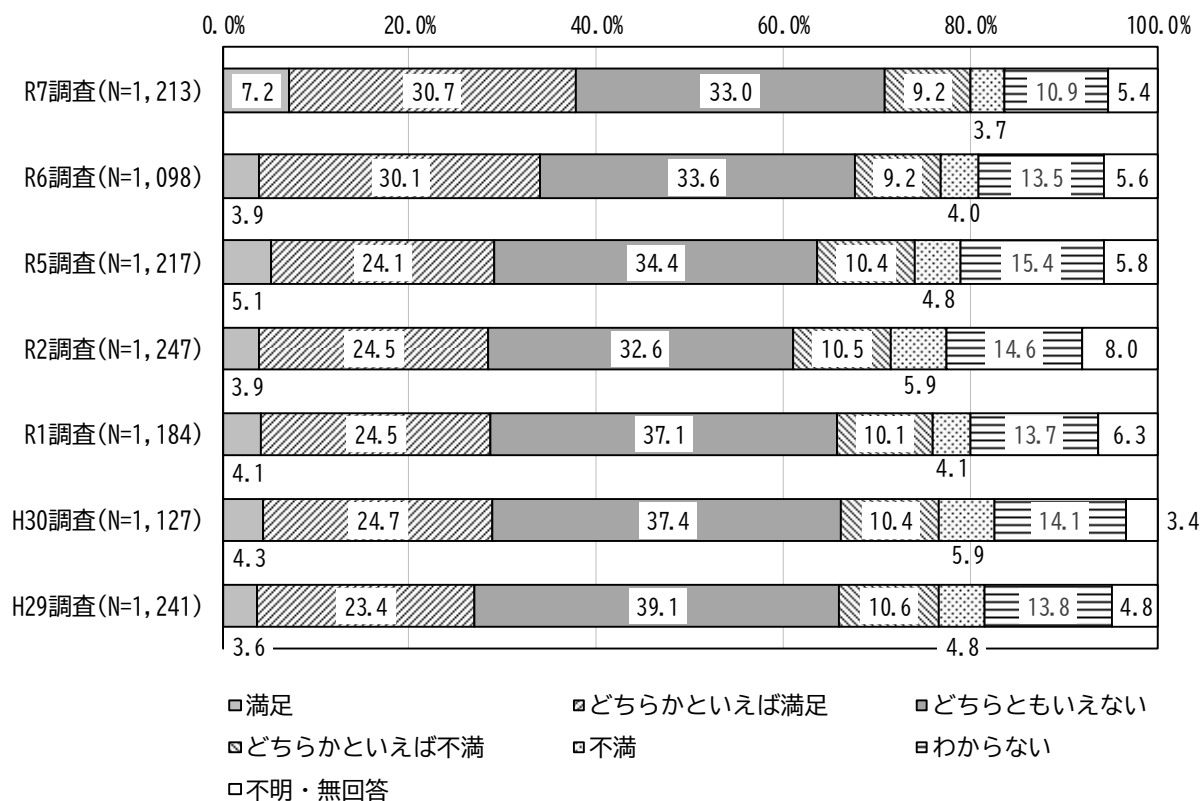


④ シティプロモーション（情報発信、広報広聴）

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 2 年度から「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合が増加している。

④シティプロモーション 満足度（単数回答）



※H29～R5 調査は「シティセールス（情報発信、広報広聴）」の調査項目で実施しています。

●全体でみると、「どちらともいえない」が 33.0%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば満足」が 30.7%、「わからない」が 10.9%、「どちらかといえば不満」が 9.2%、「満足」が 7.2%、「不満」が 3.7%と続いている。『満足』は 37.9%となっている。

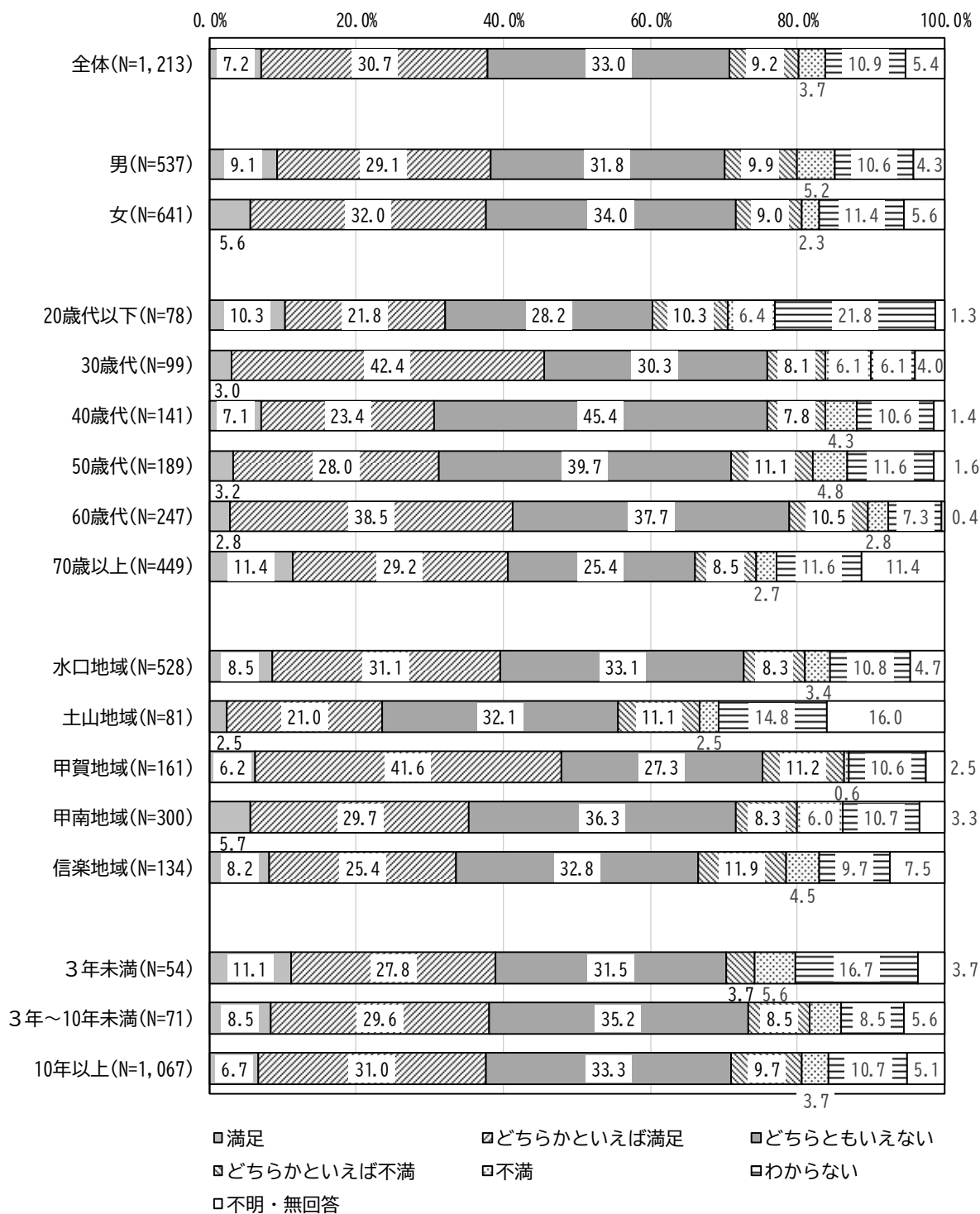
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 38.2%、女性は 37.6%となっている。

●年代別にみると、30 歳代、60 歳代、70 歳以上は「どちらかといえば満足」が、その他の年代は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 30 歳以上で 45.4%、以下、60 歳代で 41.3%、70 歳以上で 40.6%と続いている。

●居住地域別にみると、甲賀地域は「どちらかといえば満足」が、その他の地域は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 47.8%、以下、水口地域で 39.6%、甲南地域で 35.4%、信楽地域で 33.6%、土山地域で 23.5%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらともいえない」が最も多くなっている。
『満足』の割合をみると、最も多いのは3年未満で38.9%、以下、3年～10年未満で38.1%、
10年以上で37.7%と続いており、居住年数が長くなるにつれて少なくなっている。

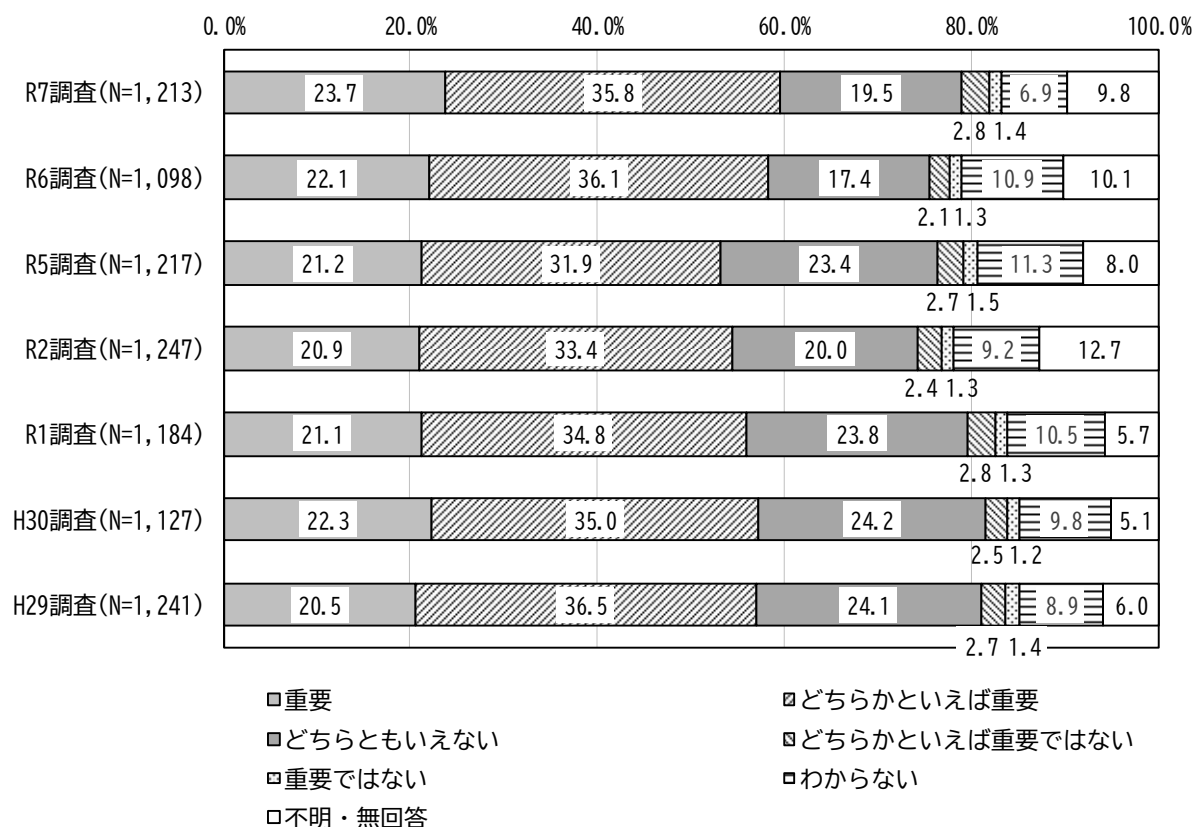
④シティプロモーション 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

④シテプロモーション 重要度（単数回答）



※H29～R5 調査は「シティセールス（情報発信、広報広聴）」の調査項目で実施しています。

●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 35.8%で最も多くなっており、以下、「重要」が 23.7%、「どちらともいえない」が 19.5%、「わからない」が 6.9%、「どちらかといえば重要ではない」が 2.8%、「重要ではない」が 1.4%と続いている。『重要』は 59.5%となっている。

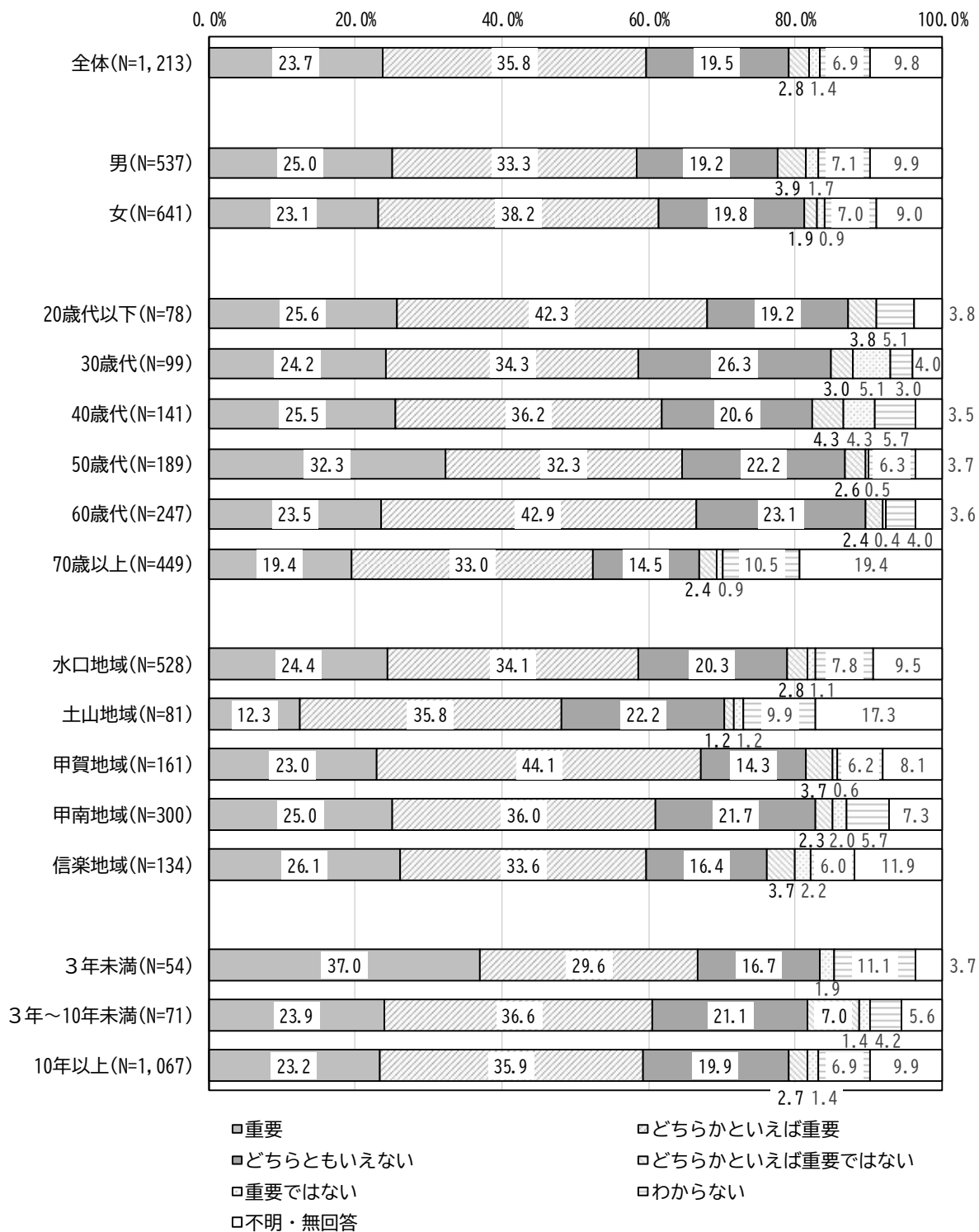
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 58.3%、女性は 61.3%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている（50 歳代は「重要」と同率）。『重要』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 67.9%、以下、60 歳代で 66.4%、50 歳代で 64.6%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 67.1%、以下、甲南地域で 61.0%、信楽地域で 59.7%、水口地域で 58.5%、土山地域で 48.1%と続いている。

●居住年数別にみると、3年未満は「重要」が、その他の年数は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは3年未満で66.6%、以下、3年～10年未満で60.5%、10年以上で59.1%と続いており、居住年数が長くなるにつれて少なくなっている。

④シティプロモーション 重要度（単数回答）



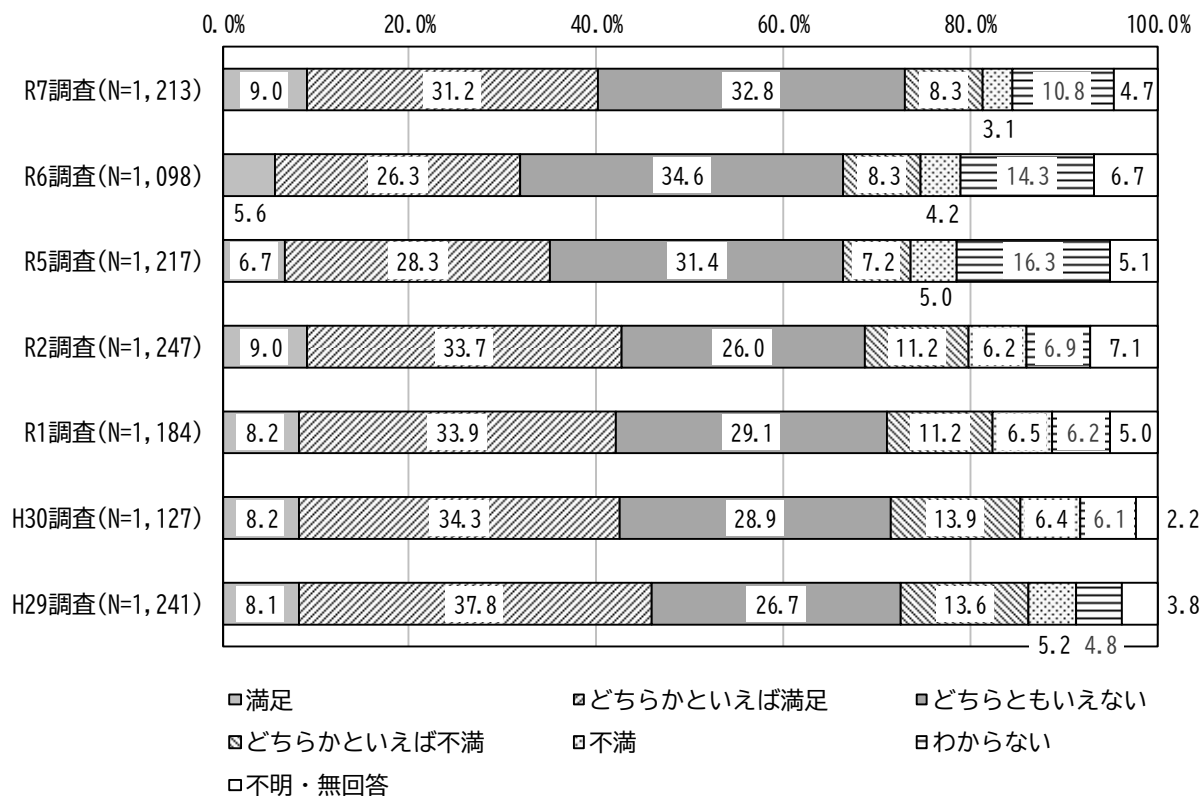
【2. いろいろ山河と生きいき文化】

⑤ 環境・資源・エネルギー（生活環境保全、脱炭素社会、廃棄物処理）

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、昨年まで減少傾向にあった「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合が増加している。

⑤環境・資源・エネルギー 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらともいえない」が 32.8%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば満足」が 31.2%、「わからない」が 10.8%、「満足」が 9.0%、「どちらかといえば不満」が 8.3%、「不満」が 3.1%と続いている。『満足』は 40.2%となっている。

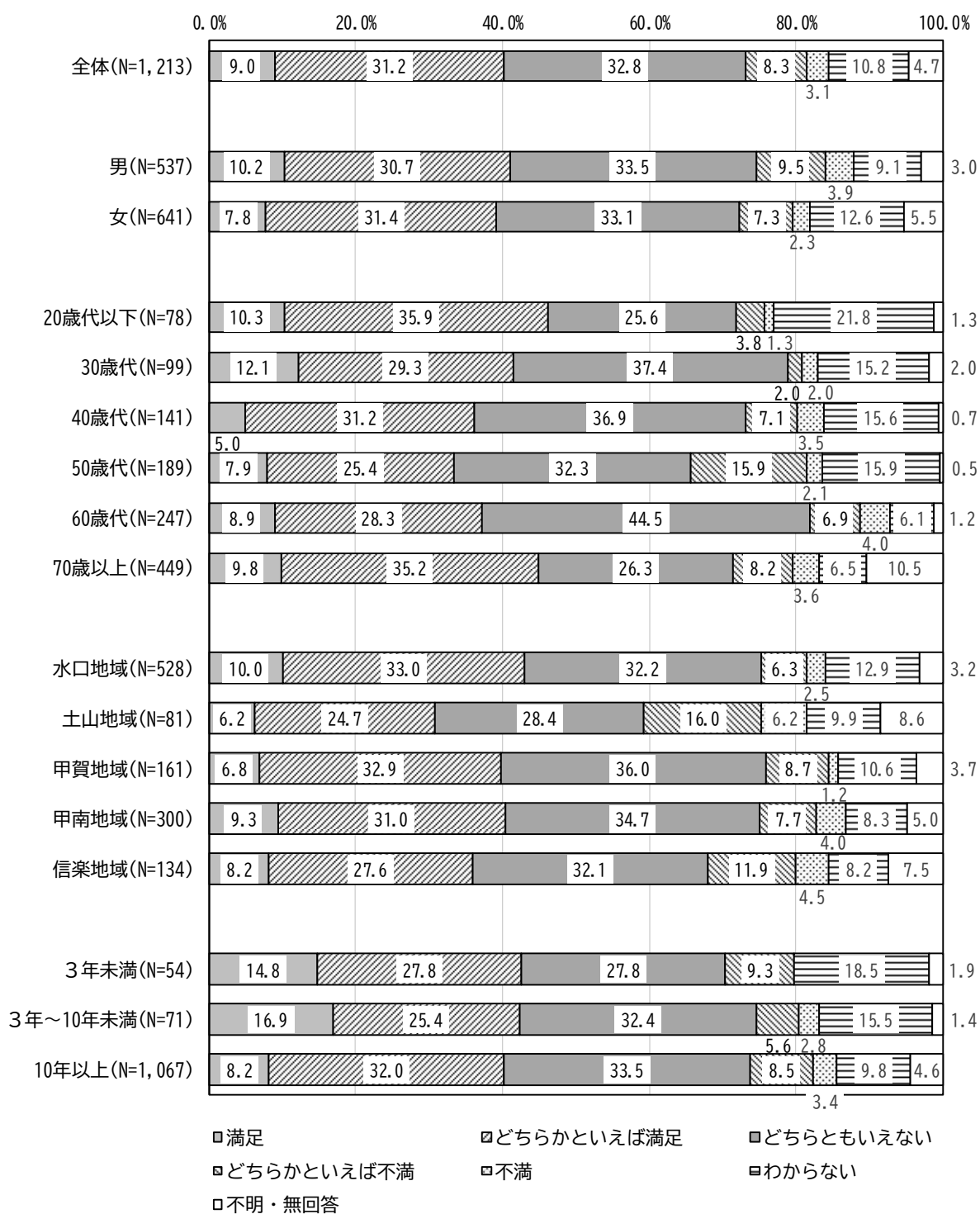
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 40.9%、女性は 39.2%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下、70 歳以上は「どちらかといえば満足」が、その他の年代は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 46.2%、以下、70 歳以上で 45.0%、30 歳代で 41.4%と続いている。

●居住地域別にみると、水口地域は「どちらかといえば満足」が、その他の地域は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 43.0%、以下、甲南地域で 40.3%、甲賀地域で 39.7%、信楽地域で 35.8%、土山地域で 30.9%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらともいえない」が最も多くなっている（3年未満は「どちらかといえば満足」と同率）。『満足』の割合をみると、最も多いのは3年未満で42.6%、以下、3年～10年未満で42.3%、10年以上で40.2%と続いており、居住年数が長くなるにつれて少なくなっている。

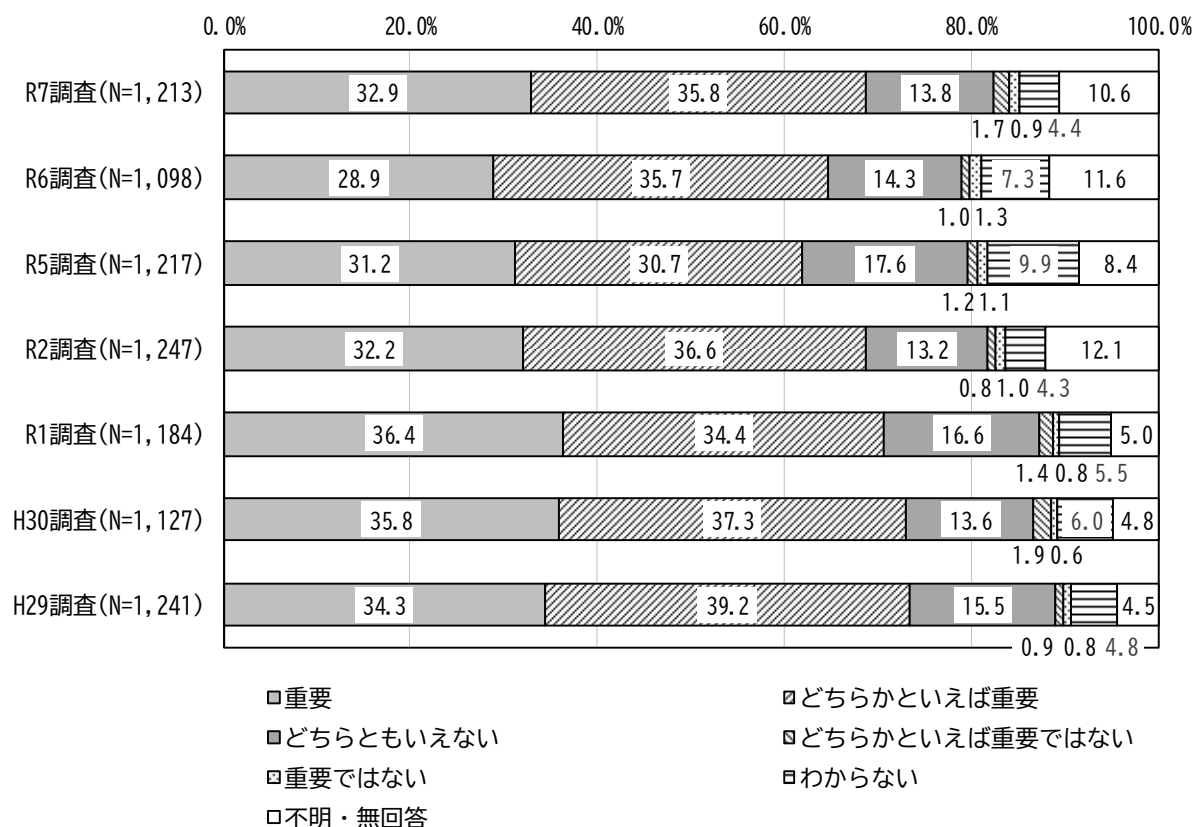
⑤環境・資源・エネルギー 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

⑤環境・資源・エネルギー 重要度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 35.8%で最も多くなっており、以下、「重要」が 32.9%、「どちらともいえない」が 13.8%、「わからない」が 4.4%、「どちらかといえば重要ではない」が 1.7%、「重要ではない」が 0.9%と続いている。『重要』は 68.7%となっている。

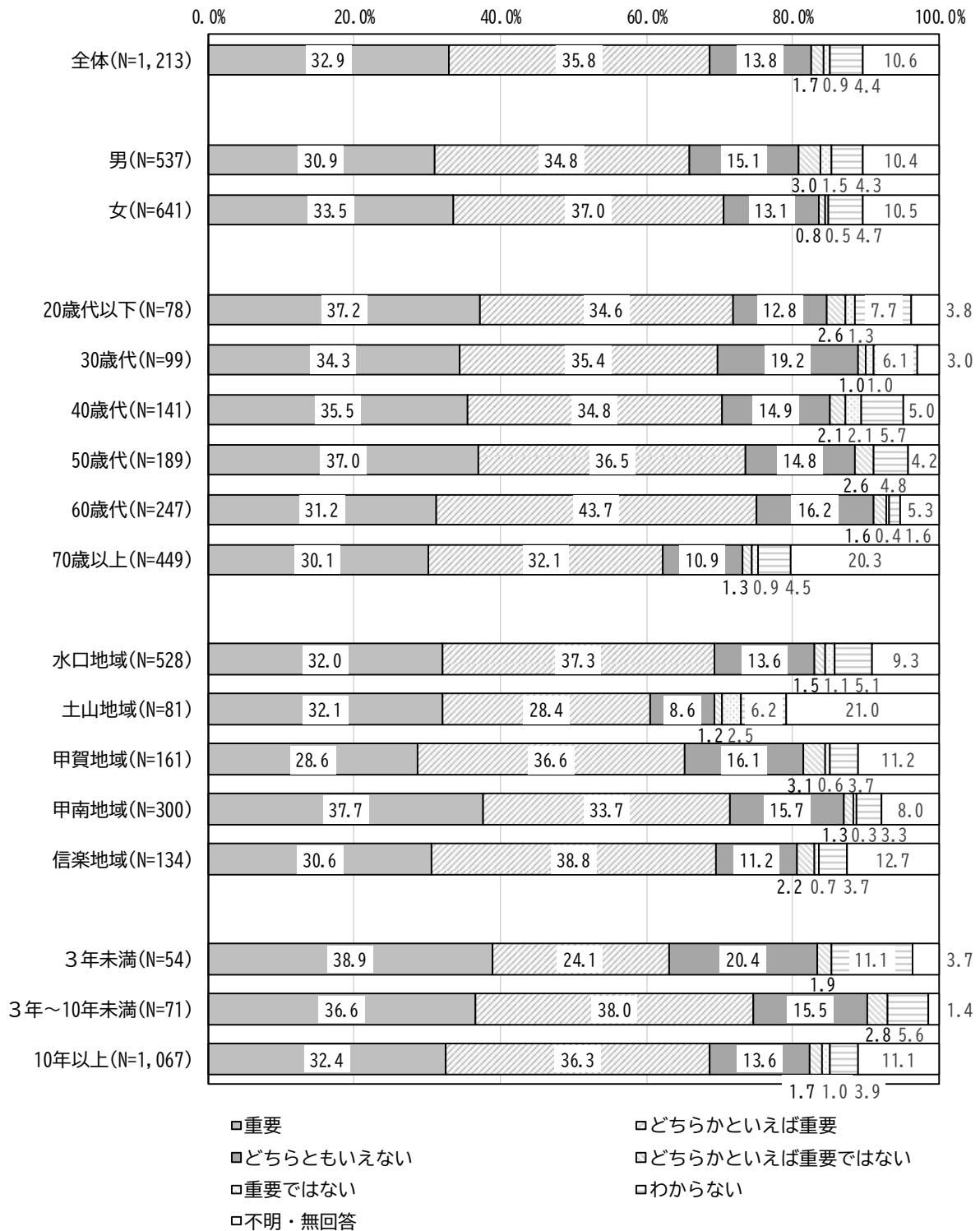
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 65.7%、女性は 70.5%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下、40 歳代、50 歳代は「重要」が、その他の年代は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 74.9%、以下、50 歳代で 73.5%、20 歳代以下で 71.8%と続いている。

●居住地域別にみると、土山地域、甲南地域は「重要」が、その他の地域は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 71.4%、以下、信楽地域で 69.4%、水口地域で 69.3%、甲賀地域で 65.2%、土山地域で 60.5%と続いている。

●居住年数別にみると、3 年未満は「重要」が、その他の年数は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 74.6%、以下、10 年以上で 68.7%、3 年未満で 63.0%と続いている。

⑤環境・資源・エネルギー 重要度（単数回答）

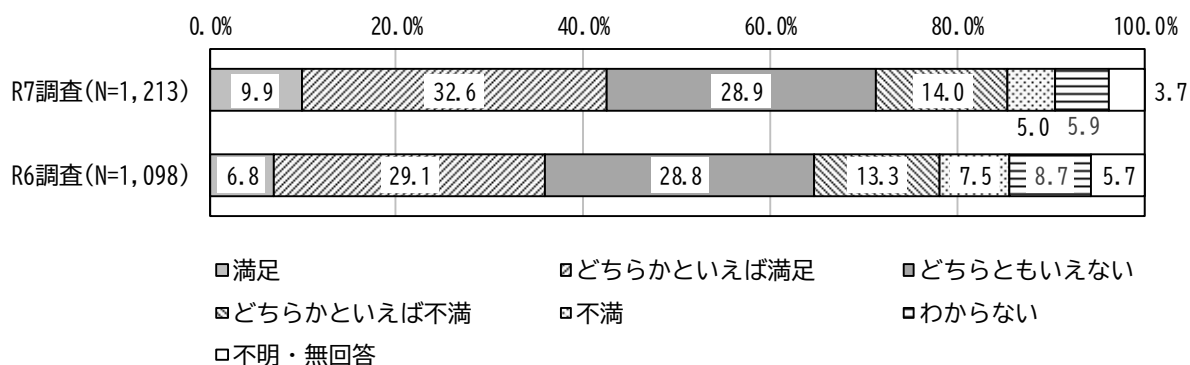


⑥ 自然・公園・緑地（自然保護、自然共生、公園整備）

【満足度】

昨年と比較すると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合が増加している。

⑥自然・公園・緑地 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば満足」が 32.6%で最も多くなっており、以下、「どちらともいえない」が 28.9%、「どちらかといえば不満」が 14.0%、「満足」が 9.9%、「わからない」が 5.9%、「不満」が 5.0%と続いている。『満足』は 42.5%となっている。

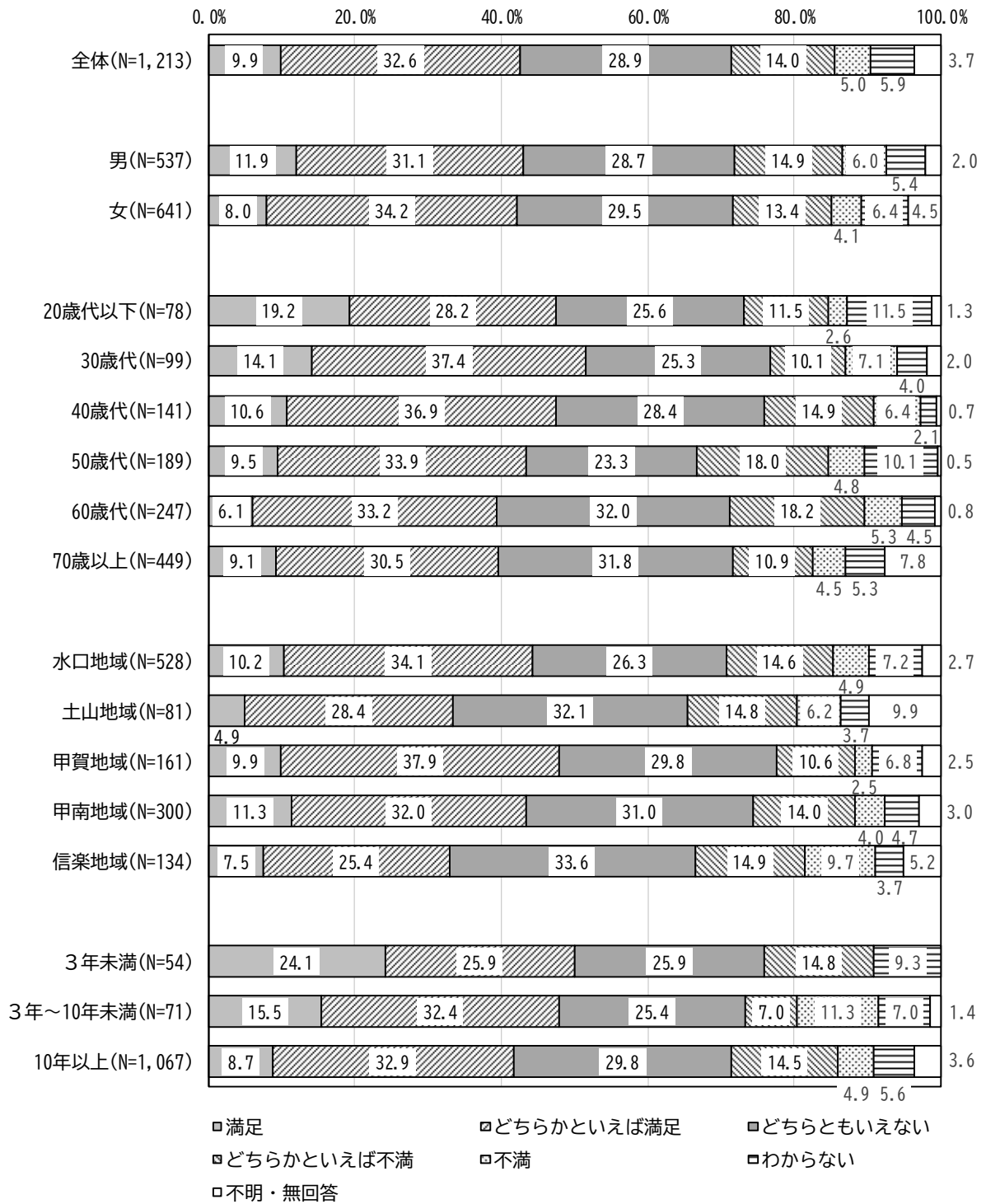
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば満足」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 43.0%、女性は 42.2%となっている。

●年代別にみると、70 歳以上は「どちらともいえない」が、その他の年代は「どちらかといえば満足」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 51.5%、以下、40 歳代で 47.5%、20 歳代以下で 47.4%と続いている。

●居住地域別にみると、土山地域、信楽地域は「どちらともいえない」が、その他の地域は「どちらかといえば満足」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 47.8%、以下、水口地域で 44.3%、甲南地域で 43.3%、土山地域で 33.3%、信楽地域で 32.9%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえば満足」が最も多くなっている（3 年未満は「どちらともいえない」と同率）。『満足』の割合をみると、最も多いのは 3 年未満で 50.0%、以下、3 年～10 年未満で 47.9%、10 年以上で 41.6%と続いており、居住年数が長くなるにつれて少なくなっている。

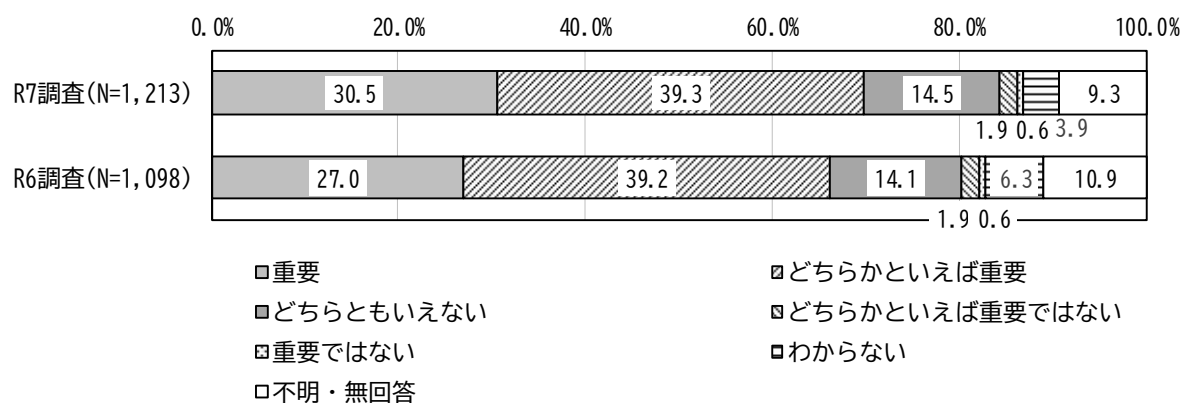
⑥自然・公園・緑地 満足度（単数回答）



【重要度】

昨年と比較すると、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

⑥自然・公園・緑地 重要度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 39.3%で最も多くなっており、以下、「重要」が 30.5%、「どちらともいえない」が 14.5%、「わからない」が 3.9%、「どちらかといえば重要ではない」が 1.9%、「重要ではない」が 0.6%と続いている。『重要』は 69.8%となっている。

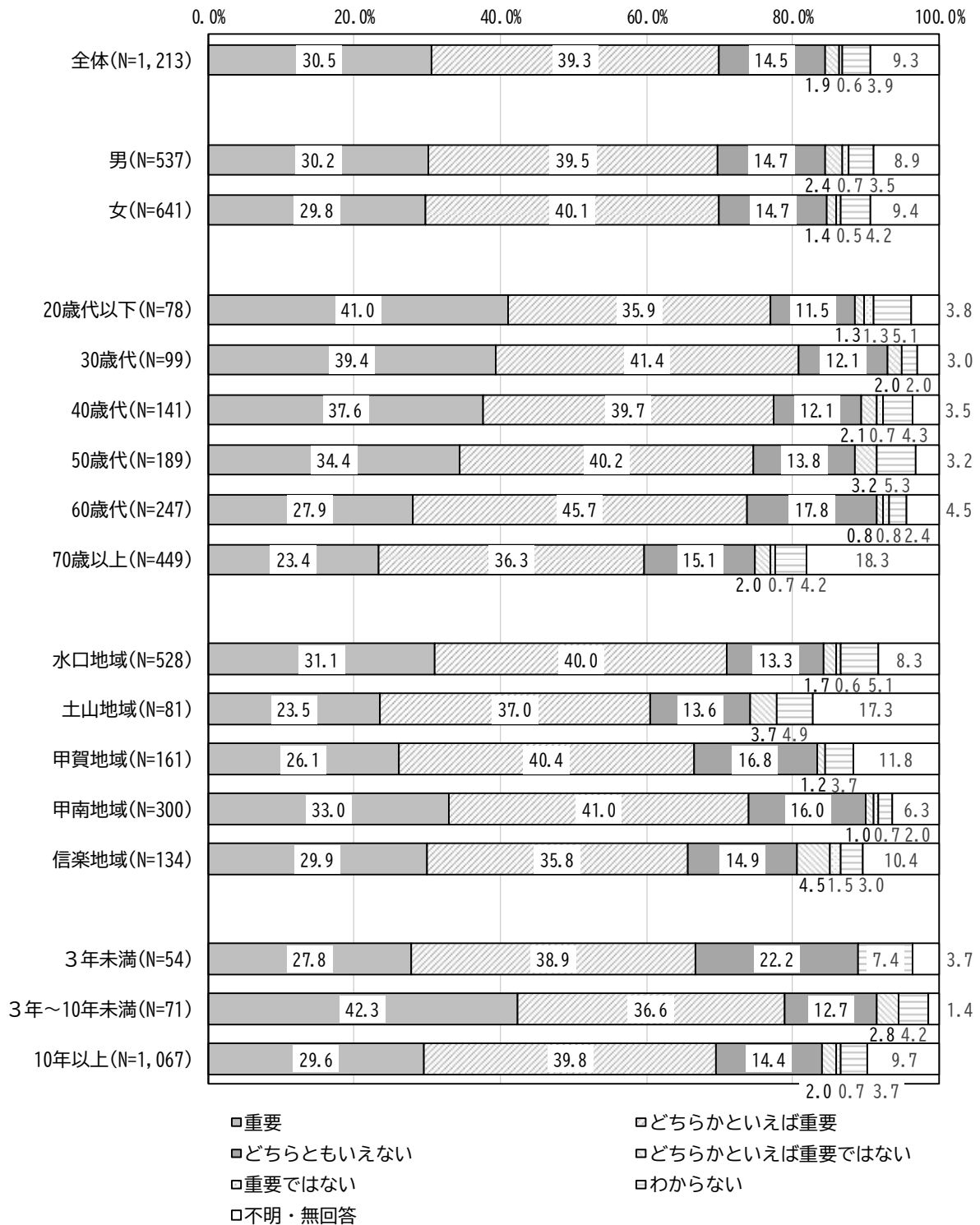
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 69.7%、女性は 69.9%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「重要」が、その他の年代は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 80.8%、以下、40 歳代で 77.3%、20 歳代以下で 76.9%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 74.0%、以下、水口地域で 71.1%、甲賀地域で 66.5%、信楽地域で 65.7%、土山地域で 60.5%と続いている。

●居住年数別にみると、3 年～10 年未満は「重要」が、その他の年数は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 78.9%、以下、10 年以上で 69.4%、3 年未満で 66.7%と続いている。

⑥自然・公園・緑地 重要度（単数回答）

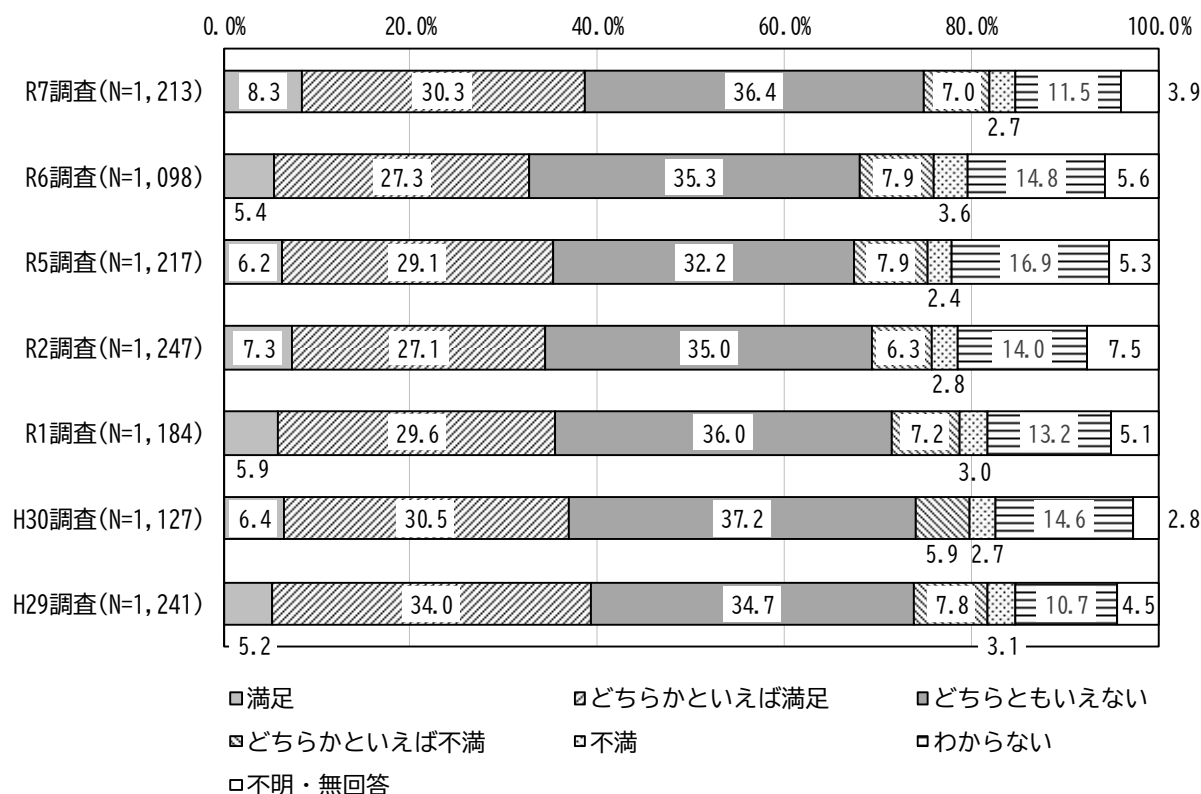


⑦ 歴史・文化財・景観（文化財の調査、保護、活用、景観の保全）

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、昨年まで減少傾向にあった「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合が増加している。

⑦歴史・文化財・景観 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらともいえない」が 36.4%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば満足」が 30.3%、「わからない」が 11.5%、「満足」が 8.3%、「どちらかといえば不満」が 7.0%、「不満」が 2.7%と続いている。『満足』は 38.6%となっている。

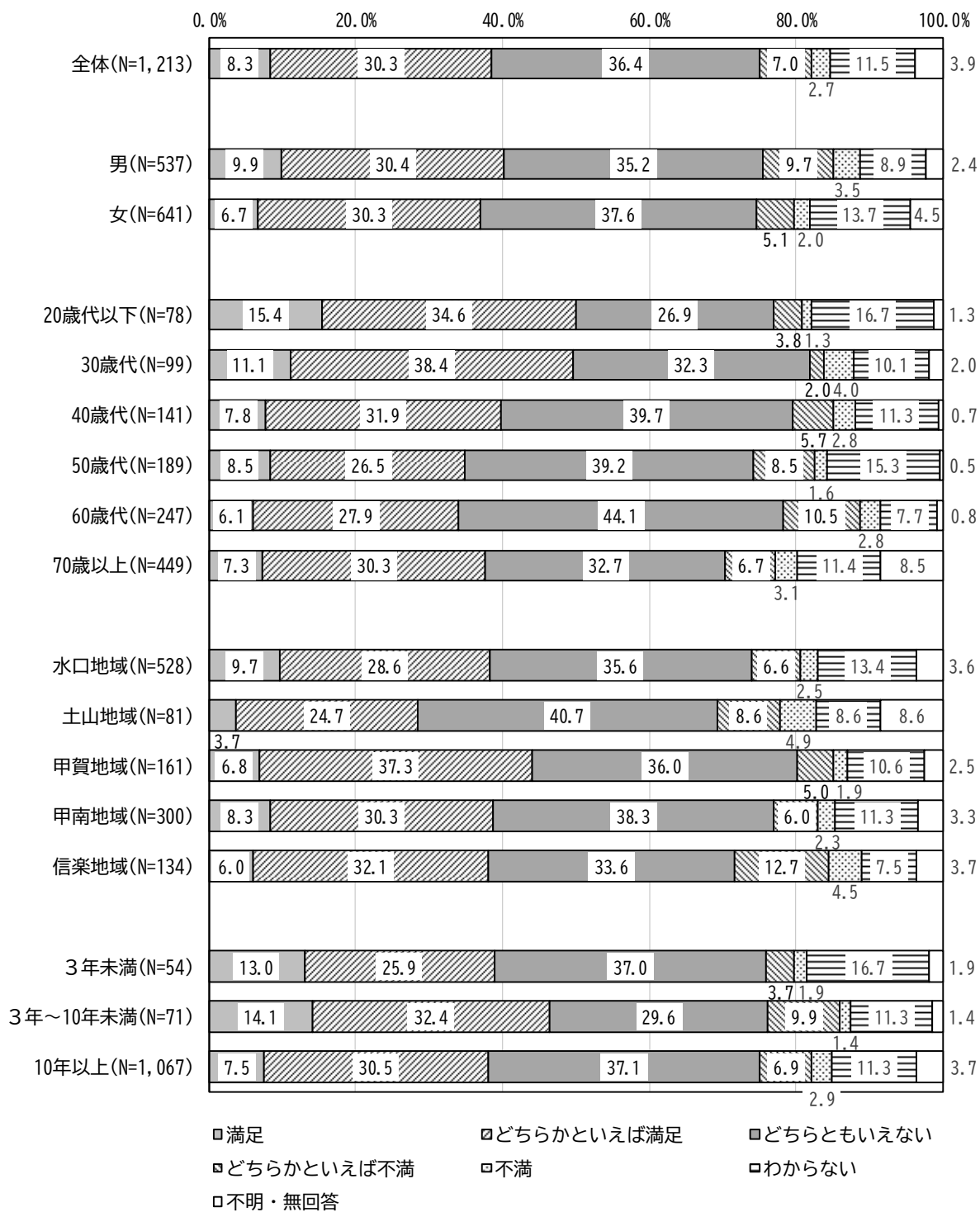
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 40.3%、女性は 37.0%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下、30 歳代は「どちらかといえば満足」が、その他の年代は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 50.0%、以下、30 歳代で 49.5%、40 歳代で 39.7%と続いている。

●居住地域別にみると、甲賀地域は「どちらかといえば満足」が、その他の地域は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 44.1%、以下、甲南地域で 38.6%、水口地域で 38.3%、信楽地域で 38.1%、土山地域で 28.4%と続いている。

●居住年数別にみると、3年～10年未満は「どちらかといえば満足」が、その他の年数は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で46.5%、以下、3年未満で38.9%、10年以上で38.0%と続いている。

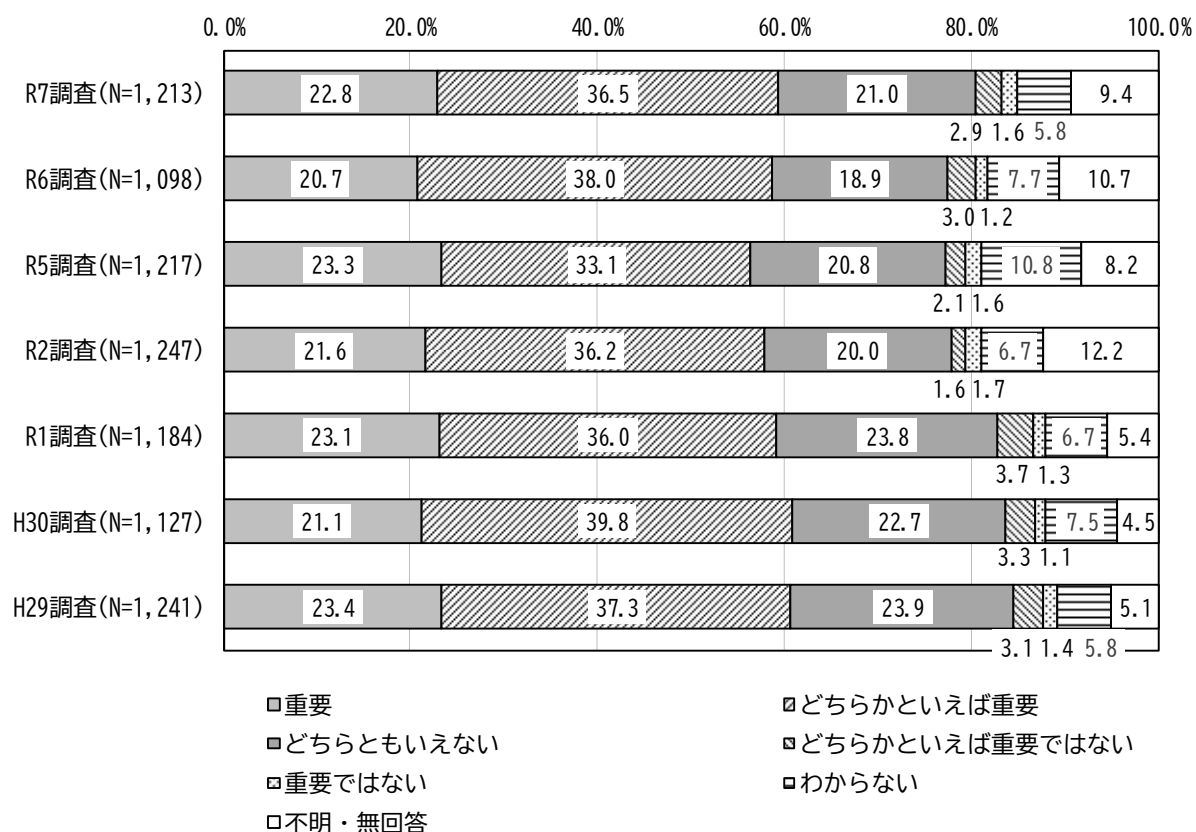
⑦歴史・文化財・景観 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

⑦歴史・文化財・景観 重要度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 36.5%で最も多くなっており、以下、「重要」が 22.8%、「どちらともいえない」が 21.0%、「わからない」が 5.8%、「どちらかといえば重要ではない」が 2.9%、「重要ではない」が 1.6%と続いている。『重要』は 59.3%となっている。

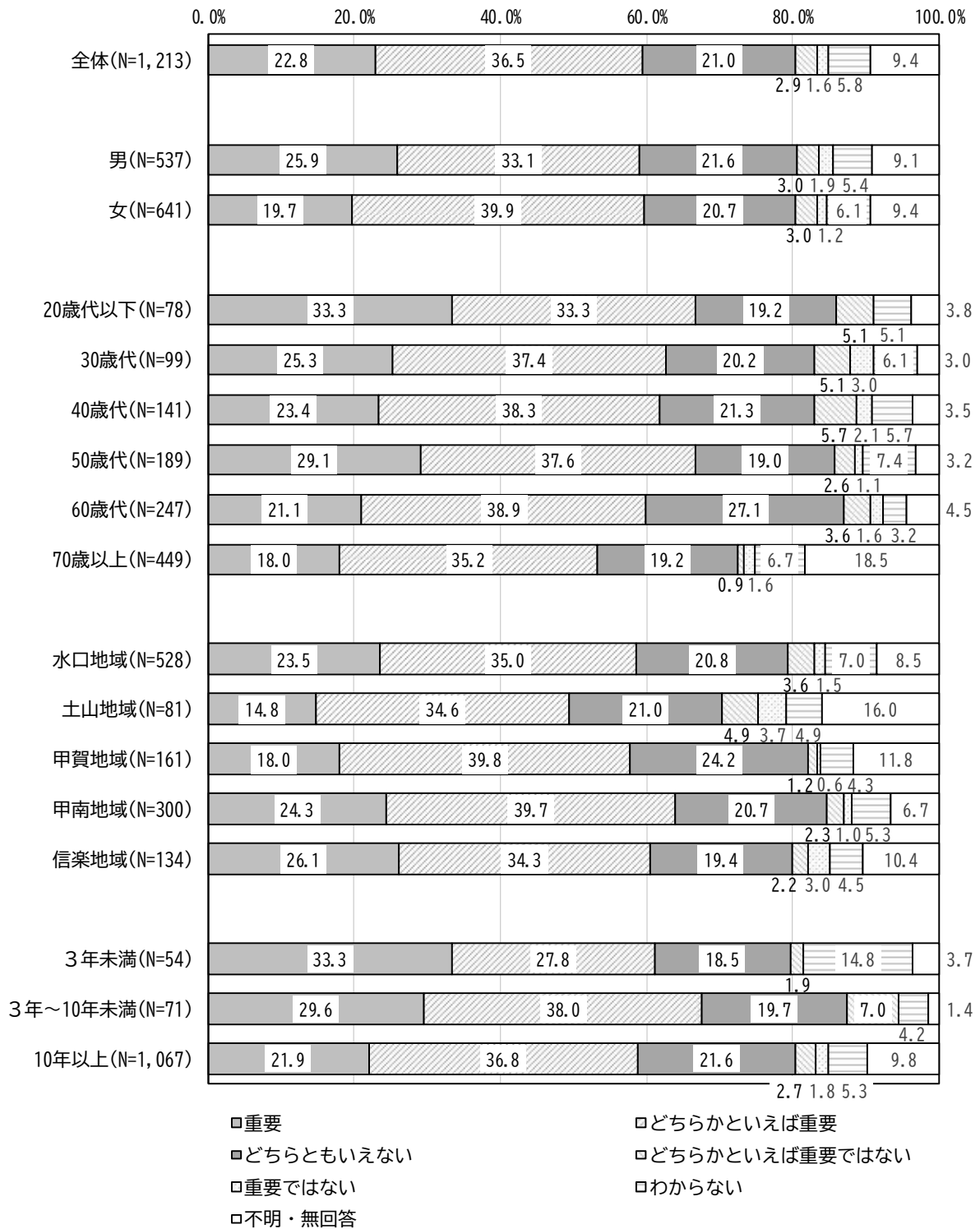
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 59.0%、女性は 59.6%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている（20 歳代以下は「重要」と同率）。『重要』の割合をみると、最も多いのは 50 歳代で 66.7%、以下、20 歳代以下で 66.6%、30 歳代で 62.7%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 64.0%、以下、信楽地域で 60.4%、水口地域で 58.5%、甲賀地域で 57.8%、土山地域で 49.4%と続いている。

●居住年数別にみると、3 年未満は「重要」が、その他の年数は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 67.6%、以下、3 年未満で 61.1%、10 年以上で 58.7%と続いている。

⑦歴史・文化財・景観 重要度（単数回答）

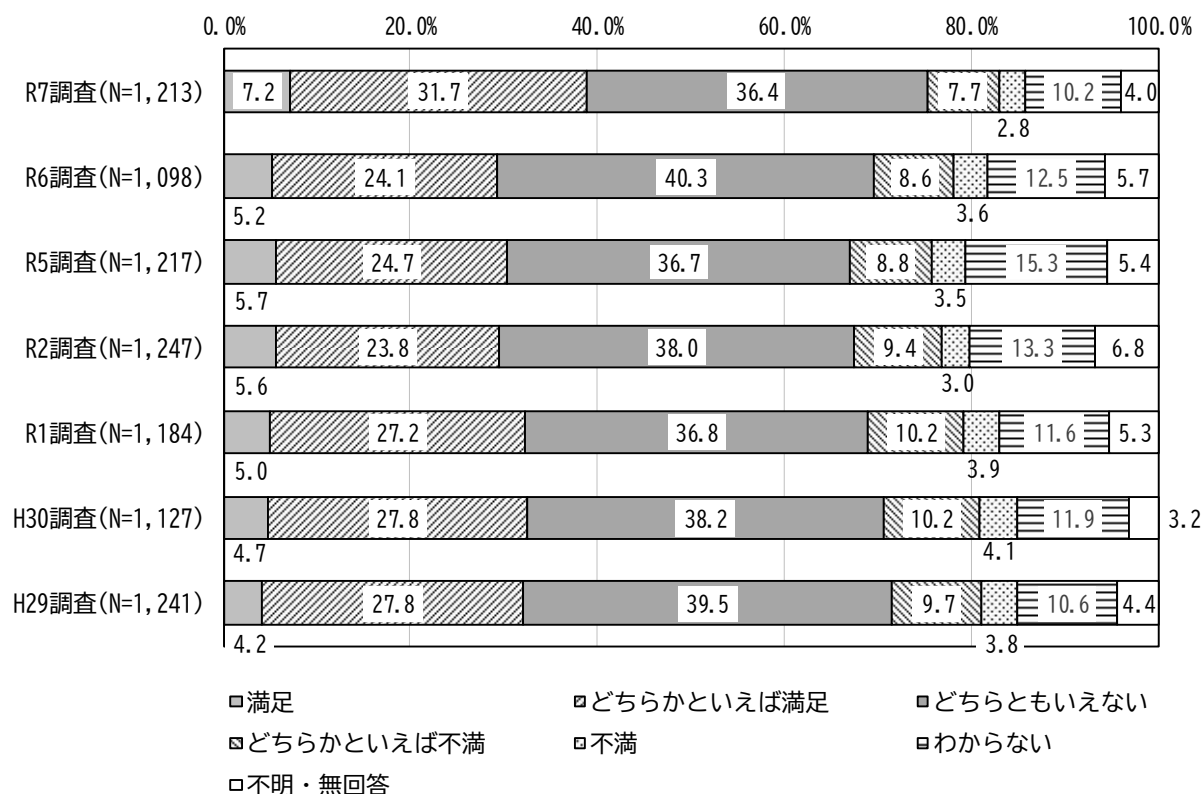


⑧ 文化・スポーツ（生涯学習、文化、芸術、スポーツの振興）

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、概ね同じ傾向であるが、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合が増加している。

⑧文化・スポーツ 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらともいえない」が 36.4%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば満足」が 31.7%、「わからない」が 10.2%、「どちらかといえば不満」が 7.7%、「満足」が 7.2%、「不満」が 2.8%と続いている。「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は 38.9%となっている。

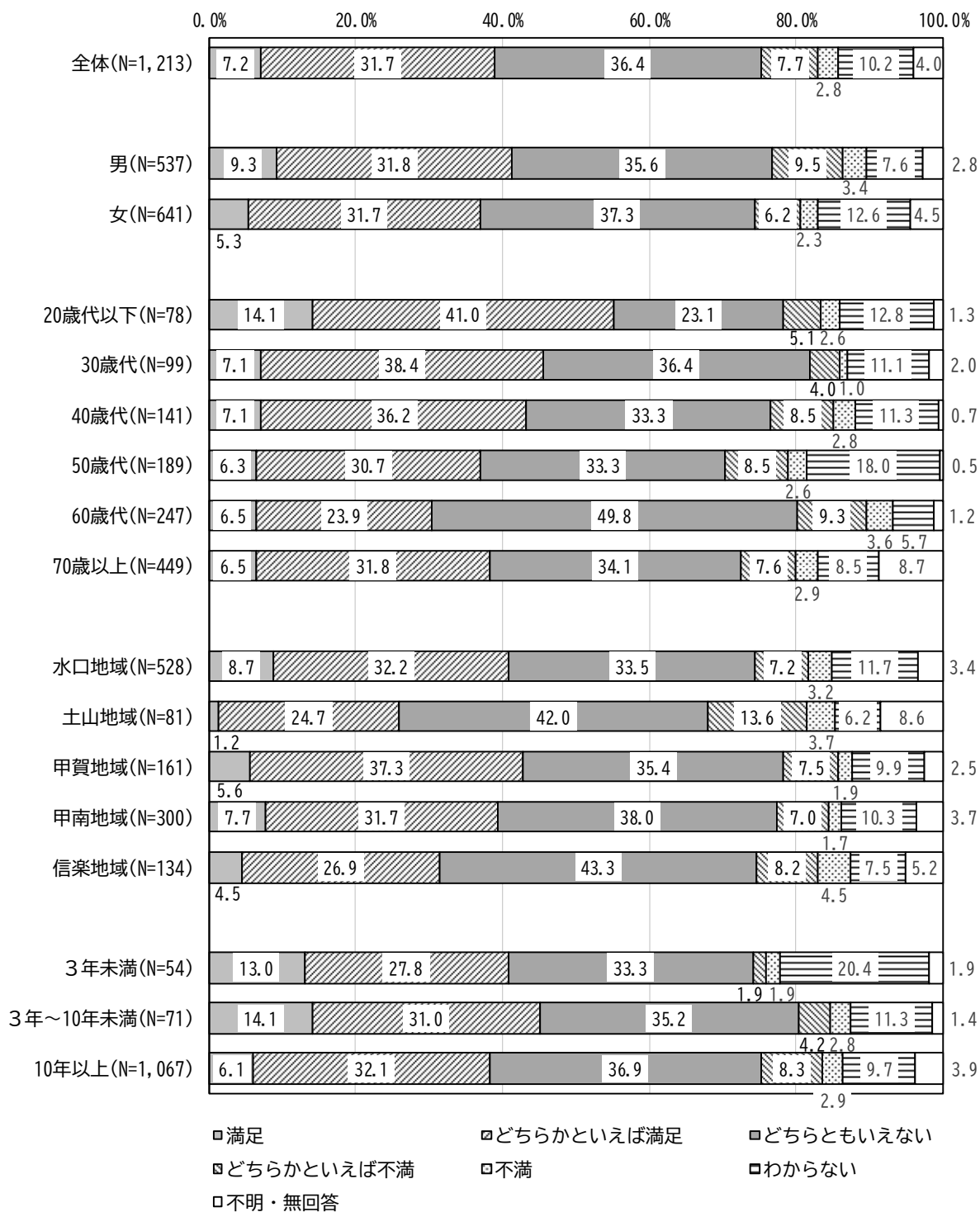
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 41.1%、女性は 37.0%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下、30 歳代、40 歳代は「どちらかといえば満足」が、その他の年代は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 55.1%、以下、30 歳代で 45.5%、40 歳代で 43.3%と続いている。

●居住地域別にみると、甲賀地域は「どちらかといえば満足」が、その他の地域は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 42.9%、以下、水口地域で 40.9%、甲南地域で 39.4%、信楽地域で 31.4%、土山地域で 25.9%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらともいえない」が最も多くなっている。
『満足』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で45.1%、以下、3年未満で40.8%、
10年以上で38.2%と続いている。

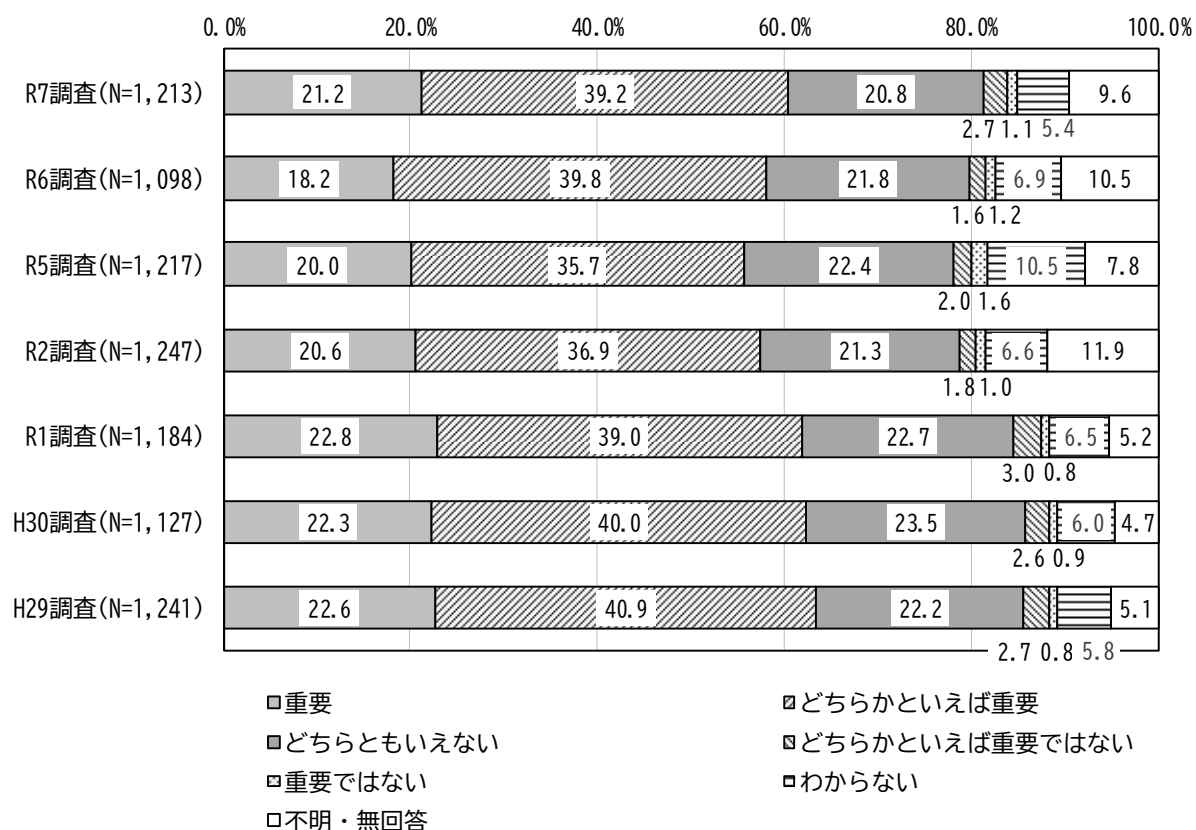
⑧文化・スポーツ 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

⑧文化・スポーツ 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 39.2%で最も多くなっており、以下、「重要」が 21.2%、「どちらともいえない」が 20.8%、「わからない」が 5.4%、「どちらかといえば重要ではない」が 2.7%、「重要ではない」が 1.1%と続いている。『重要』は 60.4%となっている。

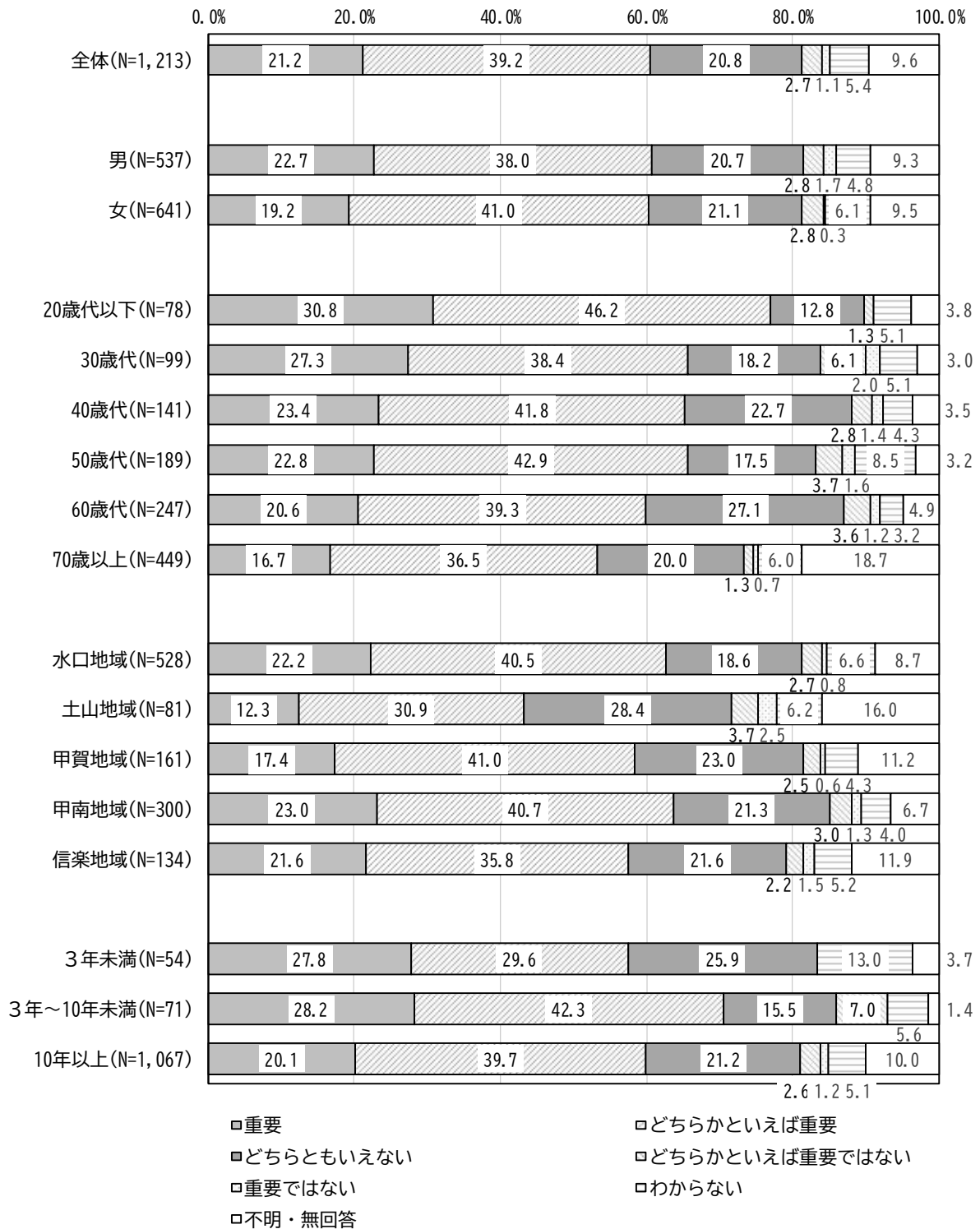
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 60.7%、女性は 60.2%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 77.0%、以下、30 歳代、50 歳代で 65.7%、40 歳代で 65.2%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 63.7%、以下、水口地域で 62.7%、甲賀地域で 58.4%、信楽地域で 57.4%、土山地域で 43.2%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 70.5%、以下、10 年以上で 59.8%、3 年未満で 57.4%と続いている。

⑧文化・スポーツ 満足度（単数回答）



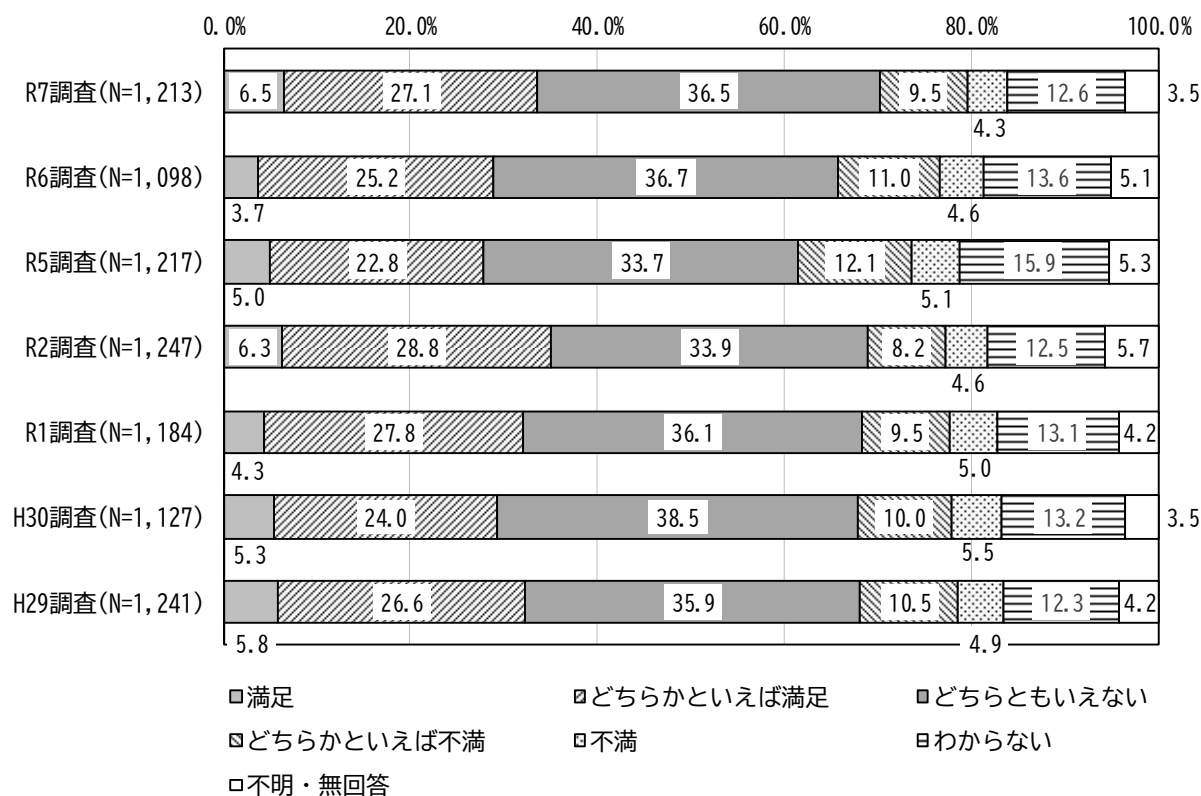
【3. こぼれる笑顔に込める安心】

⑨ 地域福祉（高齢者の生きがい、障がい福祉、地域福祉団体、ボランティア、セーフティネット）

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合は増加している。

⑨地域福祉 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらともいえない」が 36.5%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば満足」が 27.1%、「わからない」が 12.6%、「どちらかといえば不満」が 9.5%、「満足」が 6.5%、「不満」が 4.3%と続いている。『満足』は 33.6%となっている。

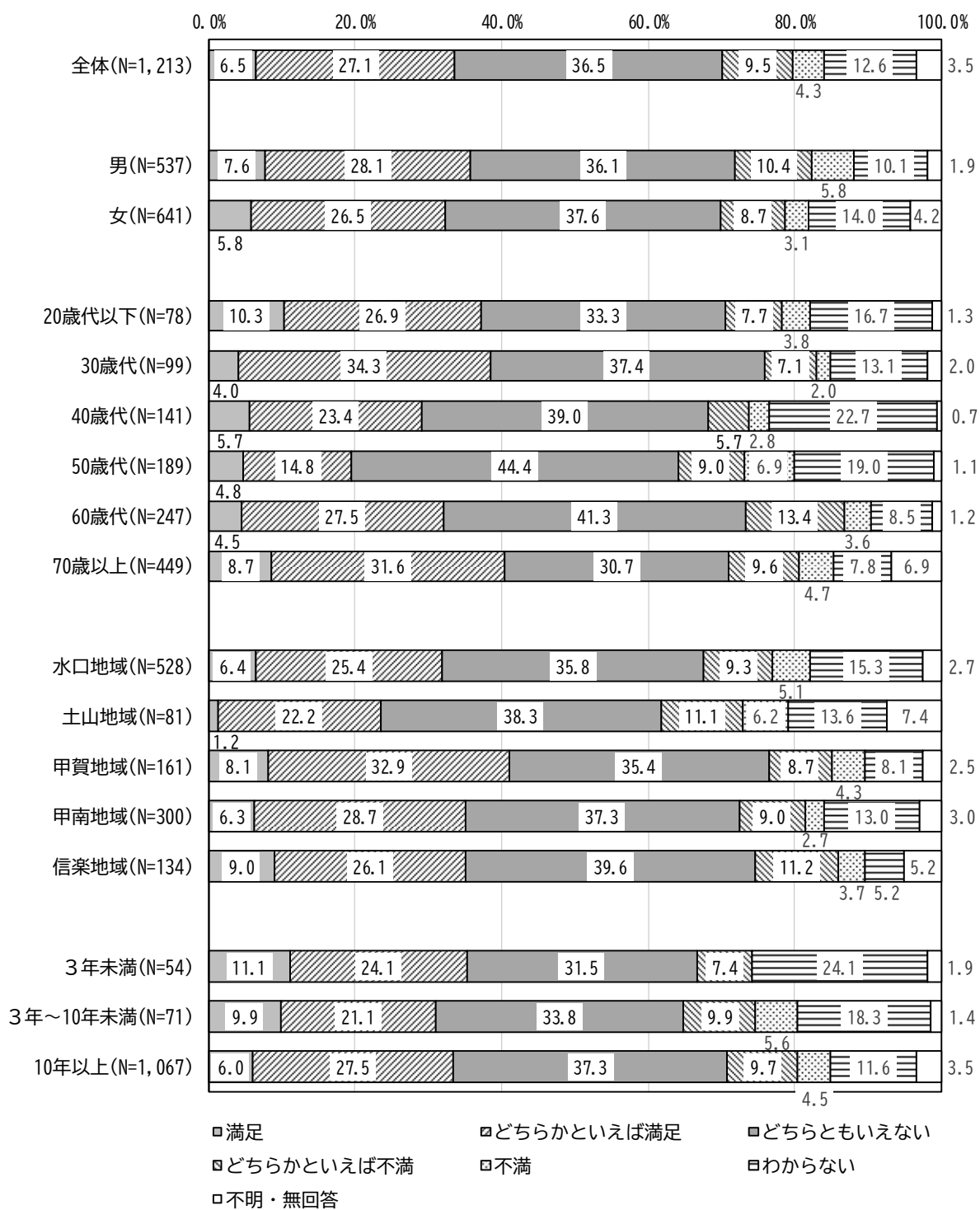
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 35.7%、女性は 32.3%となっている。

●年代別にみると、70 歳以上は「どちらかといえば満足」が、その他の年代は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 70 歳以上で 40.3%、以下、30 歳代で 38.3%、20 歳代以下で 37.2%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 41.0%、以下、信楽地域で 35.1%、甲南地域で 35.0%、水口地域で 31.8%、土山地域で 23.4%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらともいえない」が最も多くなっている。
『満足』の割合をみると、最も多いのは3年未満で35.2%、以下、10年以上で33.5%、3年～10年未満で31.0%と続いている。

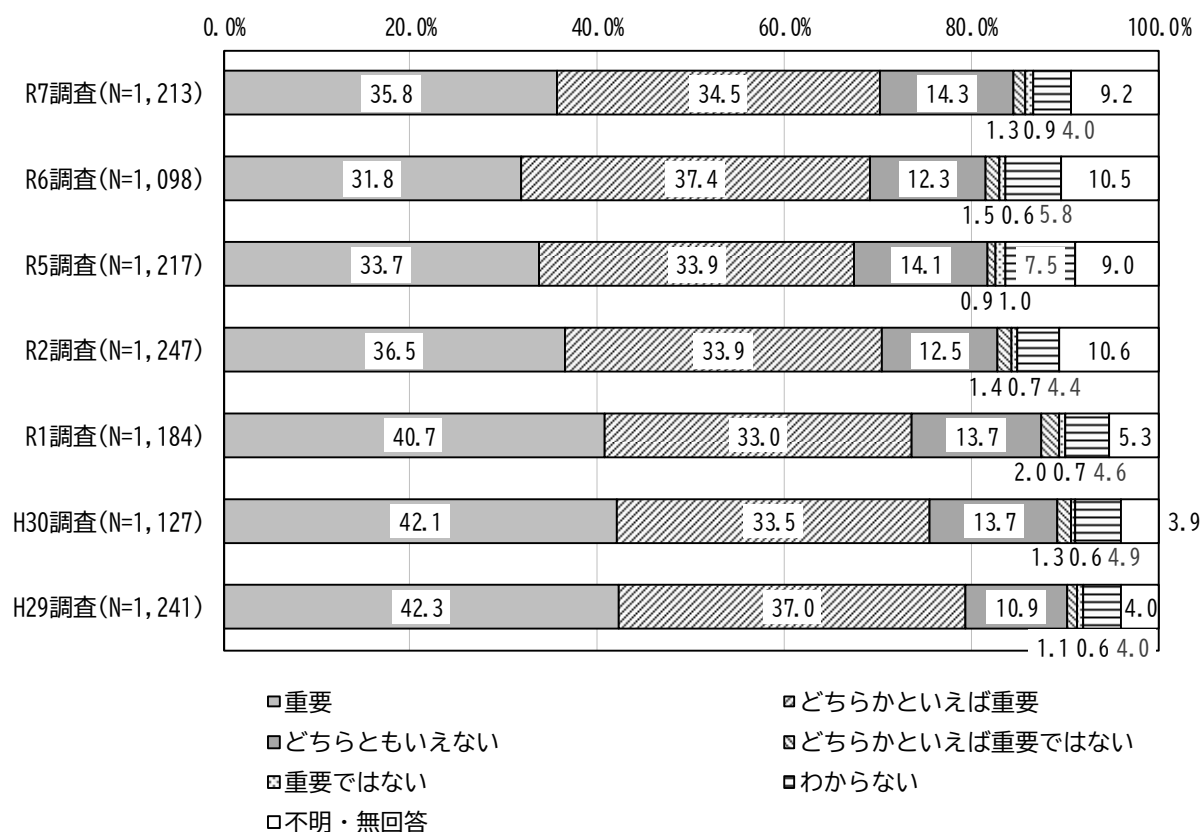
⑨地域福祉 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

⑨地域福祉 重要度（単数回答）



●全体でみると、「重要」が 35.8%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば重要」が 34.5%、「どちらともいえない」が 14.3%、「わからない」が 4.0%、「どちらかといえば重要ではない」が 1.3%、「重要ではない」が 0.9%と続いている。『重要』は 70.3%となっている。

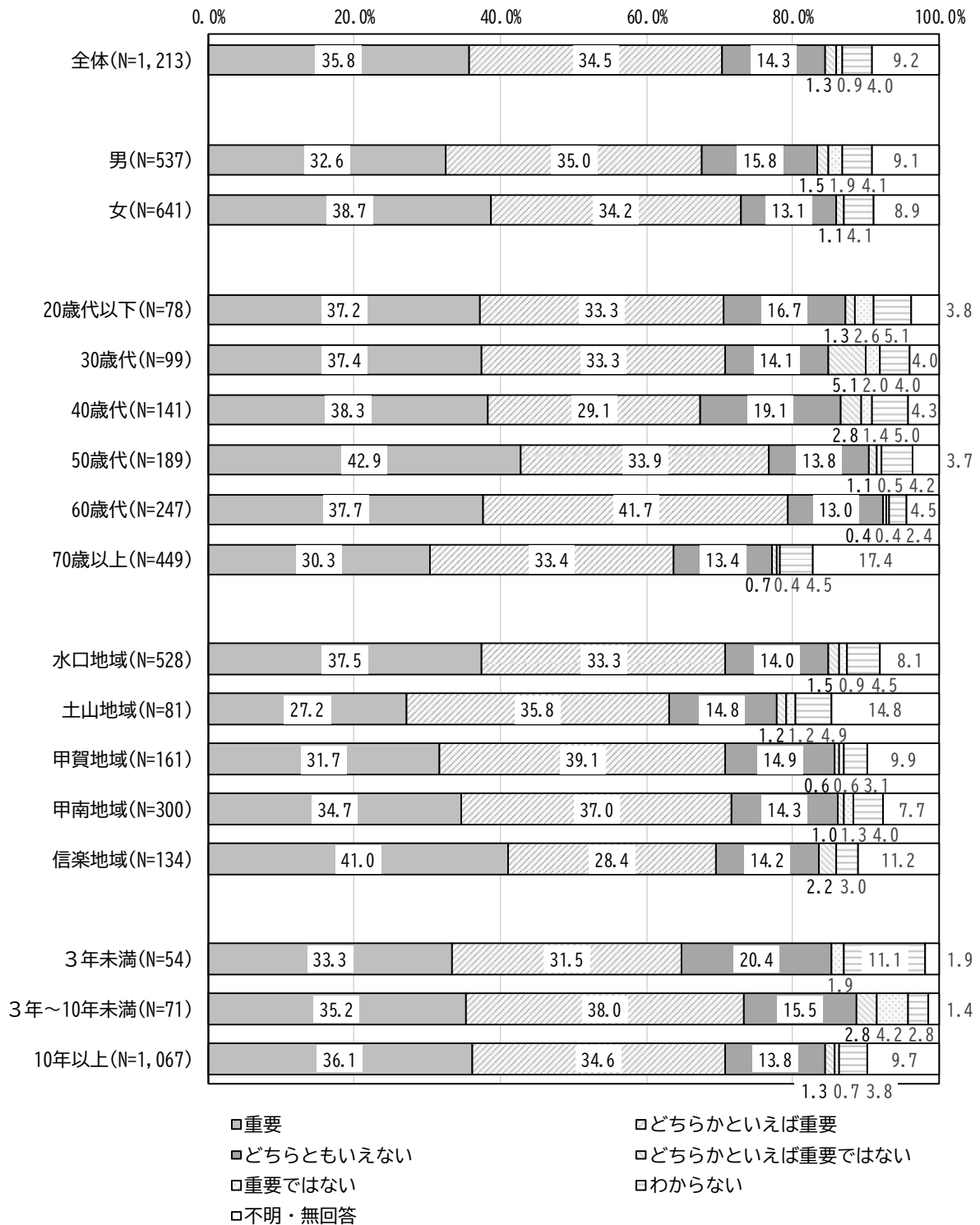
●性別にみると、女性は「重要」が、男性は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 67.6%、女性は 72.9%となっている。

●年代別にみると、60 歳代、70 歳以上は「どちらかといえば重要」が、その他の年代は「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 79.4%、以下、50 歳代で 76.8%、30 歳代で 70.7%と続いている。

●居住地域別にみると、水口地域、信楽地域は「重要」が、その他の地域は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 71.7%、以下、水口地域、甲賀地域で 70.8%、信楽地域で 69.4%、土山地域で 63.0%と続いている。

●居住年数別にみると、3 年～10 年未満は「どちらかといえば重要」が、その他の年数は「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると最も多いのは 3 年～10 年未満で 73.2%、以下、10 年以上で 70.7%、3 年未満で 64.8%と続いている。

⑨地域福祉 重要度（単数回答）

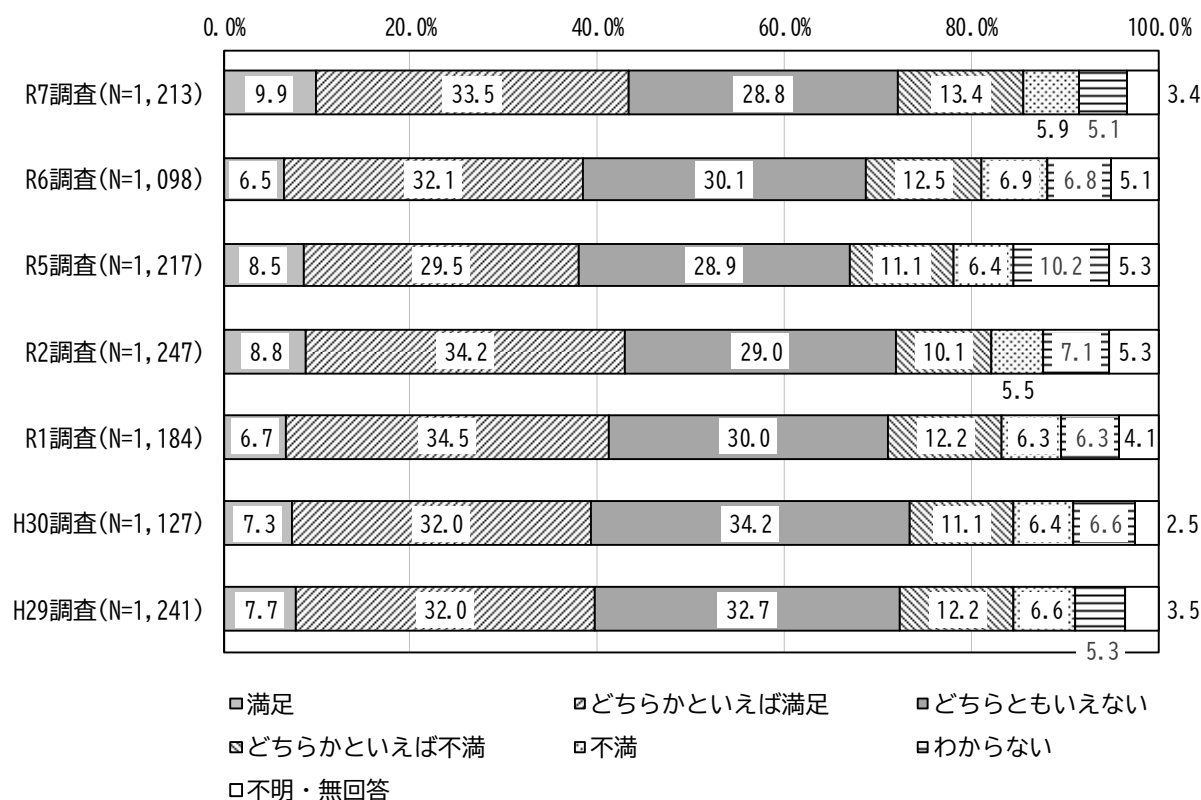


⑩ 保健・医療（健康、疾病の予防と早期対策、地域医療体制、国民健康保険、後期高齢者医療保険）

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合は増加している。

⑩保健・医療 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば満足」が 33.5%で最も多くなっており、以下、「どちらともいえない」が 28.8%、「どちらかといえば不満」が 13.4%、「満足」が 9.9%、「不満」が 5.9%、「わからない」が 5.1%と続いている。『満足』は 43.4%となっている。

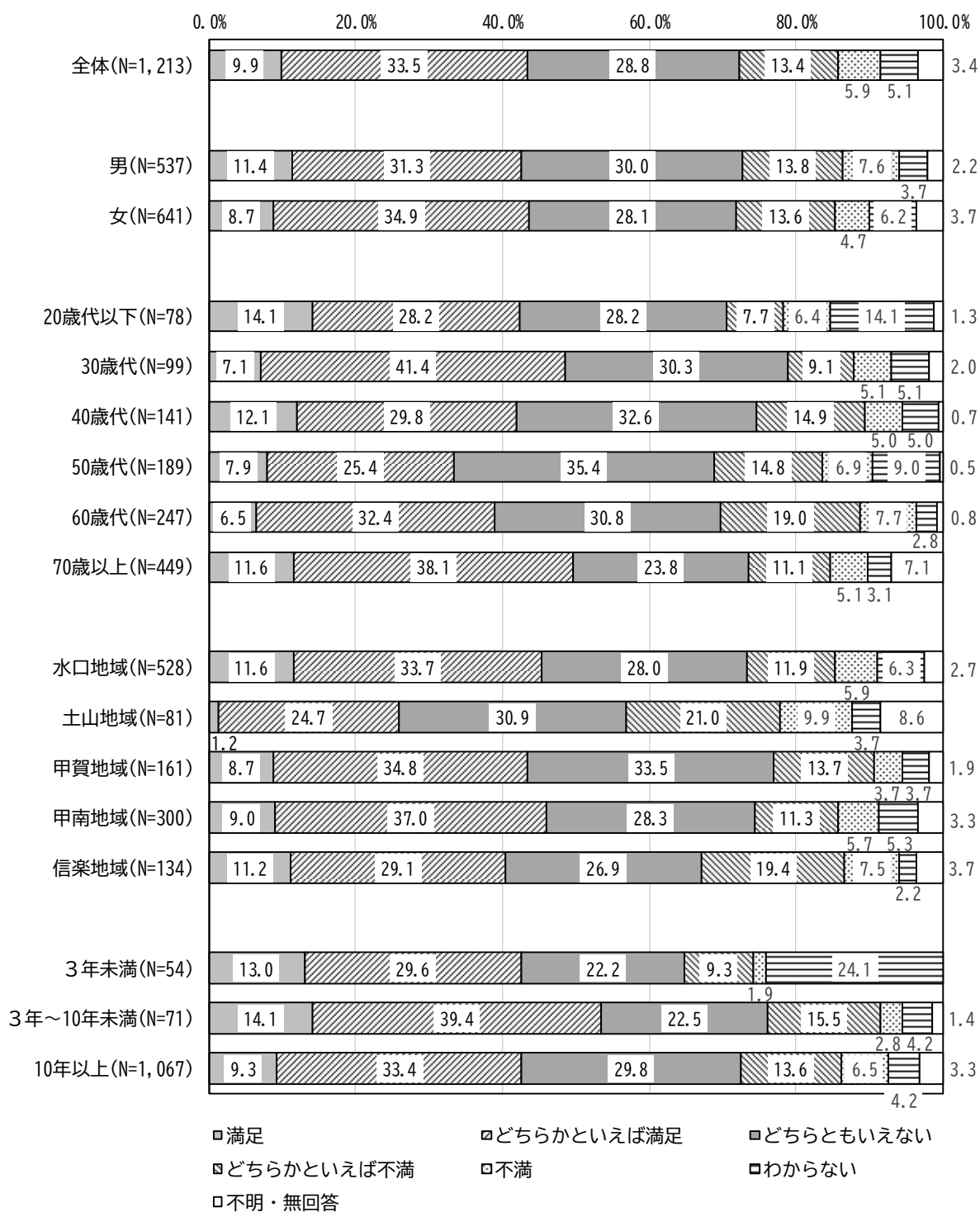
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば満足」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 42.7%、女性は 43.6%となっている。

●年代別にみると、40 歳代、50 歳代は「どちらともいえない」が、その他の年代は「どちらかといえば満足」が最も多くなっている（20 歳代以下は「どちらともいえない」と同率）。『満足』の割合をみると、最も多いのは 70 歳以上で 49.7%、以下、30 歳代で 48.5%、20 歳代以下で 42.3%と続いている。

●居住地域別にみると、土山地域は「どちらともいえない」が、その他の地域は「どちらかといえば満足」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 46.0%、以下、水口地域で 45.3%、甲賀地域で 43.5%、信楽地域で 40.3%、土山地域で 25.9%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえば満足」が最も多くなっている。
『満足』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で53.5%、以下、10年以上で42.7%、
3年未満で42.6%と続いている。

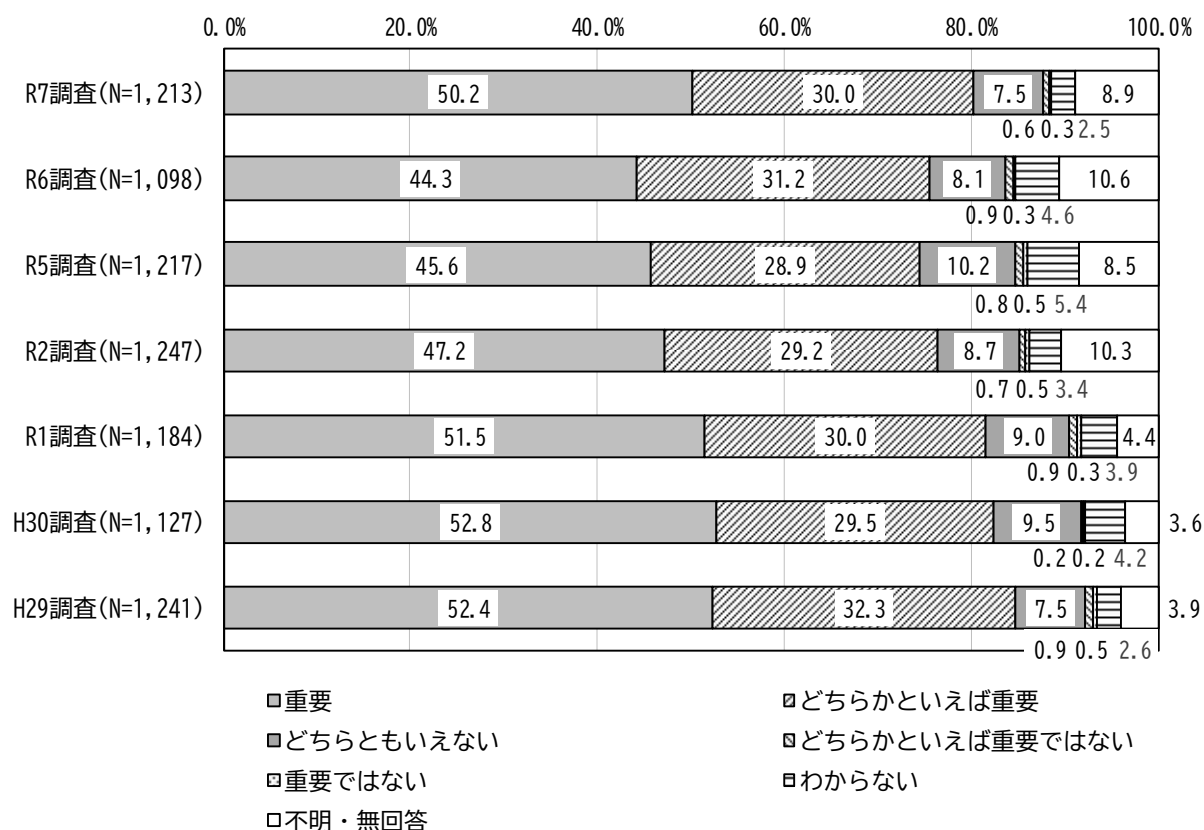
⑩保健・医療 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

⑩保健・医療 重要度（単数回答）



●全体でみると、「重要」が 50.2%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば重要」が 30.0%、「どちらともいえない」が 7.5%、「わからない」が 2.5%、「どちらかといえば重要ではない」が 0.6%、「重要ではない」が 0.3%と続いている。『重要』は 80.2%となっている。

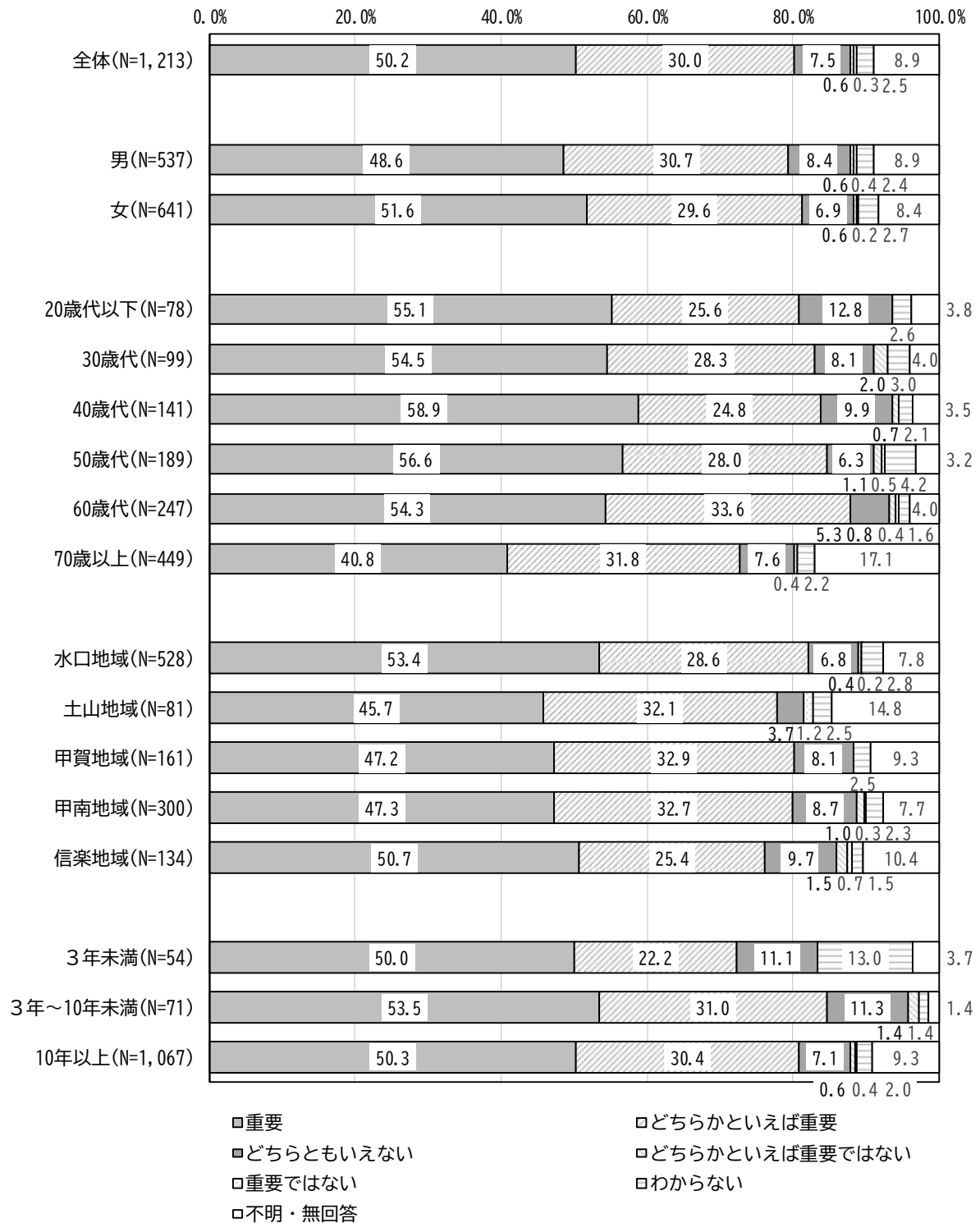
●性別にみると、男性、女性ともに「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 79.3%、女性は 81.2%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 87.9%、以下、50 歳代で 84.6%、40 歳代で 83.7%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 82.0%、以下、甲賀地域で 80.1%、甲南地域で 80.0%、土山地域で 77.8%、信楽地域で 76.1%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 84.5%、以下、10 年以上で 80.7%、3 年未満で 72.2%と続いている。

⑩保健・医療 重要度（単数回答）

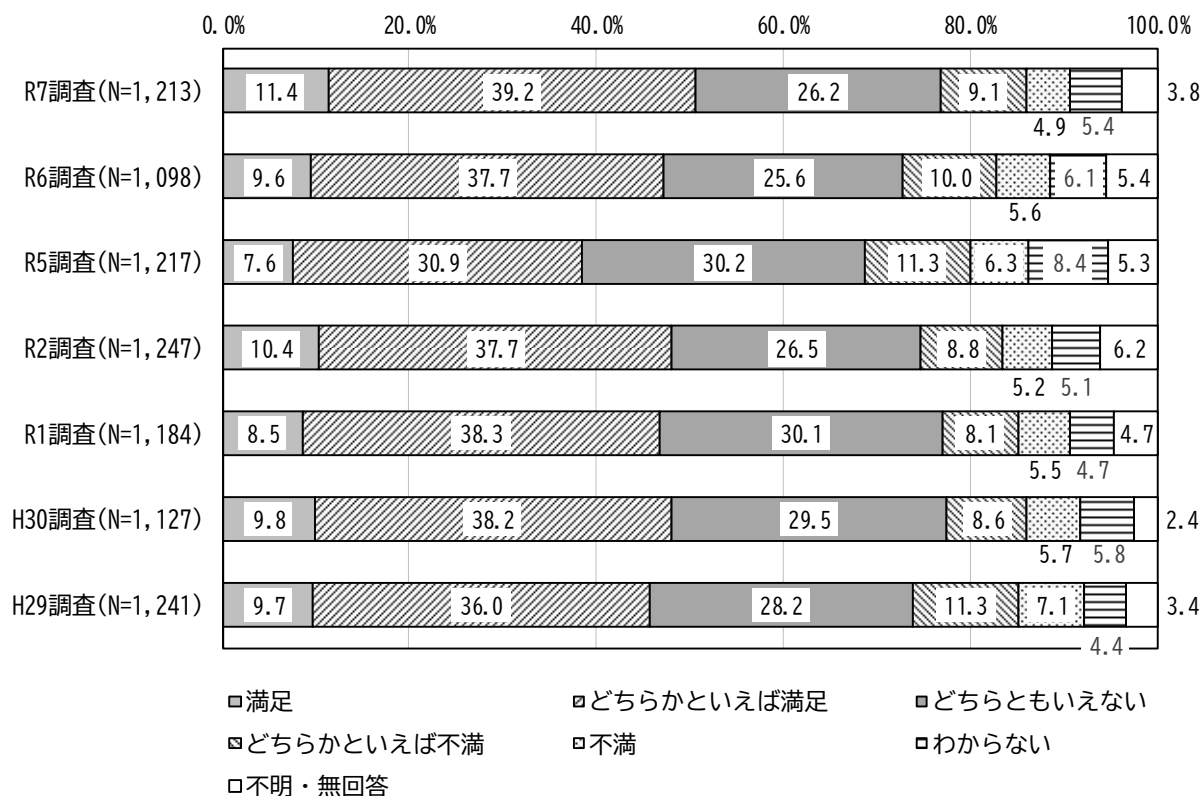


⑪ 住まい・ライフライン（良好な住環境、公営住宅、上下水道）

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合は増加している。

⑪住まい・ライフライン 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば満足」が 39.2%で最も多くなっており、以下、「どちらともいえない」が 26.2%、「満足」が 11.4%、「どちらかといえば不満」が 9.1%、「わからない」が 5.4%、「不満」が 4.9%と続いている。『満足』は 50.6%となっている。

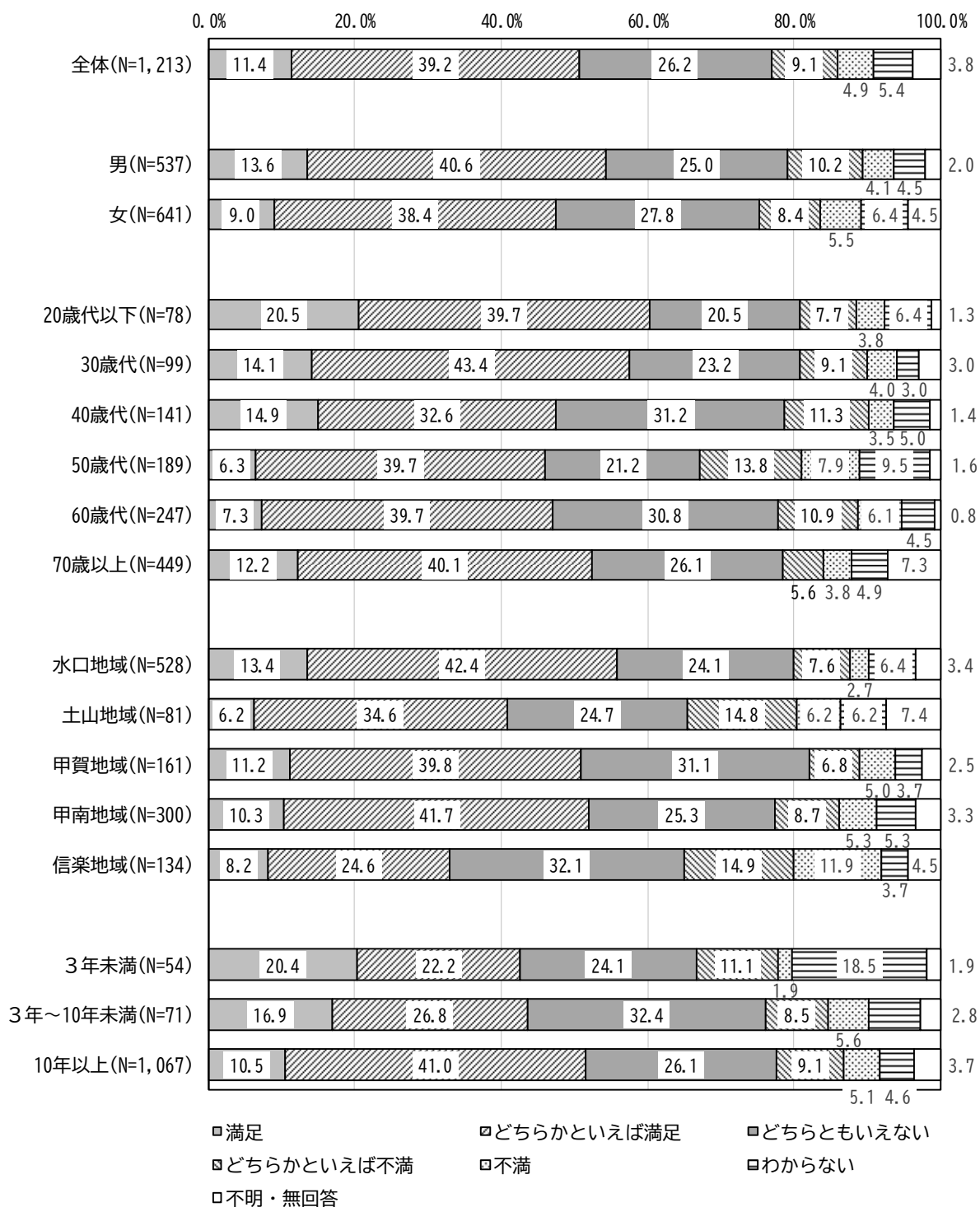
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば満足」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 54.2%、女性は 47.4%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば満足」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 60.2%、以下、30 歳代で 57.5%、70 歳以上で 52.3%と続いている。

●居住地域別にみると、信楽地域は「どちらともいえない」が、その他の地域は「どちらかといえば満足」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 55.8%、以下、甲南地域で 52.0%、甲賀地域で 51.0%、土山地域で 40.8%、信楽地域で 32.8%と続いている。

●居住年数別にみると、10年以上は「どちらかといえば満足」が、その他の年数は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは10年以上で51.5%、以下、3年～10年未満で43.7%、3年未満で42.6%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

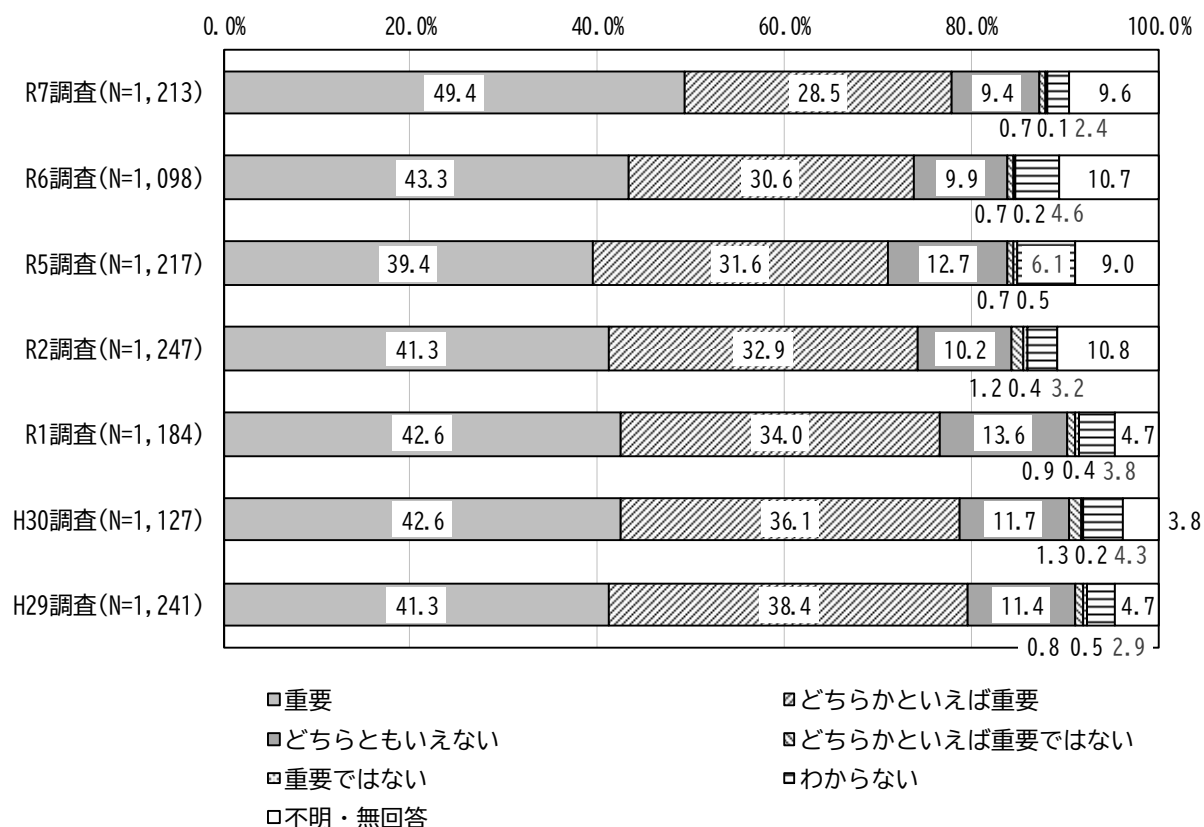
⑪住まい・ライフライン 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

①住まい・ライフライン 重要度（単数回答）



●全体でみると、「重要」が 49.4%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば重要」が 28.5%、「どちらともいえない」が 9.4%、「わからない」が 2.4%、「どちらかといえば重要ではない」が 0.7%、「重要ではない」が 0.1%と続いている。『重要』は 77.9%となっている。

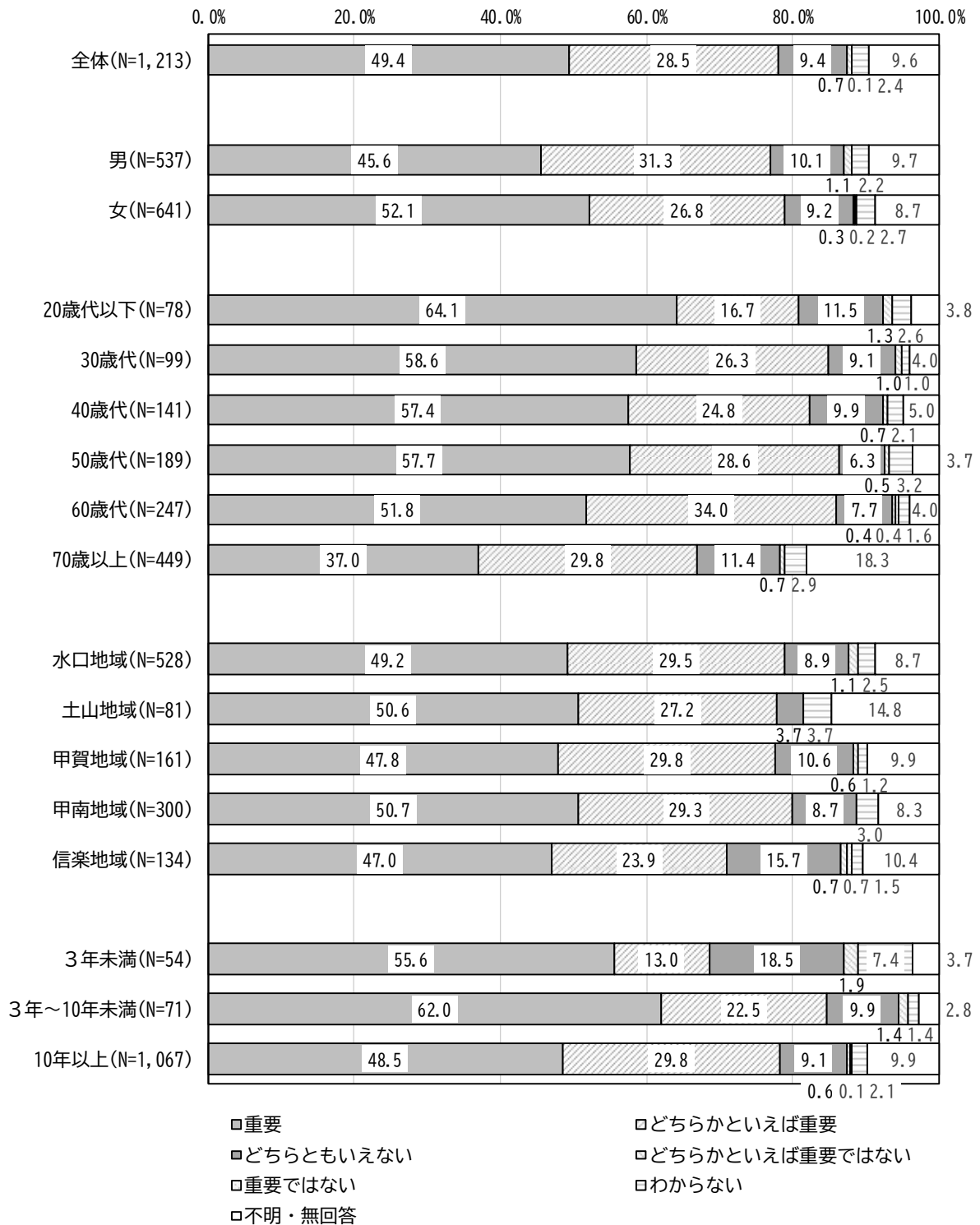
●性別にみると、男性、女性ともに「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 76.9%、女性は 78.9%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 50 歳代で 86.3%、以下、60 歳代で 85.8%、30 歳代で 84.9%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 80.0%、以下、水口地域で 78.7%、土山地域で 77.8%、甲賀地域で 77.6%、信楽地域で 70.9%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 84.5%、以下、10 年以上で 78.3%、3 年未満で 68.6%と続いている。

⑪住まい・ライフライン 重要度（単数回答）

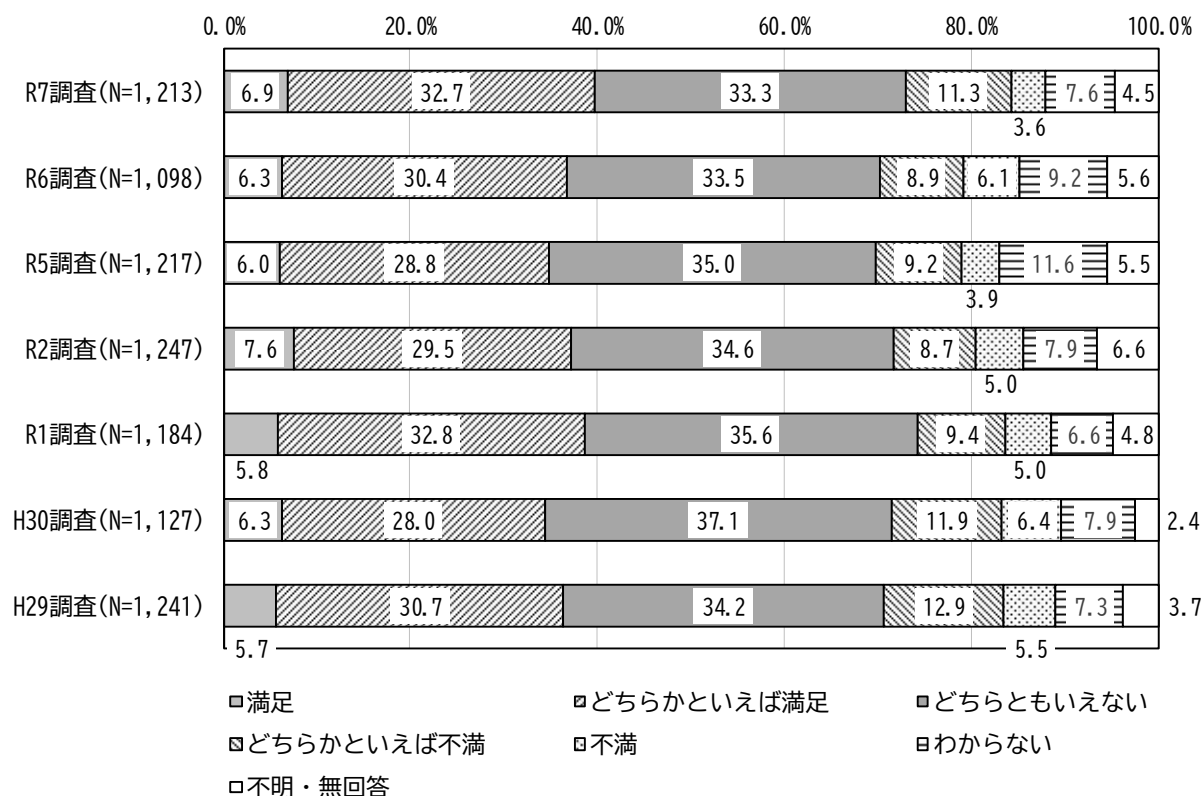


⑫ 安全・防災（事故予防、防犯、消防、地域の防災体制、治水、砂防）

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合は増加している。

⑫安全・防災 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらともいえない」が 33.3%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば満足」が 32.7%、「どちらかといえば不満」が 11.3%、「わからない」が 7.6%、「満足」が 6.9%、「不満」が 3.6%と続いている。『満足』は 39.6%となっている。

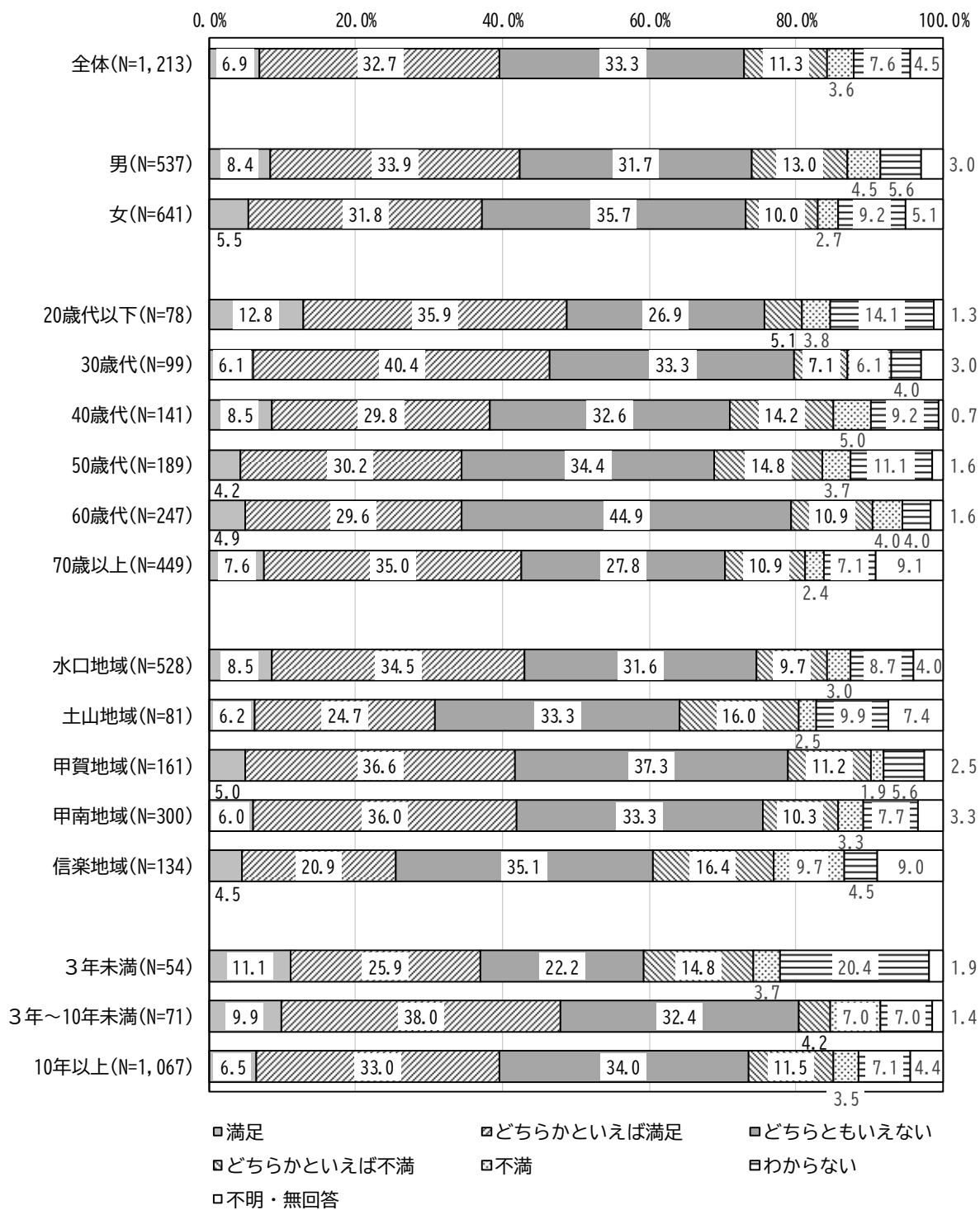
●性別にみると、男性は「どちらかといえば満足」が、女性は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 42.3%、女性は 37.3%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下、30 歳代、70 歳以上は「どちらかといえば満足」が、その他の年代は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 48.7%、以下、30 歳代で 46.5%、70 歳以上で 42.6%と続いている。

●居住地域別にみると、水口地域、甲南地域は「どちらかといえば満足」が、その他の地域は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 43.0%、以下、甲南地域で 42.0%、甲賀地域で 41.6%、土山地域で 30.9%、信楽地域で 25.4%と続いている。

●居住年数別にみると、10 年以上は「どちらともいえない」が、その他の年数は「どちらかといえは満足」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは3 年～10 年未満で 47.9%、以下、10 年以上で 39.5%、3 年未満で 37.0%と続いている。

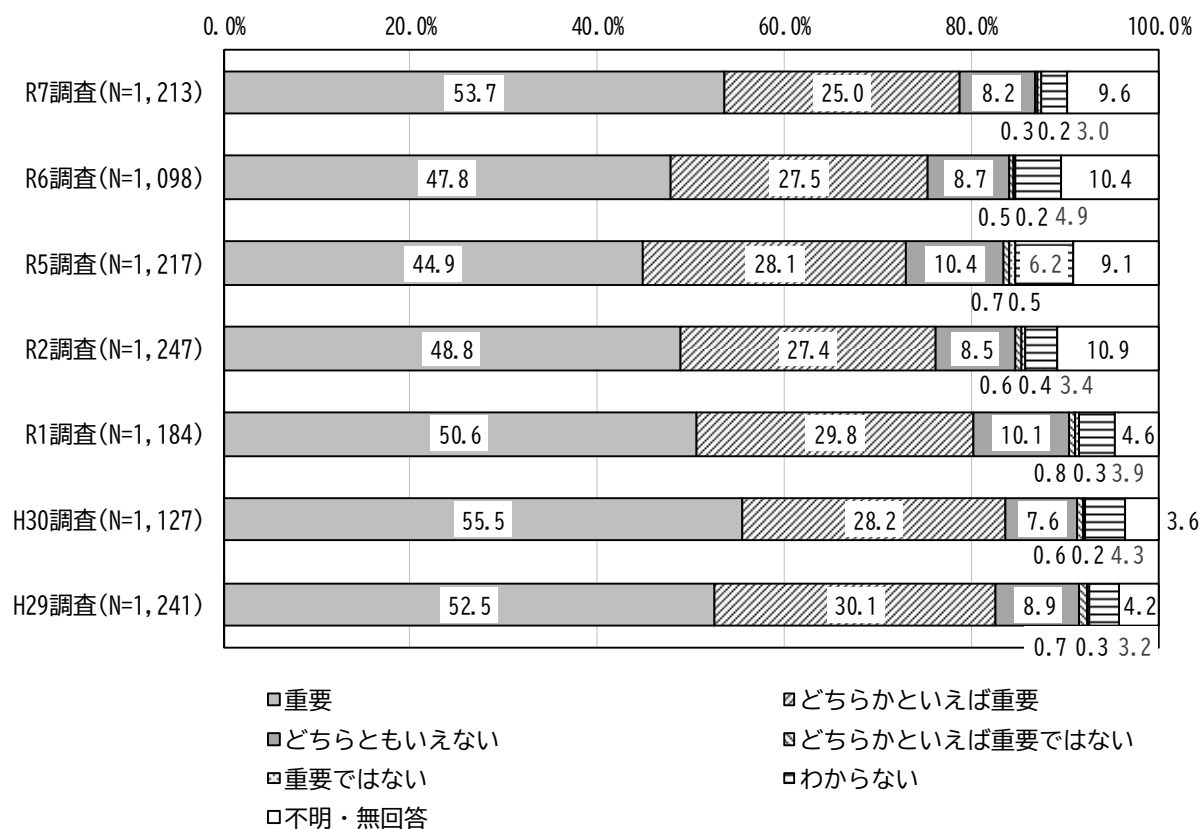
⑫安全・防災 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

⑫安全・防災 重要度（単数回答）



●全体でみると、「重要」が 53.7%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば重要」が 25.0%、「どちらともいえない」が 8.2%、「わからない」が 3.0%、「どちらかといえば重要ではない」が 0.3%、「重要ではない」が 0.2%と続いている。『重要』は 78.7%となっている。

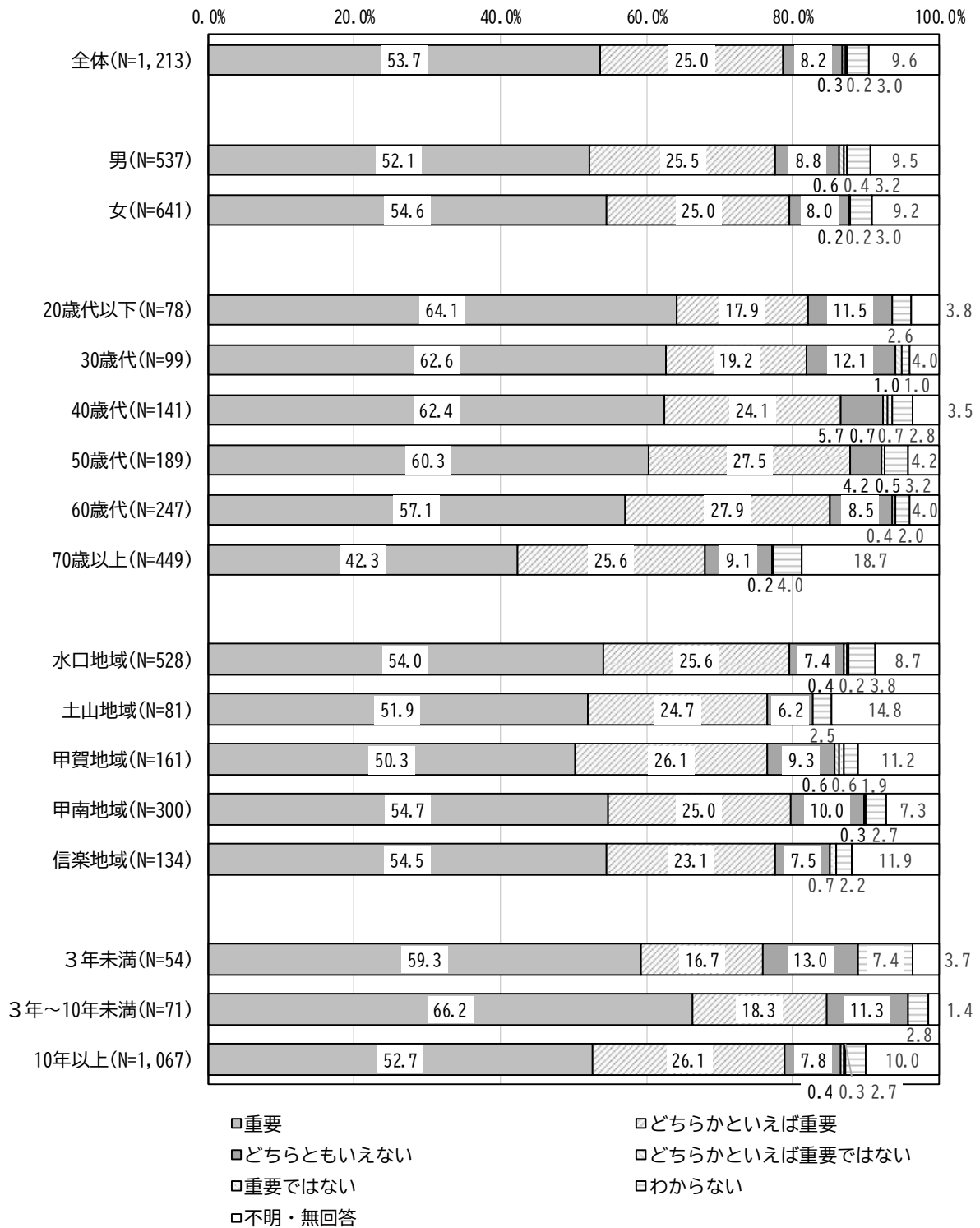
●性別にみると、男性、女性ともに「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 77.6%、女性は 79.6%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 50 歳代で 87.8%、以下、40 歳代で 86.5%、60 歳代で 85.0%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 79.7%、以下、水口地域で 79.6%、信楽地域で 77.6%、土山地域で 76.6%、甲賀地域で 76.4%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 84.5%、以下、10 年以上で 78.8%、3 年未満で 76.0%と続いている。

⑫安全・防災 重要度（単数回答）



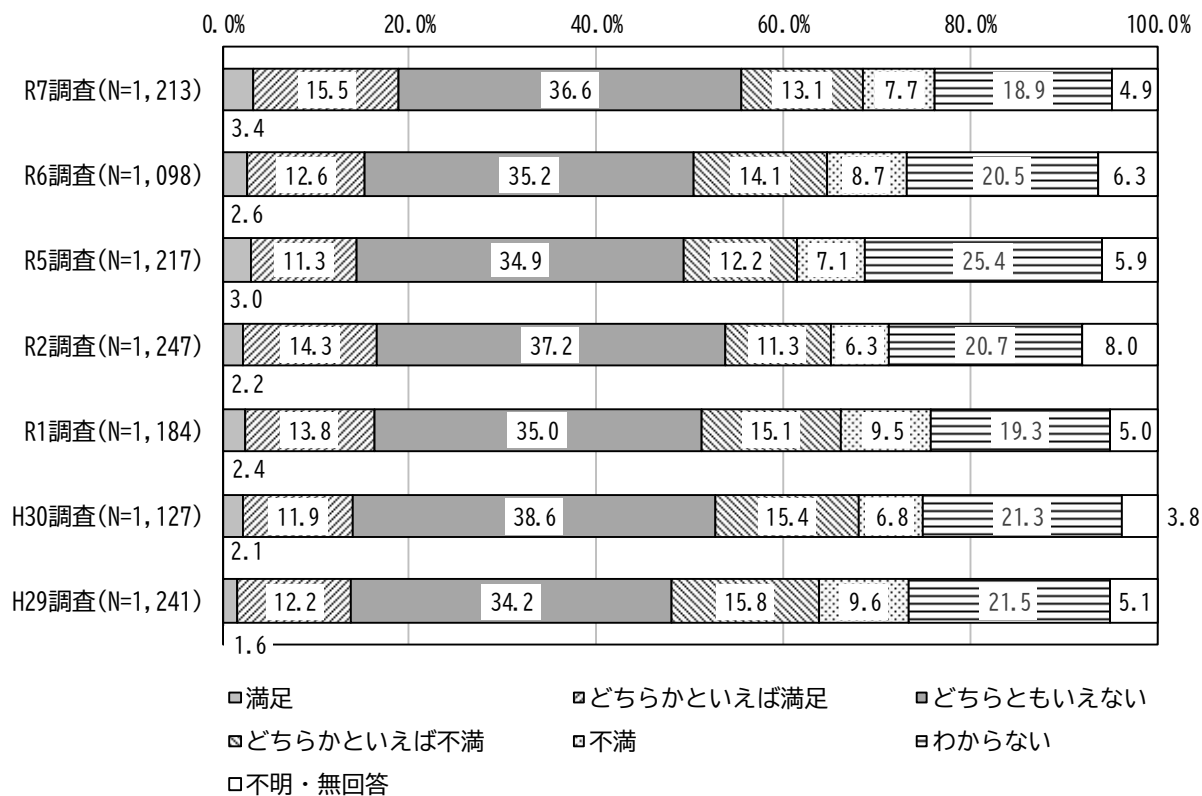
【4. うみだす活力受けつぐ伝統】

⑬ 農林畜水産（農林畜水産業振興、地域ブランド、鳥獣害対策）

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合は増加している。

⑬農林畜水産 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらともいえない」が36.6%で最も多くなっており、以下、「わからない」が18.9%、「どちらかといえば満足」が15.5%、「どちらかといえば不満」が13.1%、「不満」が7.7%、「満足」が3.4%と続いている。『満足』は18.9%となっている。

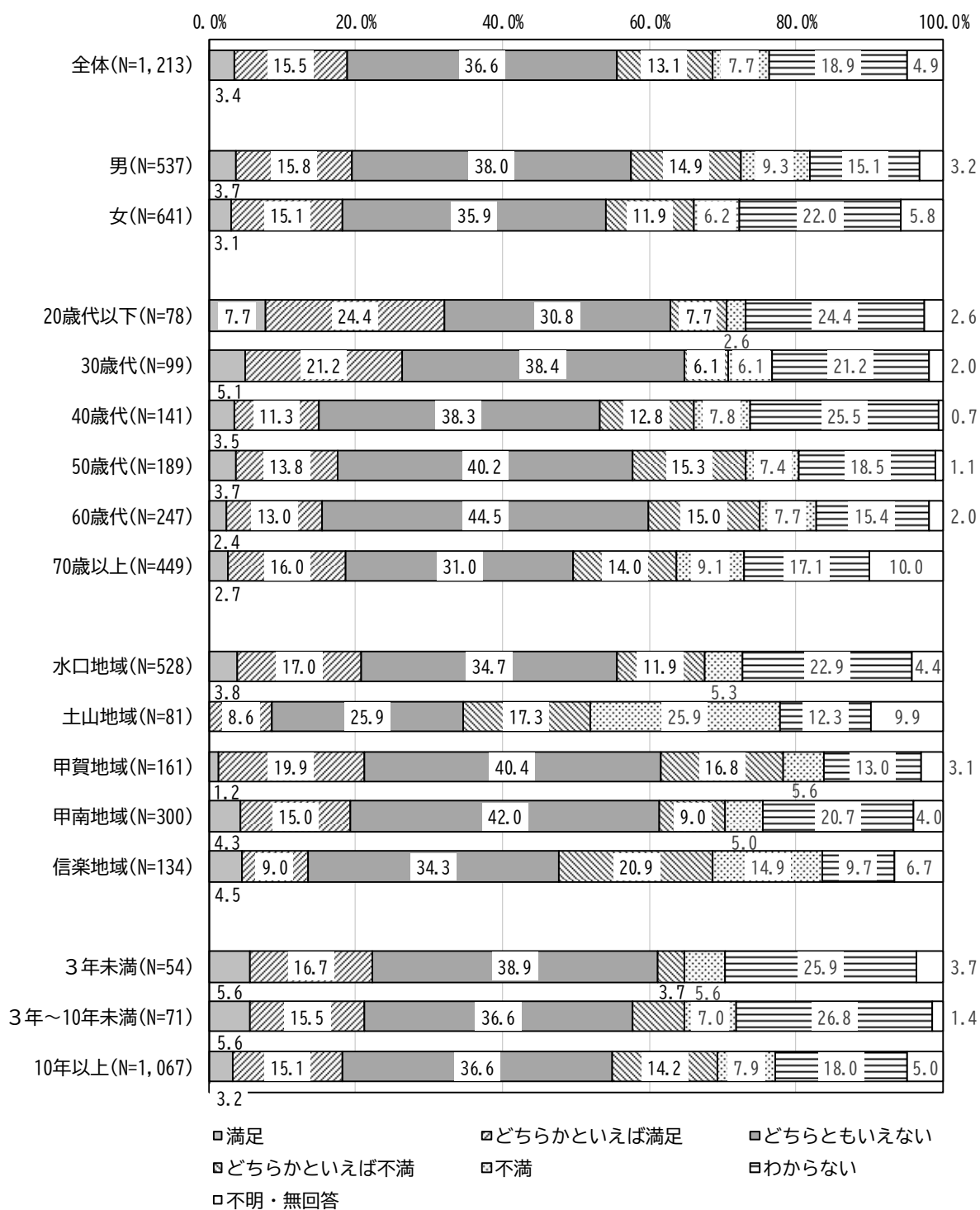
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は19.5%、女性は18.2%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは20歳代以下で32.1%、以下、30歳代で26.3%、70歳以上で18.7%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている（土山地域は「不満」と同率）。『満足』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で21.1%、以下、水口地域で20.8%、甲南地域で19.3%、信楽地域で13.5%、土山地域で8.6%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらともいえない」が最も多くなっている。
『満足』の割合をみると、最も多いのは3年未満で22.3%、以下、3年～10年未満で21.1%、
10年以上で18.3%と続いており、年数が長くなるにつれて少なくなっている。

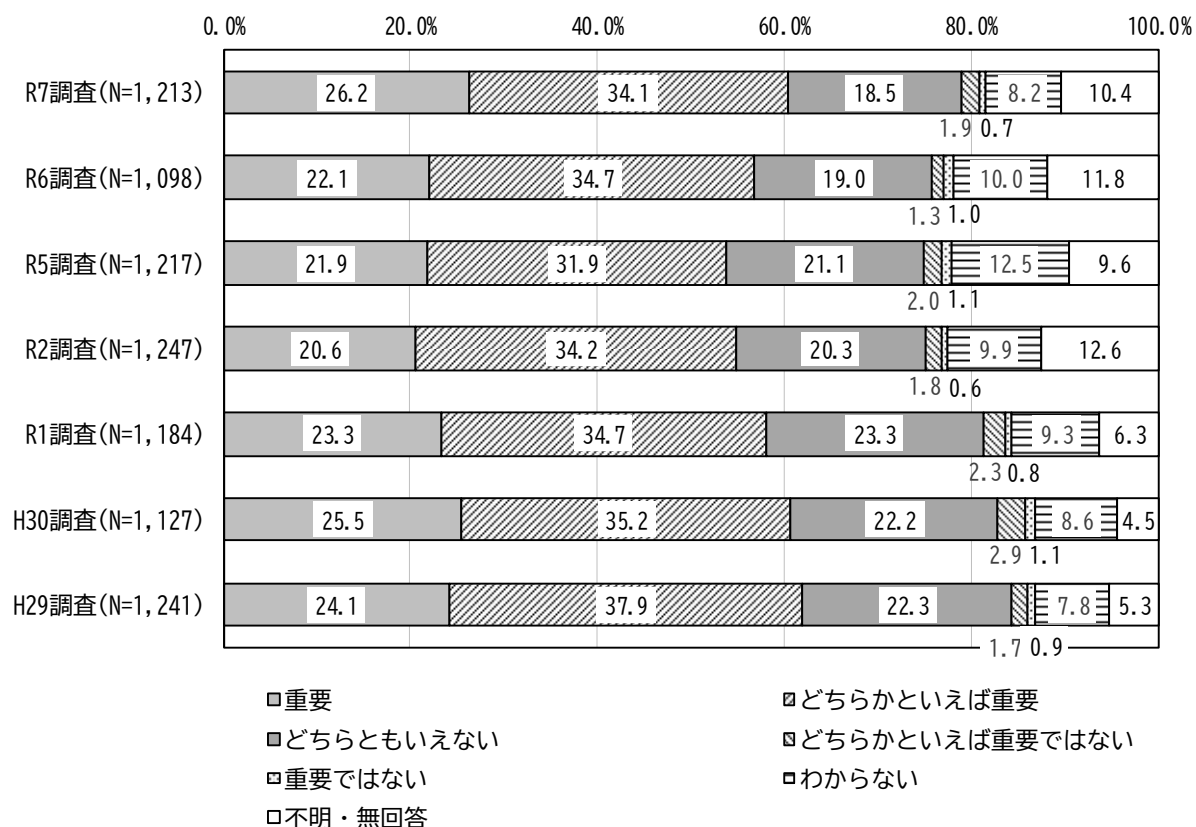
⑬農林畜水産 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

⑬農林畜水産 重要度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 34.1%で最も多くなっており、以下、「重要」が 26.2%、「どちらともいえない」が 18.5%、「わからない」が 8.2%、「どちらかといえば重要ではない」が 1.9%、「重要ではない」が 0.7%と続いている。『重要』は 60.3%となっている。

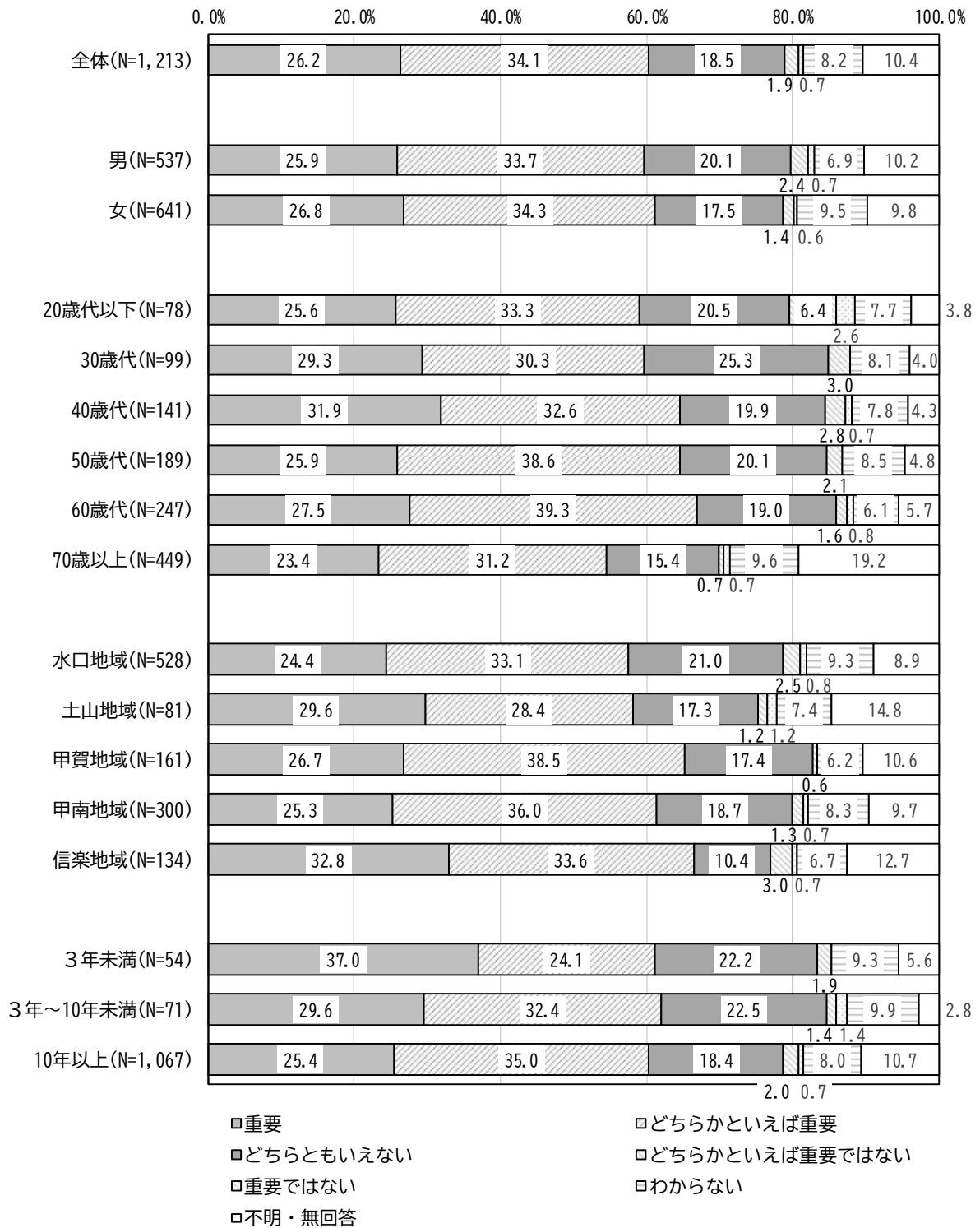
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 59.6%、女性は 61.1%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 66.8%、以下、40 歳代、50 歳代で 64.5%、30 歳代で 59.6%と続いている。

●居住地域別にみると、土山地域は「重要」が、その他の地域は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは信楽地域で 66.4%、以下、甲賀地域で 65.2%、甲南地域で 61.3%、土山地域で 58.0%、水口地域で 57.5%と続いている。

●居住年数別にみると、3 年未満は「重要」が、その他の年数は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 62.0%、以下、3 年未満で 61.1%、10 年以上で 60.4%と続いている。

⑬農林畜水産 重要度（単数回答）

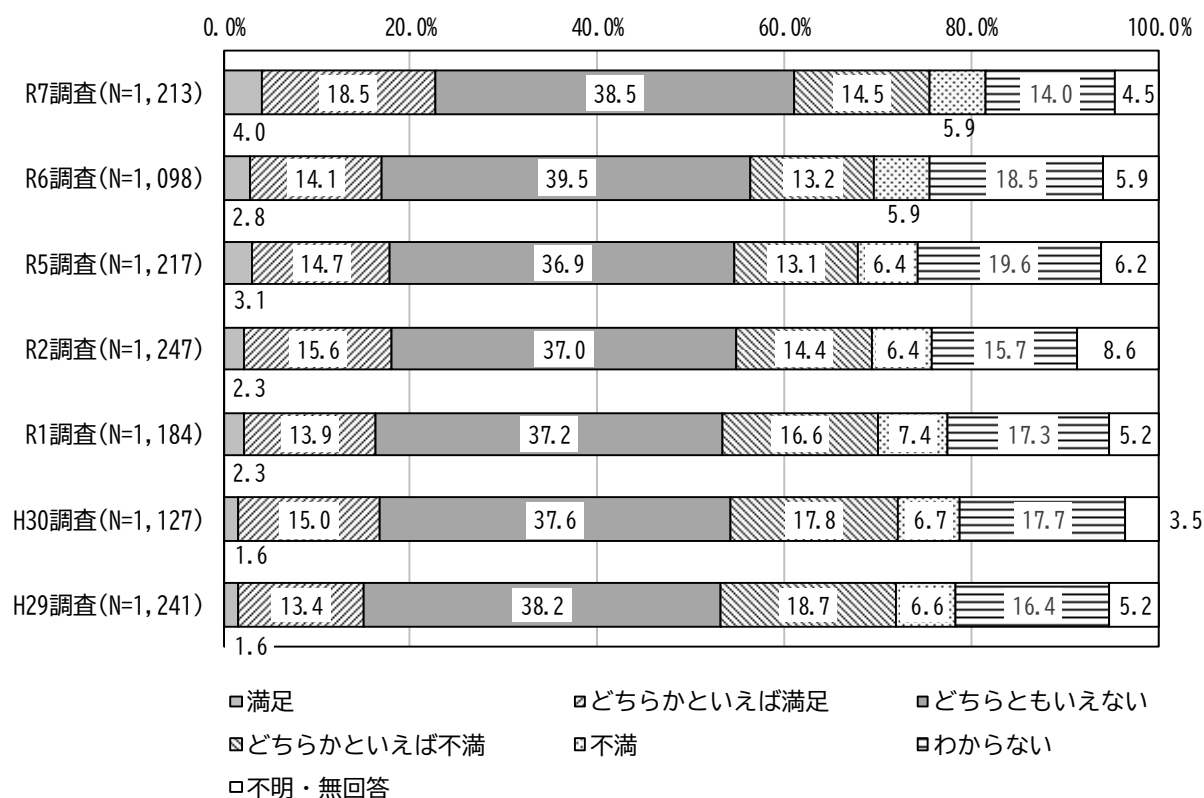


⑭ 商工観光（商業、地場産業、工業、観光振興）

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、概ね同じ傾向であるが、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合が増加している。

⑭商工観光 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらともいえない」が 38.5%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば満足」が 18.5%、「どちらかといえば不満」が 14.5%、「わからない」が 14.0%、「不満」が 5.9%、「満足」が 4.0%と続いている。『満足』は 22.5%となっている。

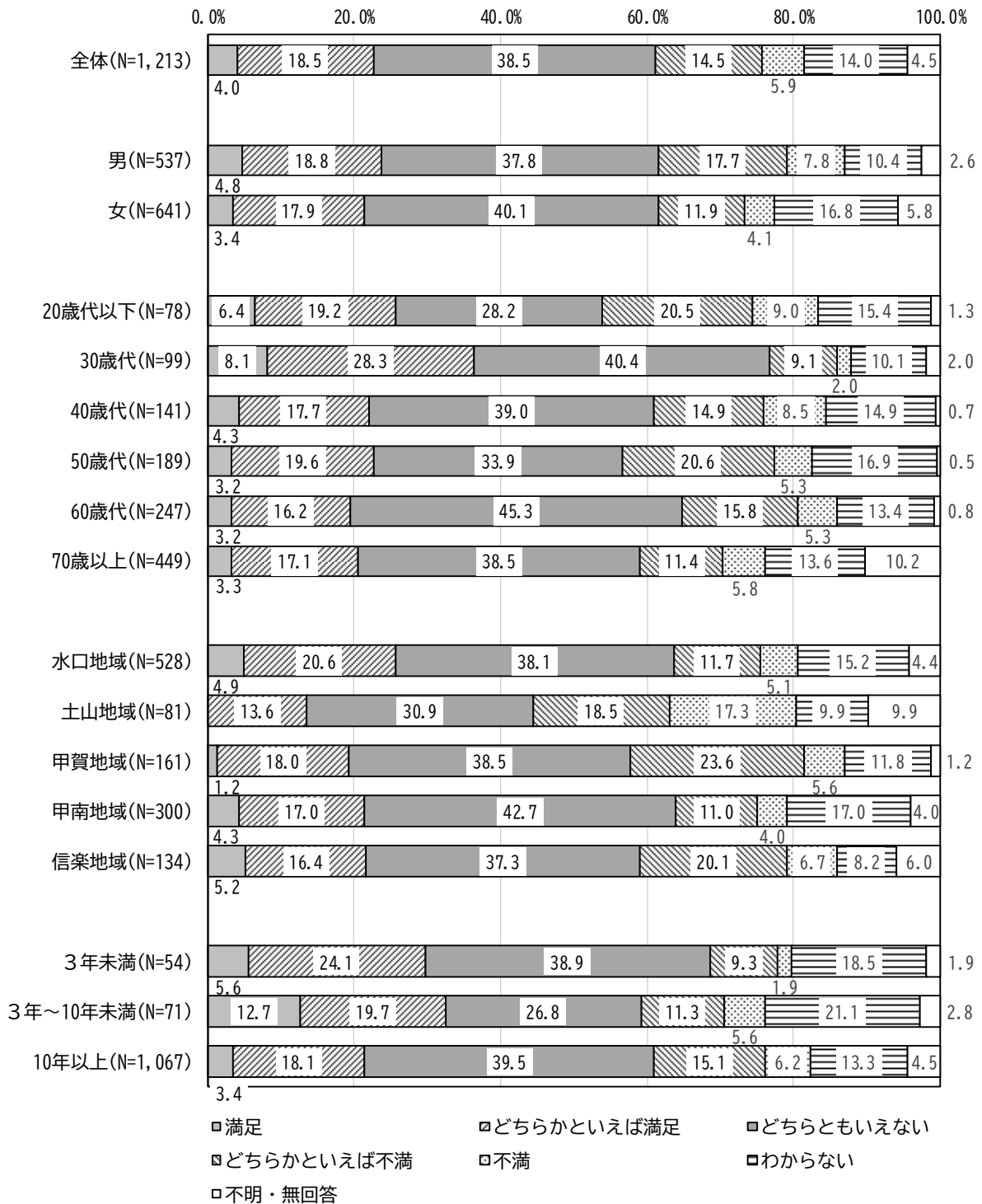
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 23.6%、女性は 21.3%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 36.4%、以下、20 歳代以下で 25.6%、50 歳代で 22.8%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 25.5%、以下、信楽地域で 21.6%、甲南地域で 21.3%、甲賀地域で 19.2%、土山地域で 13.6%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 32.4%、以下、3 年未満で 29.7%、10 年以上で 21.5%と続いている。

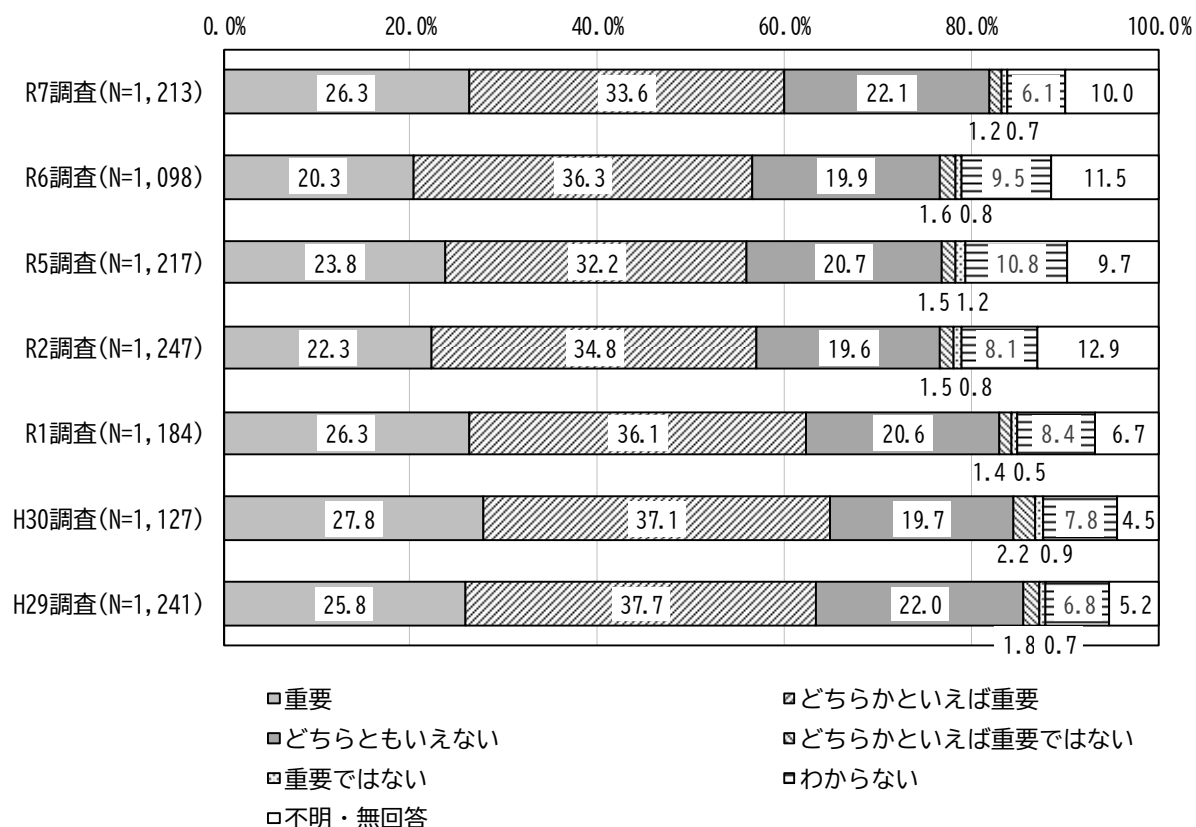
⑭商工観光 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

⑭商工観光 重要度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 33.6%で最も多くなっており、以下、「重要」が 26.3%、「どちらともいえない」が 22.1%、「わからない」が 6.1%、「どちらかといえば重要ではない」が 1.2%、「重要ではない」が 0.7%と続いている。『重要』は 59.9%となっている。

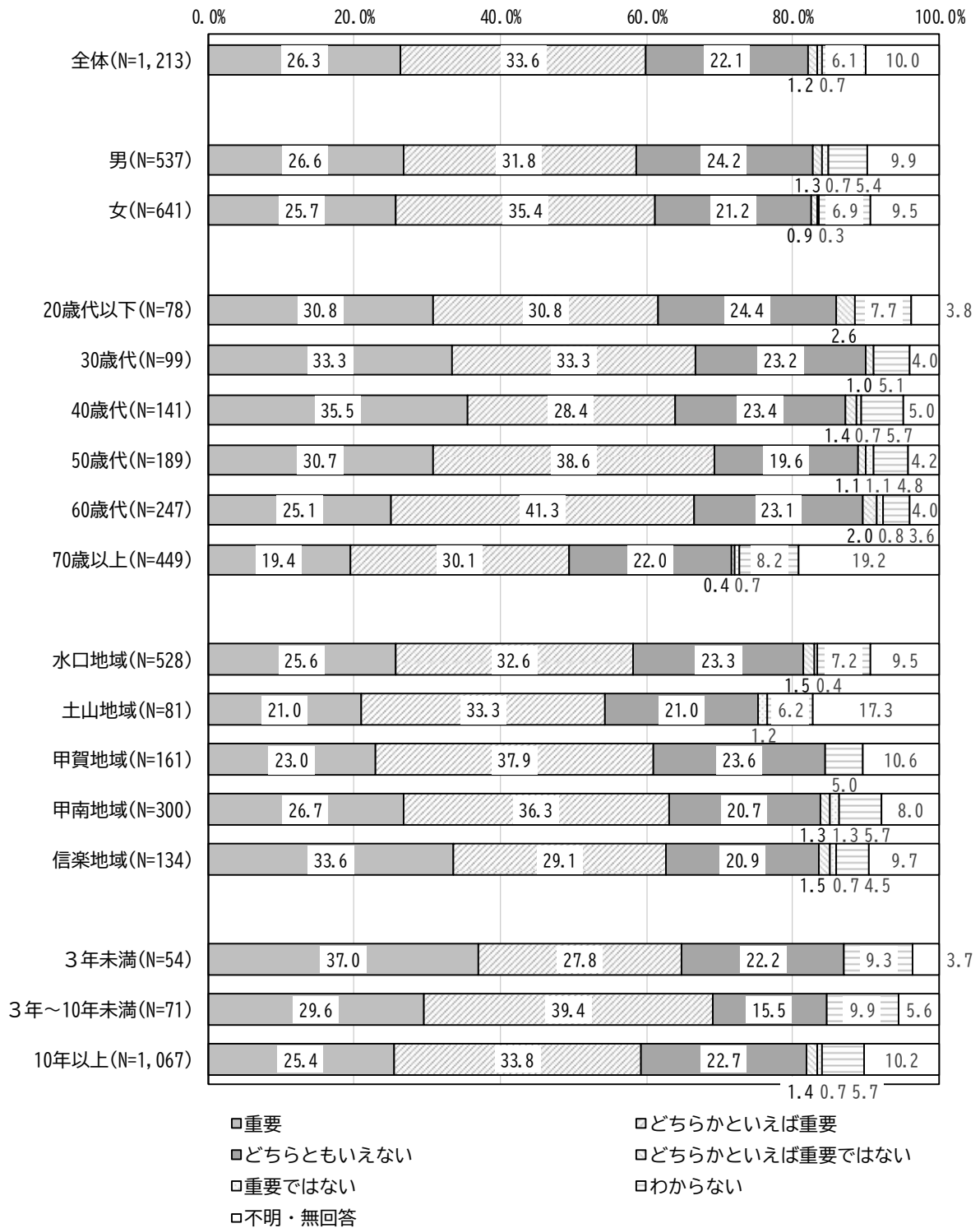
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 58.4%、女性は 61.1%となっている。

●年代別にみると、40 歳代は「重要」が、その他の年代は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている（20 歳代以下、30 歳代は「重要」と同率）。『重要』の割合をみると、最も多いのは 50 歳代で 69.3%、以下、30 歳代で 66.6%、60 歳代で 66.4%と続いている。

●居住地域別にみると、信楽地域は「重要」が、その他の地域は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 63.0%、以下、信楽地域で 62.7%、甲賀地域で 60.9%、水口地域で 58.2%、土山地域で 54.3%と続いている。

●居住年数別にみると、3 年未満は「重要」が、その他の年数は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 69.0%、以下、3 年未満で 64.8%、10 年以上で 59.2%と続いている。

⑭商工観光 重要度（単数回答）

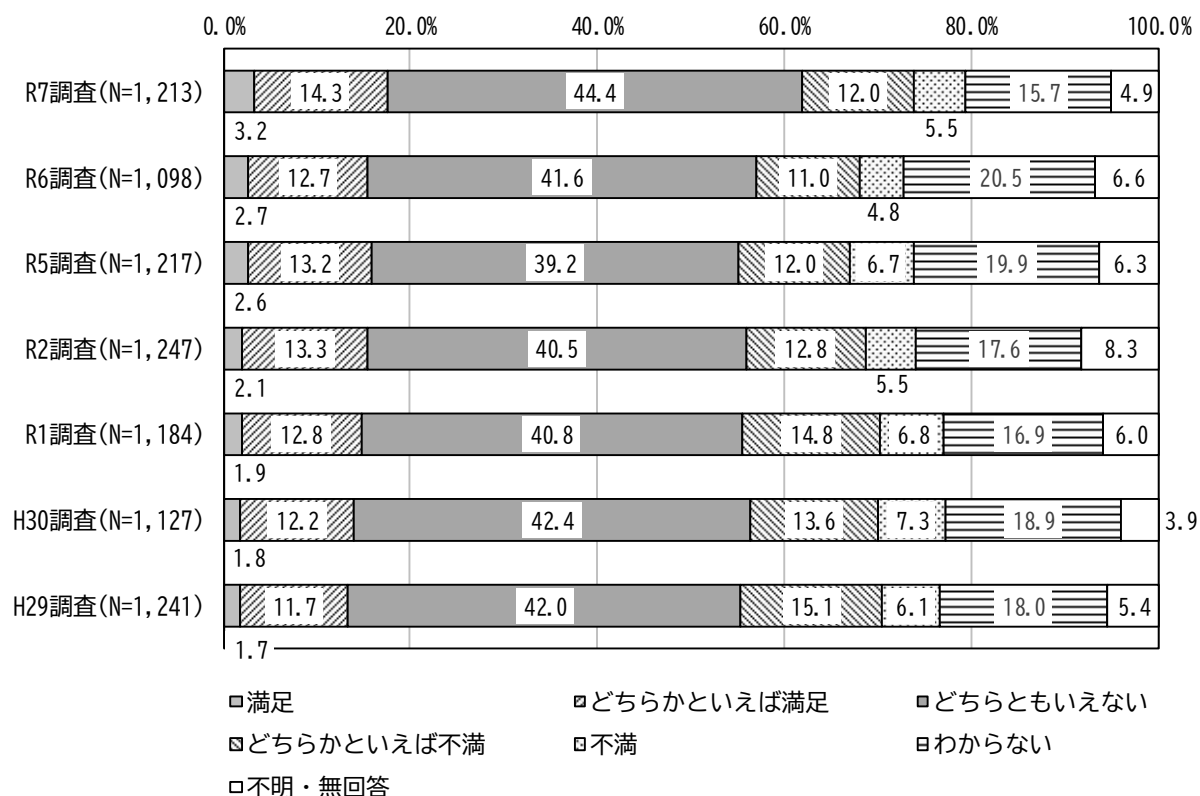


⑮ 活躍・雇用（就労支援、女性の活躍、勤労者福祉）

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、概ね同じ傾向であるが、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合が増加している。

⑮活躍・雇用 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらともいえない」が44.4%で最も多くなっており、以下、「わからない」が15.7%、「どちらかといえば満足」が14.3%、「どちらかといえば不満」が12.0%、「不満」が5.5%、「満足」が3.2%と続いている。『満足』は17.5%となっている。

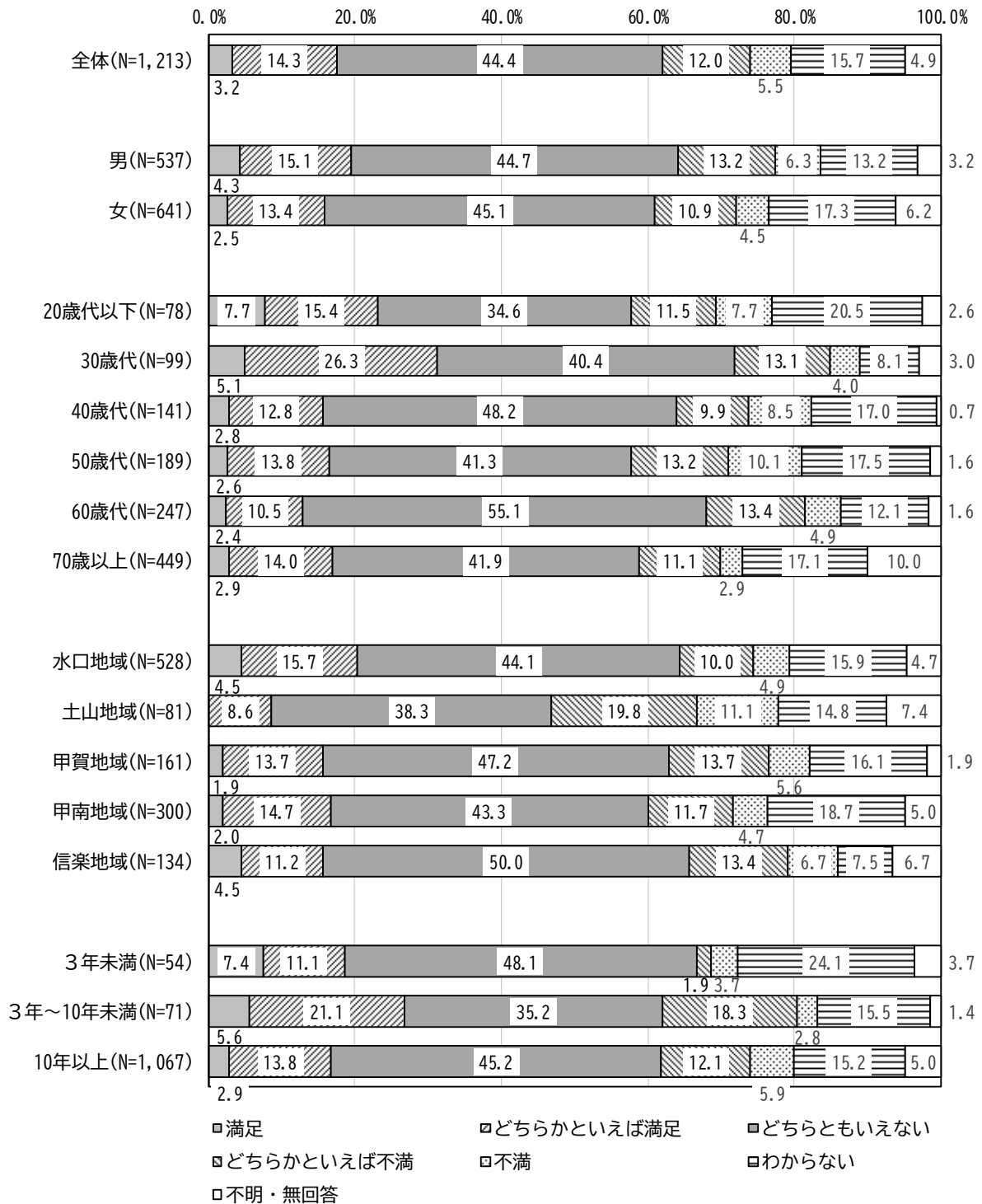
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は19.4%、女性は15.9%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは30歳代で31.4%、以下、20歳代以下で23.1%、70歳以上で16.9%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは水口地域で20.2%、以下、甲南地域で16.7%、信楽地域で15.7%、甲賀地域で15.6%、土山地域で8.6%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で26.7%、以下、3年未満で18.5%、10年以上で16.7%と続いている。

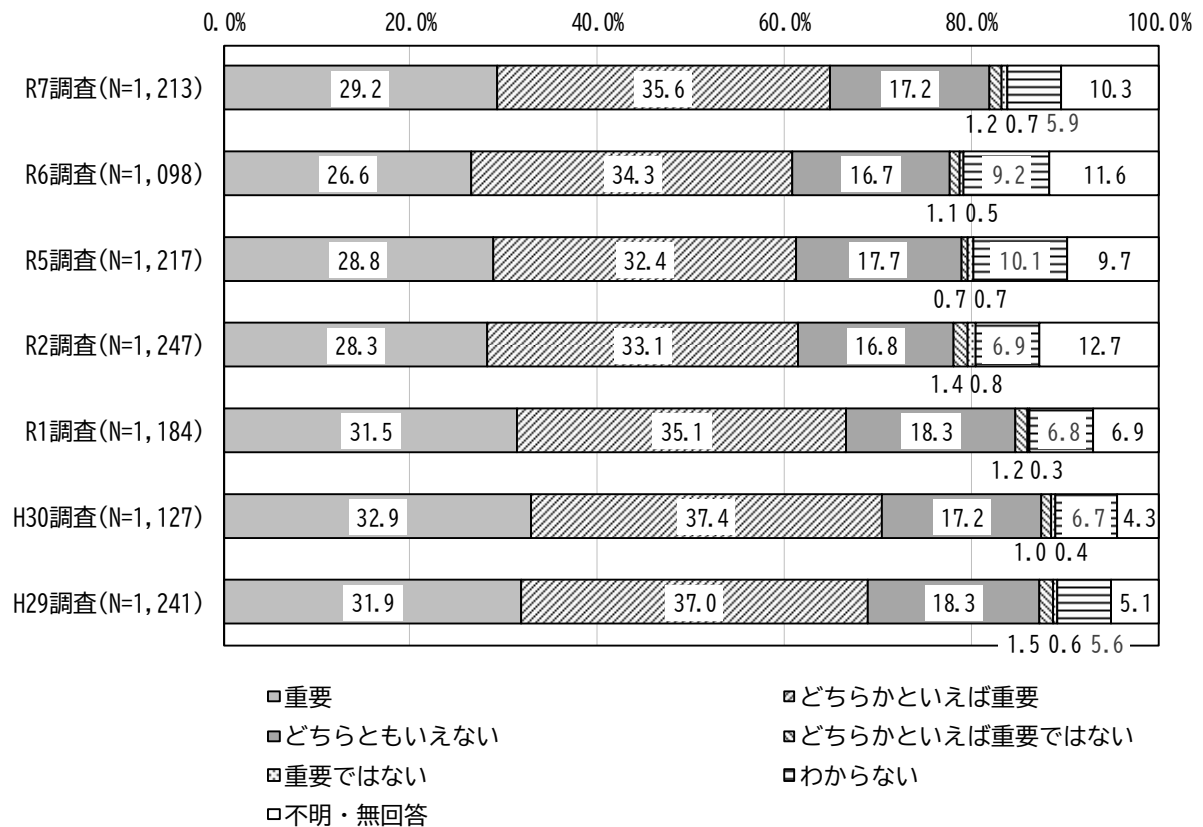
⑮活躍・雇用 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、昨年まで減少傾向にあった「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

⑮活躍・雇用 重要度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 35.6%で最も多くなっており、以下、「重要」が 29.2%、「どちらともいえない」が 17.2%、「わからない」が 5.9%、「どちらかといえば重要ではない」が 1.2%、「重要ではない」が 0.7%と続いている。『重要』は 64.8%となっている。

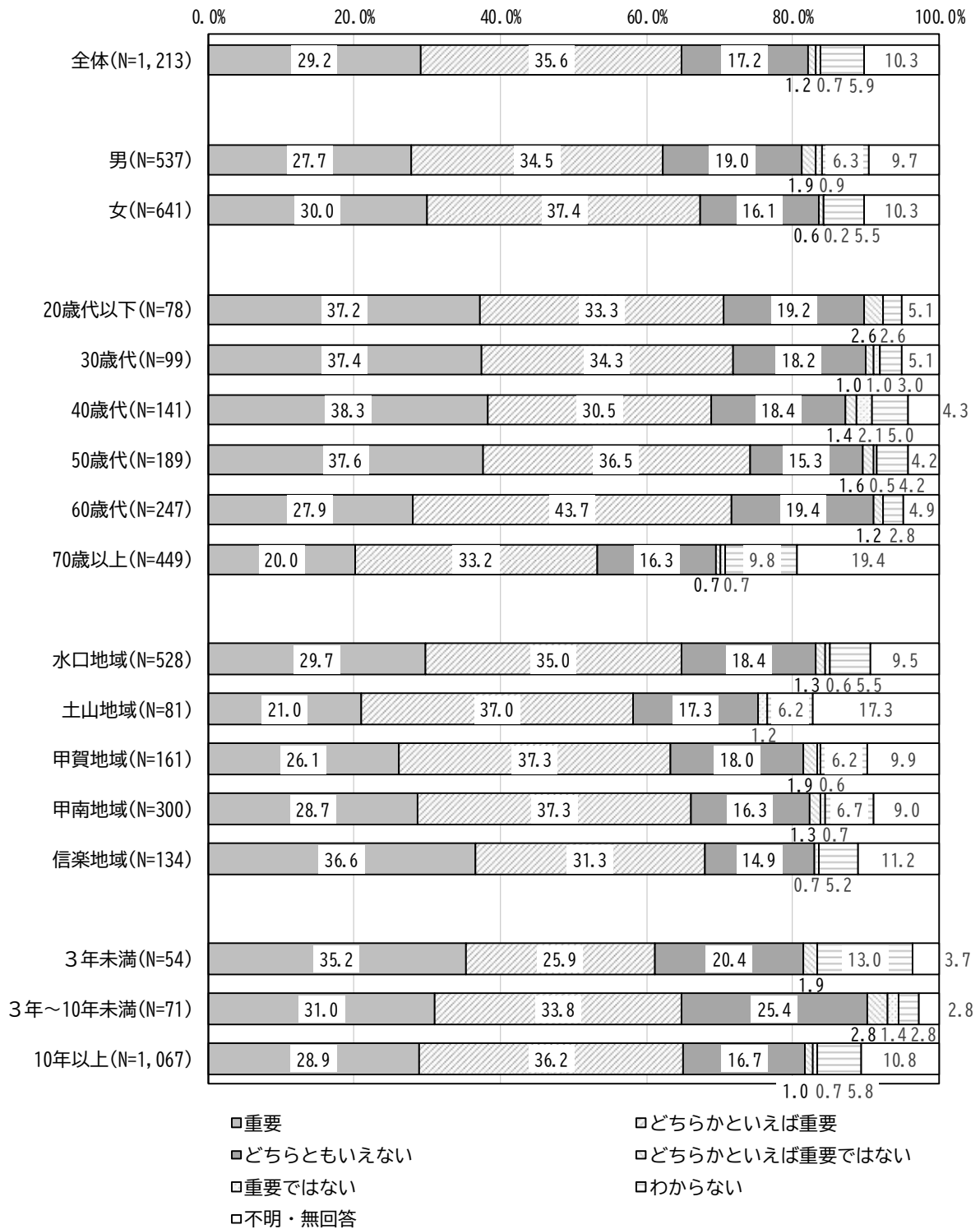
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 62.2%、女性は 67.4%となっている。

●年代別にみると、60 歳代、70 歳以上は「どちらかといえば重要」が、その他の年代は「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 50 歳代で 74.1%、以下、30 歳代で 71.7%、60 歳代で 71.6%と続いている。

●居住地域別にみると、信楽地域は「重要」が、その他の地域は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは信楽地域で 67.9%、以下、甲南地域で 66.0%、水口地域で 64.7%、甲賀地域で 63.4%、土山地域で 58.0%と続いている。

●居住年数別にみると、3 年未満は「重要」が、その他の年数は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 65.1%、3 年～10 年未満で 64.8%、以下、3 年未満で 61.1%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

⑮活躍・雇用 重要度（単数回答）

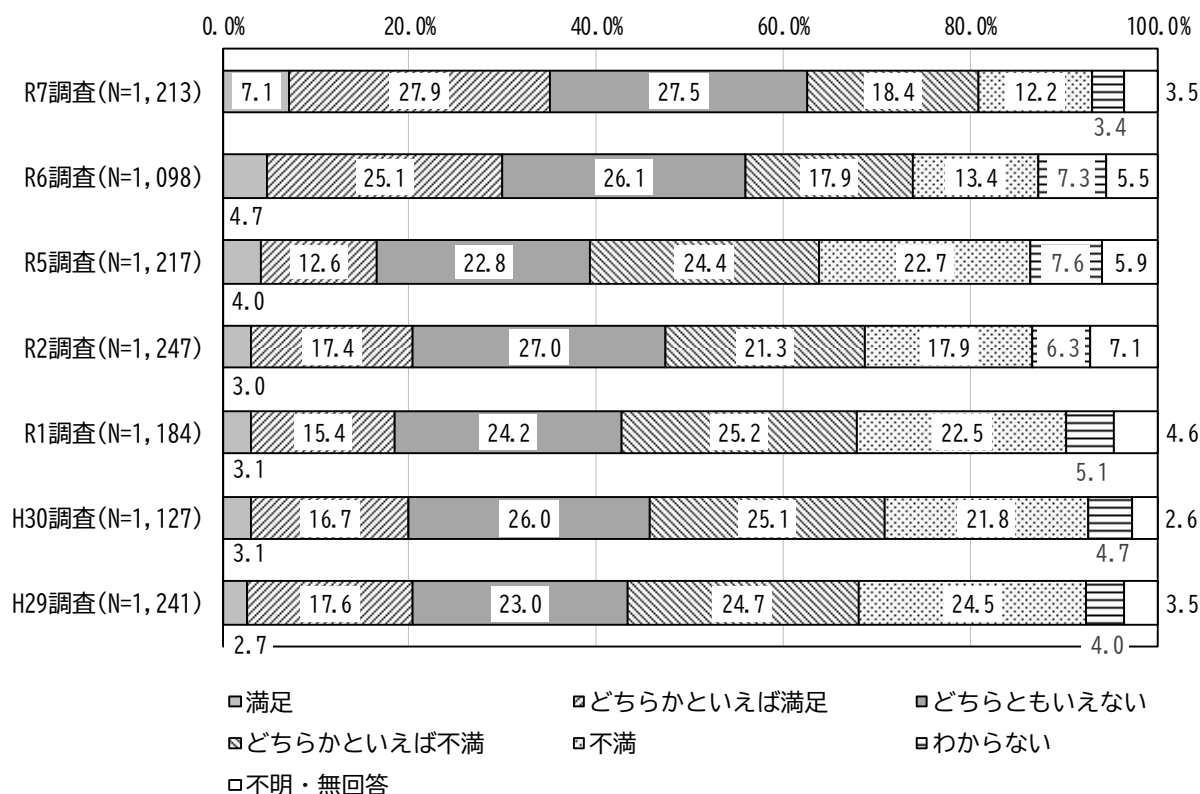


⑩ 道路（広域幹線道路、道路整備）

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合が増加している。

⑩道路 満足度（単数回答）



※H29～R5 調査は「道路・交通（広域幹線道路、道路整備、鉄道、バス）」の調査項目で実施しています。

●全体でみると、「どちらかといえば満足」が 27.9%で最も多くなっており、以下、「どちらともいえない」が 27.5%、「どちらかといえば不満」が 18.4%、「不満」が 12.2%、「満足」が 7.1%、「わからない」が 3.4%と続いている。『満足』は 35.0%となっている。

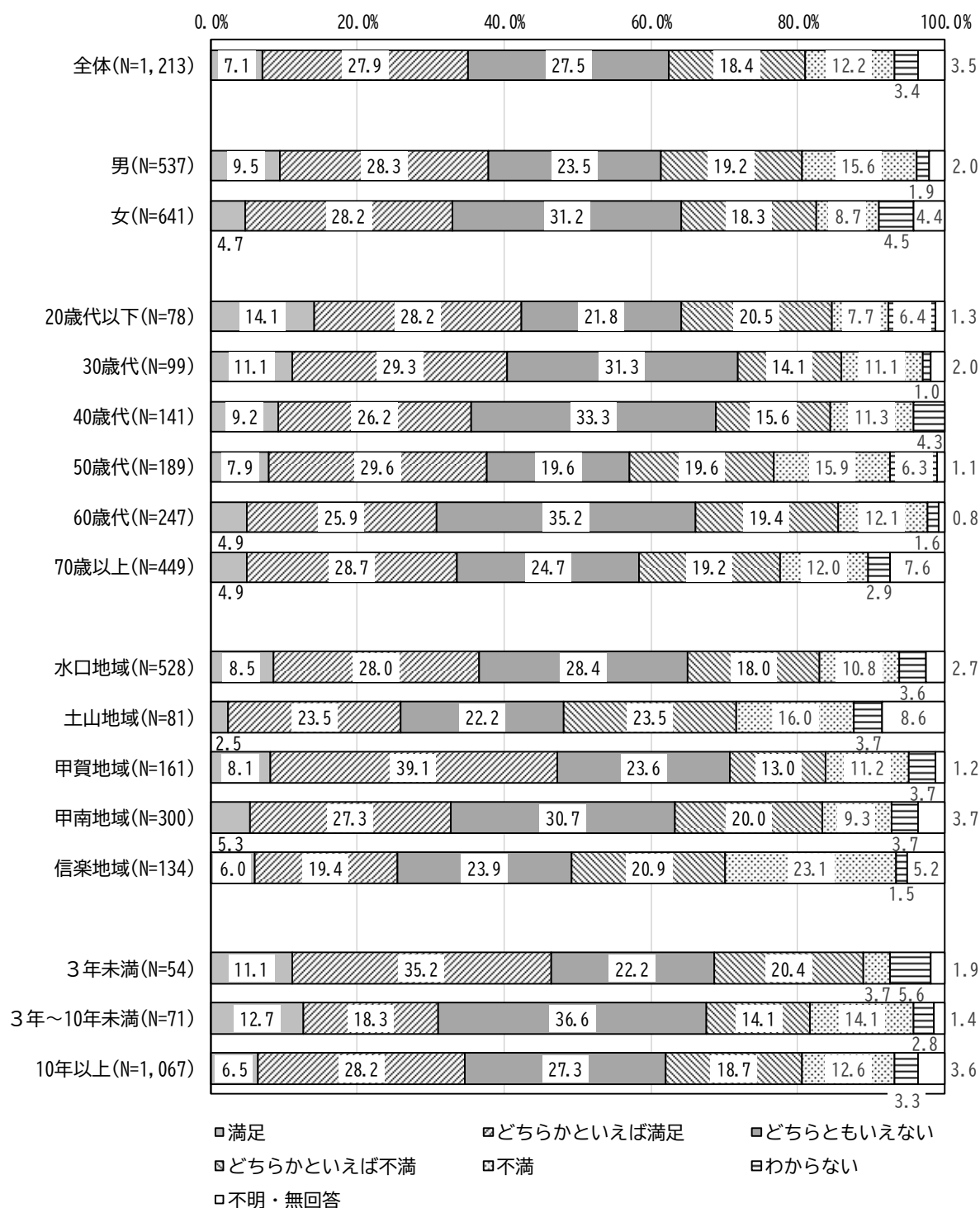
●性別にみると、男性は「どちらかといえば満足」が、女性は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 37.8%、女性は 32.9%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下、50 歳代、70 歳以上は「どちらかといえば満足」が、その他の年代は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 42.3%、以下、30 歳代で 40.4%、50 歳代で 37.5%と続いている。

●居住地域別にみると、土山地域、甲賀地域は「どちらかといえば満足」が、その他の地域は「どちらともいえない」が最も多くなっている（土山地域は「どちらかといえば不満」と同率）。『満足』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 47.2%、以下、水口地域で 36.5%、甲南地域で 32.6%、土山地域で 26.0%、信楽地域で 25.4%と続いている。

●居住年数別にみると、3年～10年未満は「どちらともいえない」が、その他の年数は「どちらかといえば満足」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは3年未満で46.3%、以下、10年以上で34.7%、3年～10年未満で31.0%と続いている。

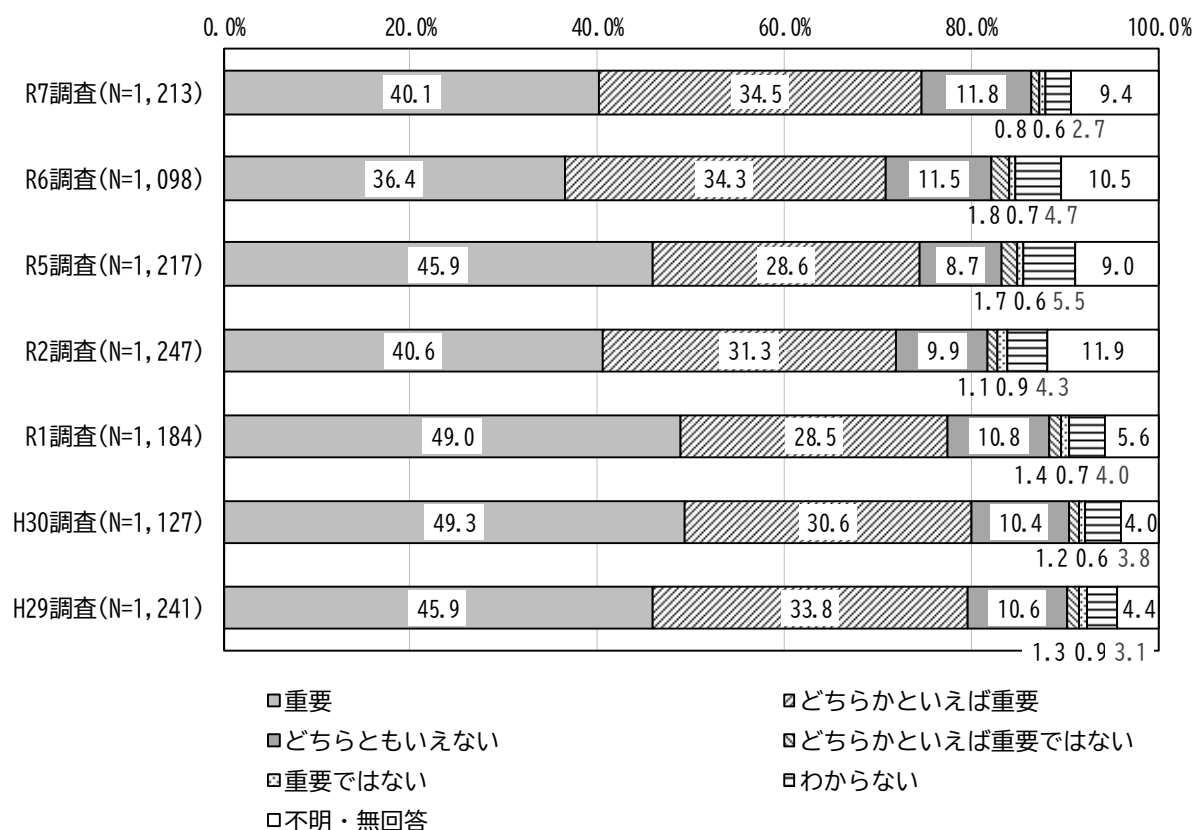
⑩道路 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、昨年まで減少傾向にあった「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

⑯道路 重要度（単数回答）



※H29～R5 調査は「道路・交通（広域幹線道路、道路整備、鉄道、バス）」の調査項目で実施しています。

●全体でみると、「重要」が 40.1%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば重要」が 34.5%、「どちらともいえない」が 11.8%、「わからない」が 2.7%、「どちらかといえば重要ではない」が 0.8%、「重要ではない」が 0.6%と続いている。『重要』は 74.6%となっている。

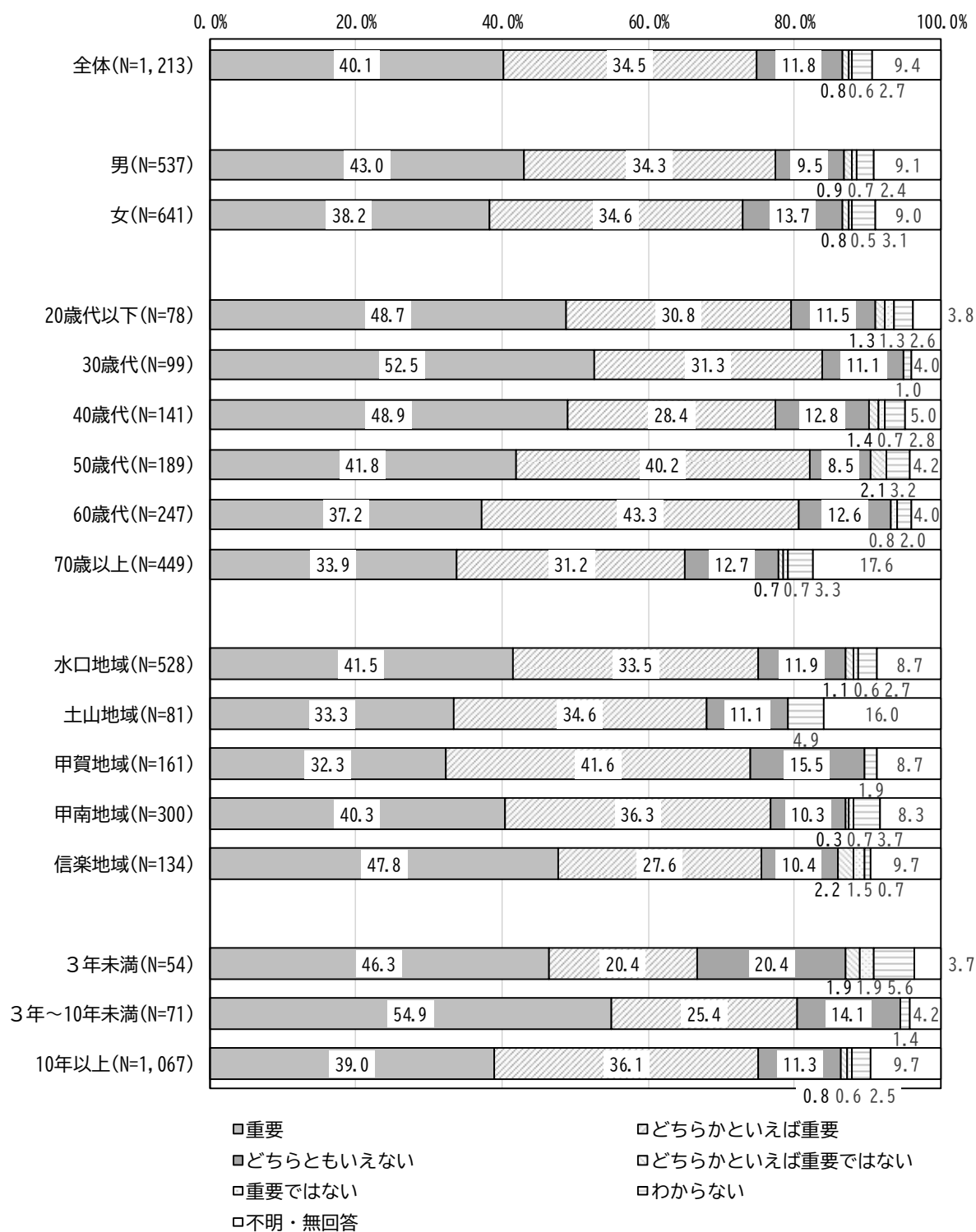
●性別にみると、男性、女性ともに「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 77.3%、女性は 72.8%となっている。

●年代別にみると、60 歳代は「どちらかといえば重要」が、その他の年代は「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 83.8%、以下、50 歳代で 82.0%、60 歳代で 80.5%と続いている。

●居住地域別にみると、土山地域、甲賀地域は「どちらかといえば重要」が、その他の地域は「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 76.6%、以下、信楽地域で 75.4%、水口地域で 75.0%、甲賀地域で 73.9%、土山地域で 67.9%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で80.3%、以下、10年以上で75.1%、3年未満で66.7%と続いている。

⑩道路 重要度（単数回答）

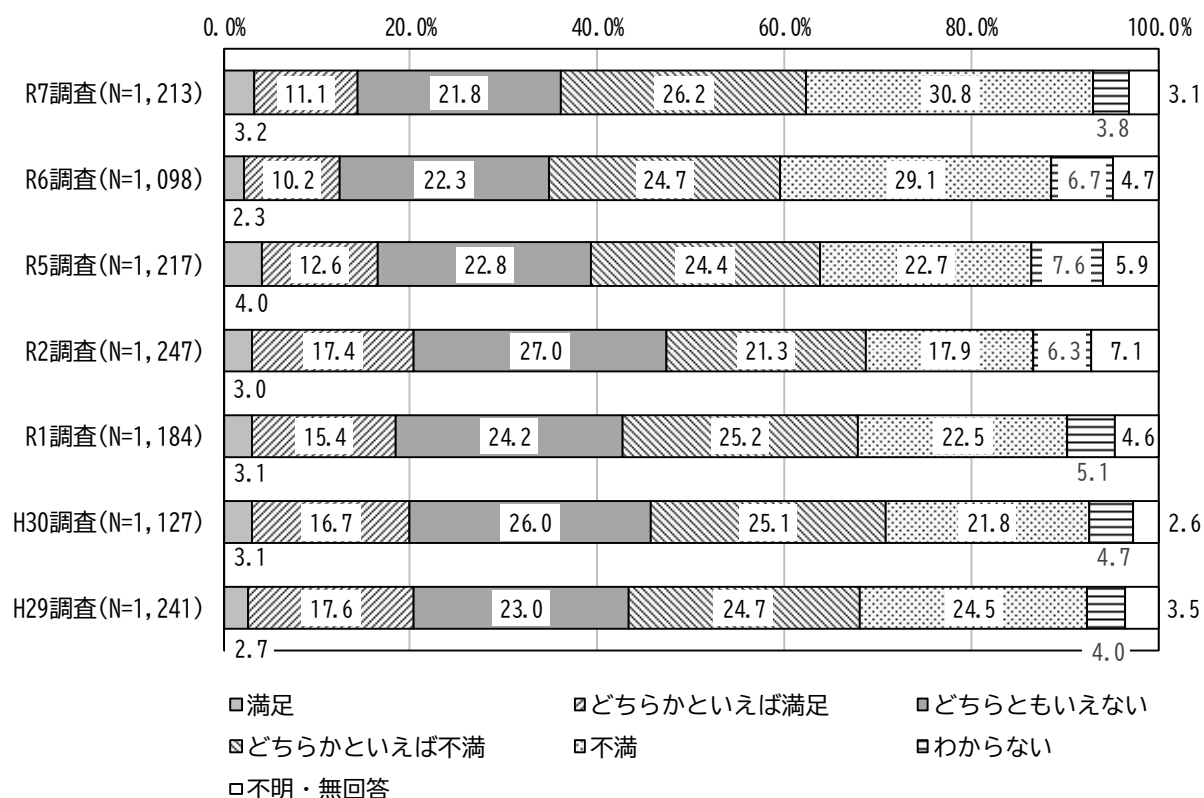


⑰ 交通（鉄道、バス等）

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 6 年度以降「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満』の割合が半数を超えている。

⑰交通 満足度（単数回答）



※H29～R5 調査は「道路・交通（広域幹線道路、道路整備、鉄道、バス）」の調査項目で実施しています。

●全体でみると、「不満」が 30.8%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば不満」が 26.2%、「どちらともいえない」が 21.8%、「どちらかといえば満足」が 11.1%、「わからない」が 3.8%、「満足」が 3.2%と続いている。『満足』は 14.3%となっている。

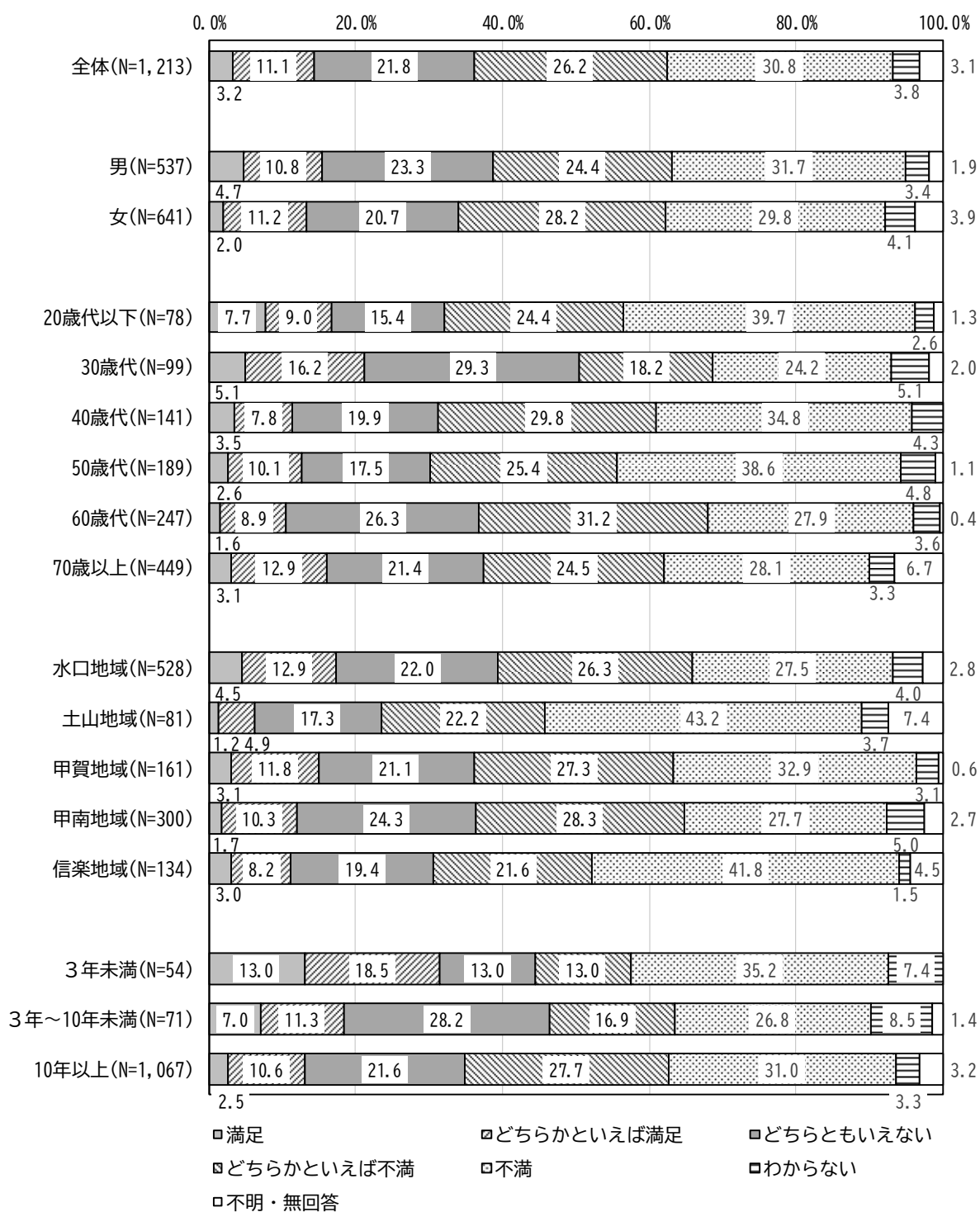
●性別にみると、男性、女性ともに「不満」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 15.5%、女性は 13.2%となっている。

●年代別にみると、30 歳代は「どちらともいえない」が、60 歳代は「どちらかといえば不満」が、その他の年代は「不満」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 21.3%、以下、20 歳代以下で 16.7%、70 歳以上で 16.0%と続いている。

●居住地域別にみると、甲南地域は「どちらかといえば不満」が、その他の地域は「不満」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 17.4%、以下、甲賀地域で 14.9%、甲南地域で 12.0%、信楽地域で 11.2%、土山地域で 6.1%と続いている。

●居住年数別にみると、3年～10年未満は「どちらともいえない」が、その他の年数は「不満」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは3年未満で31.5%、以下、3年～10年未満で18.3%、10年以上で13.1%と続いており、年数が長くなるにつれて少なくなっている。

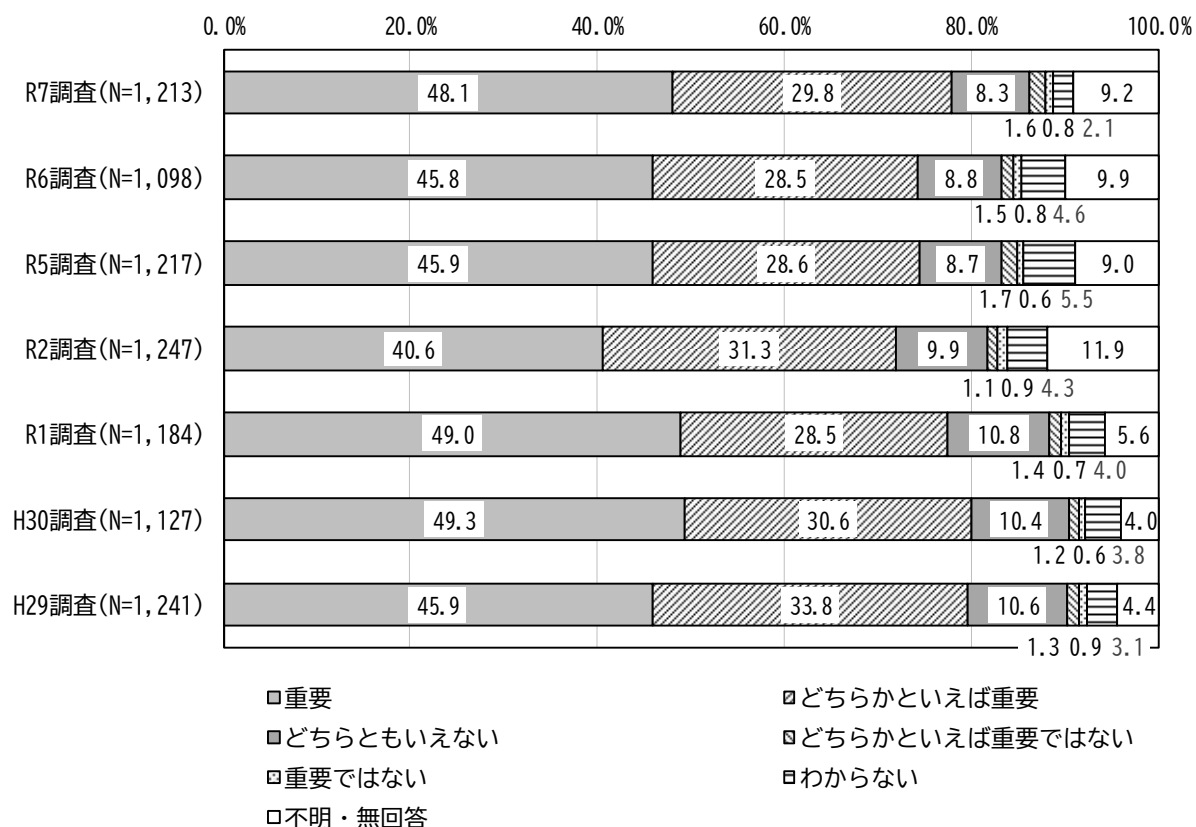
⑪交通 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 2 年度以降「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の占める割合が増加している。

⑰交通 重要度（単数回答）



※H29～R5 調査は「道路・交通（広域幹線道路、道路整備、鉄道、バス）」の調査項目で実施しています。

●全体でみると、「重要」が 48.1%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば重要」が 29.8%、「どちらともいえない」が 8.3%、「わからない」が 2.1%、「どちらかといえば重要ではない」が 1.6%、「重要ではない」が 0.8%と続いている。『重要』は 77.9%となっている。

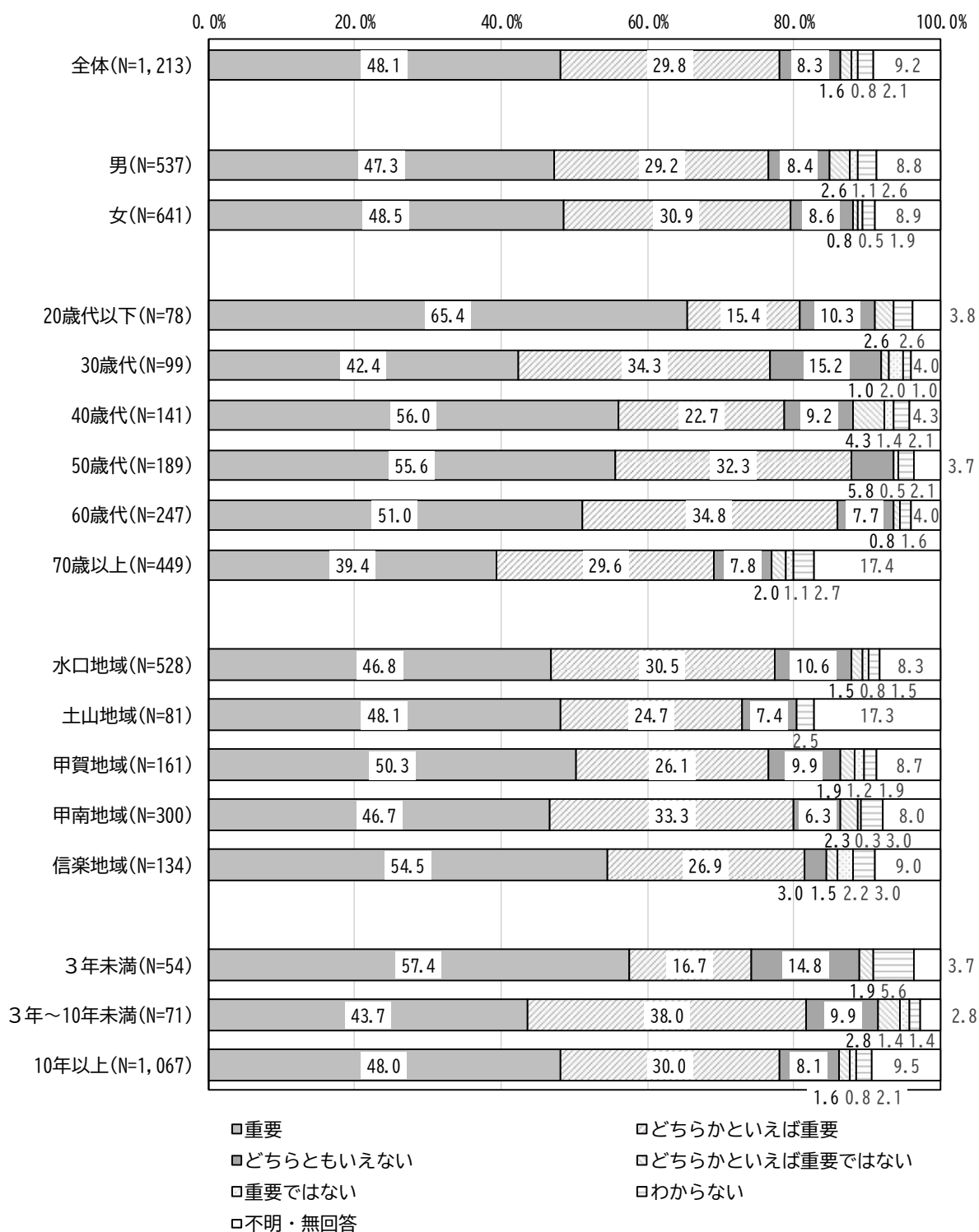
●性別にみると、男性、女性ともに「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 76.5%、女性は 79.4%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 50 歳代で 87.9%、以下、60 歳代で 85.8%、20 歳代以下で 80.8%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは信楽地域で 81.4%、以下、甲南地域で 80.0%、水口地域で 77.3%、甲賀地域で 76.4%、土山地域で 72.8%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で81.7%、以下、10年以上で78.0%、3年未満で74.1%と続いている。

⑪交通 重要度（単数回答）



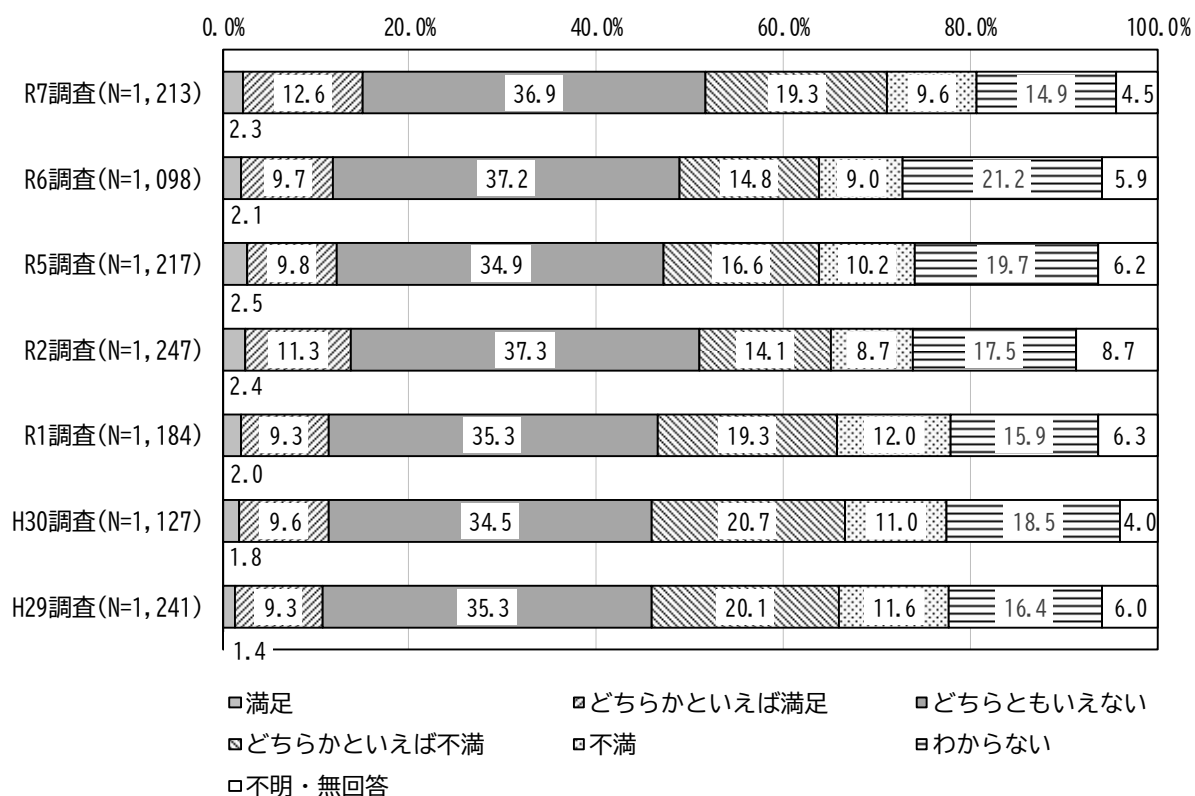
【5. かがやく未来に鹿深の夢を】

⑱ 都市形成（市街地整備、土地の有効利用）

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、昨年まで減少傾向にあった「どちらかといえば不満」と「不満」とを合わせた『不満』の割合が増加している。

⑱都市形成 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらともいえない」が 36.9%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば不満」が 19.3%、「わからない」が 14.9%、「どちらかといえば満足」が 12.6%、「不満」が 9.6%、「満足」が 2.3%と続いている。『満足』は 14.9%となっている。

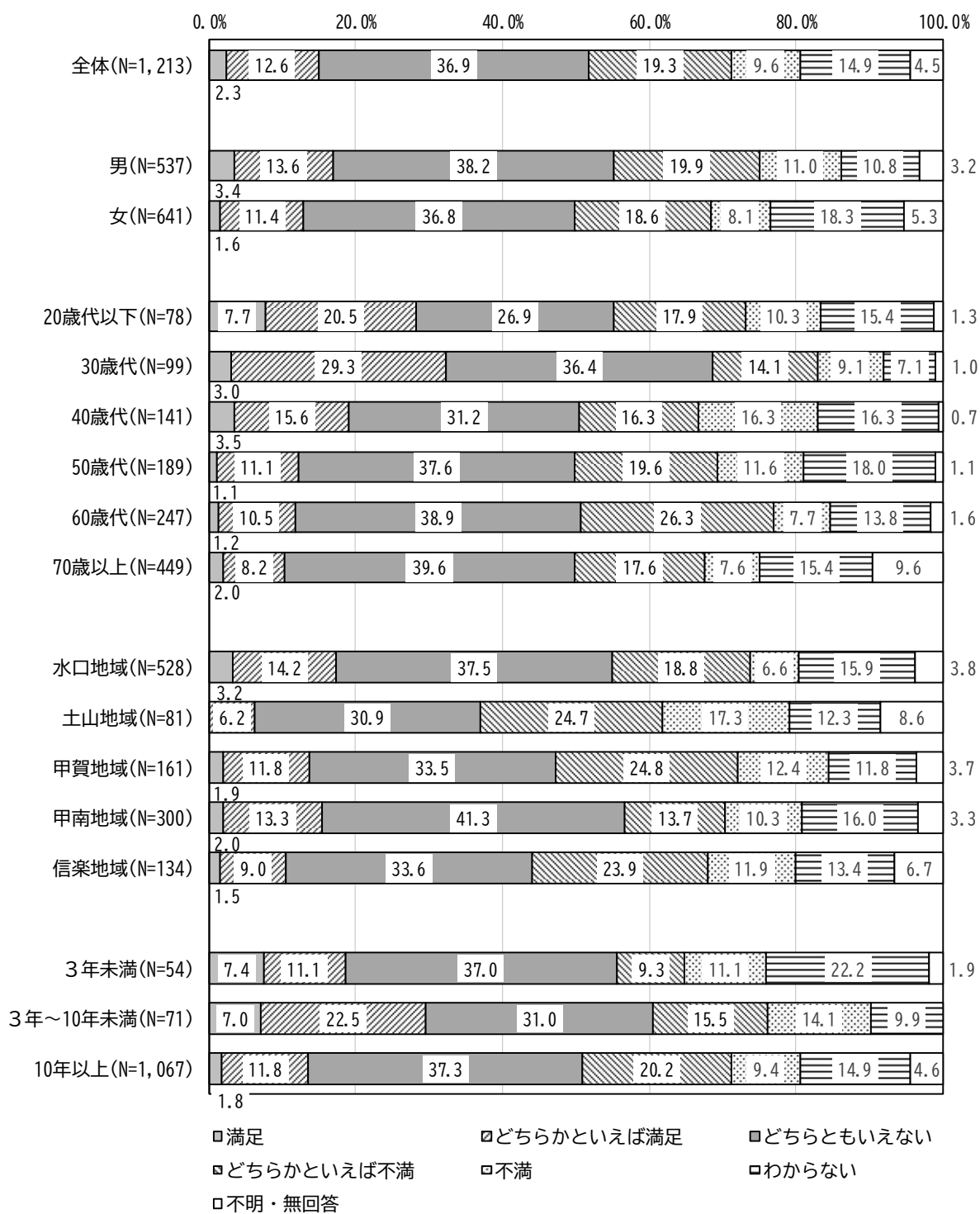
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 17.0%、女性は 13.0%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 32.3%、以下、20 歳代以下で 28.2%、40 歳代で 19.1%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 17.4%、以下、甲南地域で 15.3%、甲賀地域で 13.7%、信楽地域で 10.5%、土山地域で 6.2%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらともいえない」が最も多くなっている。
『満足』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で29.5%、以下、3年未満で18.5%、
10年以上で13.6%と続いている。

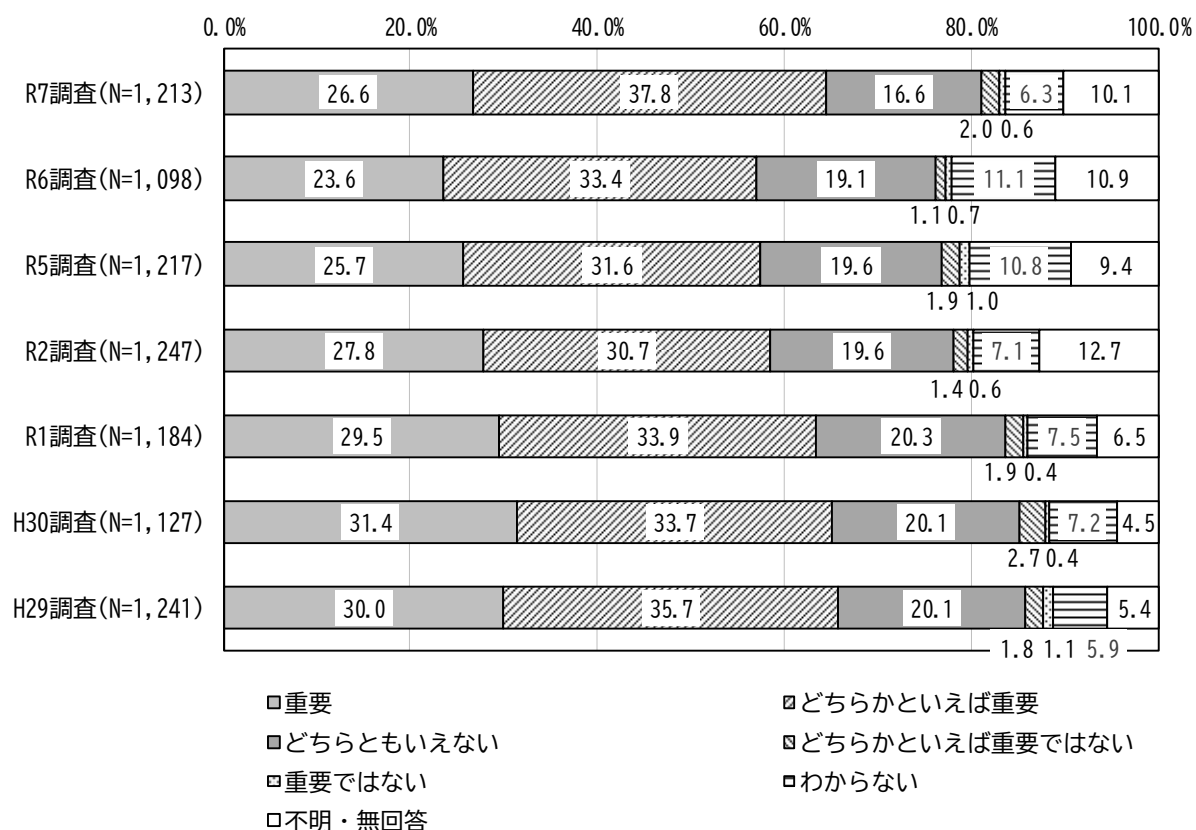
⑱都市形成 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、昨年まで減少傾向にあった「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

⑱都市形成 重要度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 37.8%で最も多くなっており、以下、「重要」が 26.6%、「どちらともいえない」が 16.6%、「わからない」が 6.3%、「どちらかといえば重要ではない」が 2.0%、「重要ではない」が 0.6%と続いている。『重要』は 64.4%となっている。

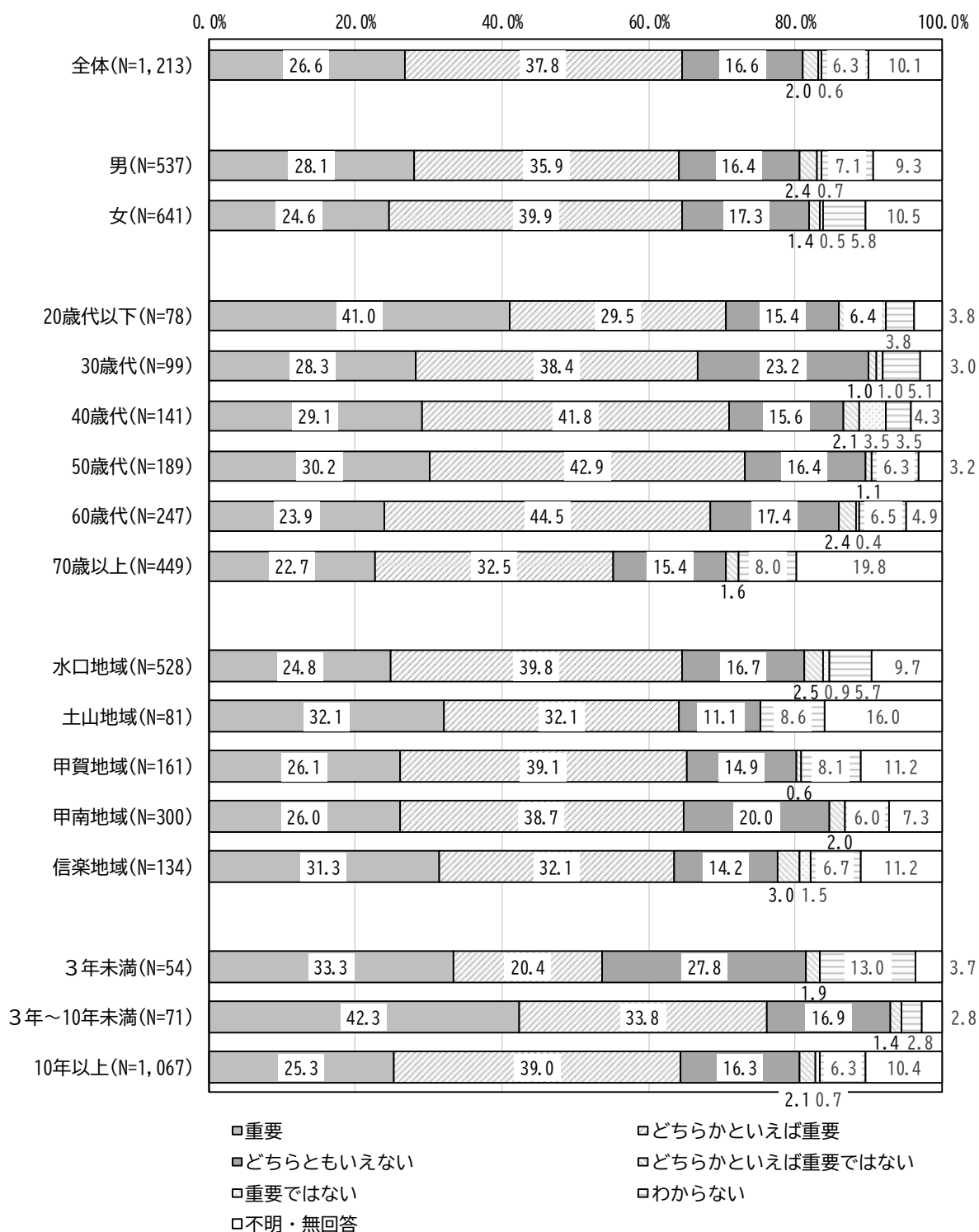
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 64.0%、女性は 64.5%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「重要」が、その他の年代は「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 50 歳代で 73.1%、以下、40 歳代で 70.9%、20 歳代以下で 70.5%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている（土山地域は「重要」と同率）。『重要』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 65.2%、以下、甲南地域で 64.7%、水口地域で 64.6%、土山地域で 64.2%、信楽地域で 63.4%と続いている。

●居住年数別にみると、10 年以上は「どちらかといえば重要」が、その他の年数は「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは3 年～10 年未満で 76.1%、以下、10 年以上で 64.3%、3 年未満で 53.7%と続いている。

⑱都市形成 重要度（単数回答）

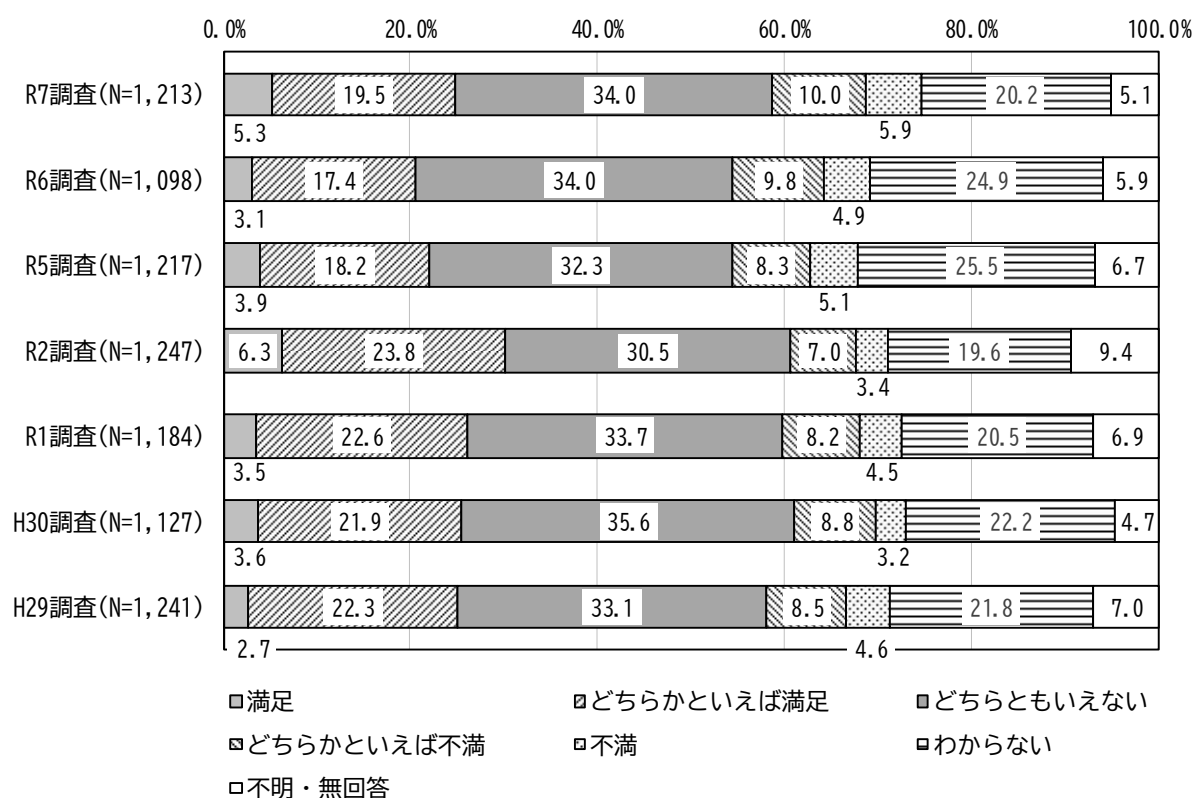


⑨ 若者・こども・子育て（若者の活躍、子育て支援、就学前教育、保育、放課後児童クラブ、子育てネットワーク）

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、昨年まで減少傾向にあった「満足」と「どちらかといえ
ば満足」を合わせた『満足』の割合が僅かに増加している。

⑨若者・こども・子育て 満足度（単数回答）



※H29～R5 調査は「子ども・子育て（子育て支援、就学前教育、保育、放課後児童クラブ、子育てネットワーク）の調査項目で実施しています。

●全体でみると、「どちらともいえない」が34.0%で最も多くなっており、以下、「わからない」が20.2%、「どちらかといえば満足」が19.5%、「どちらかといえば不満」が10.0%、「不満」が5.9%、「満足」が5.3%と続いている。『満足』は24.8%となっている。

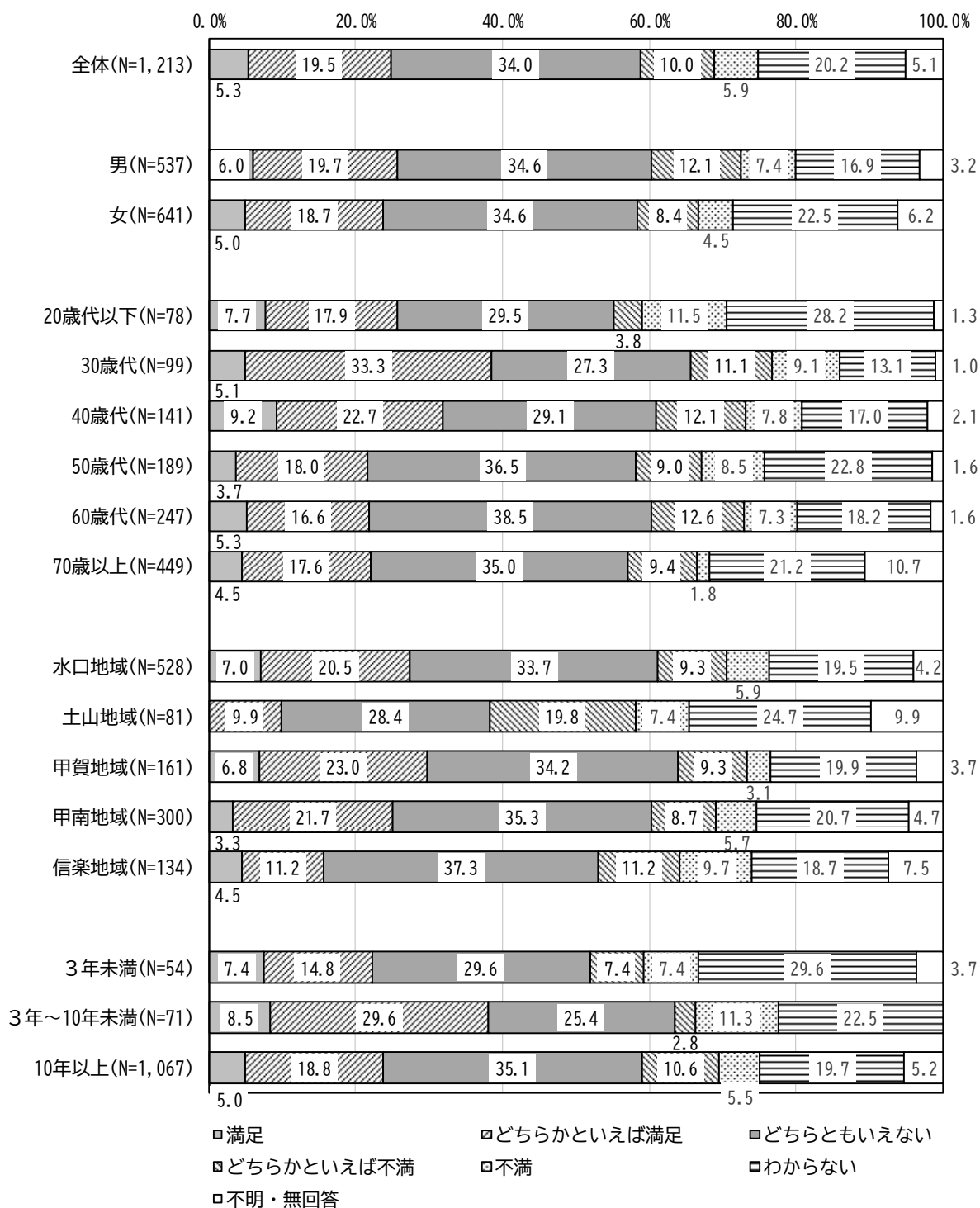
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は25.7%、女性は23.7%となっている。

●年代別にみると、30 歳代は「どちらかといえば満足」が、その他の年代は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは30 歳代で38.4%、以下、40 歳代で31.9%、20 歳代以下で25.6%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で29.8%、以下、水口地域で27.5%、甲南地域で25.0%、信楽地域で15.7%、土山地域で9.9%と続いている。

●居住年数別にみると、3年～10年未満は「どちらかといえば満足」が、その他の年数は「どちらともいえない」が最も多くなっている（3年未満は「わからない」と同率）。『満足』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で38.1%、以下、10年以上で23.8%、3年未満で22.2%と続いている。

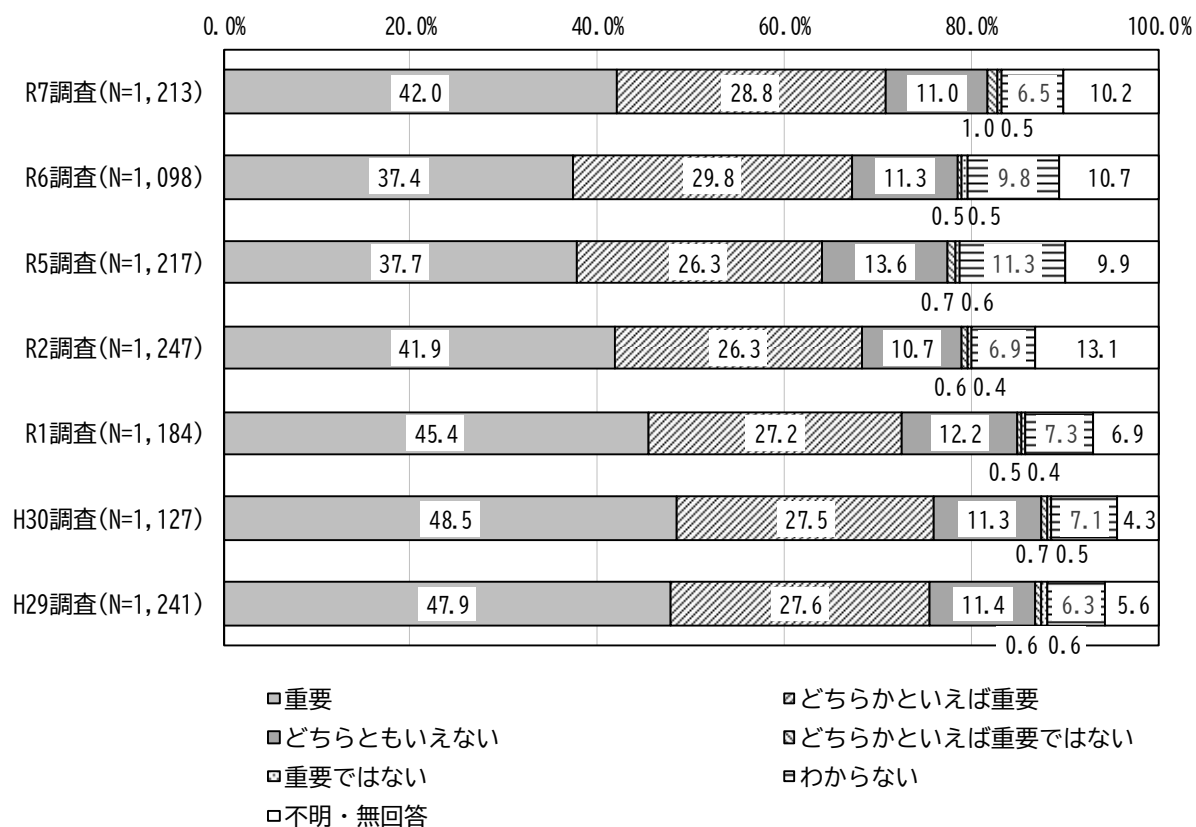
⑨若者・こども・子育て 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

⑨若者・こども・子育て 重要度（単数回答）



※H29～R5 調査は「子ども・子育て（子育て支援、就学前教育、保育、放課後児童クラブ、子育てネットワーク）の調査項目で実施しています。

●全体でみると、「重要」が 42.0%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば重要」が 28.8%、「どちらともいえない」が 11.0%、「わからない」が 6.5%、「どちらかといえば重要ではない」が 1.0%、「重要ではない」が 0.5%と続いている。『重要』は 70.8%となっている。

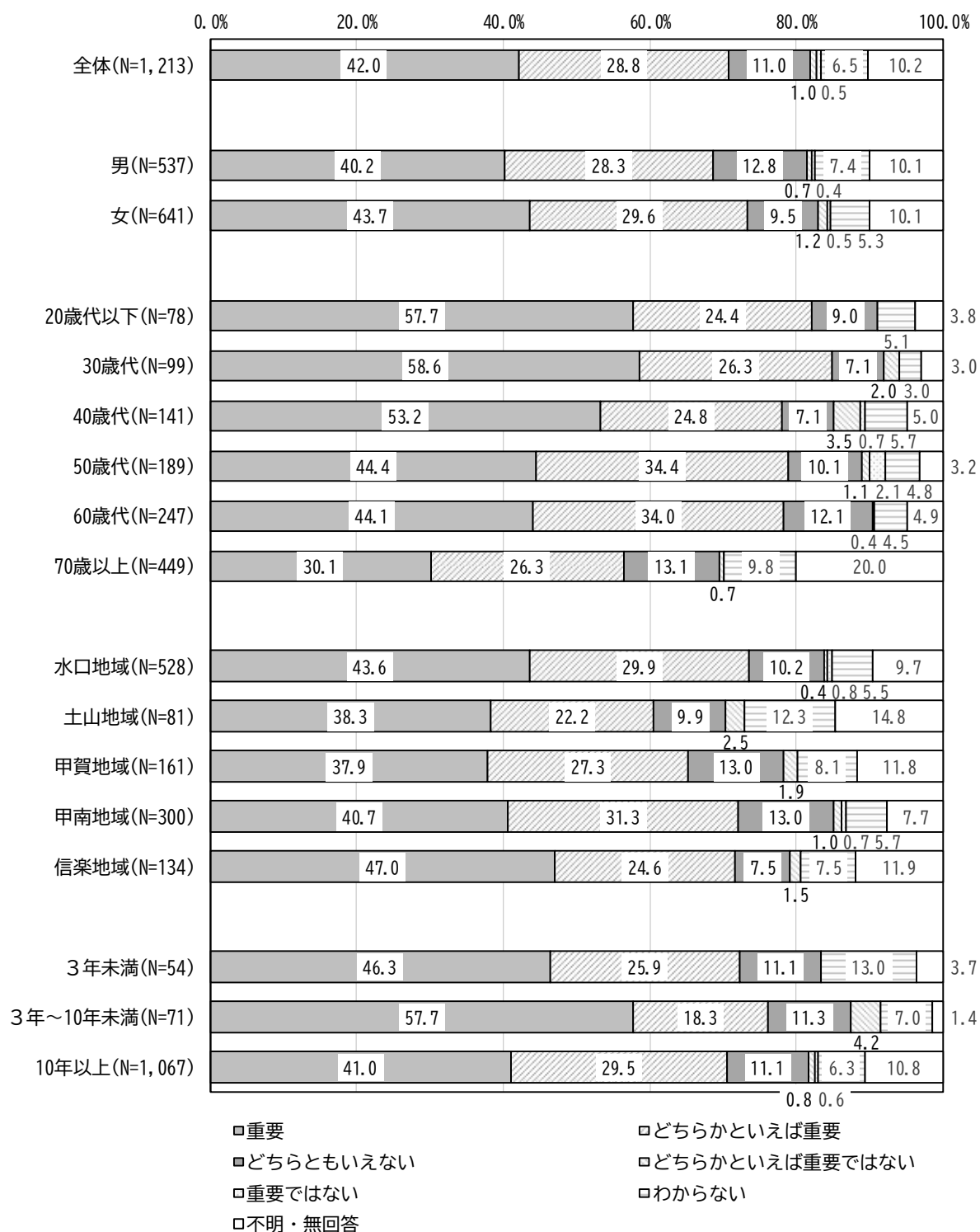
●性別にみると、男性、女性ともに「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 68.5%、女性は 73.3%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 84.9%、以下、20 歳代以下で 82.1%、50 歳代で 78.8%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 73.5%、以下、甲南地域で 72.0%、信楽地域で 71.6%、甲賀地域で 65.2%、土山地域で 60.5%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で76.0%、以下、3年未満で72.2%、10年以上で70.5%と続いている。

⑨若者・こども・子育て 重要度（単数回答）

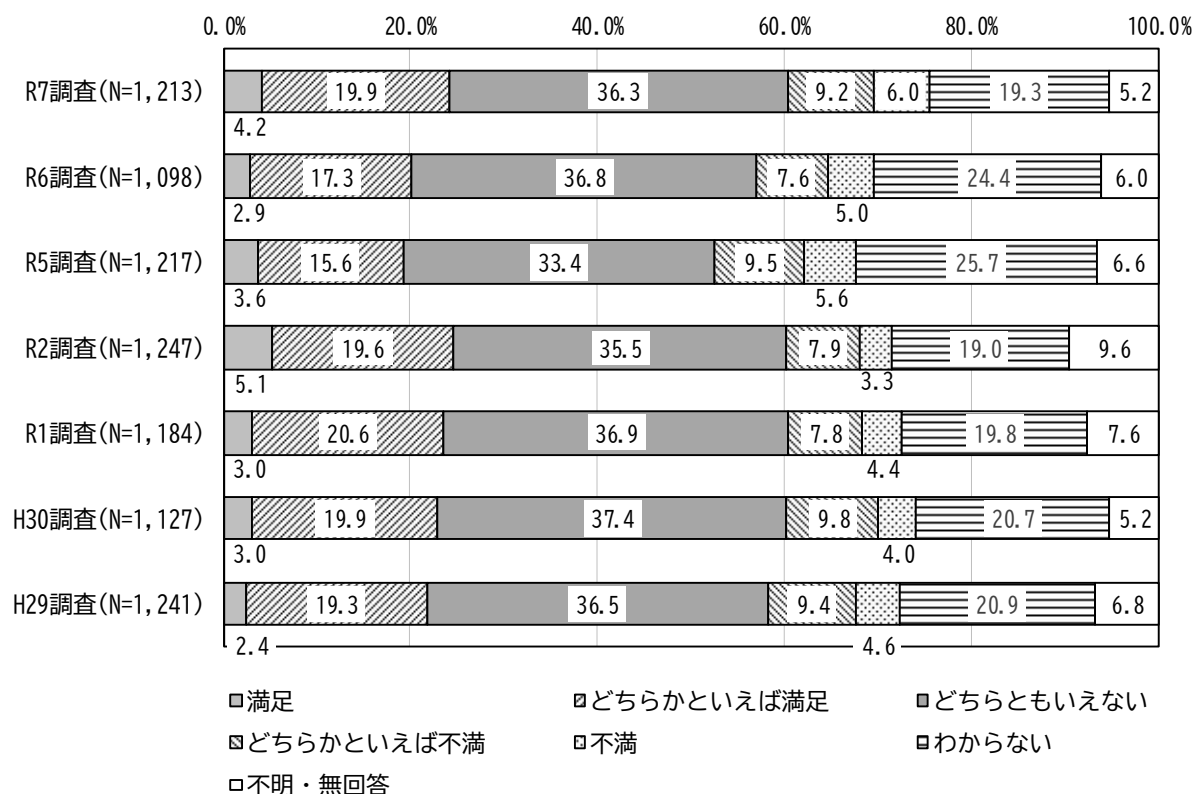


⑳ 学校教育、社会教育（学校教育、社会教育、教育環境の充実）

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合は増加している。

⑳学校教育、社会教育 満足度（単数回答）



※H29～R5 調査は「学校教育、青少年（学校教育、教育環境の充実、健全育成）」の調査項目で実施しています。

●全体でみると、「どちらともいえない」が 36.3%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば満足」が 19.9%、「わからない」が 19.3%、「どちらかといえば不満」が 9.2%、「不満」が 6.0%、「満足」が 4.2%と続いている。『満足』は 24.1%となっている。

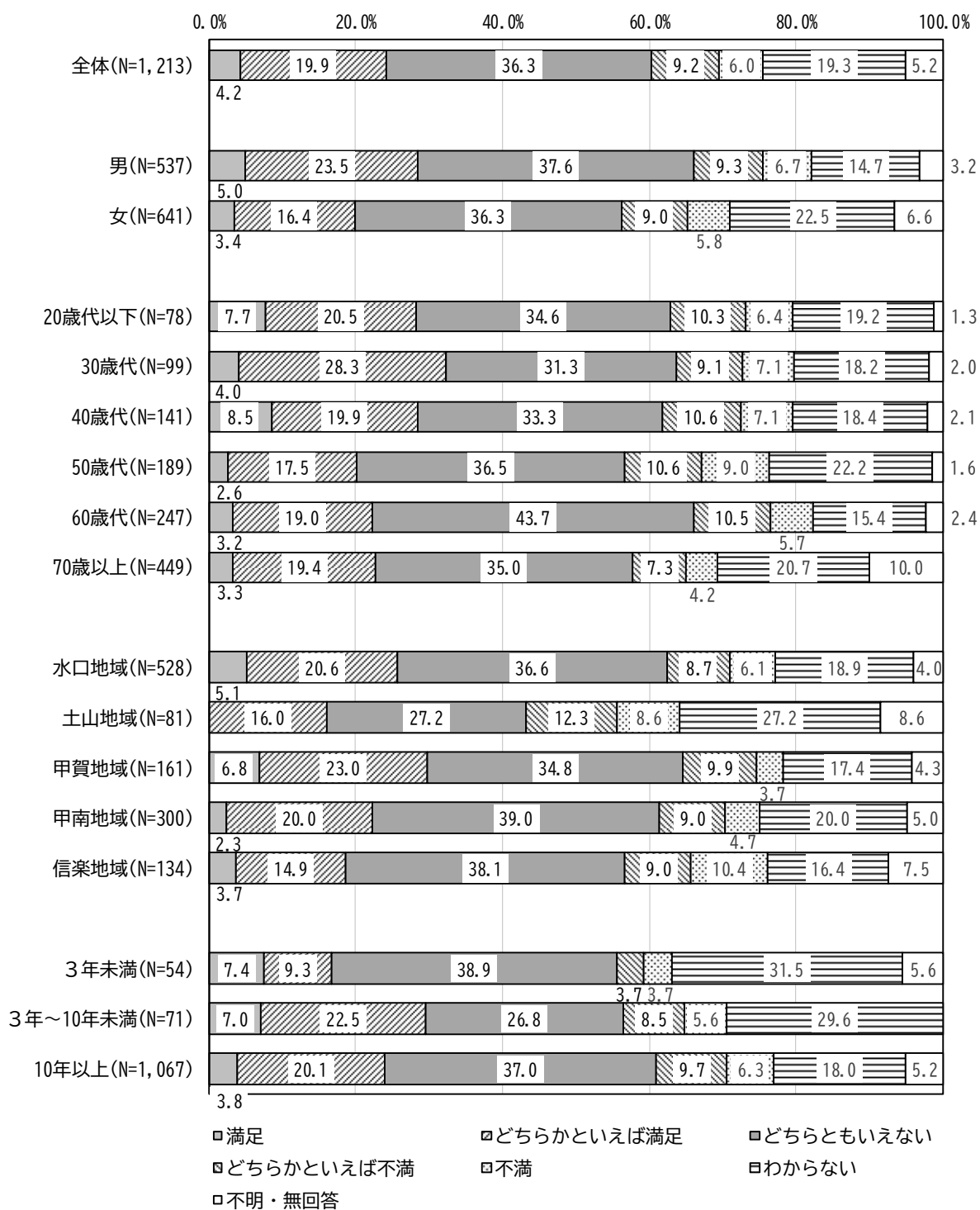
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 28.5%、女性は 19.8%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 32.3%、以下、40 歳代で 28.4%、20 歳代以下で 28.2%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている（土山地域は「わからない」と同率）。『満足』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 29.8%、以下、水口地域で 25.7%、甲南地域で 22.3%、信楽地域で 18.6%、土山地域で 16.0%と続いている。

●居住年数別にみると、3年～10年未満は「わからない」が、その他の年数は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で29.5%、以下、10年以上で23.9%、3年未満で16.7%と続いている。

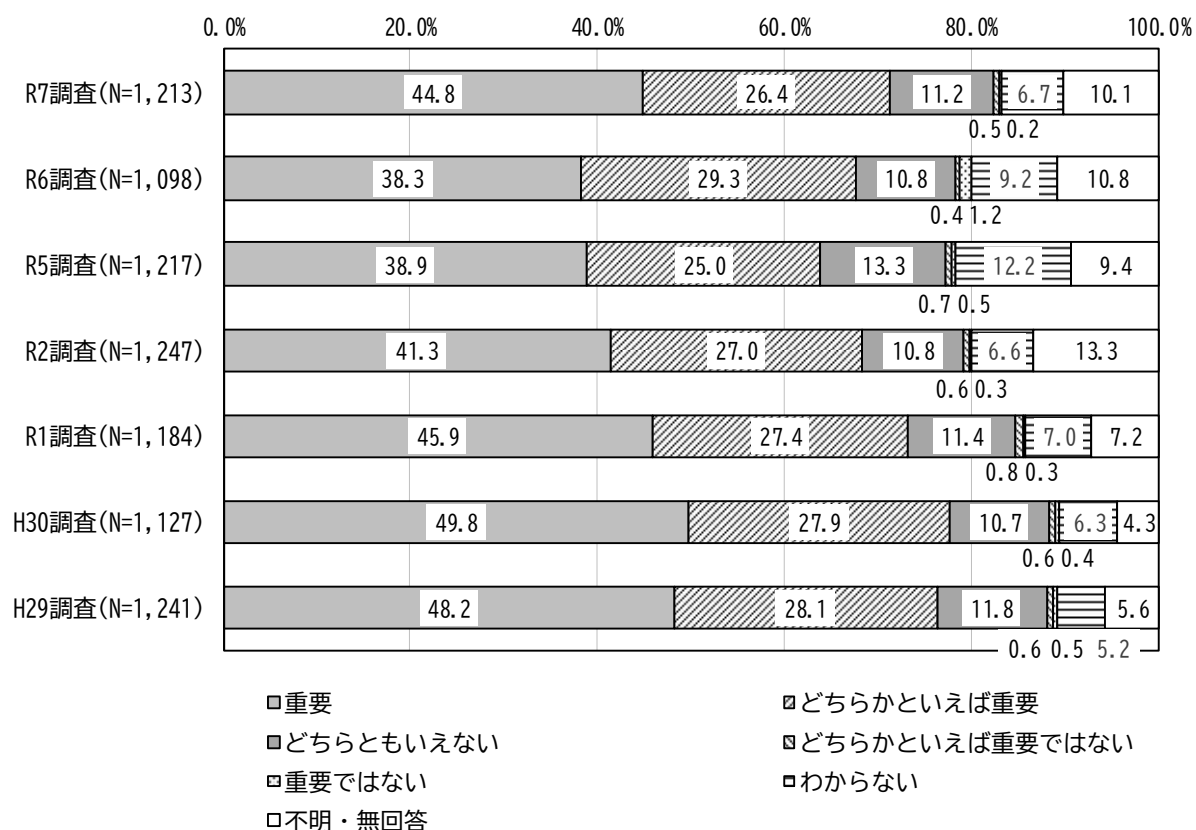
②学校教育、社会教育 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

②学校教育、社会教育 重要度（単数回答）



※H29～R5 調査は「学校教育、青少年（学校教育、教育環境の充実、健全育成）」の調査項目で実施しています。

●全体でみると、「重要」が 44.8%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば重要」が 26.4%、「どちらともいえない」が 11.2%、「わからない」が 6.7%、「どちらかといえば重要ではない」が 0.5%、「重要ではない」が 0.2%と続いている。『重要』は 71.2%となっている。

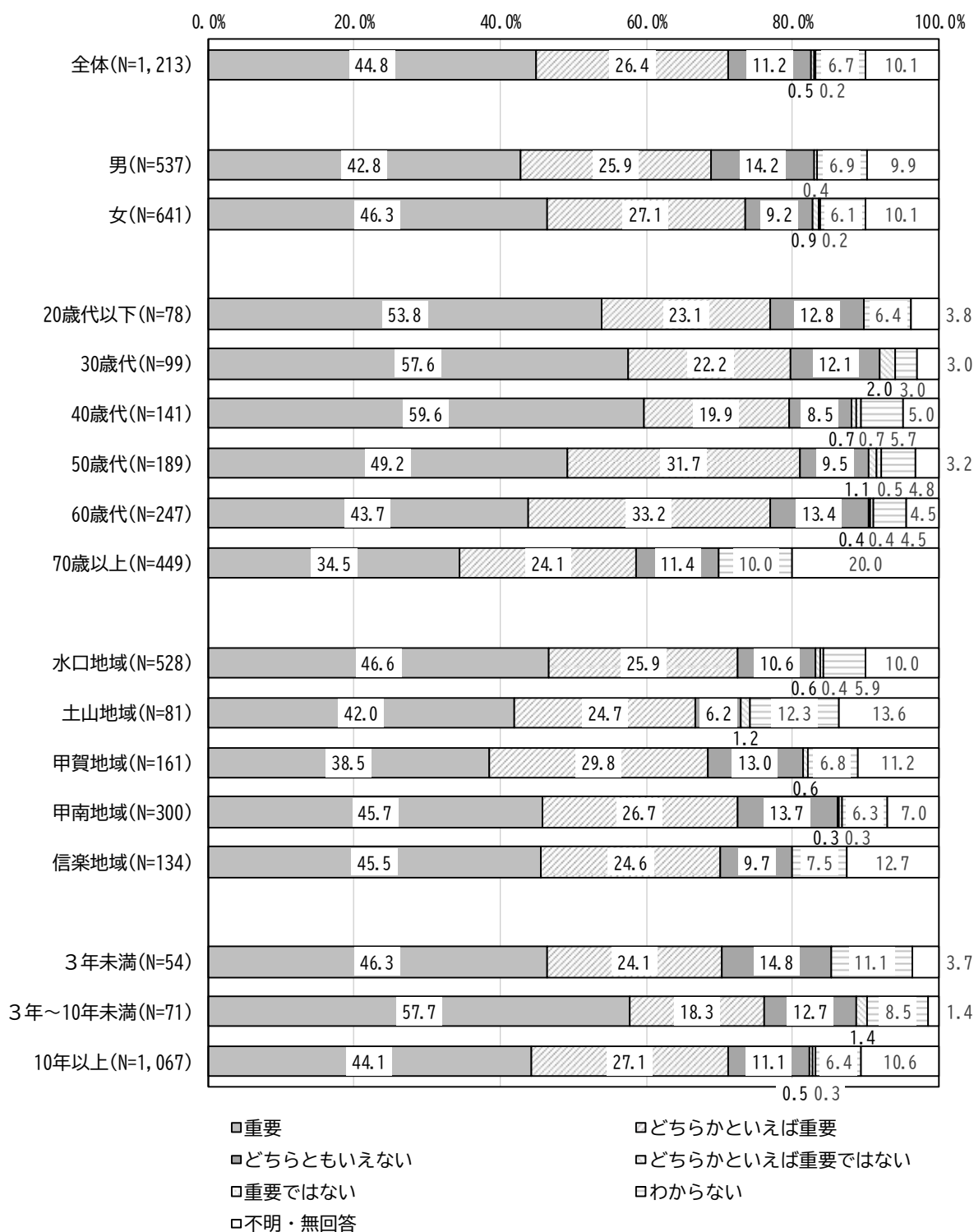
●性別にみると、男性、女性ともに「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 68.7%、女性は 73.4%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 50 歳代で 80.9%、以下、30 歳代で 79.8%、40 歳代で 79.5%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 72.5%、以下、甲南地域で 72.4%、信楽地域で 70.1%、甲賀地域で 68.3%、土山地域で 66.7%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で76.0%、以下、10年以上で71.2%、3年未満で70.4%と続いている。

⑳学校教育、社会教育 重要度 (单数回答)

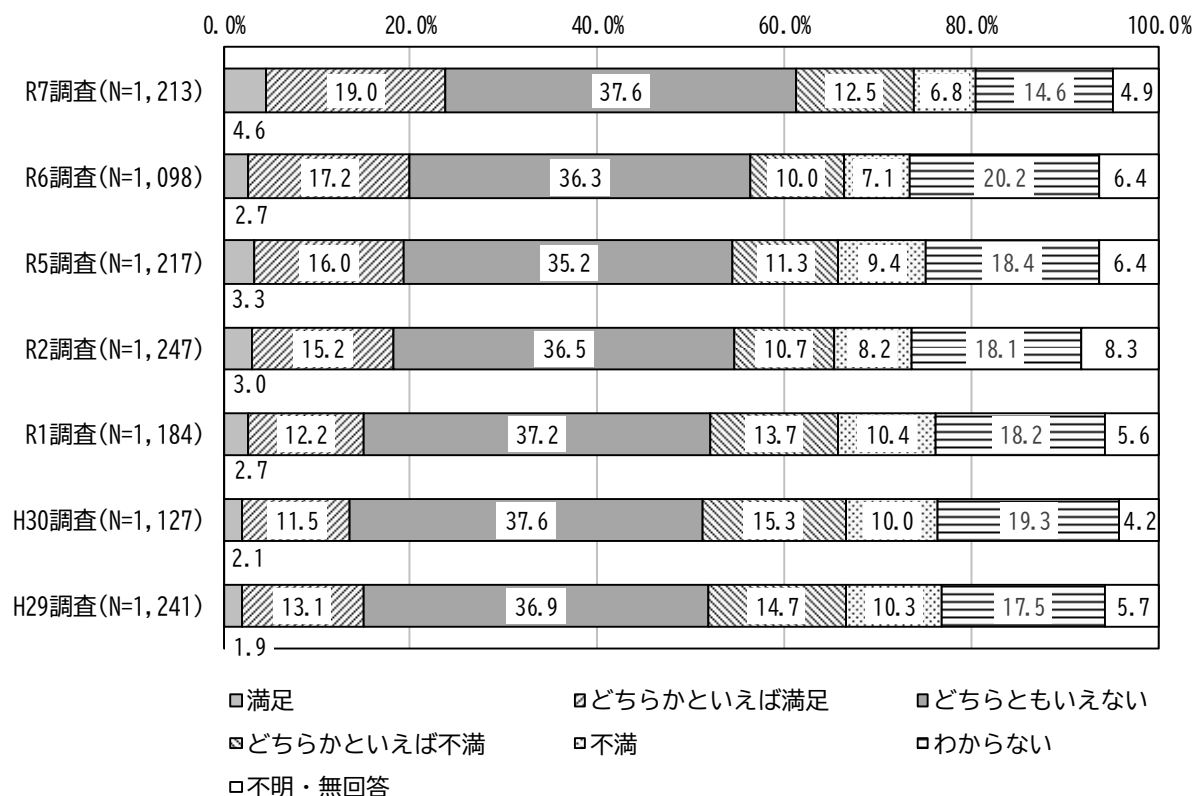


② 行財政（職員の質、行政サービスの効率、財産管理、財政運営）

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、平成 30 年度から「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合が増加している。

②行財政 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらともいえない」が 37.6%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば満足」が 19.0%、「わからない」が 14.6%、「どちらかといえば不満」が 12.5%、「不満」が 6.8%、「満足」が 4.6%と続いている。『満足』は 23.6%となっている。

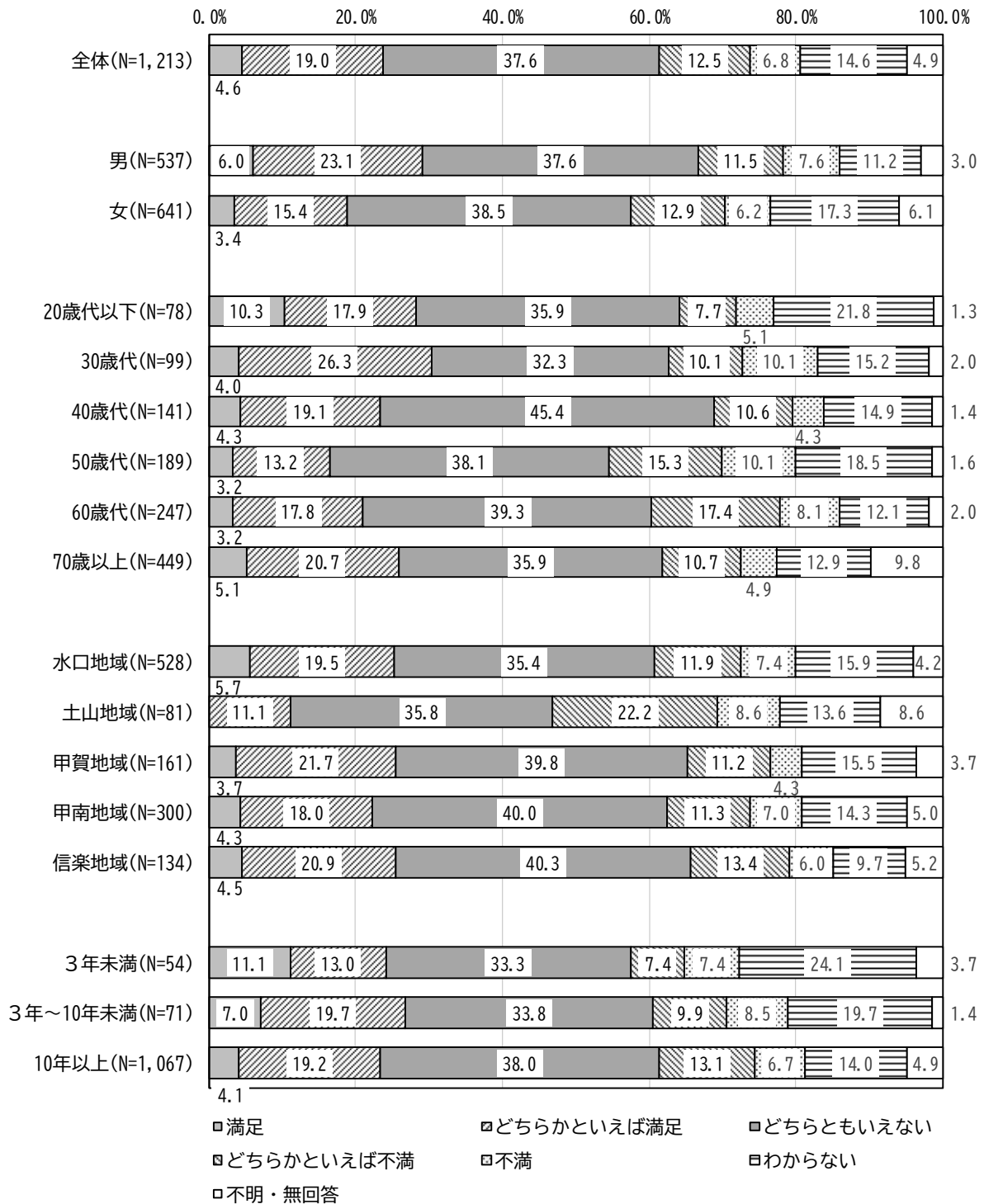
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 29.1%、女性は 18.8%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 30.3%、以下、20 歳代以下で 28.2%、70 歳以上で 25.8%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域、信楽地域で 25.4%、以下、水口地域で 25.2%、甲南地域で 22.3%、土山地域で 11.1%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 26.7%、以下、3 年未満で 24.1%、10 年以上で 23.3%と続いている。

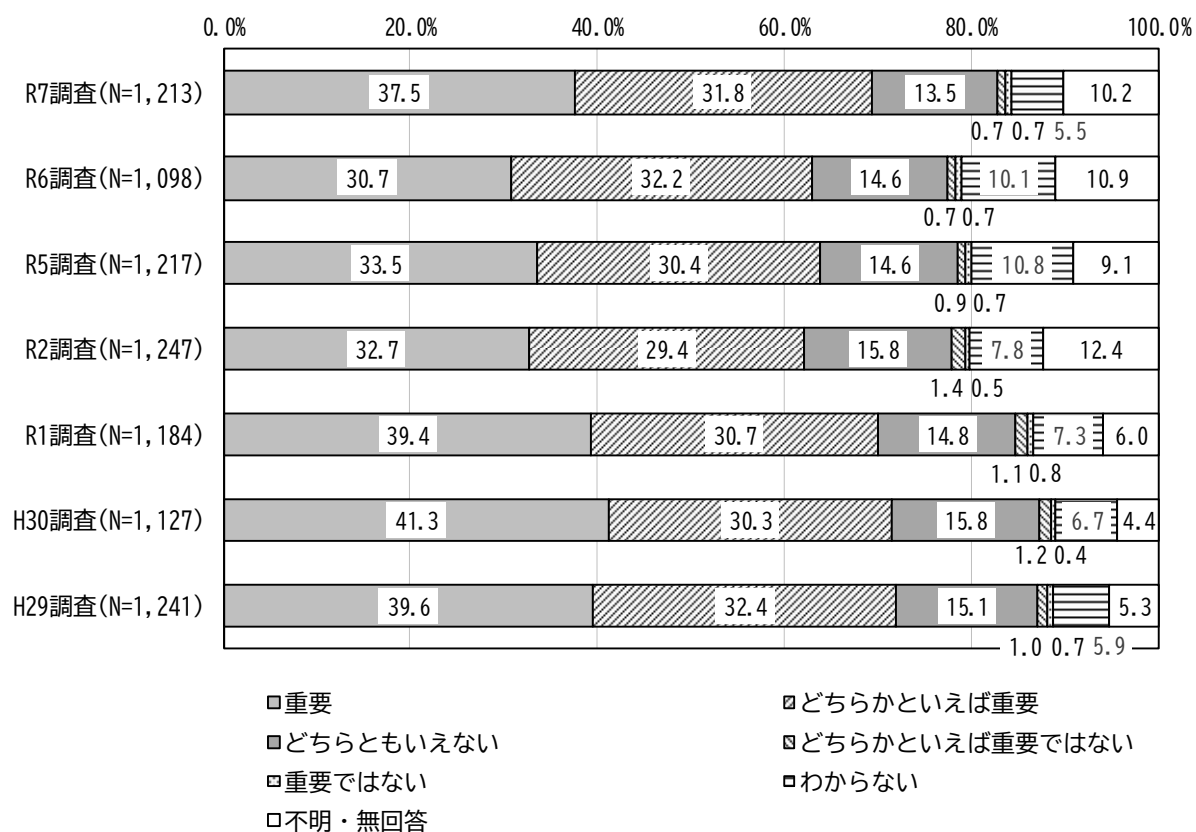
②行財政 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、昨年まで減少傾向にあった「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が増加している。

⑩行財政 重要度（単数回答）



●全体でみると、「重要」が 37.5%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば重要」が 31.8%、「どちらともいえない」が 13.5%、「わからない」が 5.5%、「どちらかといえば重要ではない」「重要ではない」が 0.7%と続いている。『重要』は 69.3%となっている。

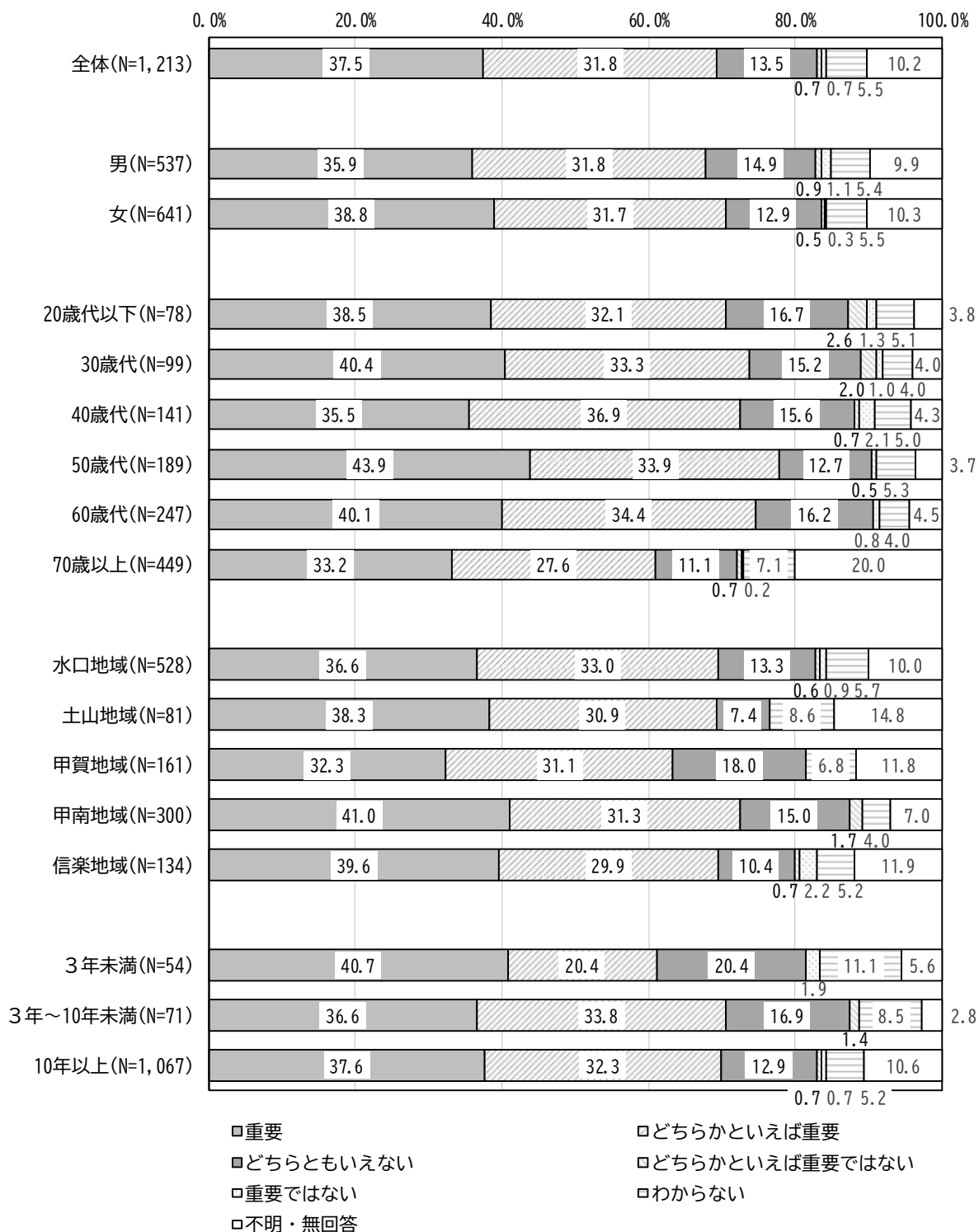
●性別にみると、男性、女性ともに「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 67.7%、女性は 70.5%となっている。

●年代別にみると、40 歳代は「どちらかといえば重要」が、その他の年代は「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 50 歳代で 77.8%、以下、60 歳代で 74.5%、30 歳代で 73.7%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 72.3%、以下、水口地域で 69.6%、信楽地域で 69.5%、土山地域で 69.2%、甲賀地域で 63.4%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 70.4%、以下、10 年以上で 69.9%、3 年未満で 61.1%と続いている。

㊦行財政 重要度（単数回答）



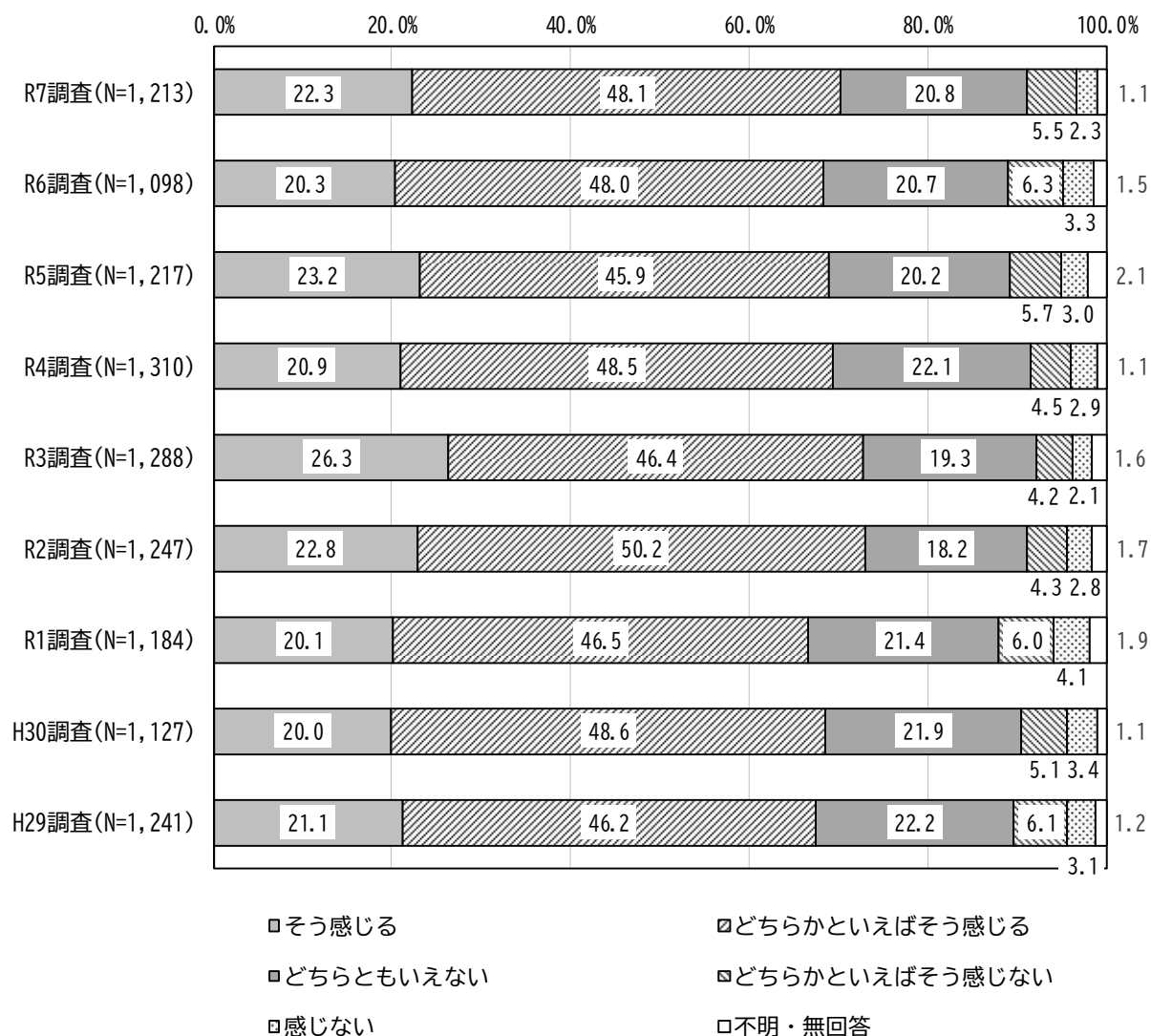
(3) 現在の暮らしに幸せを感じるか

① 現在の暮らしに幸せを感じるか

「問9」 あなたは、現在の暮らしに幸せを感じますか。(○は1つ)

平成29年度調査からの推移をみると、総じて変化はみられない。

■現在の暮らしに幸せを感じるか（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえばそう感じる」が48.1%で最も多くなっており、以下、「そう感じる」が22.3%、「どちらともいえない」が20.8%、「どちらかといえばそう感じない」が5.5%、「感じない」が2.3%と続いている。「そう感じる」と「どちらかといえばそう感じる」を合わせた『感じる』は70.4%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。『感じる』の割合をみると、男性は68.9%、女性は71.8%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「そう感じる」が、その他の年代は「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。『感じる』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 74.0%、以下、40 歳代で 73.8%、50 歳代で 70.3%と続いている。

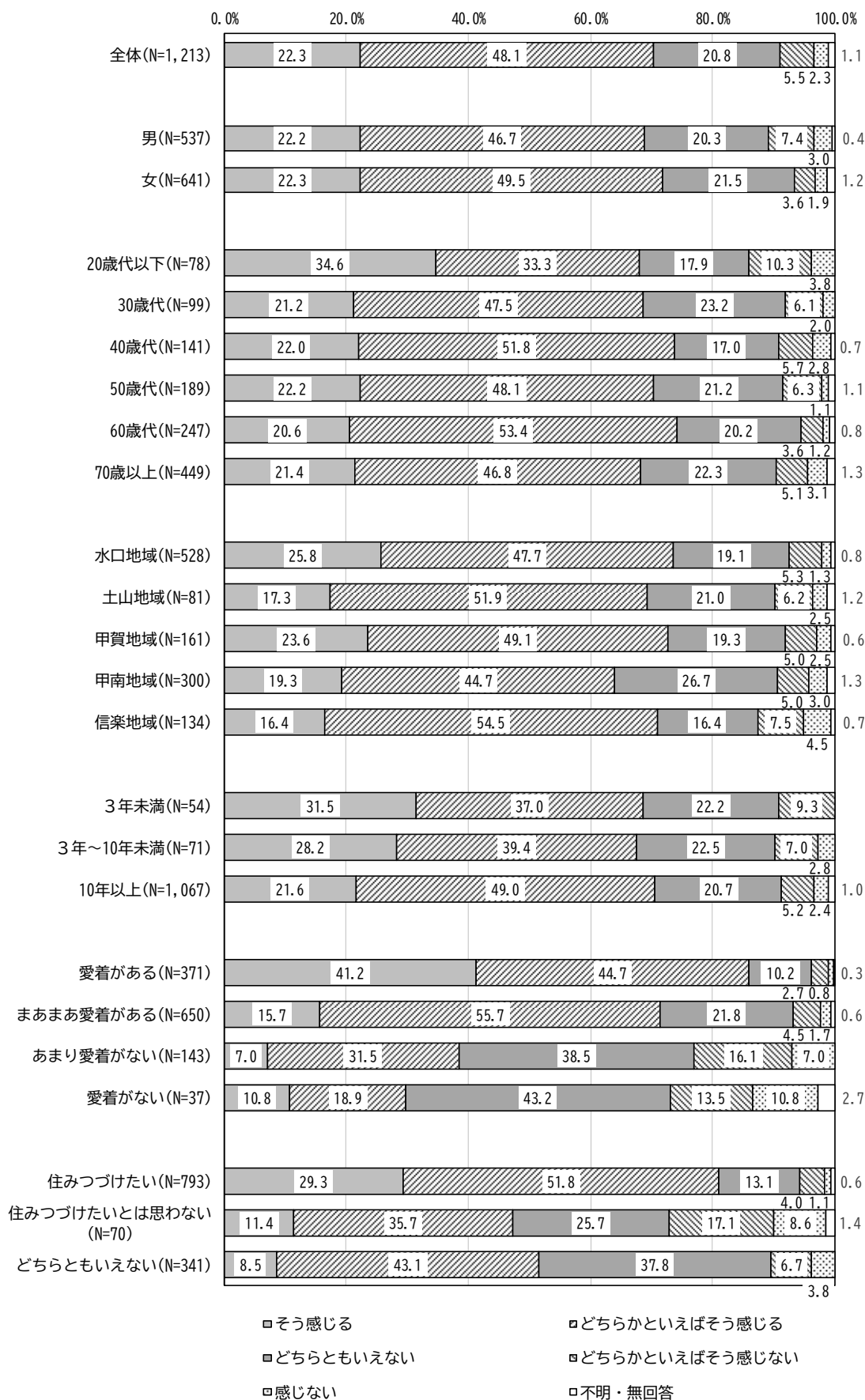
●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。『感じる』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 73.5%、以下、甲賀地域で 72.7%、信楽地域で 70.9%、土山地域で 69.2%、甲南地域で 64.0%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。『感じる』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 70.6%、以下、3 年未満で 68.5%、3 年～10 年未満で 67.6%と続いている。

●甲賀市への愛着別にみると、“愛着がある”、“まあまあ愛着がある”は「どちらかといえばそう感じる」が、“あまり愛着がない”、“愛着がない”は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『感じる』の割合をみると、最も多いのは“愛着がある”で 85.9%、以下、“まあまあ愛着がある”で 71.4%、“あまり愛着がない”で 38.5%、“愛着がない”で 29.7%と続いており、愛着があるにつれて多くなっている。

●定住意向別にみると、すべての定住意向において「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。『感じる』の割合をみると、最も多いのは“住みつづけたい”で 81.1%、以下、“どちらともいえない”で 51.6%、“住みつづけたいとは思わない”で 47.1%と続いている。

■現在の暮らしに幸せを感じるか（単数回答）



② どんなことに幸せを感じるか

＜問9-1＞ 問9で「そう感じる」「どちらかといえばそう感じる」のいずれかに回答された方におたずねします。
あなたは、どのようなことに幸せを感じますか。（○はいくつでも）

平成 29 年度調査からの推移をみると、概ね同じ傾向ではあるが、「健康」「家族関係」の占める割合が他の項目と比べ大きくなっており、5割を超えている。

■どのようなことに幸せを感じるか（複数回答）

	収入 (お金)	就業状況 (仕事の有無・安定)	健康	自由な時間、 充実した余暇	社会貢献	家族関係	友人関係	職場や学校等での 人間関係	地域コミュニティ、 ご近所との 関係	その他	不明・無回答
R7調査(N=853)	26.4	24.9	62.4	49.0	11.4	61.9	31.4	15.6	25.3	1.3	1.2
R6調査(N=750)	25.1	22.5	63.2	49.3	9.5	59.5	33.2	12.7	25.3	3.2	0.7
R5調査(N=840)	24.4	23.3	61.8	45.7	9.6	62.9	29.8	15.8	23.6	1.4	1.1
R4調査(N=909)	17.8	19.1	52.0	47.7	6.6	53.7	27.7	12.1	21.3	2.0	1.1
R3調査(N=937)	19.9	24.1	57.5	44.0	7.7	55.9	27.2	14.6	23.3	2.2	1.2
R2調査(N=910)	25.7	24.8	68.0	48.1	10.1	64.1	36.9	17.8	15.6	1.9	0.5
R1調査(N=789)	13.1	16.1	54.1	42.1	9.1	58.8	30.3	12.4	12.5	2.2	0.9
H30調査(N=773)	14.6	14.7	55.0	38.0	7.5	59.4	31.0	10.9	11.9	2.1	1.0
H29調査(N=835)	13.7	14.9	57.7	36.2	6.6	56.6	31.7	9.1	11.3	1.8	1.4

●全体でみると、「健康」が62.4%で最も多くなっており、以下、「家族関係」が61.9%、「自由な時間、充実した余暇」が49.0%と続いている。

●性別にみると、男性は「健康」が、女性は「家族関係」が最も多くなっている。

●年代別にみると、60歳代、70歳以上は「健康」が、その他の年代は「家族関係」が最も多くなっている。

●居住地域別にみると、水口地域は「家族関係」が、その他の地域は「健康」が最も多くなっている。

●居住年数別にみると、10年以上は「健康」が、その他の年数は「家族関係」が最も多くなっている。

■どのようなことに幸せを感じるか（複数回答）

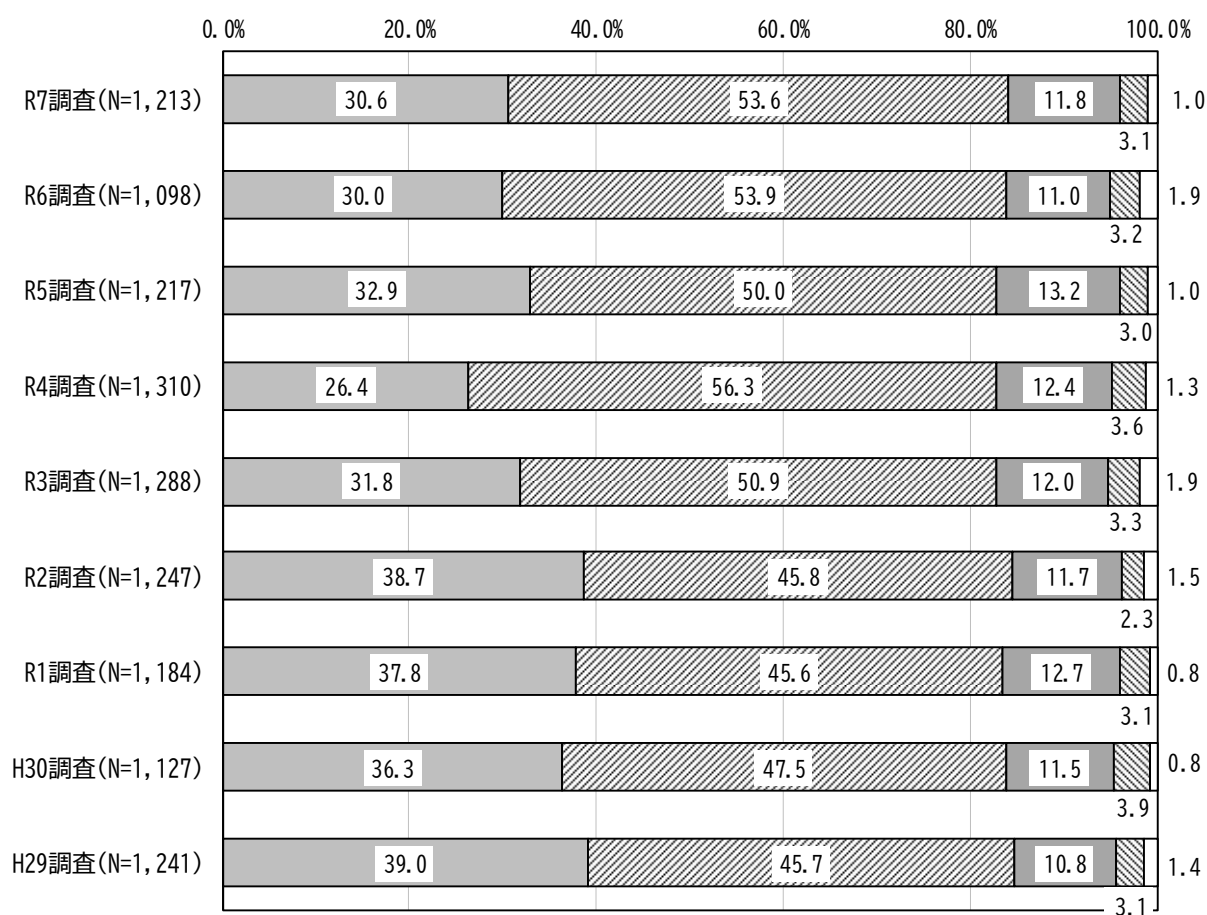
	収入 （お金）	就業状況 （仕事の有無・安定）	健康	自由な時間、 充実した余暇	社会貢献	家族関係	友人関係	職場や学校等での 人間関係	地域コミュニティ、 ご近所との 関係	その他	不明・無回答
全体(N=853)	26.4	24.9	62.4	49.0	11.4	61.9	31.4	15.6	25.3	1.3	1.2
男(N=370)	28.9	24.6	61.4	48.9	14.3	57.6	26.5	13.8	26.5	0.3	1.6
女(N=460)	24.6	24.8	63.7	49.3	9.3	65.7	35.9	17.0	24.3	2.0	0.9
20歳代以下(N=53)	15.1	17.0	52.8	52.8	7.5	64.2	49.1	32.1	9.4	0.0	0.0
30歳代(N=68)	38.2	41.2	55.9	36.8	8.8	72.1	30.9	29.4	19.1	1.5	0.0
40歳代(N=104)	43.3	42.3	52.9	44.2	5.8	73.1	31.7	25.0	10.6	1.0	1.0
50歳代(N=133)	35.3	48.1	60.9	45.1	15.0	70.7	28.6	29.3	20.3	0.0	0.8
60歳代(N=183)	23.5	22.4	67.8	54.6	13.7	59.0	23.5	10.4	27.3	1.6	1.6
70歳以上(N=306)	18.0	8.2	66.0	50.7	11.4	53.6	34.6	3.6	35.3	2.0	1.6
水口地域(N=388)	30.7	26.0	60.3	45.9	10.6	64.7	31.2	17.3	22.7	1.3	1.8
土山地域(N=56)	32.1	21.4	67.9	53.6	12.5	62.5	30.4	14.3	25.0	0.0	0.0
甲賀地域(N=117)	18.8	17.1	63.2	51.3	10.3	57.3	28.2	8.5	31.6	0.9	0.9
甲南地域(N=192)	20.3	23.4	66.1	56.3	10.4	62.5	32.3	17.2	24.0	1.0	0.5
信楽地域(N=95)	27.4	34.7	57.9	41.1	16.8	54.7	35.8	14.7	30.5	3.2	1.1
3年未満(N=37)	35.1	32.4	56.8	48.6	10.8	73.0	35.1	32.4	29.7	0.0	0.0
3年～10年未満(N=48)	37.5	35.4	56.3	39.6	8.3	68.8	20.8	20.8	22.9	0.0	2.1
10年以上(N=753)	25.4	24.2	62.9	49.5	11.7	61.1	32.1	14.6	25.2	1.5	1.1

(4) 甲賀市への愛着

「問 10」 あなたは、甲賀市に愛着をお持ちですか。(○は1つ)

平成 29 年度調査からの推移をみると、概ね同じ傾向となっており、「愛着がある」と「まあまあ愛着がある」を合わせた『愛着あり』の占める割合は大きくなっている。

■甲賀市への愛着（単数回答）



□愛着がある □まあまあ愛着がある □あまり愛着がない □愛着がない □不明・無回答

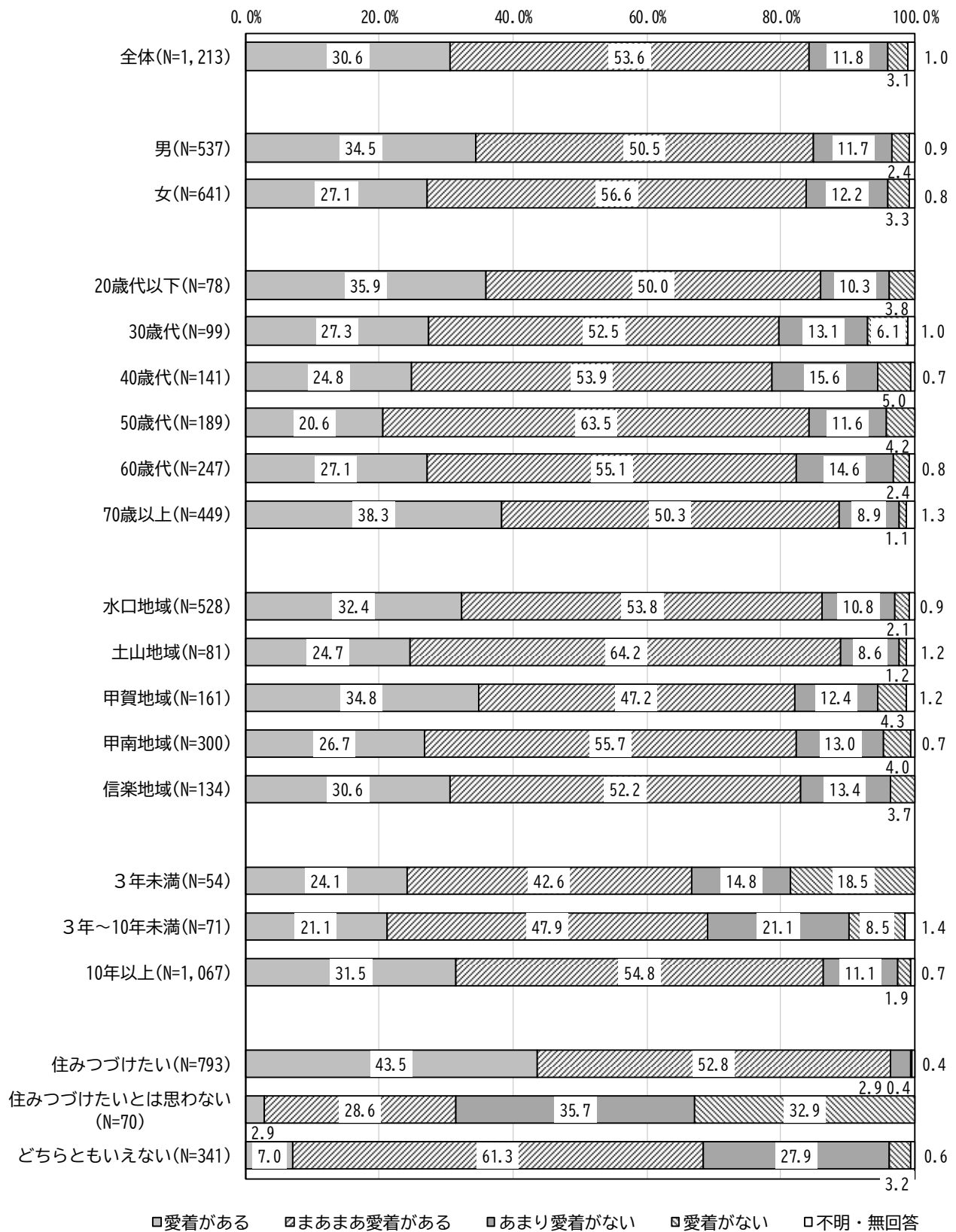
●全体でみると、「まあまあ愛着がある」が53.6%で最も多くなっており、以下、「愛着がある」が30.6%、「あまり愛着がない」が11.8%、「愛着がない」が3.1%と続いている。『愛着あり』は84.2%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「まあまあ愛着がある」が最も多くなっている。『愛着あり』の割合をみると、男性は85.0%、女性は83.7%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「まあまあ愛着がある」が最も多くなっている。『愛着あり』の割合をみると、最も多いのは70歳以上で88.6%、以下、20歳代以下で85.9%、50歳代で84.1%と続いている。

- 居住地域別にみると、すべての地域において「まあまあ愛着がある」が最も多くなっている。
『愛着あり』の割合をみると、最も多いのは土山地域で 88.9%、以下、水口地域で 86.2%、信楽地域で 82.8%、甲南地域で 82.4%、甲賀地域で 82.0%と続いている。
- 居住年数別にみると、すべての年数において「まあまあ愛着がある」が最も多くなっている。
『愛着あり』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 86.3%、以下、3 年～10 年未満で 69.0%、3 年未満で 66.7%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。
- 定住意向別にみると、“住みつづけたいとは思わない”が「あまり愛着がない」が、その他の定住意向は「まあまあ愛着がある」が最も多くなっている。『愛着あり』の割合をみると、最も多いのは“住みつづけたい”で 96.3%、以下、“どちらともいえない”で 68.3%、“住みつづけたいとは思わない”で 31.5%と続いている。

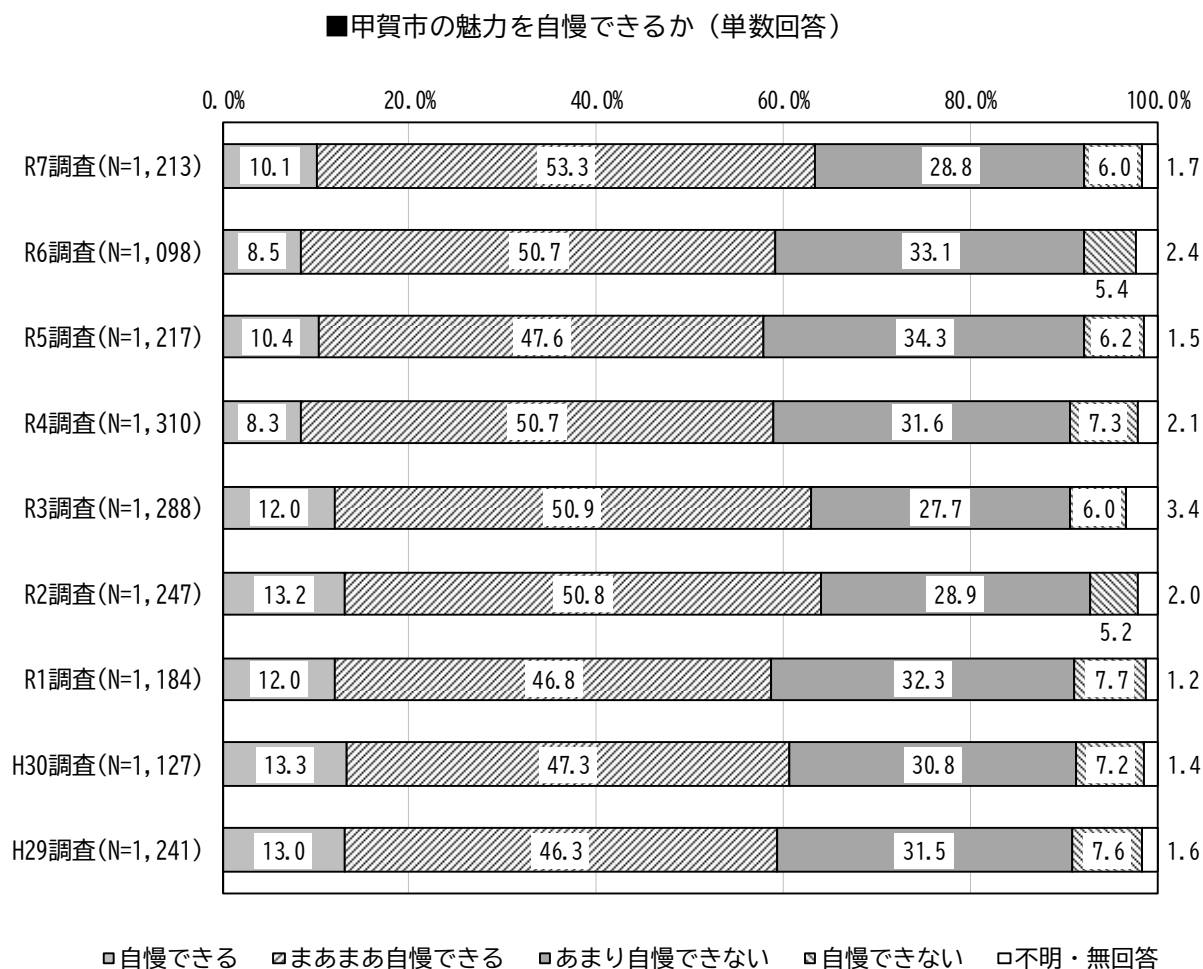
■甲賀市への愛着（単数回答）



(5) 甲賀市の魅力を自慢できるか

《問 11》 あなたは、甲賀市の魅力を市外の人に自慢できますか。(○は1つ)

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「自慢できる」と「まあまあ自慢できる」を合わせた『自慢できる』の割合が増加している。



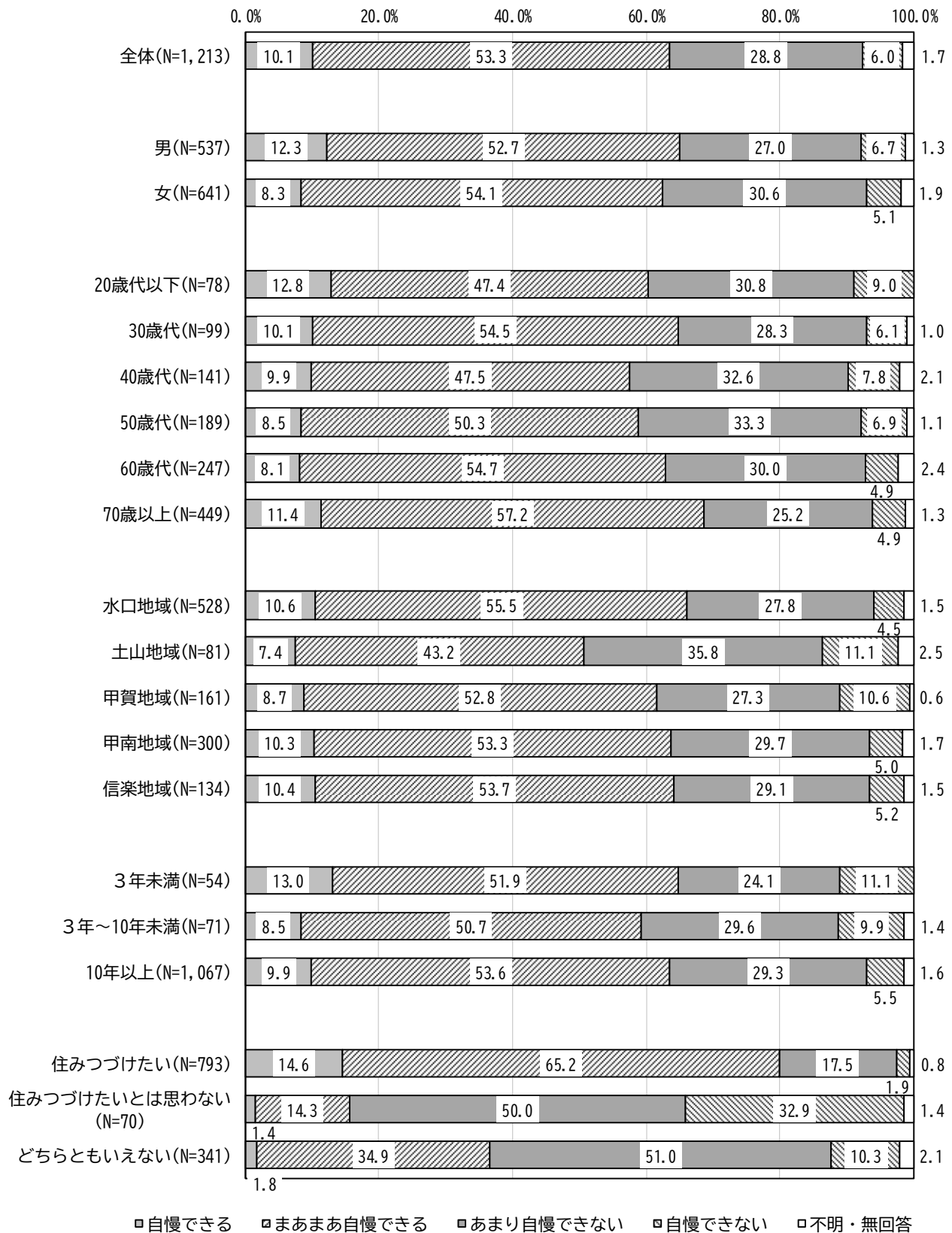
●全体でみると、「まあまあ自慢できる」が 53.3%で最も多くなっており、以下、「あまり自慢できない」が 28.8%、「自慢できる」が 10.1%、「自慢できない」が 6.0%と続いている。『自慢できる』は 63.4%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「まあまあ自慢できる」が最も多くなっている。『自慢できる』の割合をみると、男性は 65.0%、女性は 62.4%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「まあまあ自慢できる」が最も多くなっている。『自慢できる』の割合をみると、最も多いのは 70 歳以上で 68.6%、以下、30 歳代で 64.6%、60 歳代で 62.8%と続いている。

- 居住地域別にみると、すべての地域において「まあまあ自慢できる」が最も多くなっている。
『自慢できる』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 66.1%、以下、信楽地域で 64.1%、甲南地域で 63.6%、甲賀地域で 61.5%、土山地域で 50.6%と続いている。
- 居住年数別にみると、すべての年数において「まあまあ自慢できる」が最も多くなっている。
『自慢できる』の割合をみると、最も多いのは3年未満で 64.9%、以下、10年以上で 63.5%、3年～10年未満で 59.2%と続いている。
- 定住意向別にみると、“住みつづけたい”は「まあまあ自慢できる」が、その他の定住意向は「あまり自慢できない」が最も多くなっている。『自慢できる』の割合をみると、最も多いのは“住みつづけたい”で 79.8%、以下、“どちらともいえない”で 36.7%、“住みつづけたいとは思わない”で 15.7%と続いている。

■甲賀市の魅力を自慢できるか（単数回答）

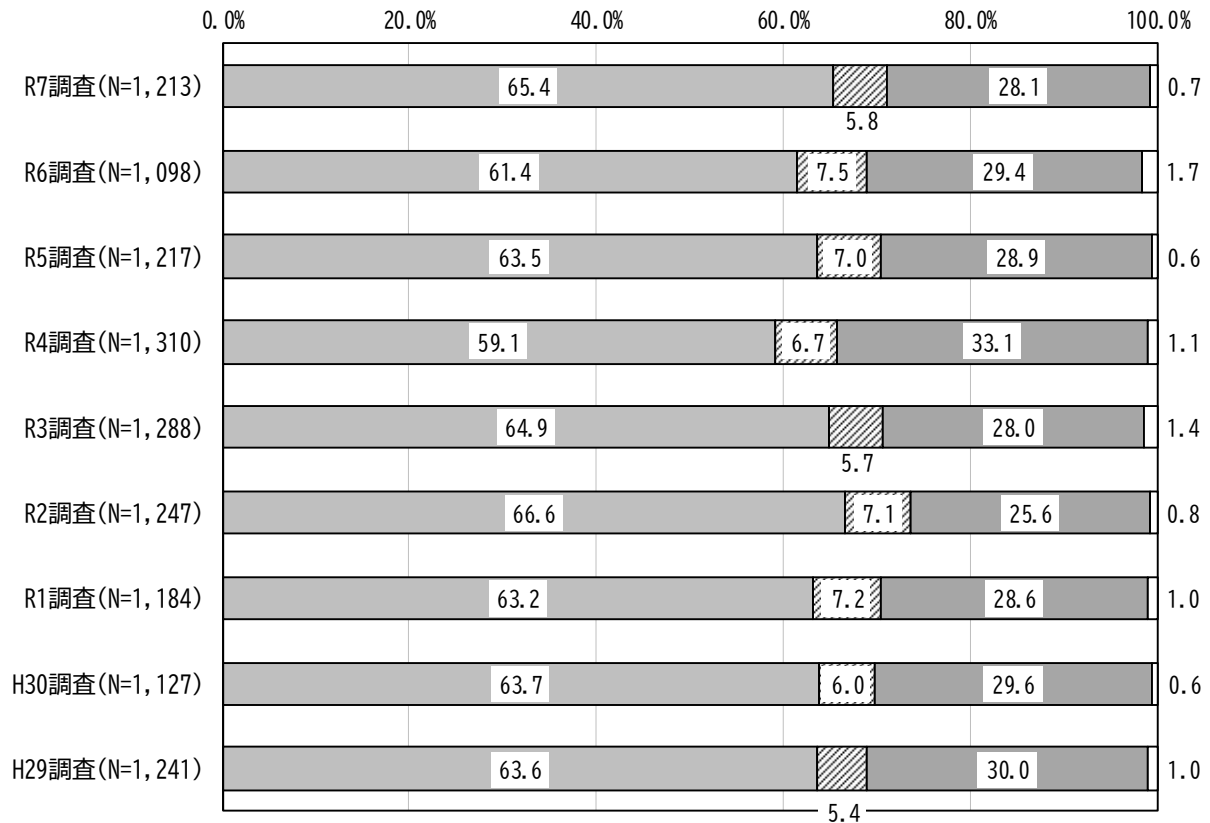


(6) 定住意向

《問 12》 あなたは、これからも甲賀市に住みつづけたいと思われませんか。(○は1つ)

平成 29 年度調査からの推移をみると、概ね同じ傾向ではあるが、昨年と比較すると「住みつづけたい」は増加し、「住みつづけたいとは思わない」は減少している。

■定住意向（単数回答）



□住みつづけたい □住みつづけたいとは思わない □どちらともいえない □不明・無回答

●全体でみると、「住みつづけたい」が 65.4%で最も多くなっており、以下、「どちらともいえない」が 28.1%、「住みつづけたいとは思わない」が 5.8%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「住みつづけたい」が最も多くなっている。「住みつづけたい」の割合をみると、男性が 65.4%、女性が 66.5%となっている。

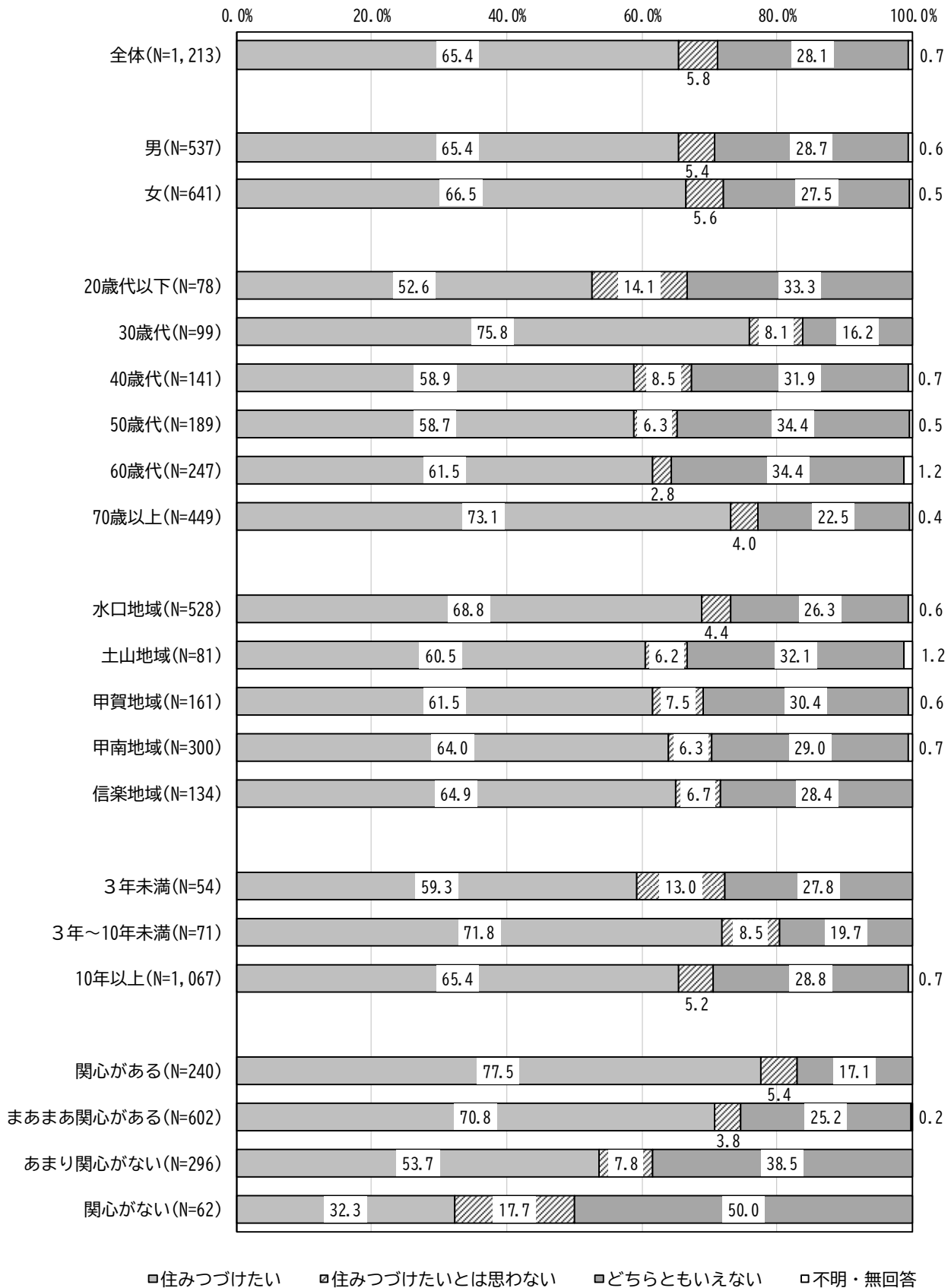
●年代別にみると、すべての年代において「住みつづけたい」が最も多くなっている。「住みつづけたい」の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 75.8%、以下、70 歳以上で 73.1%、60 歳代で 61.5%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「住みつづけたい」が最も多くなっている。「住みつづけたい」の割合をみると、最も多いのは水口地域で 68.8%、以下、信楽地域で 64.9%、甲南地域で 64.0%、甲賀地域で 61.5%、土山地域で 60.5%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「住みつづけたい」が最も多くなっている。「住みつづけたい」の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で71.8%、以下、10年以上で65.4%、3年未満で59.3%と続いている。

●市政への関心別にみると、“関心がある”、“まあまあ関心がある”、“あまり関心がない”は「住みつづけたい」が、“関心がない”は「どちらともいえない」が最も多くなっている。「住みつづけたい」の割合をみると、最も多いのは“関心がある”で77.5%、以下、“まあまあ関心がある”で70.8%、“あまり関心がない”で53.7%と続いており、関心度が高くなるにつれて多くなっている。

■定住意向（単数回答）

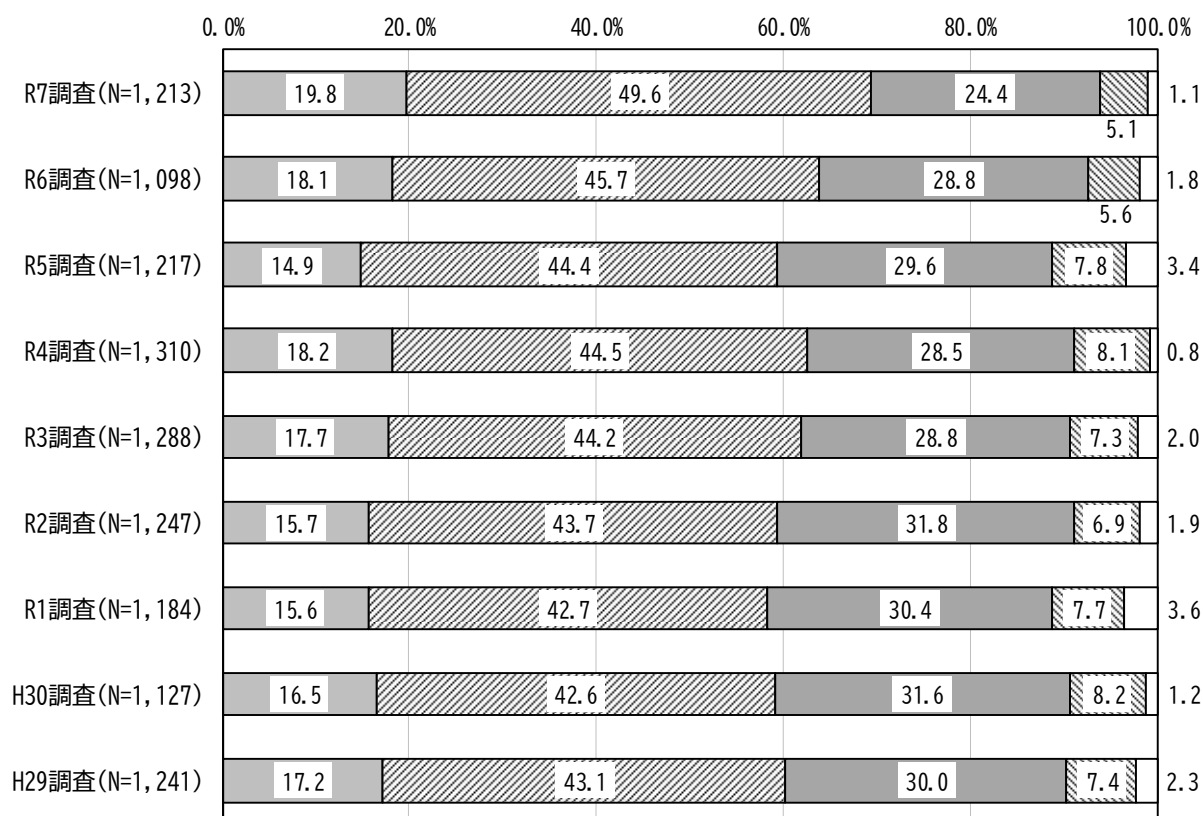


(7) 市政への関心

「問 13」 あなたは、市政（市役所のしていること）に関心をお持ちですか。（○は1つ）

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 5 年度から「関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた『関心あり』の割合は増加している。

■ 市政への関心（単数回答）



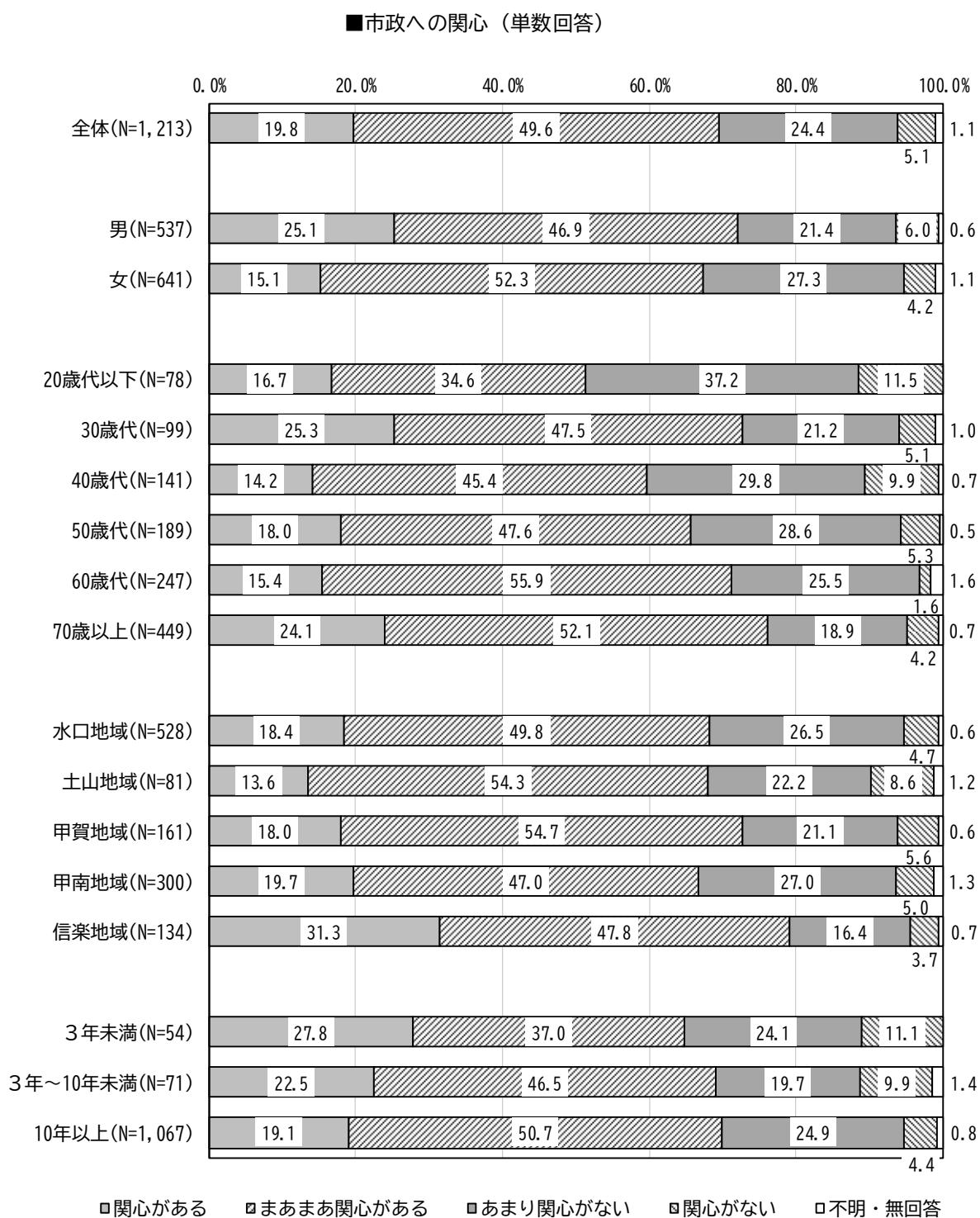
□ 関心がある □ まあまあ関心がある □ あまり関心がない □ 関心がない □ 不明・無回答

●全体でみると、「まあまあ関心がある」が 49.6%で最も多くなっており、以下、「あまり関心がない」が 24.4%、「関心がある」が 19.8%、「関心がない」が 5.1%と続いている。『関心あり』は 69.4%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「まあまあ関心がある」が最も多くなっている。『関心あり』の割合をみると、男性は 72.0%、女性は 67.4%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「あまり関心がない」が、その他の年代は「まあまあ関心がある」が最も多くなっている。『関心あり』の割合をみると、最も多いのは 70 歳以上で 76.2%、以下、30 歳代で 72.8%、60 歳代で 71.3%と続いている。

- 居住地域別にみると、すべての地域において「まあまあ関心がある」が最も多くなっている。
『関心あり』の割合をみると、最も多いのは信楽地域で79.1%、以下、甲賀地域で72.7%、水口地域で68.2%、土山地域で67.9%、甲南地域で66.7%と続いている。
- 居住年数別にみると、すべての年数において「まあまあ関心がある」が最も多くなっている。
『関心あり』の割合をみると、最も多いのは10年以上で69.8%、以下、3年～10年未満で69.0%、3年未満で64.8%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。



2 自治振興交付金について

(1) 今後の敬老事業のあり方について

《問 14》 住民税の3%(概ね1億6,000万円)が市内23の自治振興会、まちづくり協議会(概ね小学校区)に自治振興交付金として交付され、地域の課題解決事業に自由度高く活用されています。そのうち2,200万円は主に敬老会(飲食、催し物等)に使われていますが、今後の施策の方向性として望ましいのはいずれでしょうか。(○は1つ)

●全体でみると、「移動支援(買い物、通院送迎など)に活用してほしい。」が36.0%で最も多くなっており、以下、「こども、若者の活動(地域の担い手育成など)に活用してほしい。」が22.6%、「多世代交流(こども、若者と高齢者)に活用してほしい。」が11.0%、「従来どおり、敬老会に活用してほしい。」が10.6%、「特に重視すべきものはない/わからない」が8.9%、「健康づくり(健康体操など)に活用してほしい。」が6.4%、「その他」が2.4%と続いている。

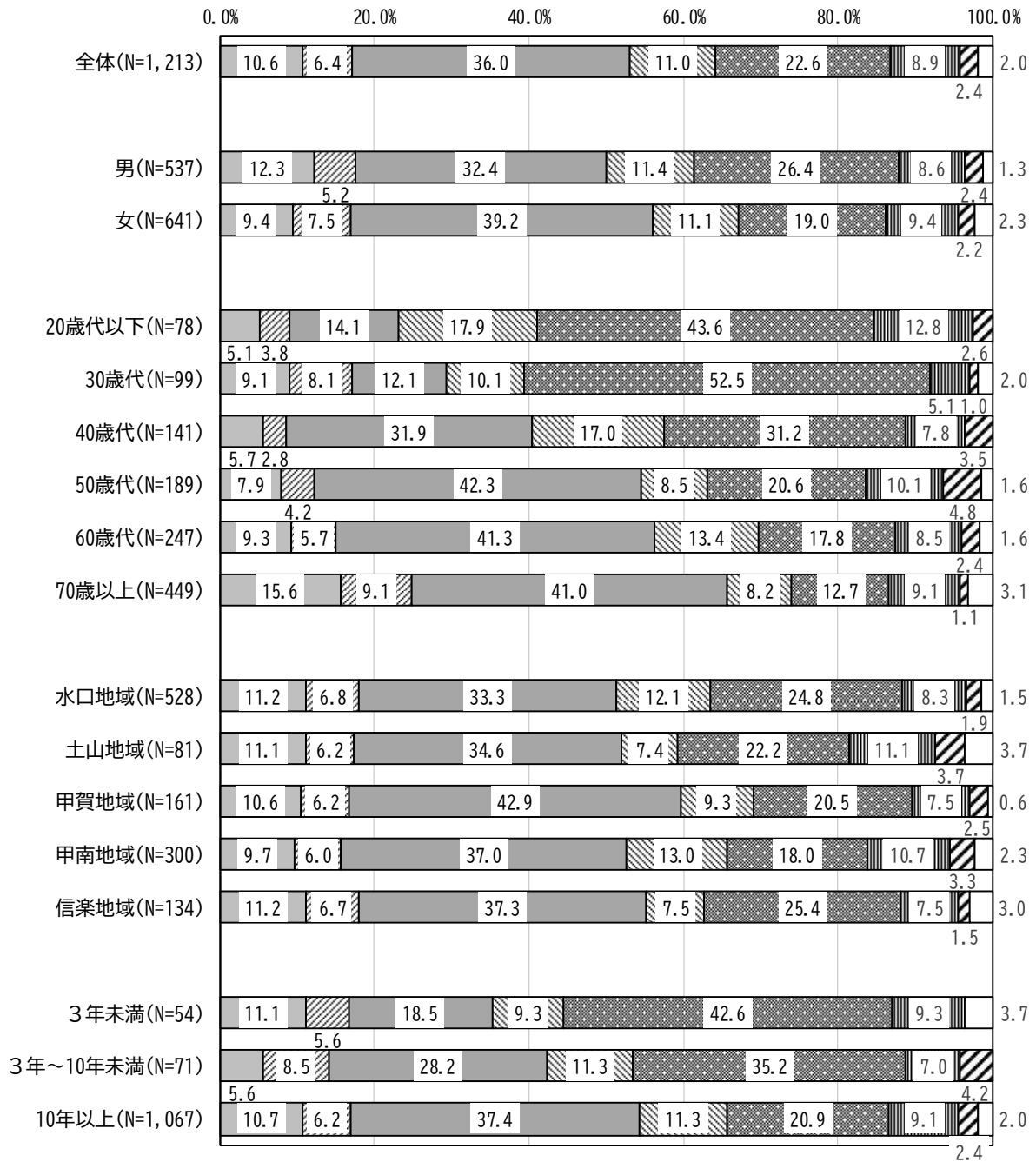
●性別にみると、男性、女性ともに「移動支援(買い物、通院送迎など)に活用してほしい。」が最も多くなっており、男性が32.4%、女性が39.2%となっている。

●年代別にみると、20歳代以下、30歳代は「こども、若者の活動(地域の担い手育成など)に活用してほしい。」が、その他の年代は「移動支援(買い物、通院送迎など)に活用してほしい。」が最も多くなっている。「移動支援(買い物、通院送迎など)に活用してほしい。」の割合は、年代が上がるにつれて、また、「こども、若者の活動(地域の担い手育成など)に活用してほしい。」の割合は、年代が下がるにつれて多くなっている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「移動支援(買い物、通院送迎など)に活用してほしい。」が最も多くなっている。「移動支援(買い物、通院送迎など)に活用してほしい。」の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で42.9%、以下、信楽地域で37.3%、甲南地域で37.0%、土山地域で34.6%、水口地域で33.3%と続いている。

●居住年数別にみると、10年以上は「移動支援(買い物、通院送迎など)に活用してほしい。」が、その他の年数は「こども、若者の活動(地域の担い手育成など)に活用してほしい。」が最も多くなっている。「移動支援(買い物、通院送迎など)に活用してほしい。」の割合は、年数が長くなるにつれて、また、「こども、若者の活動(地域の担い手育成など)に活用してほしい。」の割合は、年数が短くなるにつれて多くなっている。

■今後の敬老事業のあり方について（単数回答）



- 従来どおり、敬老会に活用してほしい。
- 健康づくり（健康体操など）に活用してほしい。
- 移動支援（買い物、通院送迎など）に活用してほしい。
- 多世代交流（こども、若者と高齢者）に活用してほしい。
- こども、若者の活動（地域の担い手育成など）に活用してほしい。
- 特に重視すべきものはない／わからない
- その他
- 不明・無回答

3 組回覧（回覧板）について

（1）組回覧（回覧板）の活用状況

《問 15》 現在、市からの情報伝達手段の1つとして、紙文書を月に1回、それぞれの区・自治会を通じて組回覧（回覧板）という手法をとっています。市からの組回覧（回覧板）文書についてご覧になっていますか。（○は1つ）

●全体でみると、「毎回読んでいる」が50.4%で最も多くなっており、以下、「時々読んでいる」が21.8%、「ほとんど読まない」が14.3%、「読んだことがない」が12.2%と続いている。「毎回読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた『読んでいる』は72.2%となっている。

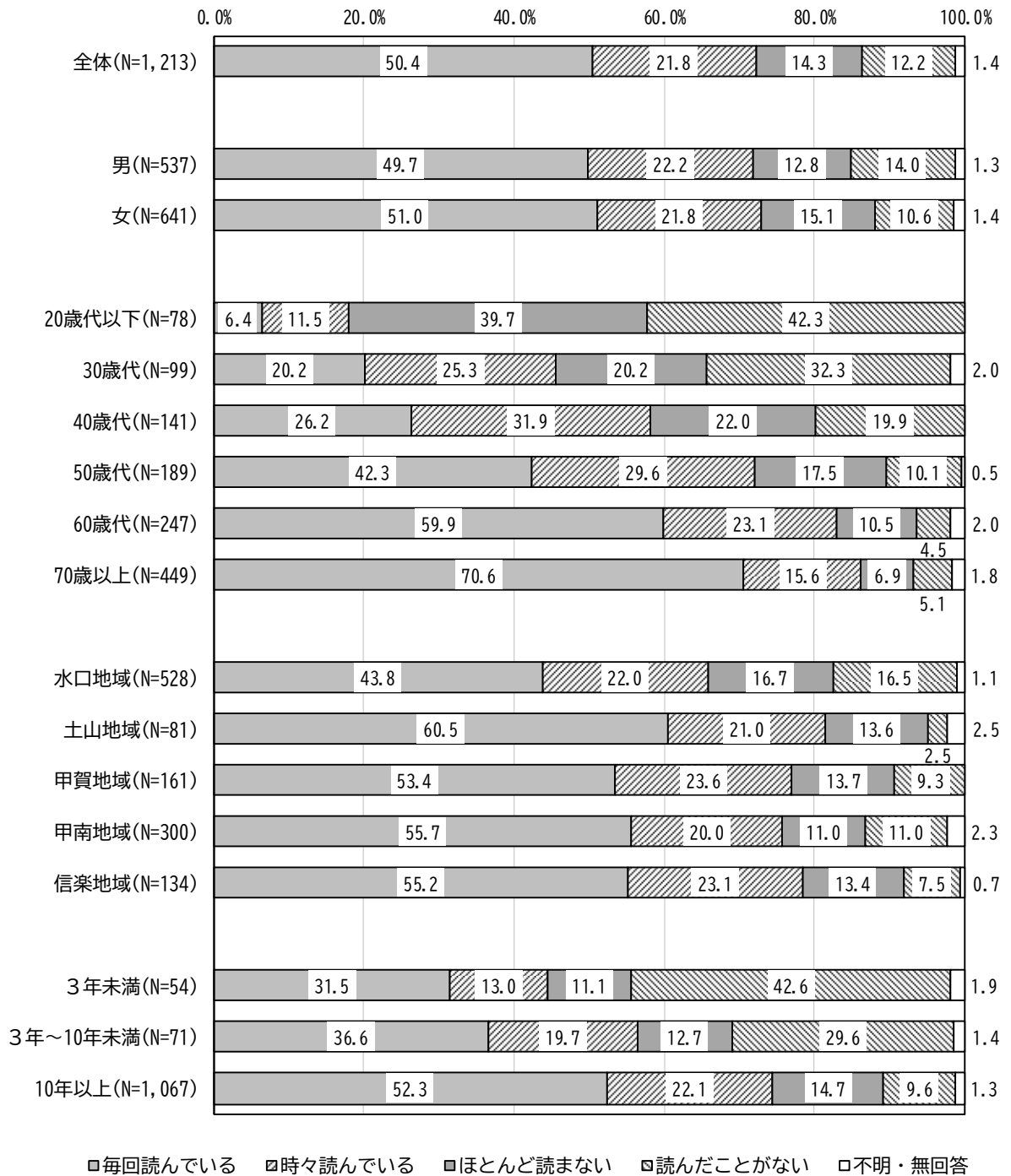
●性別にみると、男性、女性ともに「毎回読んでいる」が最も多くなっている。『読んでいる』の割合をみると、男性は71.9%、女性は72.8%となっている。

●年代別にみると、20歳代以下、30歳代は「読んだことがない」が、40歳代は「時々読んでいる」が、その他の年代は「毎回読んでいる」が最も多くなっている。『読んでいる』の割合をみると、最も多いのは70歳以上で86.2%、以下、60歳代で83.0%、50歳代で71.9%と続いており、年代が上がるにつれて多くなっている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「毎回読んでいる」が最も多くなっている。『読んでいる』の割合をみると、最も多いのは土山地域で81.5%、以下、信楽地域で78.3%、甲賀地域で77.0%、甲南地域で75.7%、水口地域で65.8%と続いている。

●居住年数別にみると、3年未満は「読んだことがない」が、その他の年数は「毎回読んでいる」が最も多くなっている。『読んでいる』の割合をみると、最も多いのは10年以上で74.4%、以下、3年～10年未満で56.3%、3年未満で44.5%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

■組回覧（回覧板）の活用状況（単数回答）



(2) 組回覧（回覧板）の入手方法

<問 15-1> 問 15 で「1～3」のいずれかに回答された方におたずねします。
市からの組回覧（回覧板）について、どのような方法で受け取ることができれば
よいと思いますか。（○はいくつでも）

- 全体でみると、「今までどおりの回覧板」が 56.4%で最も多くなっており、以下、「SNS（LINE、Facebook）」が 24.0%、「市のホームページ」が 17.7%、「メール配信」が 17.4%、「特に希望はない」が 9.9%と続いている。
- 性別にみると、男性、女性ともに「今までどおりの回覧板」が最も多くなっている。
- 年代別にみると、20 歳代以下、30 歳代、40 歳代は「SNS（LINE、Facebook）」が、その他の年代は「今までどおりの回覧板」が最も多くなっている。
- 居住地域別にみると、すべての地域において「今までどおりの回覧板」が最も多くなっている。
- 居住年数別にみると、3 年未満は「SNS（LINE、Facebook）」が、その他の年数は「今までどおりの回覧板」が最も多くなっている。

■組回覧（回覧板）の入手方法（複数回答）

	メール 配信	S N S （LINE、 Face book）	地 域 の 掲 示 板	市 の ホ ー ム ペ ー ジ	今 ま で ど お り の 回 覧 板	な く て も よ い	特 に 希 望 は な い	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体(N=1,048)	17.4	24.0	6.9	17.7	56.4	5.3	9.9	1.2	1.3
男(N=455)	19.3	24.2	6.6	19.3	58.7	5.5	7.5	1.3	1.5
女(N=564)	15.6	23.9	7.3	16.7	55.0	4.4	12.1	1.2	1.1
20歳代以下(N=45)	17.8	46.7	8.9	13.3	31.1	4.4	11.1	0.0	0.0
30歳代(N=65)	18.5	52.3	4.6	20.0	30.8	12.3	13.8	1.5	0.0
40歳代(N=113)	28.3	39.8	8.8	23.0	37.2	10.6	13.3	0.9	0.0
50歳代(N=169)	27.2	38.5	4.7	25.4	40.8	3.6	11.2	1.2	1.2
60歳代(N=231)	21.6	24.7	6.9	20.8	57.1	3.9	7.4	0.9	1.3
70歳以上(N=418)	7.9	6.9	7.4	12.0	73.9	4.5	9.1	1.7	2.2
水口地域(N=435)	18.2	26.7	6.9	19.1	51.5	6.9	10.1	1.1	2.3
土山地域(N=77)	18.2	19.5	3.9	7.8	59.7	5.2	13.0	0.0	0.0
甲賀地域(N=146)	18.5	19.9	7.5	20.5	66.4	2.7	7.5	1.4	0.7
甲南地域(N=260)	17.7	25.4	6.5	20.0	55.4	4.6	10.8	1.2	0.8
信楽地域(N=123)	12.2	20.3	8.9	12.2	61.0	4.9	8.1	2.4	0.8
3年未満(N=30)	30.0	63.3	6.7	23.3	43.3	6.7	6.7	0.0	0.0
3年～10年未満(N=49)	20.4	32.7	4.1	24.5	42.9	10.2	12.2	0.0	0.0
10年以上(N=951)	16.7	22.5	7.0	17.6	57.2	5.2	10.0	1.4	1.5

4 外国人市民との共生について

(1) 「やさしい日本語」の認知度

《問 16》 あなたは「やさしい日本語」を知っていますか。(○は1つ)

●全体でみると、「全く知らない」が33.7%で最も多くなっており、以下、「見たこと、聞いたことがある」が27.9%、「ある程度知っている」が27.5%、「よく知っている」が7.1%と続いている。「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた『知っている』は34.6%となっている。

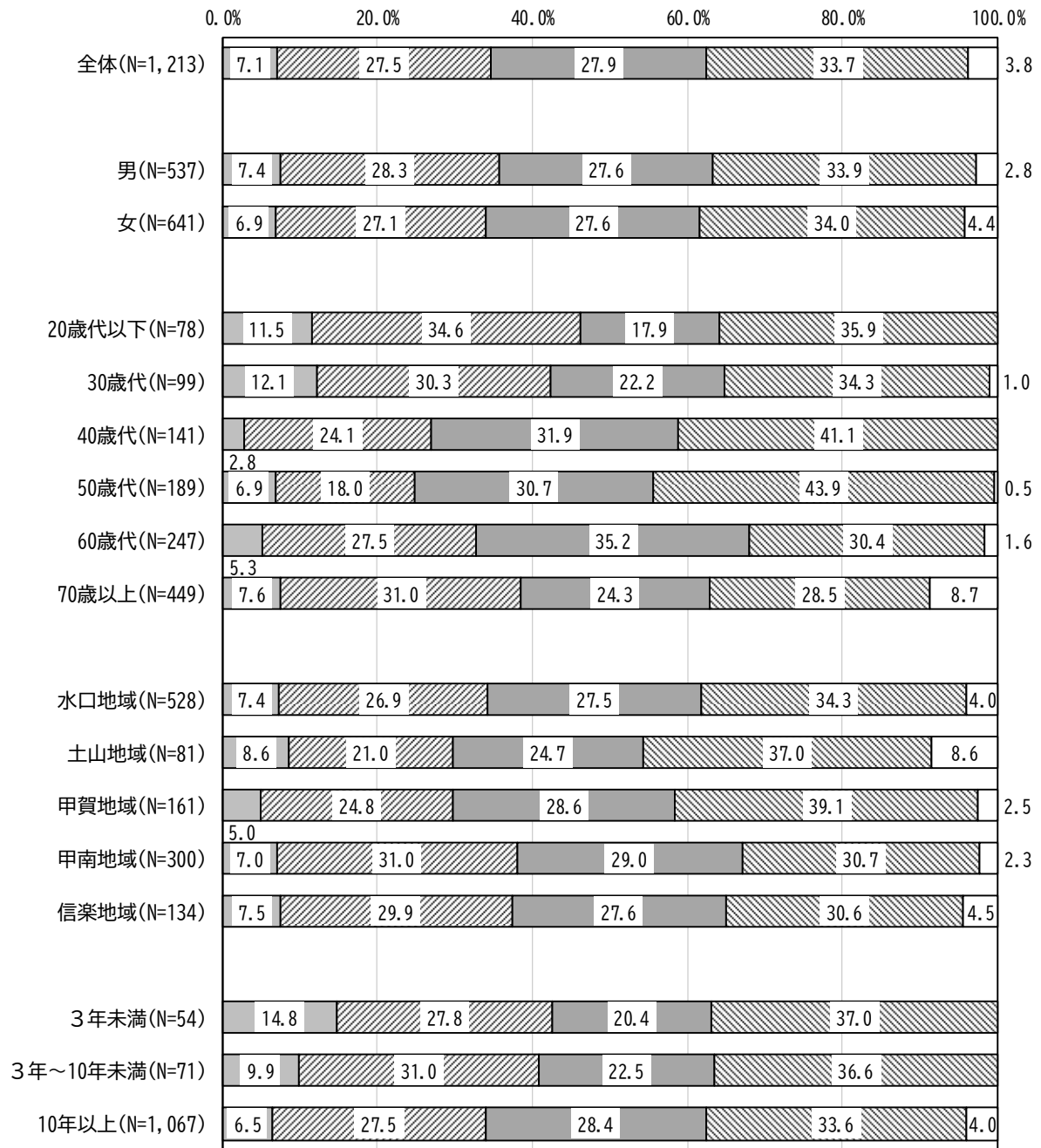
●性別にみると、男性、女性ともに「全く知らない」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、男性は35.7%、女性は34.0%となっている。

●年代別にみると、60歳代は「見たこと、聞いたことがある」が、70歳以上は「ある程度知っている」が、その他の年代は「全く知らない」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは20歳代以下で46.1%、以下、30歳代で42.4%、70歳以上で38.6%と続いている。

●居住地域別にみると、甲南地域は「ある程度知っている」が、その他の地域は「全く知らない」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で38.0%、以下、信楽地域で37.4%、水口地域で34.3%、甲賀地域で29.8%、土山地域で29.6%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「全く知らない」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは3年未満で42.6%、以下、3年～10年未満で40.9%、10年以上で34.0%と続いており、年数が長くなるにつれて少なくなっている。

■「やさしい日本語」の認知度（単数回答）



☒ よく知っている
 ☒ ある程度知っている
 ☒ 見たこと、聞いたことがある
 ☒ 全く知らない
 ☐ 不明・無回答

(2) 「やさしい日本語」の使用意向

「問 17」 あなたは「やさしい日本語」を使いたいと思いますか。(○は1つ)

●全体でみると、「必要があれば使う」が 50.1%で最も多くなっており、以下、「使いたい」が 21.6%、「使い方が分かれば使いたい」が 10.9%、「積極的に使いたい」が 10.8%、「使いたくない」が 2.6%と続いている。「積極的に使いたい」と「使いたい」を合わせた『使いたい』は 32.4%となっている。

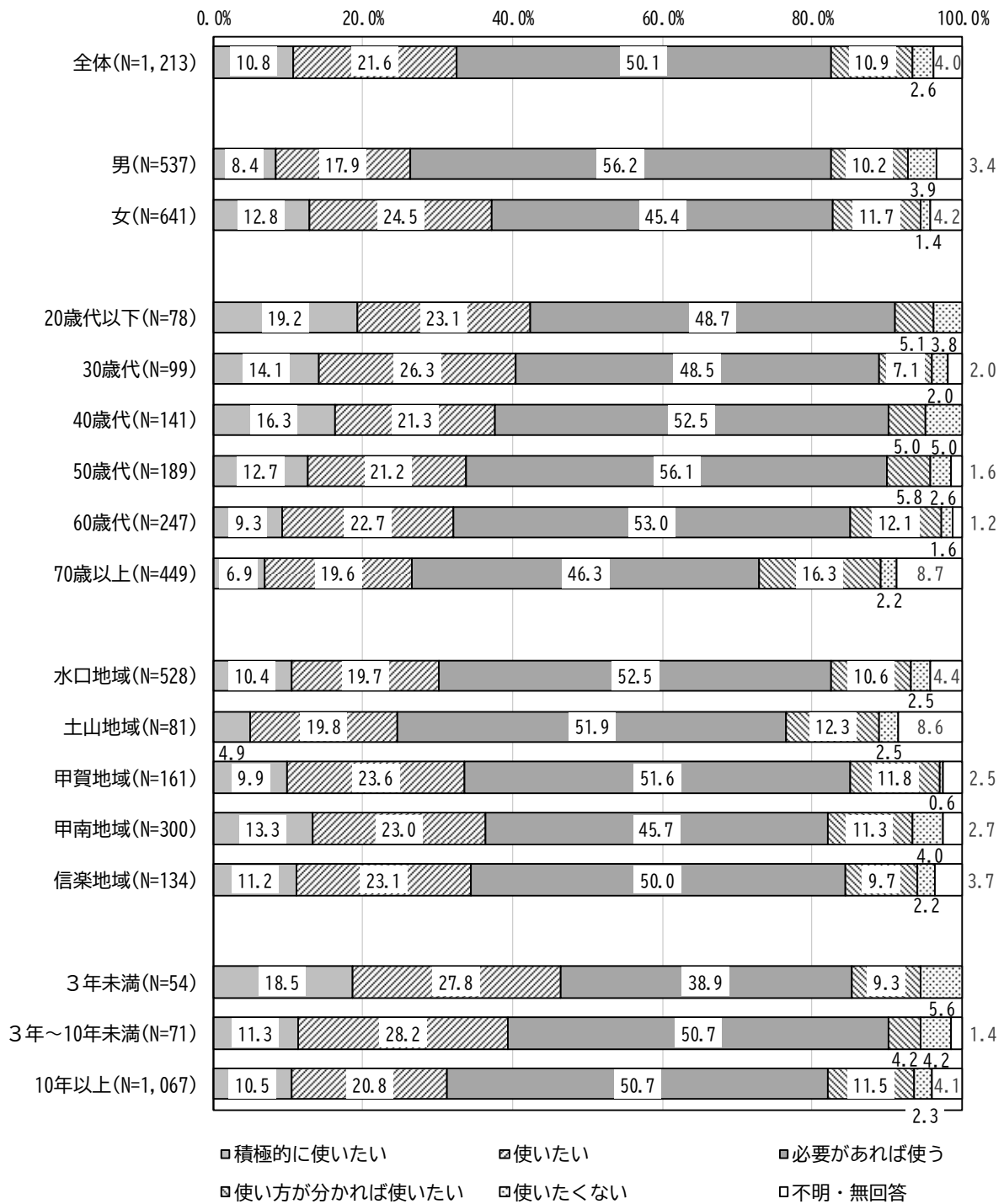
●性別にみると、男性、女性ともに「必要があれば使う」が最も多くなっている。『使いたい』の割合をみると、男性は 26.3%、女性は 37.3%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「必要があれば使う」が最も多くなっている。『使いたい』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 42.3%、以下、30 歳代で 40.4%、40 歳代で 37.6 と続いており、年代が上がるにつれて少なくなっている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「必要があれば使う」が最も多くなっている。『使いたい』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 36.3%、以下、信楽地域で 34.3%、甲賀地域で 33.5%、水口地域で 30.1%、土山地域で 24.7%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「必要があれば使う」が最も多くなっている。『使いたい』の割合をみると、最も多いのは 3 年未満で 46.3%、以下、3 年～10 年未満で 39.5%、10 年以上で 31.3%と続いており、年数が長くなるにつれて少なくなっている。

■「やさしい日本語」の使用意向（単数回答）



(3) 外国人に対して「やさしい日本語」の使用場面

《問 18》 あなたは、外国人に対してどのような場面で「やさしい日本語」を使って対応すると良いと思いますか。(〇はいくつでも)

●全体でみると、「災害関連情報の提供や緊急災害のとき」が61.7%で最も多くなっており、以下、「ゴミの収集、ペットなどの生活情報について話すとき」が52.0%、「病院や薬、健康診断などについて話すとき」が49.5%、「仕事のとき」が49.4%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「災害関連情報の提供や緊急災害のとき」が最も多くなっている。

●年代別にみると、60歳代は「災害関連情報の提供や緊急災害のとき」が、70歳以上は「ゴミの収集、ペットなどの生活情報について話すとき」が、その他の年代は「仕事のとき」が最も多くなっている。

●居住地域別にみると、土山地域は「ゴミの収集、ペットなどの生活情報について話すとき」が、その他の地域は「災害関連情報の提供や緊急災害のとき」が最も多くなっている。

●居住年数別にみると、3年～10年未満は「仕事のとき」が、その他の年数は「災害関連情報の提供や緊急災害のとき」が最も多くなっている。

■外国人に対して「やさしい日本語」の使用場面（複数回答）

	仕事 のとき	災害 関連 情報の 提供や 緊急災 害の とき	日本 の文化 ・習慣 について 話す とき	病院 や薬、 健康診 断など につい て話す とき	ゴミの 収集、 ペット などの 生活 情報に ついて 話す とき	税金・ 年金・ 医療保 険など につ いて話 すとき	学校や 保育園 、幼稚 園など 教育 につい て話す とき	妊娠・ 出産、 子育て 、福祉 サー ビスな どにつ いて話 すとき	その他	不明・ 無回答
全体(N=1,213)	49.4	61.7	41.2	49.5	52.0	27.6	33.0	31.2	5.2	4.5
男(N=537)	46.2	54.7	43.2	41.9	46.7	22.7	27.6	23.8	5.0	4.3
女(N=641)	51.6	67.6	39.3	55.5	56.2	31.4	37.3	36.8	5.3	4.7
20歳代以下(N=78)	78.2	67.9	42.3	55.1	43.6	41.0	51.3	48.7	1.3	1.3
30歳代(N=99)	73.7	64.6	33.3	56.6	42.4	41.4	53.5	50.5	2.0	3.0
40歳代(N=141)	71.6	70.9	36.2	61.7	44.7	42.6	51.1	47.5	4.3	0.0
50歳代(N=189)	63.5	61.9	41.3	49.7	48.7	34.4	38.6	39.7	7.9	1.6
60歳代(N=247)	53.8	69.2	45.7	57.9	58.7	30.0	38.5	34.8	4.5	1.6
70歳以上(N=449)	24.3	52.8	41.6	38.5	55.7	13.6	14.5	13.6	6.0	9.6
水口地域(N=528)	50.8	61.4	37.9	49.1	50.2	28.2	34.3	32.2	6.3	4.7
土山地域(N=81)	48.1	54.3	38.3	48.1	55.6	24.7	29.6	27.2	2.5	8.6
甲賀地域(N=161)	47.2	62.7	44.1	52.8	47.8	26.1	28.6	30.4	4.3	3.1
甲南地域(N=300)	47.0	60.0	42.0	50.7	56.7	27.0	35.3	32.0	5.7	3.3
信楽地域(N=134)	54.5	69.4	50.0	45.5	51.5	30.6	30.6	29.9	3.0	5.2
3年未満(N=54)	63.0	72.2	55.6	66.7	55.6	46.3	46.3	44.4	3.7	3.7
3年～10年未満(N=71)	70.4	60.6	32.4	56.3	45.1	35.2	52.1	49.3	0.0	0.0
10年以上(N=1,067)	47.8	61.4	41.0	48.4	52.4	26.3	31.4	29.8	5.7	4.8

(4) 日本に居住している外国人に関する人権問題

《問 19》 あなたが、日本に居住している外国人に関し、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題だと思ったことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

●全体でみると、「特にない」が 46.7%で最も多くなっており、以下、「風習や習慣などの違いが受け入れられないこと」が 20.0%、「差別的な言葉を言われること」が 19.0%、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が 18.7%と続いている。

●「特にない」除いて性別にみると、男性は「風習や習慣などの違いが受け入れられないこと」が、女性は「差別的な言葉を言われること」が最も多くなっている。

●「特にない」除いて年代別にみると、50 歳代、60 歳代は「就職・職場で不利な扱いを受けること」が、70 歳以上は「風習や習慣などの違いが受け入れられないこと」が、その他の年代は「差別的な言葉を言われること」が最も多くなっている(20 歳代以下は「じろじろ見られたり、避けられたりすること」と同率)。

●「特にない」除いて居住地域別にみると、土山地域は「差別的な言葉を言われること」が、甲賀地域は「就職・職場で不利な扱いを受けること」が、その他の地域は「風習や習慣などの違いが受け入れられないこと」が最も多くなっている。

●「特にない」除いて居住年数別にみると、10 年以上は「風習や習慣などの違いが受け入れられないこと」が、その他の年数は「差別的な言葉を言われること」が最も多くなっている。

■日本に居住している外国人に関する人権問題（複数回答）

	職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること	交際や結婚を反対されること	就職・職場で不利な扱いを受けること	差別的な言葉を言われること	アパートなどへの入居を拒否されること	宿泊などの施設の利用や、店舗などへの入店を拒否されること	風習や習慣などの違いが受け入れられないこと	じろじろ見られたり、避けられたりすること	その他	特になし	不明・無回答
全体(N=1,213)	14.4	8.8	18.7	19.0	8.6	5.4	20.0	13.6	1.3	46.7	7.6
男(N=537)	13.2	8.4	18.1	16.6	8.9	5.0	19.7	12.5	1.3	48.8	6.1
女(N=641)	14.7	9.0	18.6	20.9	7.8	5.3	20.3	14.2	1.2	45.4	8.6
20歳代以下(N=78)	17.9	10.3	12.8	21.8	6.4	7.7	17.9	21.8	0.0	51.3	0.0
30歳代(N=99)	25.3	9.1	20.2	28.3	14.1	4.0	22.2	22.2	1.0	39.4	2.0
40歳代(N=141)	14.9	9.2	22.0	23.4	12.1	7.8	17.7	22.0	2.1	51.8	1.4
50歳代(N=189)	16.4	6.9	22.2	20.6	6.9	5.8	18.5	10.1	2.1	52.9	2.6
60歳代(N=247)	11.7	12.1	23.9	17.8	9.7	5.7	22.7	10.5	1.2	47.0	5.7
70歳以上(N=449)	12.0	7.3	13.8	15.1	6.7	4.0	20.0	10.9	0.9	43.2	15.1
水口地域(N=528)	16.5	9.3	18.0	20.1	9.8	4.9	21.0	13.1	1.3	45.3	7.4
土山地域(N=81)	8.6	11.1	19.8	21.0	4.9	3.7	12.3	9.9	2.5	48.1	7.4
甲賀地域(N=161)	12.4	9.3	20.5	16.8	7.5	7.5	19.9	15.5	1.9	46.0	7.5
甲南地域(N=300)	13.0	8.0	18.7	19.0	8.3	5.7	19.3	14.3	1.0	50.7	6.3
信楽地域(N=134)	15.7	6.7	17.9	16.4	7.5	4.5	23.1	14.2	0.7	43.3	11.2
3年未満(N=54)	20.4	11.1	18.5	25.9	7.4	3.7	20.4	18.5	1.9	46.3	3.7
3年～10年未満(N=71)	21.1	8.5	22.5	25.4	16.9	8.5	21.1	16.9	0.0	45.1	5.6
10年以上(N=1,067)	13.7	8.6	18.3	18.3	8.1	5.1	20.1	13.4	1.4	47.0	7.7

(5) ヘイトスピーチについての認識

《問 20》 ヘイトスピーチ（特定の民族や国籍の人々を排斥する不当な差別的言動）について、どのように思いますか。（○はいくつでも）

●全体でみると、「不愉快で許せないと思った」が 44.8%で最も多くなっており、以下、「日本に対する印象が悪くなると思った」が 37.8%、「ヘイトスピーチをされる側に問題があると思った」が 11.4%と続いている。

●性別にみると、男性は「日本に対する印象が悪くなると思った」が、女性は「不愉快で許せないと思った」が最も多くなっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「日本に対する印象が悪くなると思った」が、その他の年代は「不愉快で許せないと思った」が最も多くなっている（30 歳代は「日本に対する印象が悪くなると思った」と同率）。

●居住地域別にみると、すべての地域において「不愉快で許せないと思った」が最も多くなっている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「不愉快で許せないと思った」が最も多くなっている。

■ハイトスピーチについての認識（複数回答）

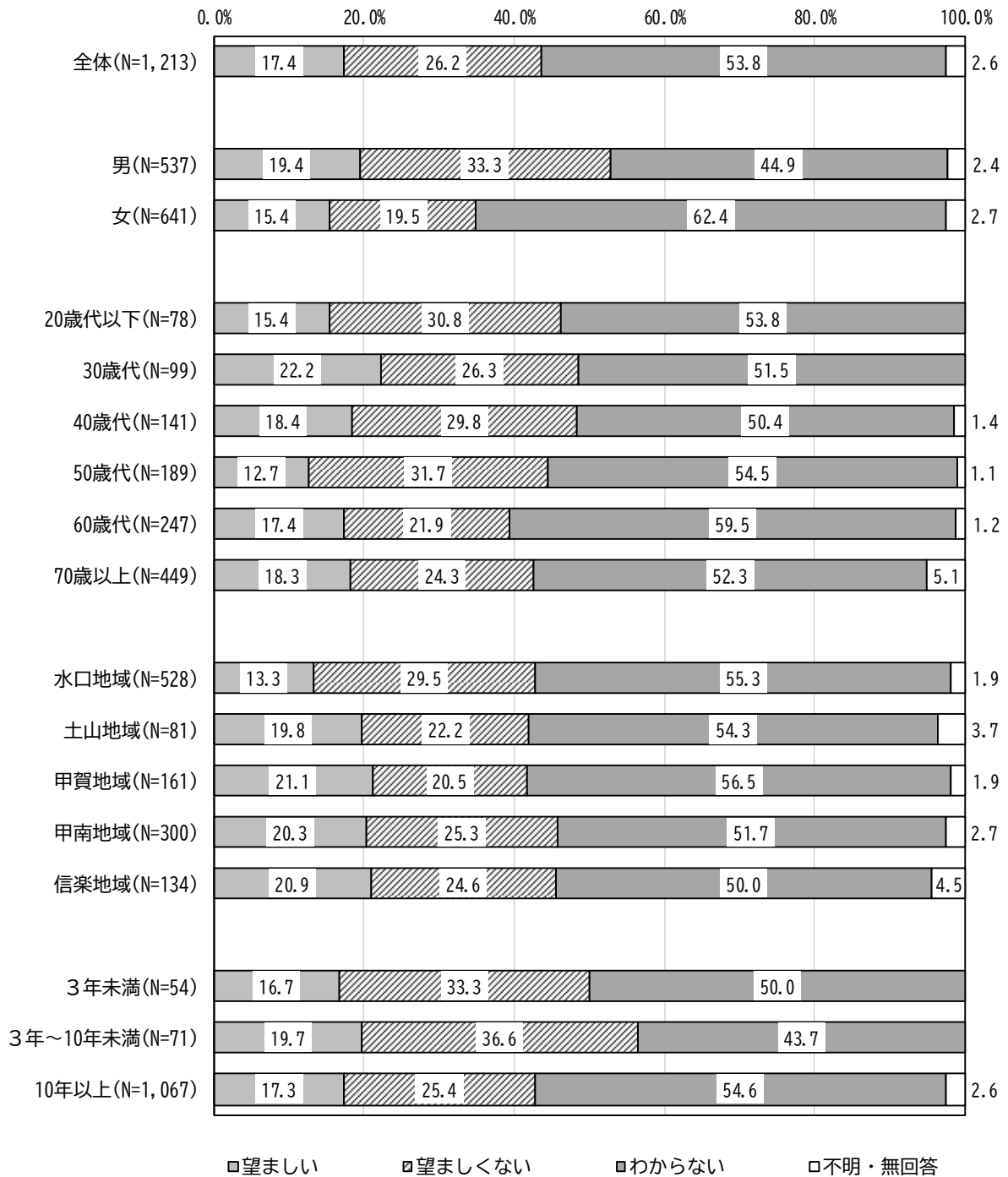
	不愉快で許せないと思った	日本に対する印象が悪くなると思った	自分には関係ないと思った	ハイトスピーチをされる側に問題があると思った	表現の自由の範囲内のものだと思う	その他	何も思わない	不明・無回答
全体(N=1, 213)	44.8	37.8	5.7	11.4	6.3	5.7	8.2	8.2
男(N=537)	41.3	41.5	5.6	15.8	5.6	5.6	9.3	6.5
女(N=641)	47.6	35.1	5.6	7.8	7.2	5.8	7.2	9.4
20歳代以下(N=78)	44.9	46.2	5.1	10.3	6.4	2.6	15.4	0.0
30歳代(N=99)	40.4	40.4	5.1	11.1	3.0	9.1	12.1	3.0
40歳代(N=141)	49.6	32.6	6.4	9.2	5.0	8.5	8.5	1.4
50歳代(N=189)	46.0	34.9	4.8	9.5	5.8	8.5	11.6	4.2
60歳代(N=247)	50.6	36.4	5.3	12.6	6.1	5.7	5.7	4.9
70歳以上(N=449)	40.5	39.6	6.2	12.5	7.8	3.3	5.8	16.0
水口地域(N=528)	42.6	39.0	5.3	13.4	4.7	5.3	9.3	6.8
土山地域(N=81)	39.5	35.8	14.8	8.6	6.2	3.7	9.9	8.6
甲賀地域(N=161)	44.7	32.3	7.5	6.2	6.2	8.1	6.8	11.2
甲南地域(N=300)	50.7	38.0	3.3	11.3	8.3	6.7	7.3	6.0
信楽地域(N=134)	43.3	41.0	4.5	11.9	9.0	3.7	6.0	13.4
3年未満(N=54)	44.4	35.2	5.6	7.4	9.3	9.3	13.0	3.7
3年～10年未満(N=71)	38.0	31.0	2.8	11.3	2.8	7.0	18.3	5.6
10年以上(N=1, 067)	45.5	38.6	5.9	11.6	6.4	5.5	7.3	8.2

(6) 市内に外国人が増えることについて

「問 21」 市内に外国人が増えることをどう思いますか。(○は1つ)

- 全体でみると、「わからない」が53.8%で最も多くなっており、以下、「望ましくない」が26.2%、「望ましい」が17.4%と続いている。
- 「わからない」を除いて性別にみると、男性、女性ともに「望ましくない」が最も多くなっている。「望ましい」の割合をみると、男性が19.4%、女性が15.4%となっている。「望ましくない」の割合をみると、男性が33.3%、女性が19.5%となっている。
- 「わからない」を除いて年代別にみると、すべての年代において「望ましくない」が最も多くなっている。「望ましい」の割合をみると、最も多いのは30歳代で22.2%、以下、40歳代で18.4%、70歳以上で18.3%と続いている。「望ましくない」の割合をみると、最も多いのは50歳代で31.7%、以下、20歳代以下で30.8%、40歳代で29.8%と続いている。
- 「わからない」を除いて居住地域別にみると、甲賀地域は「望ましい」が、その他の地域は「望ましくない」が最も多くなっている。「望ましい」の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で21.1%、以下、信楽地域で20.9%、甲南地域で20.3%、土山地域で19.8%、水口地域で13.3%と続いている。「望ましくない」の割合をみると、最も多いのは水口地域で29.5%、以下、甲南地域で25.3%、信楽地域で24.6%、土山地域で22.2%、甲賀地域で20.5%と続いている。
- 「わからない」を除いて居住年数別にみると、すべての年数において「望ましくない」が最も多くなっている。「望ましい」の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で19.7%、以下、10年以上で17.3%、3年未満で16.7%と続いている。「望ましくない」の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で36.6%、以下、3年未満で33.3%、10年以上で25.4%と続いている。

■市内に外国人が増えることについて（単数回答）



(7) 市内に外国人が増えることについて望ましい理由

<p><問 21-1> 問 21 で「1」と回答された方におたずねします。 望ましいと思う理由を教えてください。(○はいくつでも)</p>

●全体でみると、「働き手や消費者が増える」が 64.5%で最も多くなっており、以下、「人口が増えて町に活気が出る（地域の活性化につながる）」が 63.5%、「外国の文化・生活習慣に触れる機会が増える」が 46.4%と続いている。

●性別にみると、男性は「人口が増えて町に活気が出る（地域の活性化につながる）」が、女性は「働き手や消費者が増える」が最も多くなっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「外国語を学ぶ機会が増える」が、50 歳代は「外国の文化・生活習慣に触れる機会が増える」が、70 歳以上は「人口が増えて町に活気が出る（地域の活性化につながる）」が、その他の年代は「働き手や消費者が増える」が最も多くなっている。

●居住地域別にみると、信楽地域は「人口が増えて町に活気が出る（地域の活性化につながる）」が、その他の地域は「働き手や消費者が増える」が最も多くなっている（水口地域、土山地域は「人口が増えて町に活気が出る（地域の活性化につながる）」と同率）。

●居住年数別にみると、10 年以上は「人口が増えて町に活気が出る（地域の活性化につながる）」が、その他の年数は「外国の文化・生活習慣に触れる機会が増える」が最も多くなっている。

■市内に外国人が増えることについて望ましい理由（複数回答）

	外国の文化・生活習慣に触れる機会が増える	外国人の友人、知人をつくる機会が増える	外国語を学ぶ機会が増える	人口が増えて町に活気が出る（地域の活性化につながる）	働き手や消費者が増える	地域活動を支える担い手が増える	その他	不明・無回答
全体(N=211)	46.4	37.0	22.7	63.5	64.5	42.7	3.3	0.0
男(N=104)	43.3	40.4	26.9	66.3	63.5	47.1	5.8	0.0
女(N=99)	50.5	33.3	19.2	59.6	64.6	39.4	1.0	0.0
20歳代以下(N=12)	50.0	50.0	66.7	33.3	41.7	33.3	0.0	0.0
30歳代(N=22)	54.5	54.5	31.8	54.5	68.2	36.4	4.5	0.0
40歳代(N=26)	38.5	30.8	23.1	57.7	80.8	46.2	7.7	0.0
50歳代(N=24)	70.8	37.5	20.8	66.7	62.5	29.2	4.2	0.0
60歳代(N=43)	41.9	32.6	14.0	67.4	83.7	51.2	0.0	0.0
70歳以上(N=82)	41.5	35.4	19.5	68.3	51.2	45.1	3.7	0.0
水口地域(N=70)	42.9	27.1	25.7	58.6	58.6	42.9	7.1	0.0
土山地域(N=16)	31.3	56.3	25.0	68.8	68.8	50.0	0.0	0.0
甲賀地域(N=34)	35.3	26.5	8.8	67.6	76.5	47.1	0.0	0.0
甲南地域(N=61)	55.7	42.6	24.6	57.4	59.0	29.5	3.3	0.0
信楽地域(N=28)	57.1	53.6	28.6	78.6	71.4	64.3	0.0	0.0
3年未満(N=9)	77.8	55.6	22.2	55.6	66.7	22.2	0.0	0.0
3年～10年未満(N=14)	64.3	42.9	50.0	42.9	57.1	35.7	7.1	0.0
10年以上(N=185)	43.8	35.7	20.5	65.4	64.9	44.9	3.2	0.0

(8) 市内に外国人が増えることについて望ましくない理由

<問 21-2> 問 21 で「2」と回答された方におたずねします。
望ましくないと思う理由を教えてください。(○はいくつでも)

- 全体でみると、「近隣とのトラブルが増えそう」が 69.8%で最も多くなっており、以下、「文化・生活習慣が違う」が 58.8%、「意思の疎通が難しい」が 51.9%と続いている。
- 性別にみると、男性、女性ともに「近隣とのトラブルが増えそう」が最も多くなっている。
- 年代別にみると、すべての年代において「近隣とのトラブルが増えそう」が最も多くなっている。
- 居住地域別にみると、甲賀地域は「文化・生活習慣が違う」が、その他の地域は「近隣とのトラブルが増えそう」が最も多くなっている。
- 居住年数別にみると、すべての年数において「近隣とのトラブルが増えそう」が最も多くなっている。

■市内に外国人が増えることについて望ましくない理由（複数回答）

	近隣との トラブルが増えそう	文化・生活習慣が 違う	意思の疎通が 難しい	社会的負担が 増える	外国人がコミュニ ティを形成し、 社会的分断が進む	外国人材に仕事を 奪われる	その他	不明・無 回答
全体(N=318)	69.8	58.8	51.9	28.6	30.8	11.6	9.7	0.0
男(N=179)	73.2	62.6	55.3	30.2	34.6	10.6	8.9	0.0
女(N=125)	68.0	54.4	46.4	26.4	26.4	10.4	10.4	0.0
20歳代以下(N=24)	62.5	45.8	50.0	41.7	25.0	25.0	20.8	0.0
30歳代(N=26)	73.1	57.7	34.6	34.6	30.8	15.4	15.4	0.0
40歳代(N=42)	69.0	64.3	54.8	28.6	33.3	7.1	14.3	0.0
50歳代(N=60)	70.0	63.3	50.0	33.3	36.7	16.7	6.7	0.0
60歳代(N=54)	83.3	72.2	59.3	24.1	42.6	13.0	9.3	0.0
70歳以上(N=109)	63.3	50.5	51.4	22.0	22.0	4.6	5.5	0.0
水口地域(N=156)	69.9	61.5	51.9	29.5	29.5	11.5	8.3	0.0
土山地域(N=18)	77.8	55.6	44.4	27.8	27.8	5.6	5.6	0.0
甲賀地域(N=33)	66.7	75.8	57.6	27.3	24.2	12.1	18.2	0.0
甲南地域(N=76)	69.7	53.9	53.9	30.3	36.8	7.9	9.2	0.0
信楽地域(N=33)	66.7	42.4	42.4	18.2	30.3	18.2	12.1	0.0
3年未満(N=18)	72.2	55.6	38.9	27.8	44.4	22.2	16.7	0.0
3年～10年未満(N=26)	84.6	73.1	61.5	38.5	38.5	19.2	11.5	0.0
10年以上(N=271)	67.9	57.9	51.3	27.3	29.2	9.6	9.2	0.0

5 人権に関することについて

(1) 「人権が尊重されるまち」になっていると感じるか

《問 22》 「人権が尊重されるまち」になっていると感じられますか。(○は1つ)

●全体でみると、「どちらともいえない」が50.3%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえばそう感じる」が29.3%、「どちらかといえばそう感じない」が6.6%、「感じない」が5.3%、「そう感じる」が4.5%と続いている。「そう感じる」と「どちらかといえばそう感じる」を合わせた『感じる』は33.8%となっている。

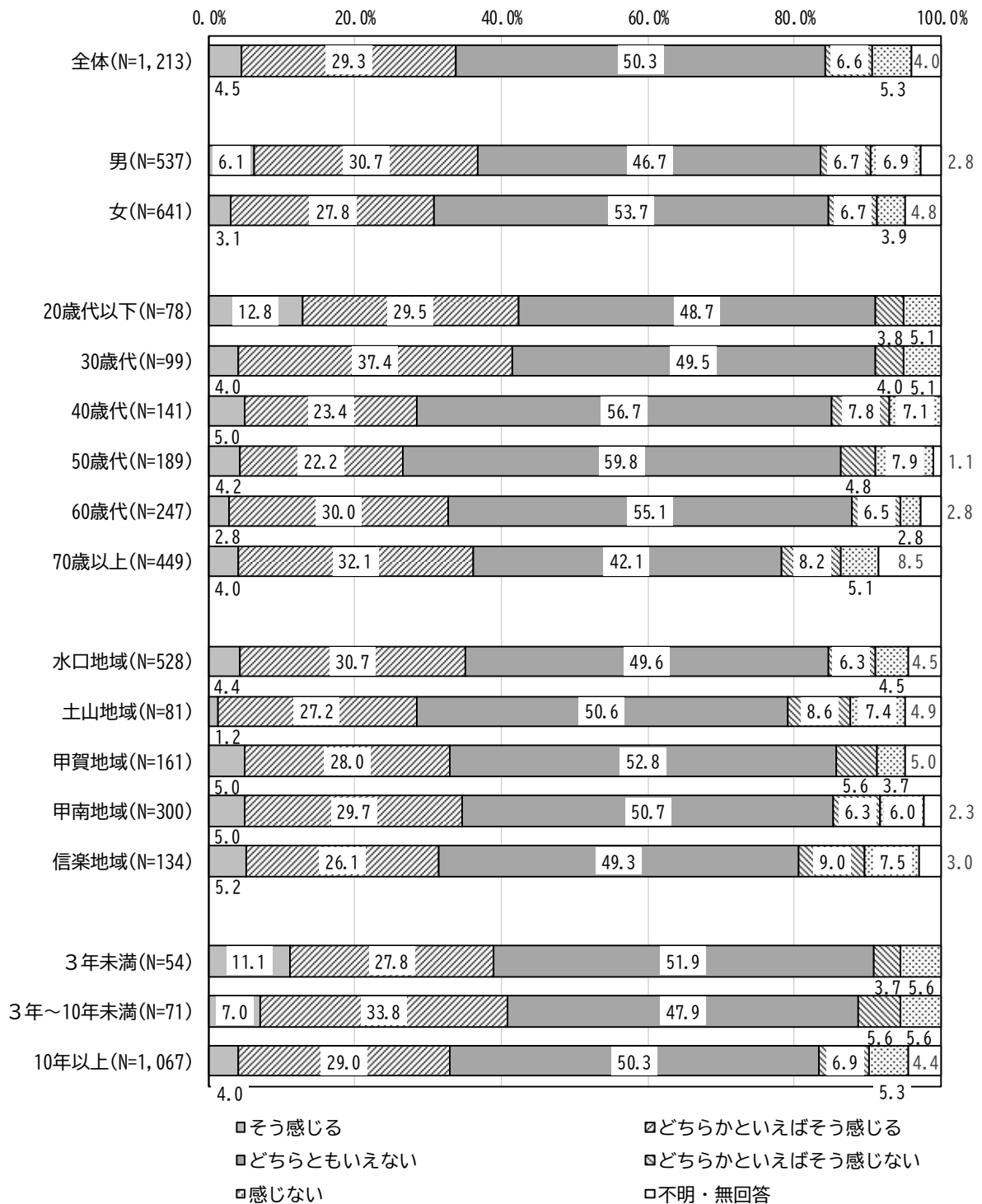
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『感じる』の割合をみると、男性は36.8%、女性は30.9%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『感じる』の割合をみると、最も多いのは20歳代以下で42.3%、以下、30歳代で41.4%、70歳以上で36.1%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『感じる』の割合をみると、最も多いのは水口地域で35.1%、以下、甲南地域で34.7%、甲賀地域で33.0%、信楽地域で31.3%、土山地域で28.4%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『感じる』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で40.8%、以下、3年未満で38.9%、10年以上で33.0%と続いている。

■「人権が尊重されるまち」になっていると感じるか（単数回答）

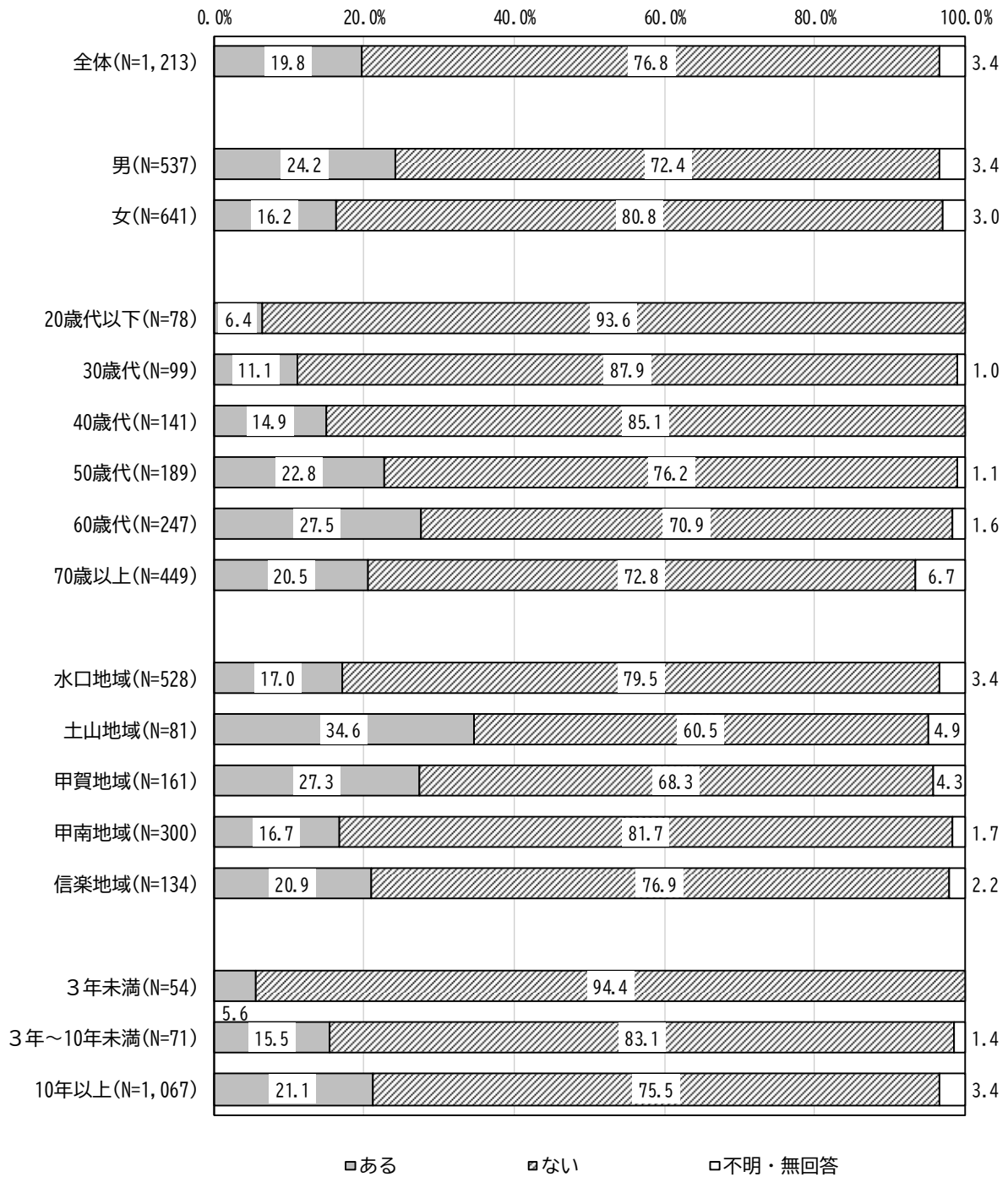


(2) 人権に関する取組の参加状況（過去3年以内）

《問 23》 過去3年以内に、さまざまな団体が行う人権に関する取り組みに参加されたことがありますか。（人権に関する取り組みとは、人権尊重のまちづくり懇談会、セミナー、パネル展等のことです。）（○は1つ）

- 全体でみると、「ある」が19.8%、「ない」が76.8%となっている。
- 性別にみると、男性、女性ともに「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、男性は24.2%、女性は16.2%となっている。
- 年代別にみると、すべての年代において「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、最も多いのは60歳代で27.5%、以下、50歳代で22.8%、70歳以上で20.5%と続いている。
- 居住地域別にみると、すべての地域において「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、最も多いのは土山地域で34.6%、以下、甲賀地域で27.3%、信楽地域で20.9%、水口地域で17.0%、甲南地域で16.7%と続いている。
- 居住年数別にみると、すべての年数において「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、最も多いのは10年以上で21.1%、以下、3年～10年未満で15.5%、3年未満で5.6%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

■人権に関する取組の参加状況（過去3年以内）（単数回答）



(3) 人権の尊重されるまちの実現に向けた考え方

「問 24」 人権の尊重されるまちの実現に向けて、どのようにお考えですか。(○は1つ)

●全体でみると、「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」が58.5%で最も多くなっており、以下、「実現に向けて、自分のできる限りの努力をしたい」が17.4%、「特に考えていない」が11.1%、「自分ではどうにもならないので、なりゆきにまかせる」が6.7%、「差別はないので、人権問題は存在しない」が2.1%、「できるだけ避けて通りたい」が0.5%と続いている。

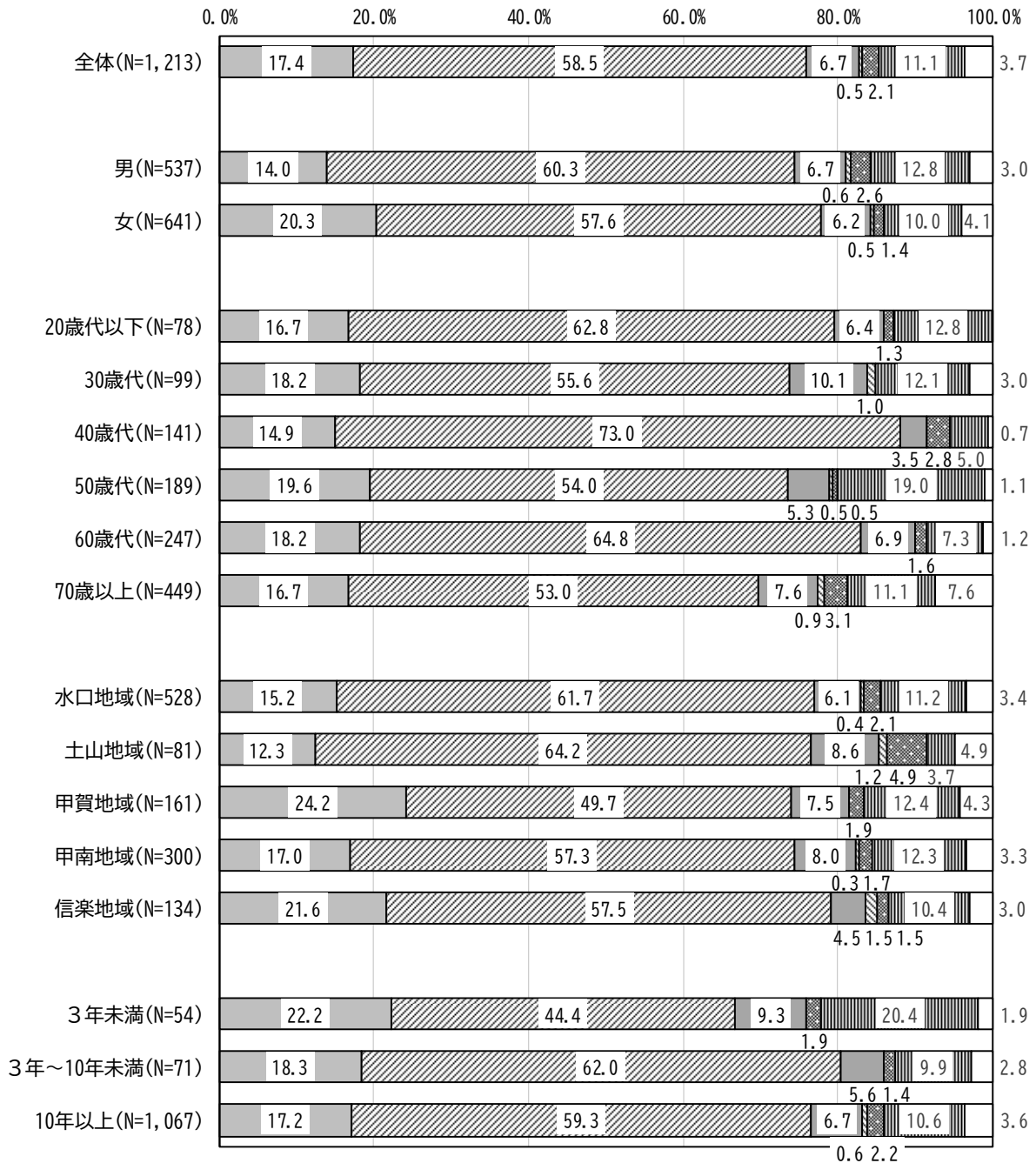
●性別にみると、男性、女性ともに「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」が最も多くなっている。「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」の割合をみると、男性が60.3%、女性が57.6%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」が最も多くなっている。「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」の割合をみると、最も多いのは40歳代で73.0%、以下、60歳代で64.8%、20歳代以下で62.8%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」が最も多くなっている。「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」の割合をみると、最も多いのは土山地域で64.2%、以下、水口地域で61.7%、信楽地域で57.5%、甲南地域で57.3%、甲賀地域で49.7%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」が最も多くなっている。「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で62.0%、以下、10年以上で59.3%、3年未満で44.4%と続いている。

■人権の尊重されるまちの実現に向けた考え方（単数回答）



- 実現に向けて、自分のできる限りの努力をしたい
- ▣特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい
- ▢自分ではどうにもならないので、なりゆきにまかせる
- ▣できるだけ避けて通りたい
- ▣差別はないので、人権問題は存在しない
- ▣特に考えていない
- 不明・無回答

6 市の情報発信について

《問 25》 市に関する次の情報を、どの程度読んだり、見たり、また音声等で聞いたりしておられますか。（それぞれ○は1つ）

市に関する情報の入手について、「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』の割合は、「広報紙「広報こうか」」で82.1%と最も多くなっており、以下、「区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（文書、チラシ、ポスターなど）」で71.1%、「市議会だより」で58.8%と続いている。

「必ず読む、見る、聞く」が最も多いのは「広報紙「広報こうか」」で29.2%、以下、「区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（文書、チラシ、ポスターなど）」で25.0%、「市議会だより」で10.6%と続いている。

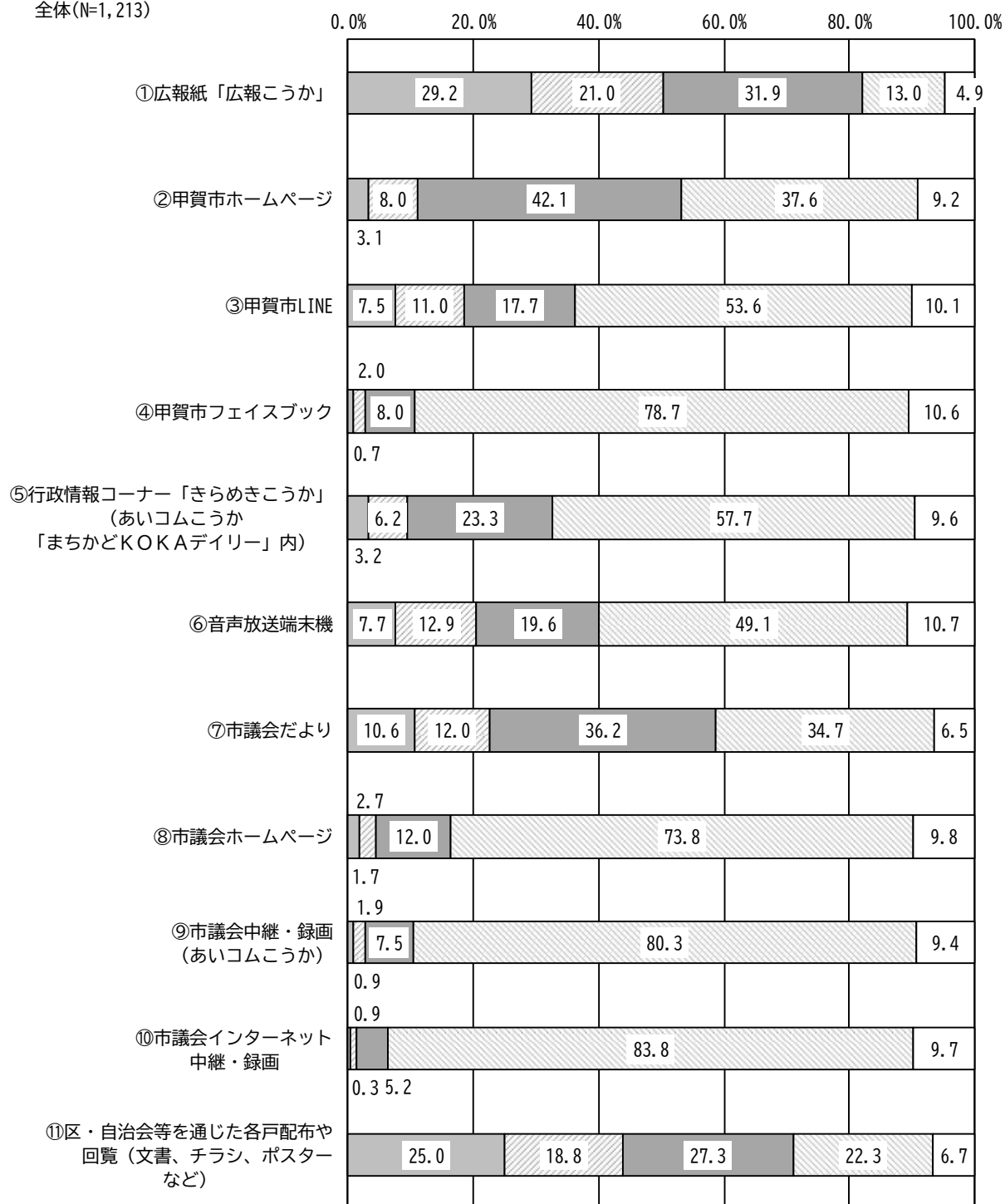
「よく読む、見る、聞く」が最も多いのは「広報紙「広報こうか」」で21.0%、以下、「区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（文書、チラシ、ポスターなど）」で18.8%、「音声放送端末機」で12.9%と続いている。

「たまに読む、見る、聞く」が最も多いのは「甲賀市ホームページ」で42.1%、以下、「市議会だより」で36.2%、「広報紙「広報こうか」」で31.9%と続いている。

「読まない、見ない、聞かない」が最も多いのは「市議会インターネット中継・録画」で83.8%、以下、「市議会中継・録画（あいコムこうか）」で80.3%、「甲賀市フェイスブック」で78.7%と続いている。

市に関する情報の入手

全体(N=1,213)



□必ず読む、見る、聞く

□よく読む、見る、聞く

□たまに読む、見る、聞く

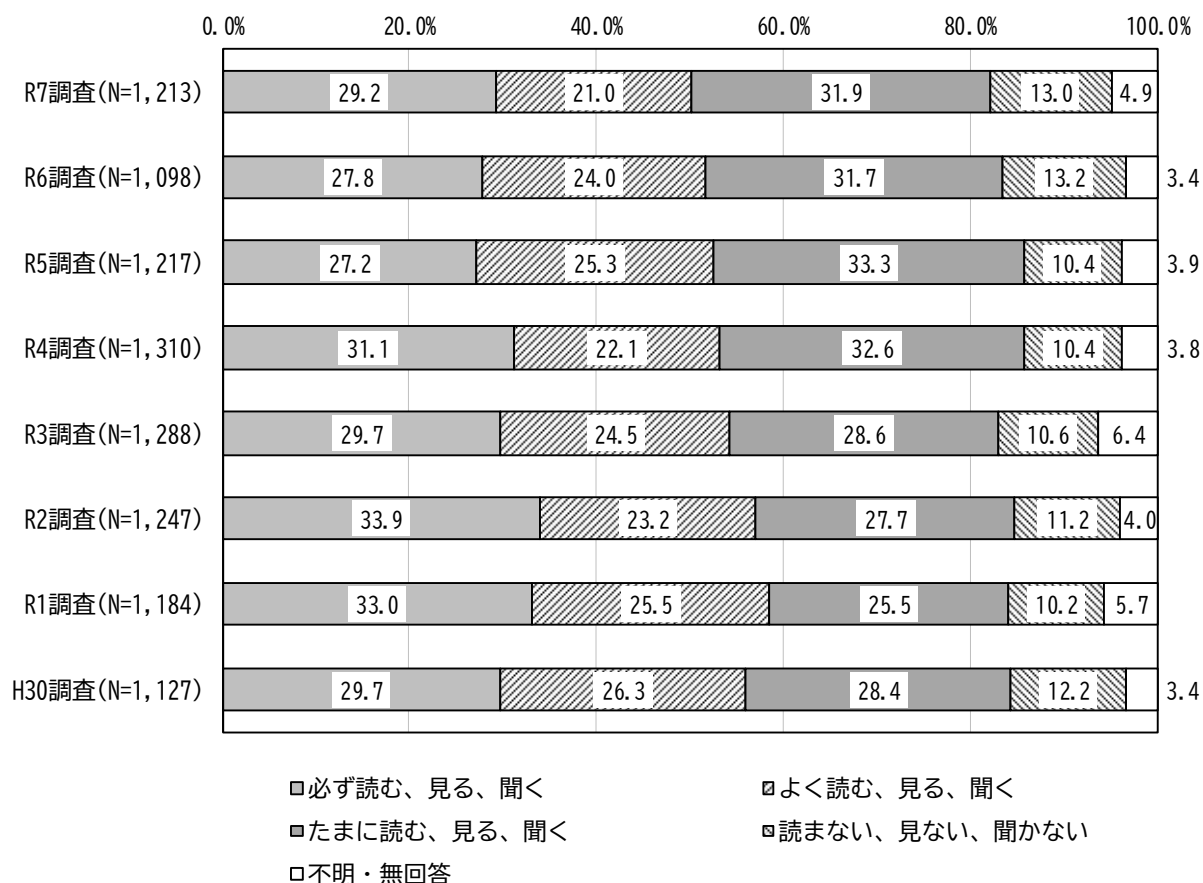
□読まない、見ない、聞かない

□不明・無回答

① 広報紙「広報こうか」

平成 30 年度調査からの推移をみると、令和 4 年度から「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』の割合は減少している。

①広報紙「広報こうか」（単数回答）



●全体でみると、「たまに読む、見る、聞く」が31.9%で最も多くなっており、以下、「必ず読む、見る、聞く」が29.2%、「よく読む、見る、聞く」が21.0%、「読まない、見ない、聞かない」が13.0%と続いている。『読む、見る、聞く』は82.1%となっている。

●性別にみると、男性は「たまに読む、見る、聞く」が、女性は「必ず読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は 81.6%、女性は 82.9%となっている。

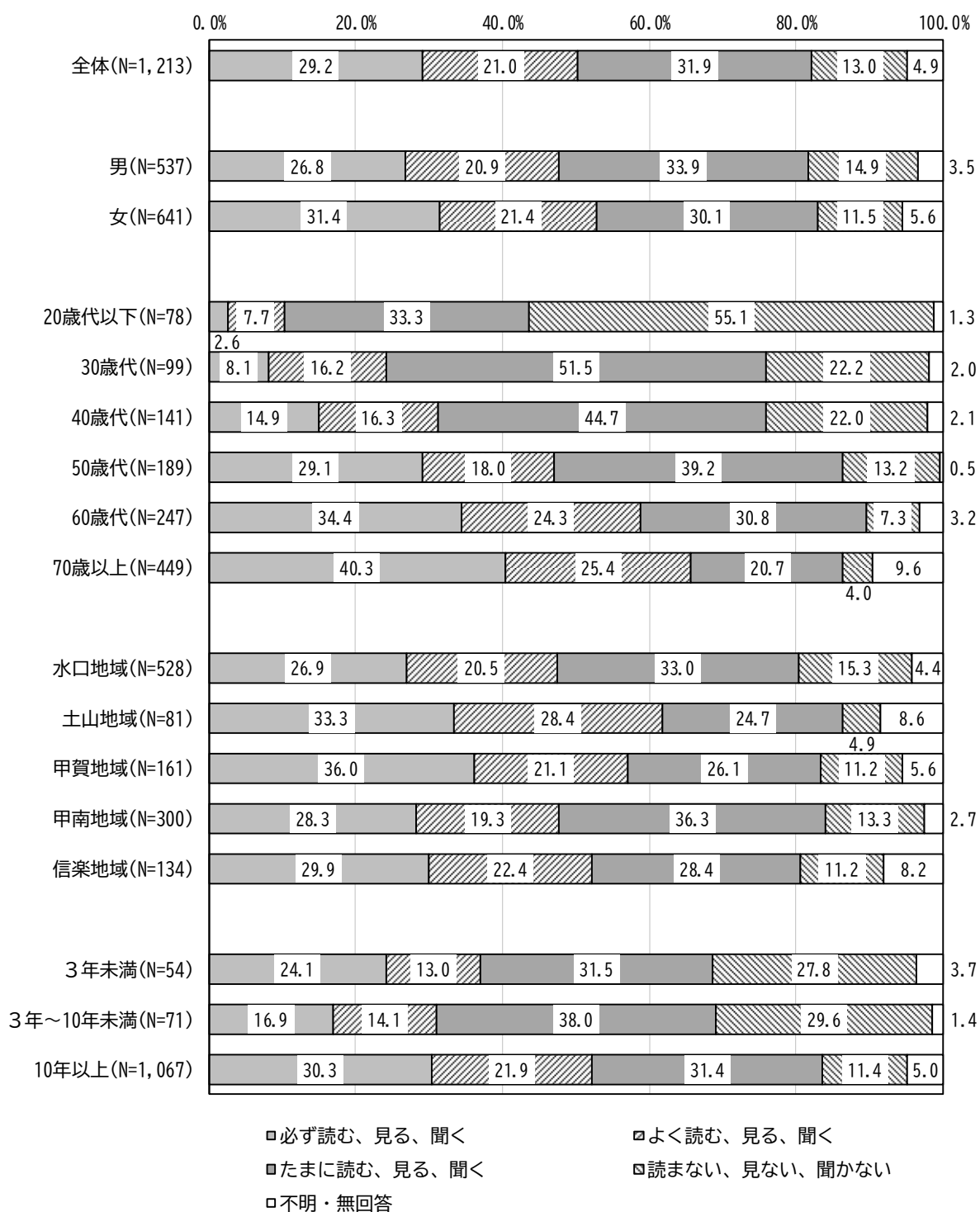
●年代別にみると、60 歳代、70 歳以上は「必ず読む、見る、聞く」が、20 歳代以下は「読まない、見ない、聞かない」が、その他の年代は「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 89.5%、以下、70 歳以上で 86.4%、50 歳代で 86.3%と続いている。

●居住地域別にみると、水口地域、甲南地域は「たまに読む、見る、聞く」が、その他の地域は「必ず読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは土山地域で 86.4%、以下、甲南地域で 83.9%、甲賀地域で 83.2%、信楽地域で 80.7%、水口地域で

80.4%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。
『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは10年以上で83.6%、以下、3年～10年未満で69.0%、3年未満で68.6%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

①広報紙「広報こうか」（単数回答）

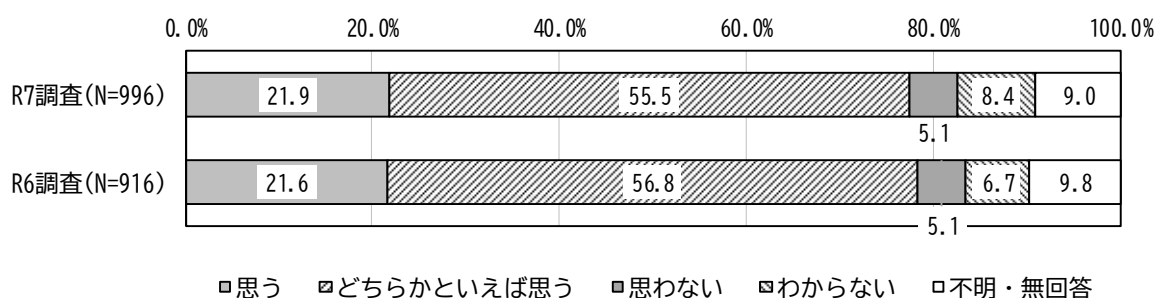


【広報紙「広報こうか」のわかりやすさ】

広報紙「広報こうか」を「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」と回答された方を対象に、わかりやすさ（読みやすい、見やすい、聞きやすい）についてたずねました。

昨年と比較すると、「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた『わかりやすい』の割合は僅かに減少している。

①広報紙「広報こうか」（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば思う」が55.5%で最も多くなっており、以下、「思う」が21.9%、「わからない」が8.4%、「思わない」が5.1%と続いている。『わかりやすい』は77.4%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、男性は76.1%、女性は78.6%となっている。

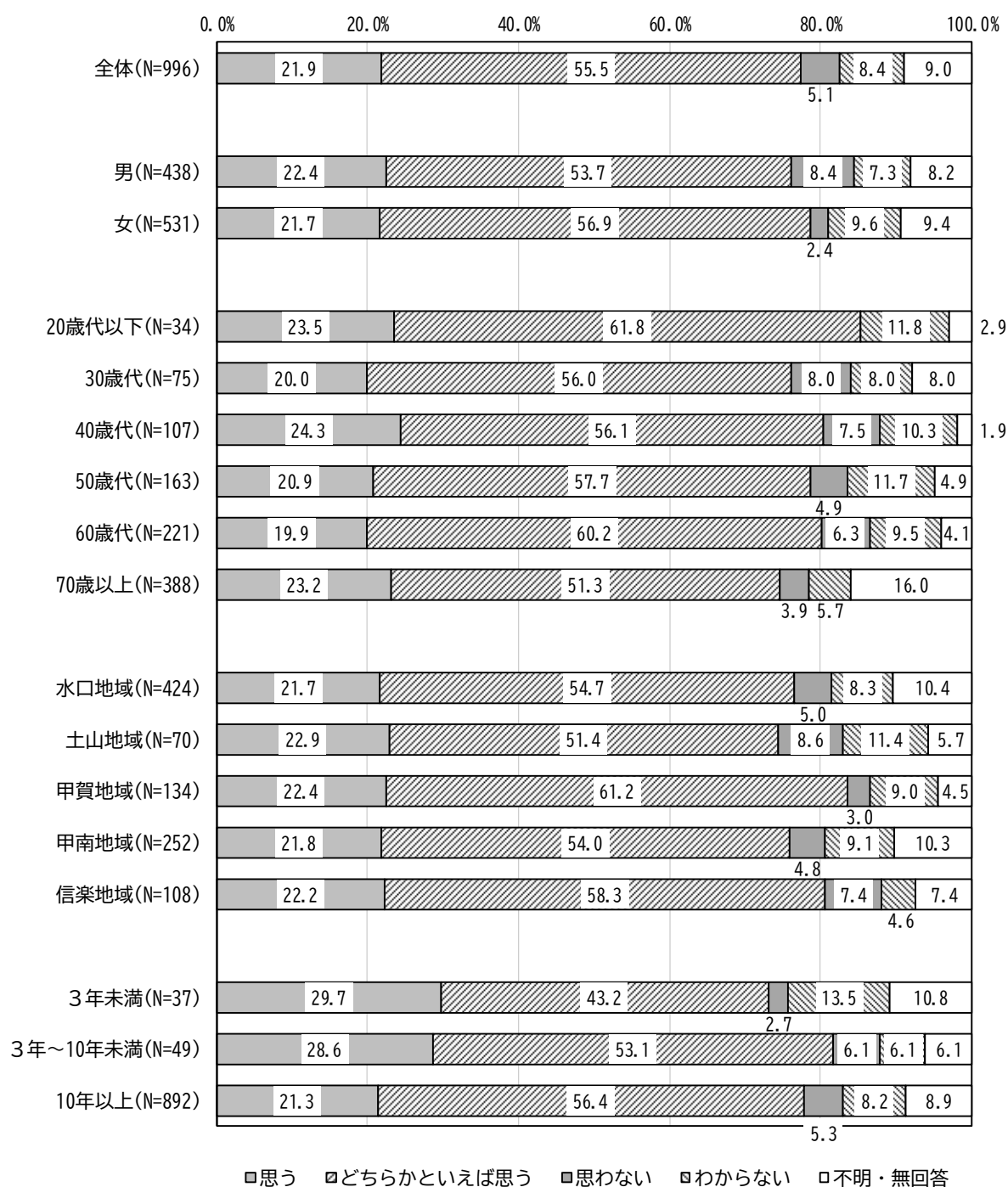
●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは20歳代以下で85.3%、以下、40歳代で80.4%、60歳代で80.1%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で83.6%、以下、信楽地域で80.5%、水口地域で76.4%、甲南地域で75.8%、土山地域で74.3%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で81.7%、以下、10年以上で77.7%、3年未満で72.9%と続いている。

【広報紙「広報こうか」のわかりやすさ】

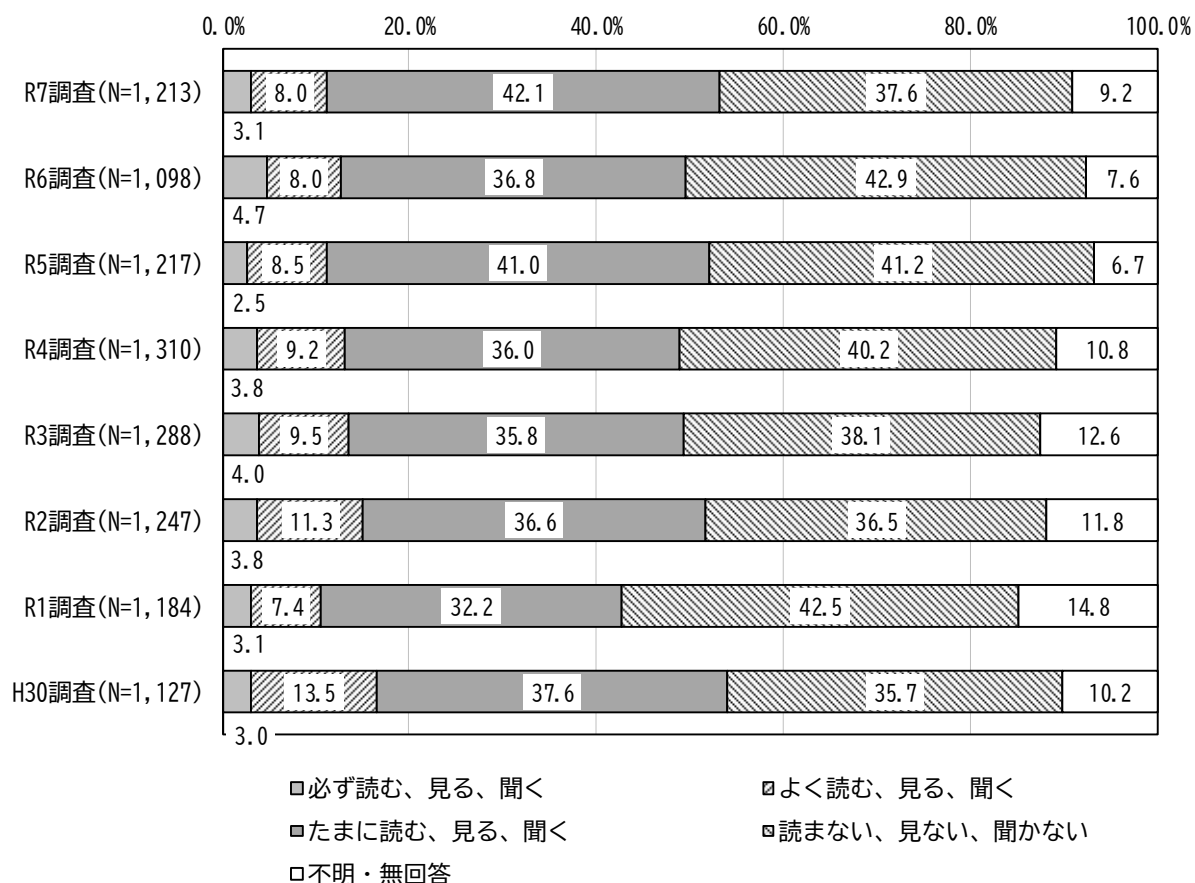
①広報紙「広報こうか」（単数回答）



② 甲賀市ホームページ

平成 30 年度調査からの推移をみると、概ね同じ傾向ではあるが、「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』の割合は、昨年と比較すると増加している。

②甲賀市ホームページ（単数回答）



●全体でみると、「たまに読む、見る、聞く」が42.1%で最も多くなっており、以下、「読まない、見ない、聞かない」が37.6%、「よく読む、見る、聞く」が8.0%、「必ず読む、見る、聞く」が3.1%と続いている。『読む、見る、聞く』は53.2%となっている。

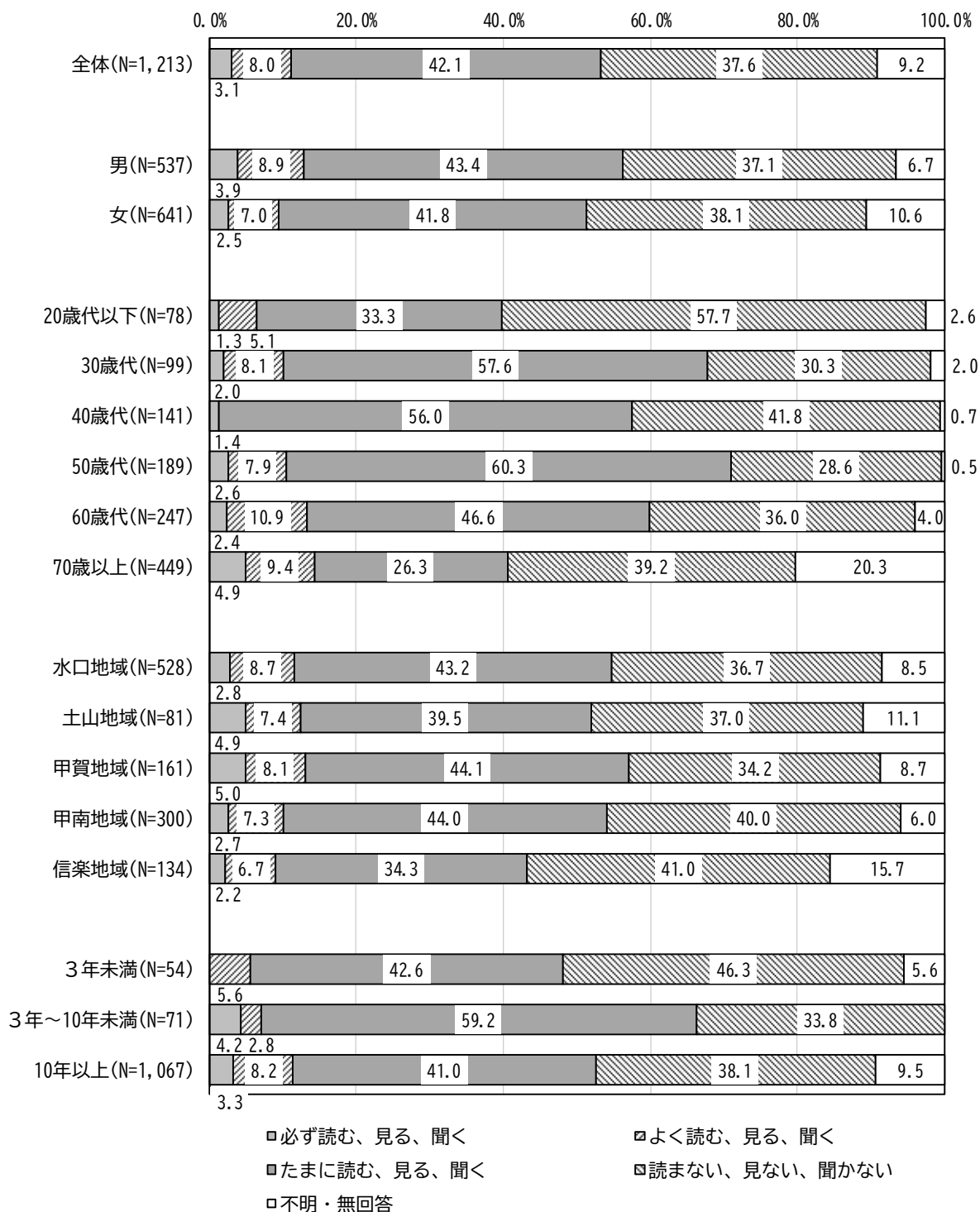
●性別にみると、男性、女性ともに「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は56.2%、女性は51.3%となっている。

●年代別にみると、20歳代以下、70歳以上は「読まない、見ない、聞かない」が、その他の年代は「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは50歳代で70.8%、以下、30歳代で67.7%、60歳代で59.9%と続いている。

●居住地域別にみると、信楽地域は「読まない、見ない、聞かない」が、その他の地域は「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で57.2%、以下、水口地域で54.7%、甲南地域で54.0%、土山地域で51.8%、信楽地域で43.2%と続いている。

●居住年数別にみると、3年未満は「読まない、見ない、聞かない」が、その他の年数は「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で66.2%、以下、10年以上で52.5%、3年未満で48.2%と続いている。

②甲賀市ホームページ（単数回答）

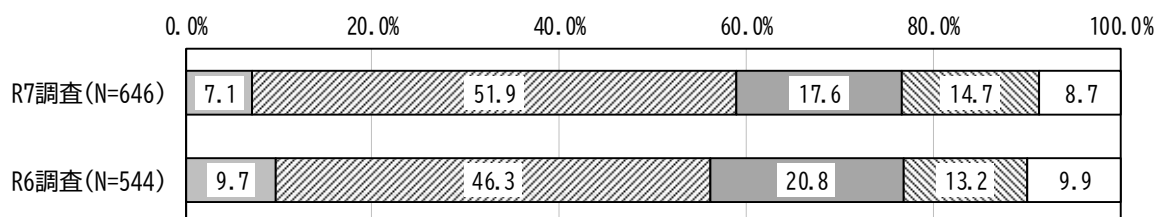


【甲賀市ホームページのわかりやすさ】

甲賀市ホームページを「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」と回答された方を対象に、わかりやすさ（読みやすい、見やすい、聞きやすい）についてたずねました。

昨年と比較すると、「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた『わかりやすい』の割合は増加している。

②甲賀市ホームページ（単数回答）



□思う □どちらかといえば思う □思わない □わからない □不明・無回答

●全体でみると、「どちらかといえば思う」が 51.9%で最も多くなっており、以下、「思わない」が 17.6%、「わからない」が 14.7%、「思う」が 7.1%と続いている。『わかりやすい』は 59.0%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、男性は 60.6%、女性は 57.8%となっている。

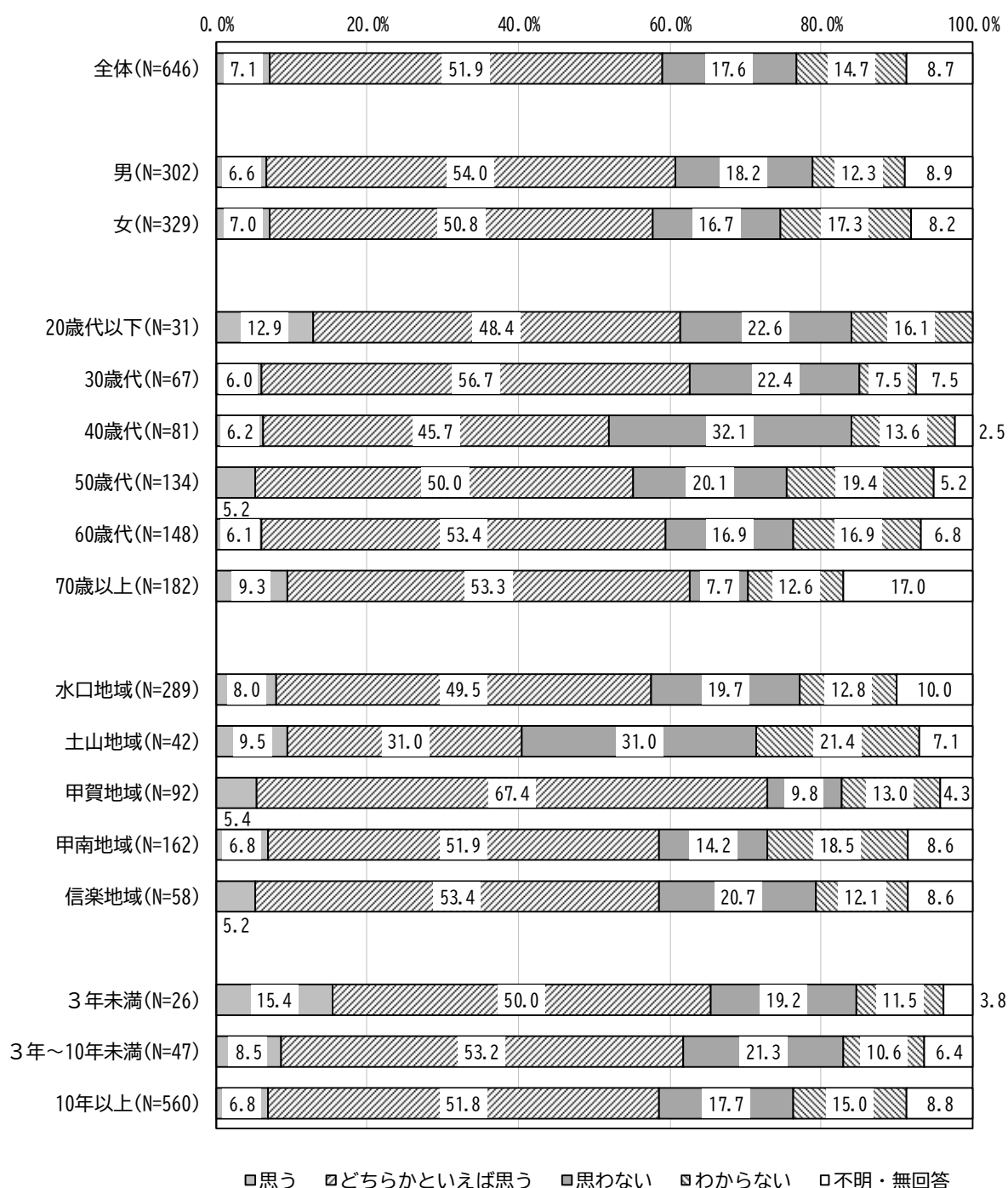
●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 62.7%、以下、70 歳以上で 62.6%、20 歳代以下で 61.3%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている（土山地域は「思わない」と同率）。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 72.8%、以下、甲南地域で 58.7%、信楽地域で 58.6%、水口地域で 57.5%、土山地域で 40.5%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは 3 年未満で 65.4%、以下、3 年～10 年未満で 61.7%、10 年以上で 58.6%と続いており、年数が長くなるにつれて少なくなっている。

【甲賀市ホームページのわかりやすさ】

②甲賀市ホームページ（単数回答）



【甲賀市ホームページのグラフィックのわかりやすさ】

甲賀市ホームページを「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」と回答された方を対象に、わかりやすさ（読みやすい、見やすい）についてたずねました。

●全体でみると、「どちらかといえば思う」が41.3%で最も多くなっており、以下、「わからない」が20.1%、「思う」が12.5%、「思わない」が11.0%と続いている。『わかりやすい』は53.8%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、男性は54.0%、女性は54.1%となっている。

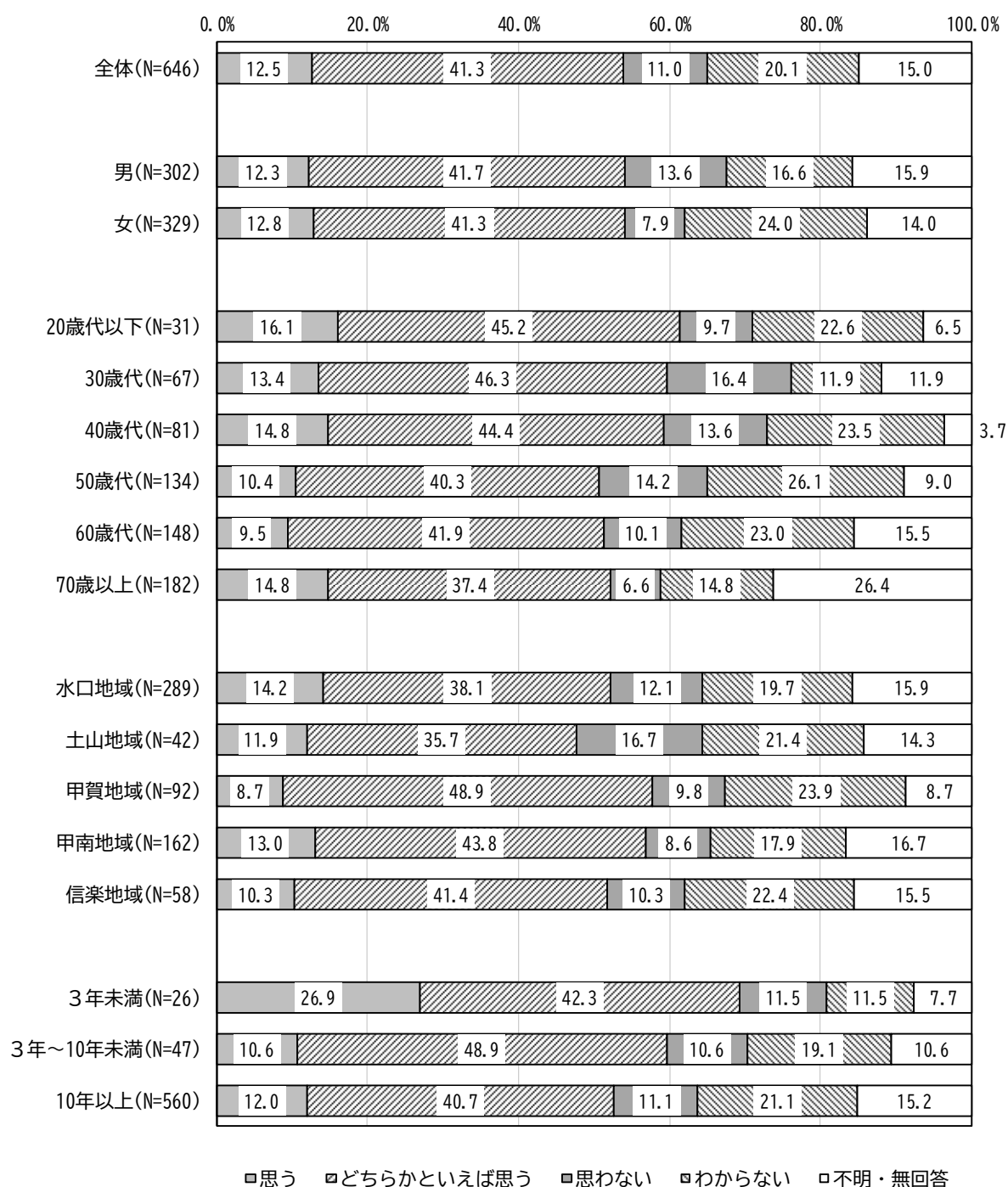
●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは20歳代以下で61.3%、以下、30歳代で59.7%、40歳代で59.2%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で57.6%、以下、甲南地域で56.8%、水口地域で52.3%、信楽地域で51.7%、土山地域で47.6%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは3年未満で69.2%、以下、3年～10年未満で59.5%、10年以上で52.7%と続いており、年数が長くなるにつれて少なくなっている。

【甲賀市ホームページのグラフィックのわかりやすさ】

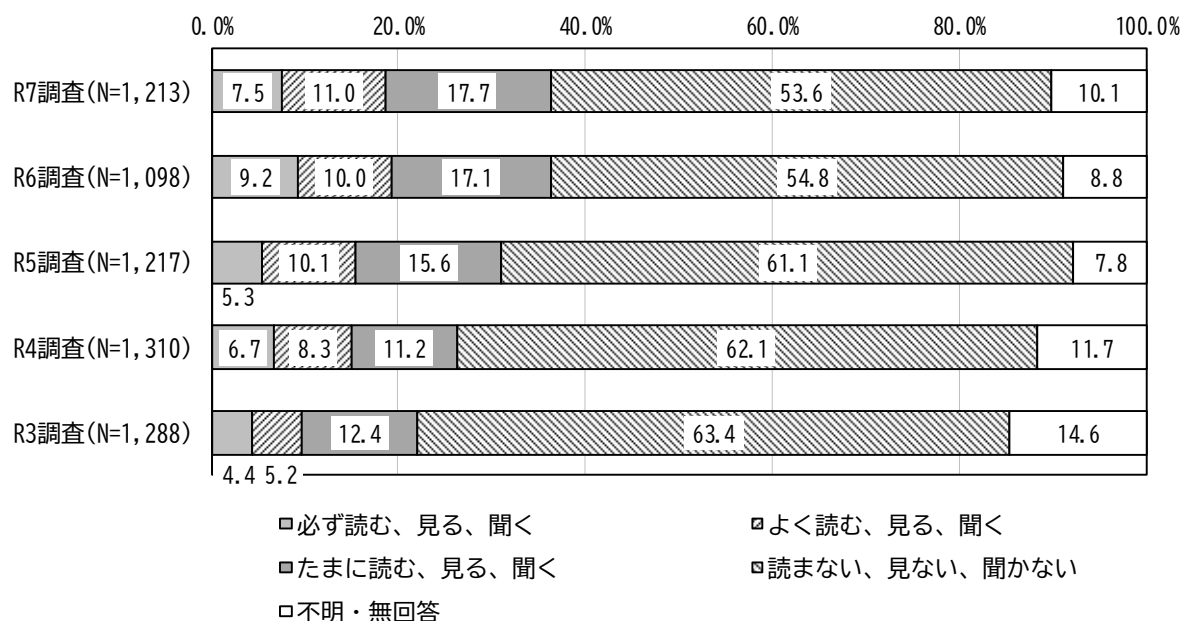
②甲賀市ホームページ（単数回答）



③ 甲賀市 LINE

令和3年度調査からの推移をみると、昨年まで増加傾向にあった「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』の割合の変化は見られない。

③甲賀市LINE（単数回答）



●全体でみると、「読まない、見ない、聞かない」が53.6%で最も多くなっており、以下、「たまに読む、見る、聞く」が17.7%、「よく読む、見る、聞く」が11.0%、「必ず読む、見る、聞く」が7.5%と続いている。『読む、見る、聞く』は36.2%となっている。

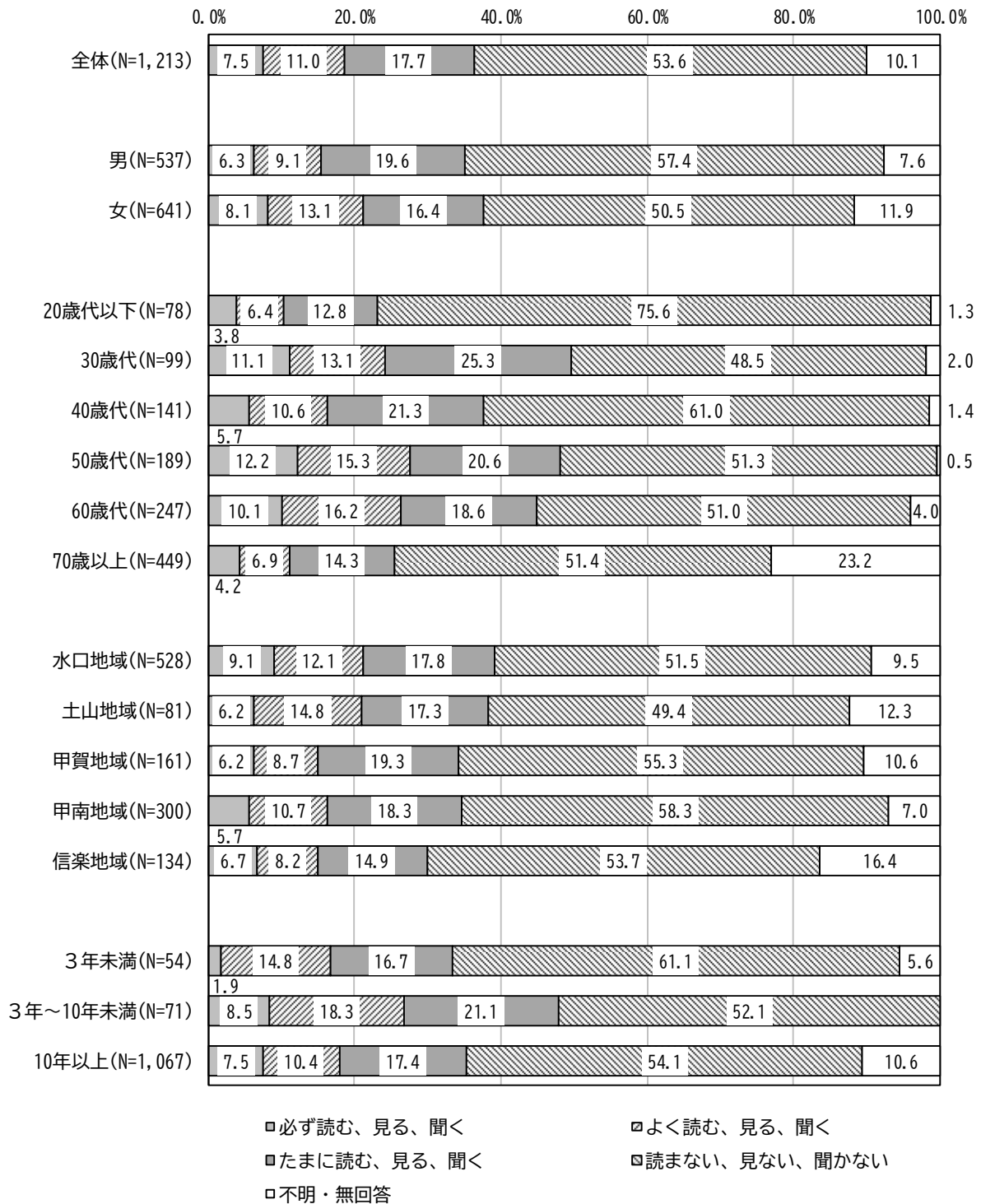
●性別にみると、男性、女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は35.0%、女性は37.6%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは30歳代で49.5%、以下、50歳代で48.1%、60歳代で44.9%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは水口地域で39.0%、以下、土山地域で38.3%、甲南地域で34.7%、甲賀地域で34.2%、信楽地域で29.8%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で47.9%、以下、10年以上で35.3%、3年未満で33.4%と続いている。

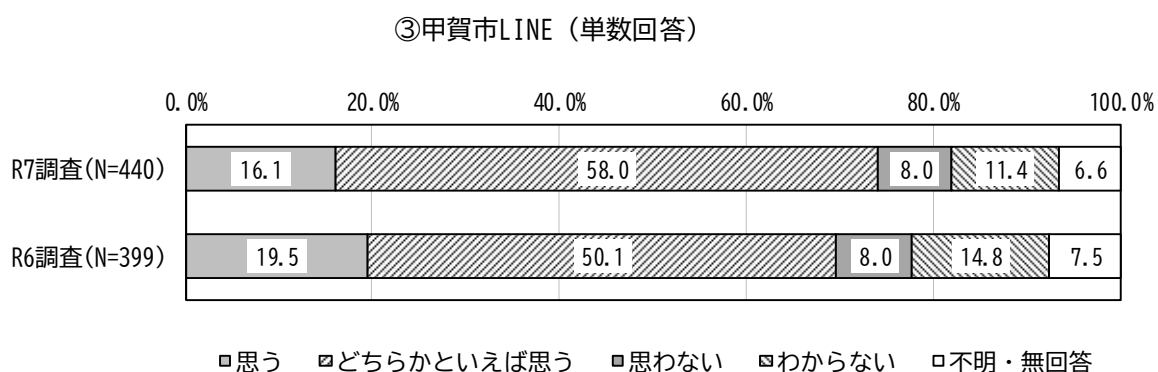
③甲賀市LINE（単数回答）



【甲賀市 LINE のわかりやすさ】

甲賀市 LINE を「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」と回答された方を対象に、わかりやすさ（読みやすい、見やすい、聞きやすい）についてたずねました。

昨年と比較すると、「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた『わかりやすい』の割合は増加している。



●全体でみると、「どちらかといえば思う」が58.0%で最も多くなっており、以下、「思う」が16.1%、「わからない」が11.4%、「思わない」が8.0%と続いている。『わかりやすい』は74.1%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、男性は70.8%、女性は76.7%となっている。

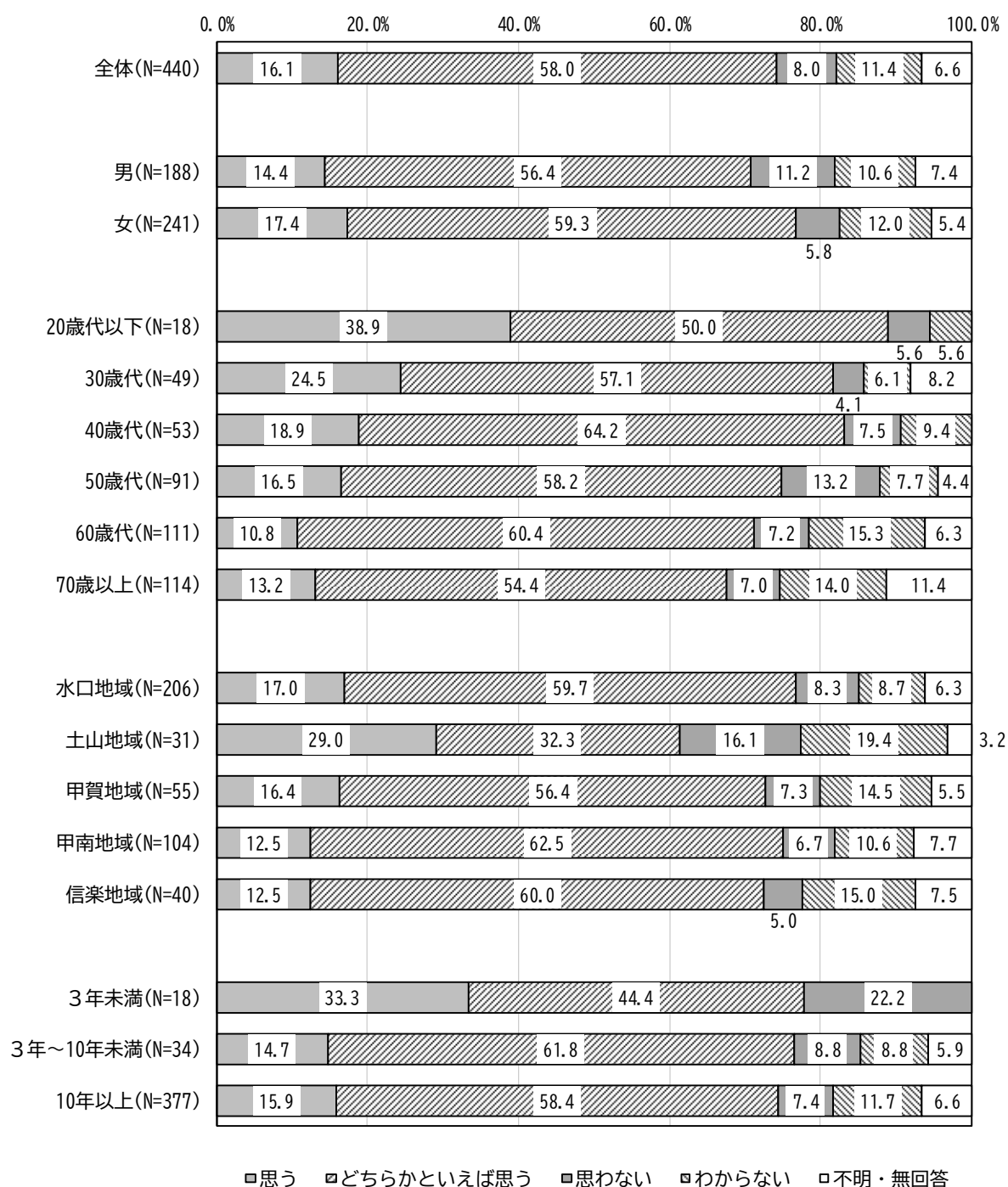
●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは20歳代以下で88.9%、以下、40歳代で83.1%、30歳代で81.6%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは水口地域で76.7%、以下、甲南地域で75.0%、甲賀地域で72.8%、信楽地域で72.5%、土山地域で61.3%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは3年未満で77.7%、以下、3年～10年未満で76.5%、10年以上で74.3%と続いており、年数が長くなるにつれて少なくなっている。

【甲賀市 LINE のわかりやすさ】

③甲賀市LINE（単数回答）



【甲賀市 LINE のグラフィックのわかりやすさ】

甲賀市 LINE を「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」と回答された方を対象に、わかりやすさ（読みやすい、見やすい）についてたずねました。

●全体でみると、「どちらかといえば思う」が 48.9%で最も多くなっており、以下、「思う」「わからない」が 16.4%、「思わない」が 6.4%と続いている。『わかりやすい』は 65.3%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、男性は 62.3%、女性は 68.1%となっている。

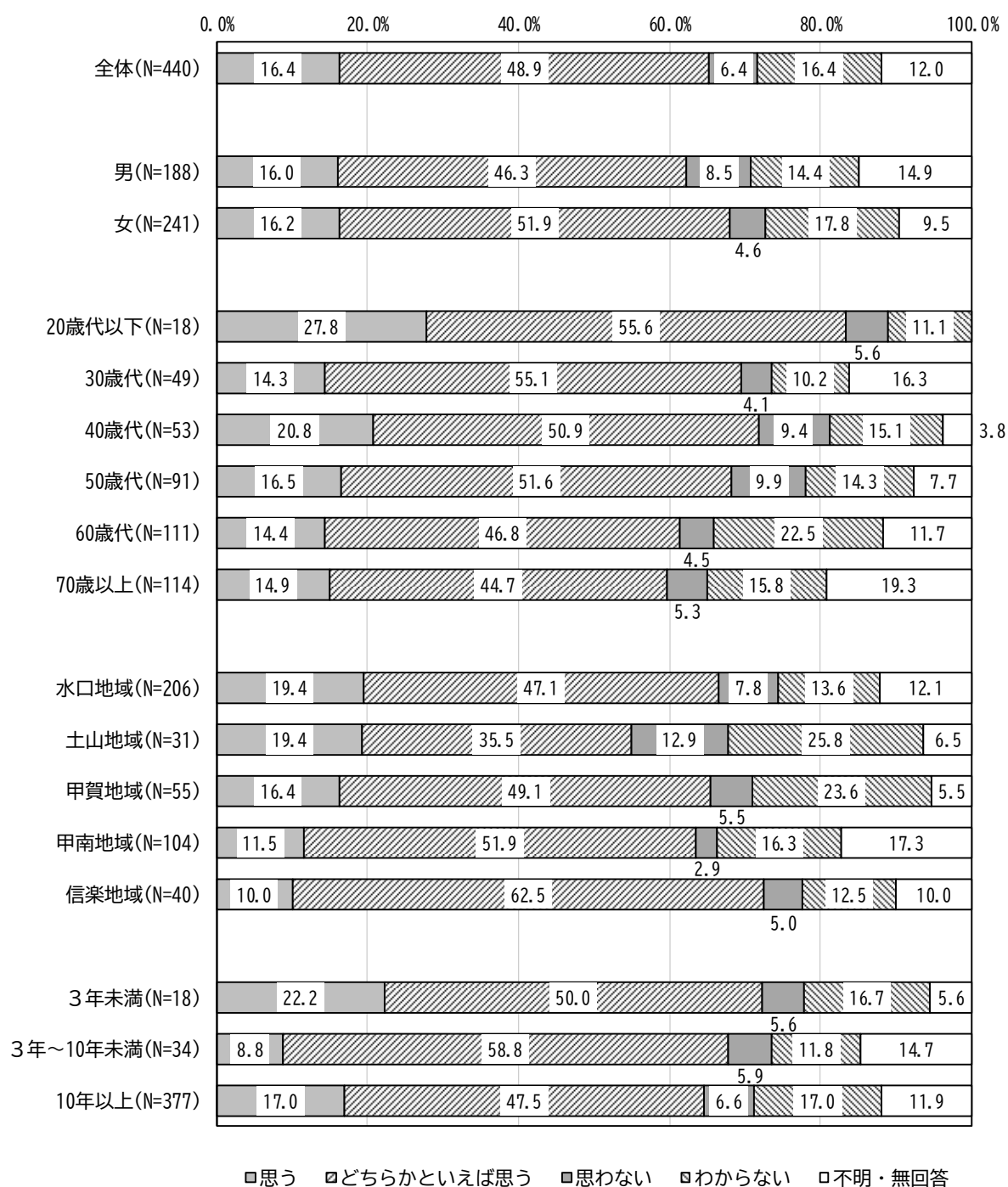
●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 83.4%、以下、40 歳代で 71.7%、30 歳代で 69.4%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは信楽地域で 72.5%、以下、水口地域で 66.5%、甲賀地域で 65.5%、甲南地域で 63.4%、土山地域で 54.9%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは 3 年未満で 72.2%、以下、3 年～10 年未満で 67.6%、10 年以上で 64.5%と続いており、年数が長くなるにつれて少なくなっている。

【甲賀市 LINE のグラフィックのわかりやすさ】

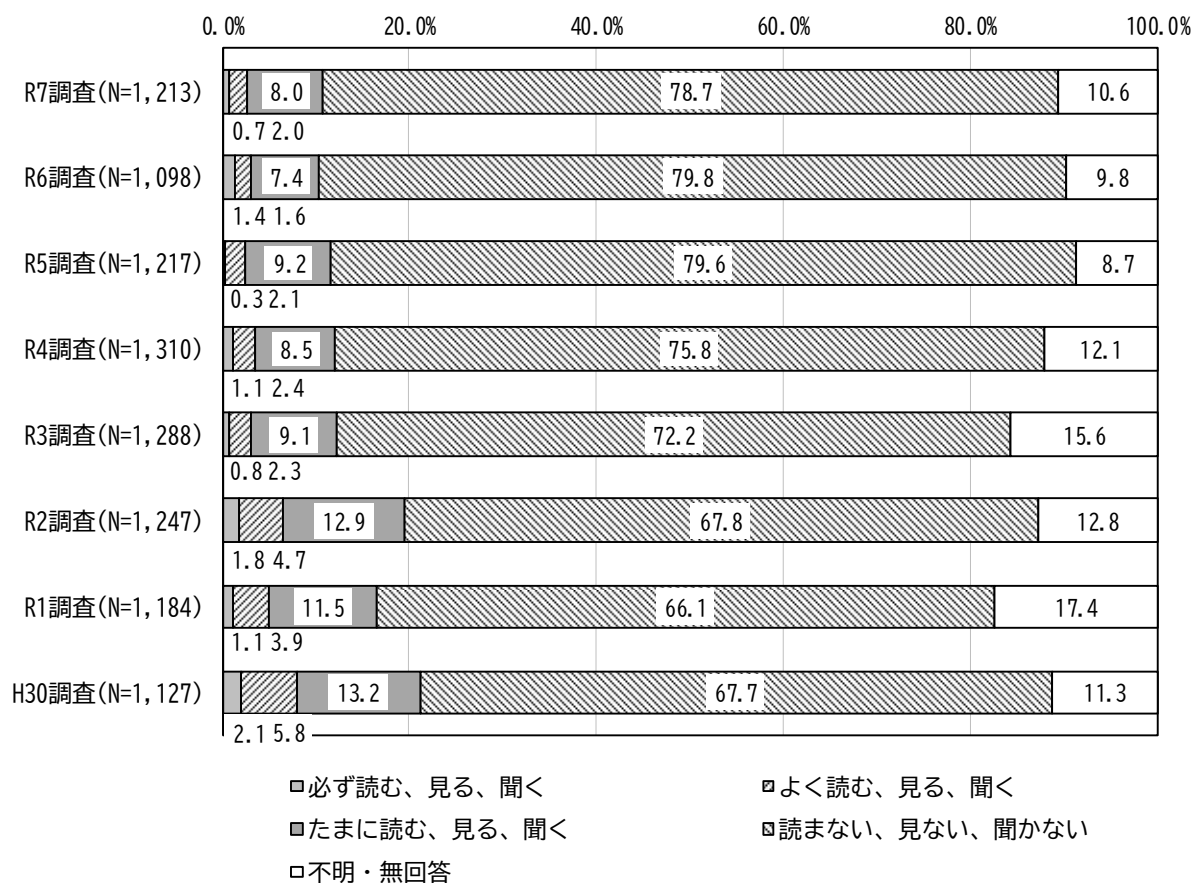
③甲賀市LINE（単数回答）



④ 甲賀市フェイスブック

平成 30 年度調査からの推移をみると、概ね同じ傾向となっており、「読まない、見ない、聞かない」の占める割合が大きくなっている。

④甲賀市フェイスブック（単数回答）



●全体でみると、「読まない、見ない、聞かない」が78.7%で最も多くなっており、以下、「たまに読む、見る、聞く」が8.0%、「よく読む、見る、聞く」が2.0%、「必ず読む、見る、聞く」が0.7%と続いている。「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』は10.7%となっている。

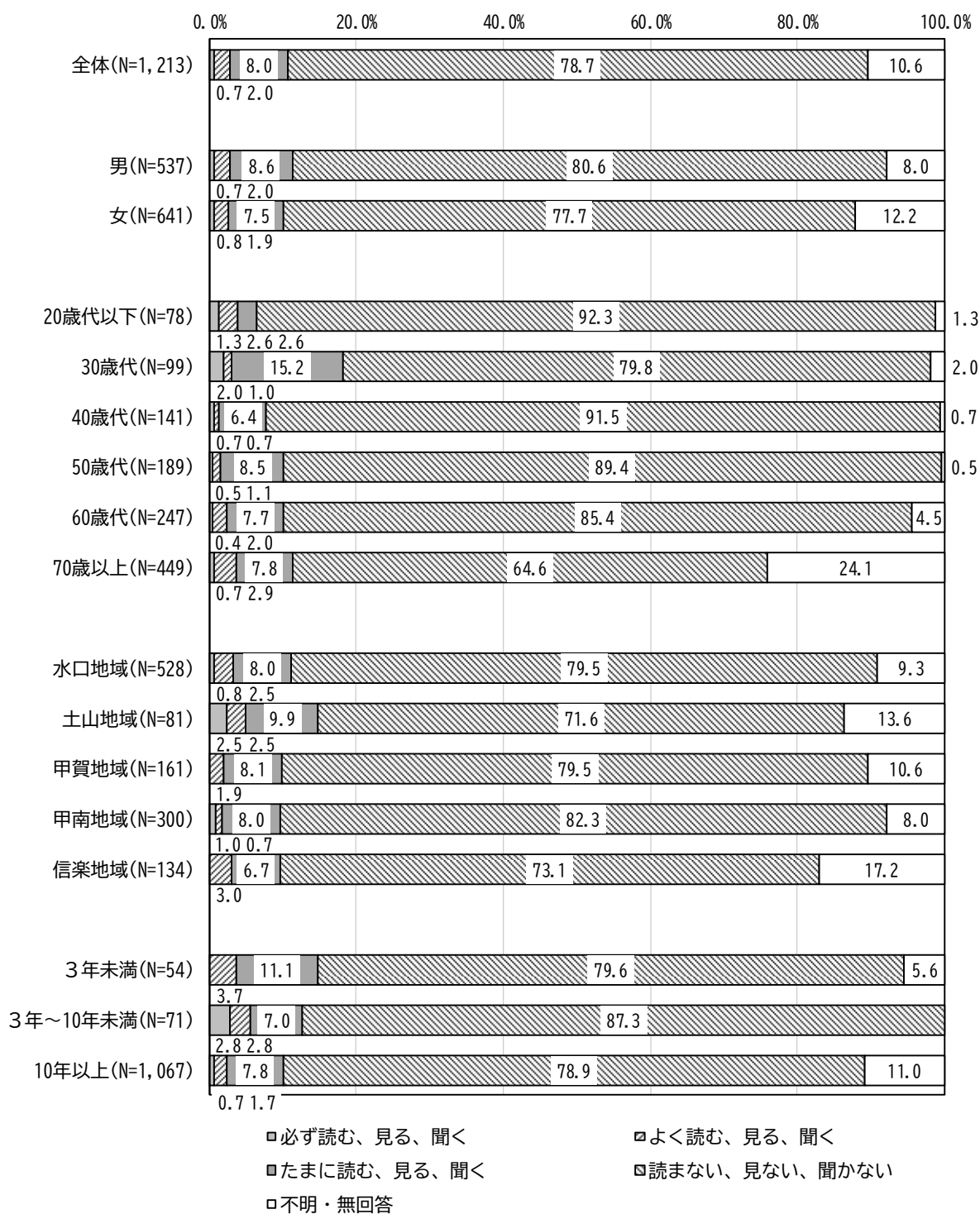
●性別にみると、男性、女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は11.3%、女性は10.2%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは30歳代で18.2%、以下、70歳以上で11.4%、50歳代、60歳代で10.1%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは土山地域で14.9%、以下、水口地域で11.3%、甲賀地域で10.0%、甲南地域、信楽地域で9.7%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは3年未満で14.8%、以下、3年～10年未満で12.6%、10年以上で10.2%と続いており、年数が長くなるにつれて少なくなっている。

④甲賀市フェイスブック（単数回答）

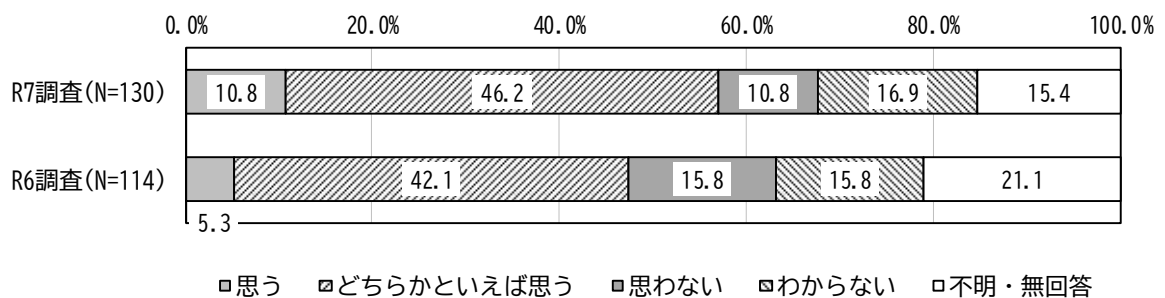


【甲賀市フェイスブックのわかりやすさ】

甲賀市フェイスブックを「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」と回答された方を対象に、わかりやすさ（読みやすい、見やすい、聞きやすい）についてたずねました。

昨年と比較すると、「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた『わかりやすい』の割合は増加している。

④甲賀市フェイスブック（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば思う」が46.2%で最も多くなっており、以下、「わからない」が16.9%、「思う」「思わない」が10.8%と続いている。『わかりやすい』は57.0%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、男性は49.2%、女性は61.6%となっている。

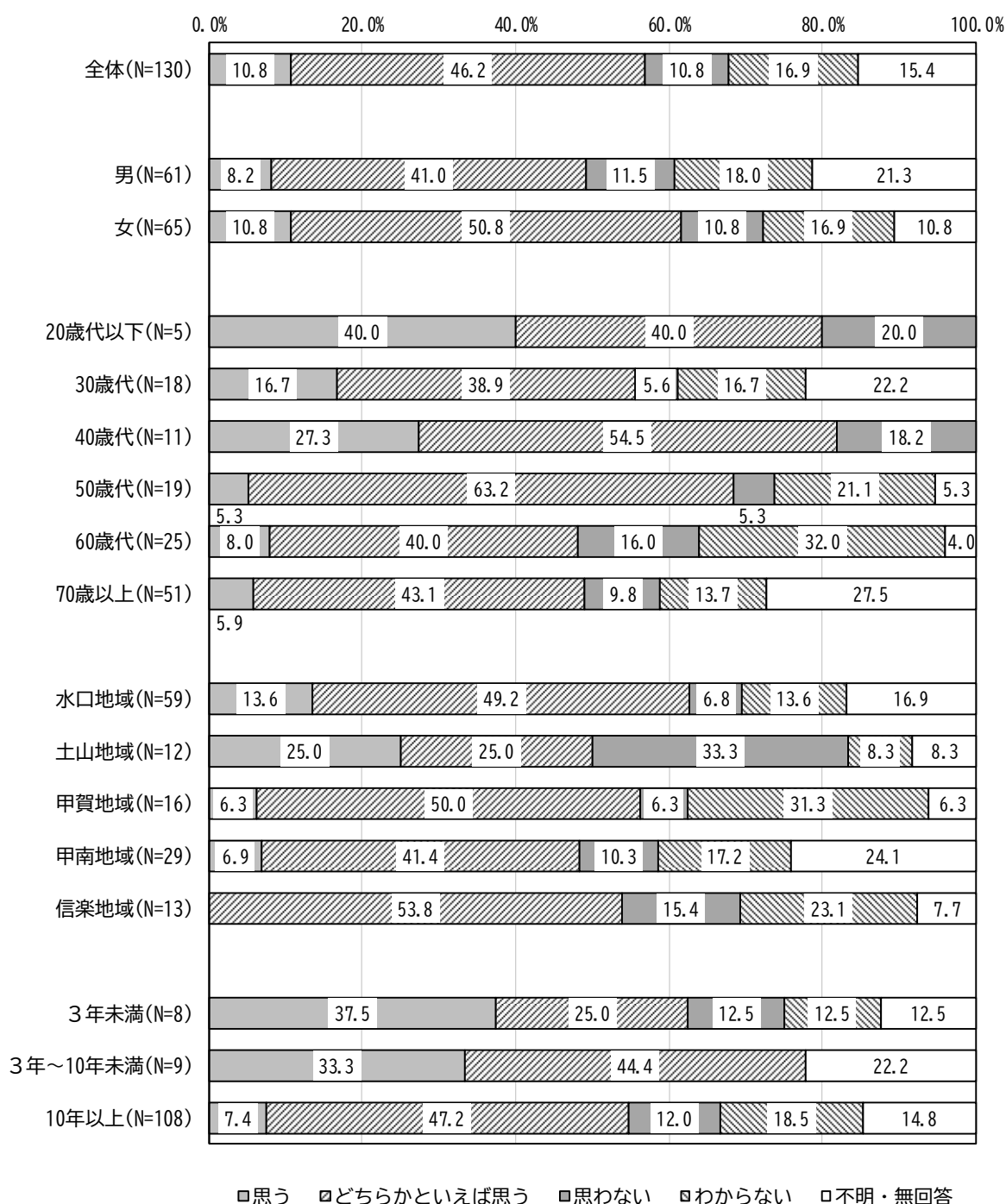
●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている（20歳代以下は「思う」と同率）。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは40歳代で81.8%、以下、20歳代以下で80.0%、50歳代で68.5%と続いている。

●居住地域別にみると、土山地域は「思わない」が、その他の地域は「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは水口地域で62.8%、以下、甲賀地域で56.3%、信楽地域で53.8%、土山地域で50.0%、甲南地域で48.3%と続いている。

●居住年数別にみると、3年未満は「思う」が、その他の年数は「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で77.7%、以下、3年未満で62.5%、10年以上で54.6%と続いている。

【甲賀市フェイスブックのわかりやすさ】

④甲賀市フェイスブック（単数回答）



【甲賀市フェイスブックのグラフィックのわかりやすさ】

甲賀市フェイスブックを「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」と回答された方を対象に、わかりやすさ（読みやすい、見やすい）についてたずねました。

●全体でみると、「どちらかといえば思う」が44.6%で最も多くなっており、以下、「わからない」が16.2%、「思う」が10.8%、「思わない」が9.2%と続いている。『わかりやすい』は55.4%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、男性は47.5%、女性は61.5%となっている。

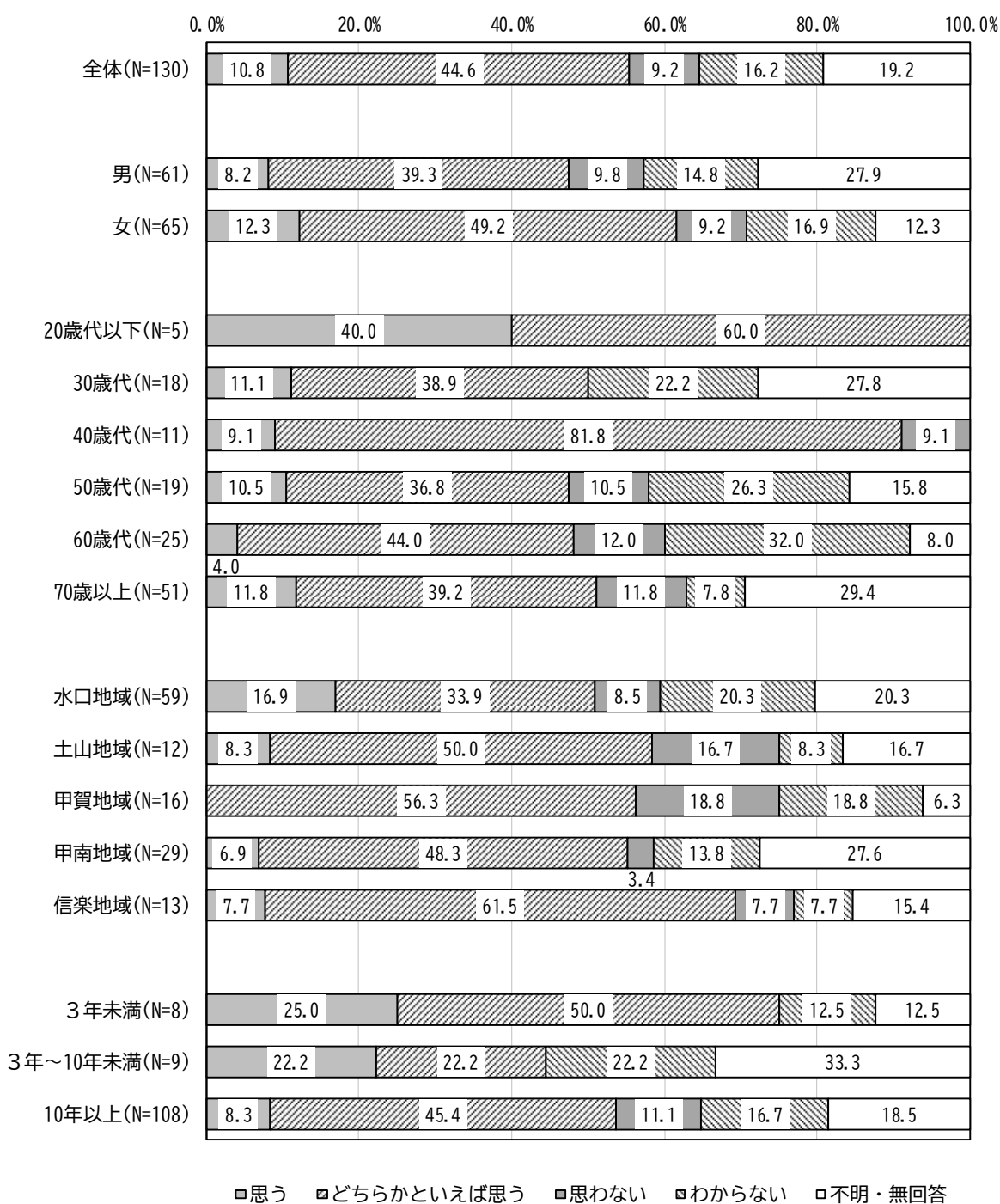
●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは20歳代以下で100.0%、以下、40歳代で90.9%、70歳以上で51.0%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは信楽地域で69.2%、以下、土山地域で58.3%、甲賀地域で56.3%、甲南地域で55.2%、水口地域で50.8%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている（3年～10年未満は「思う」「わからない」と同率）。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは3年未満で75.0%、以下、10年以上で53.7%、3年～10年未満で44.4%と続いている。

【甲賀市フェイスブックのグラフィックのわかりやすさ】

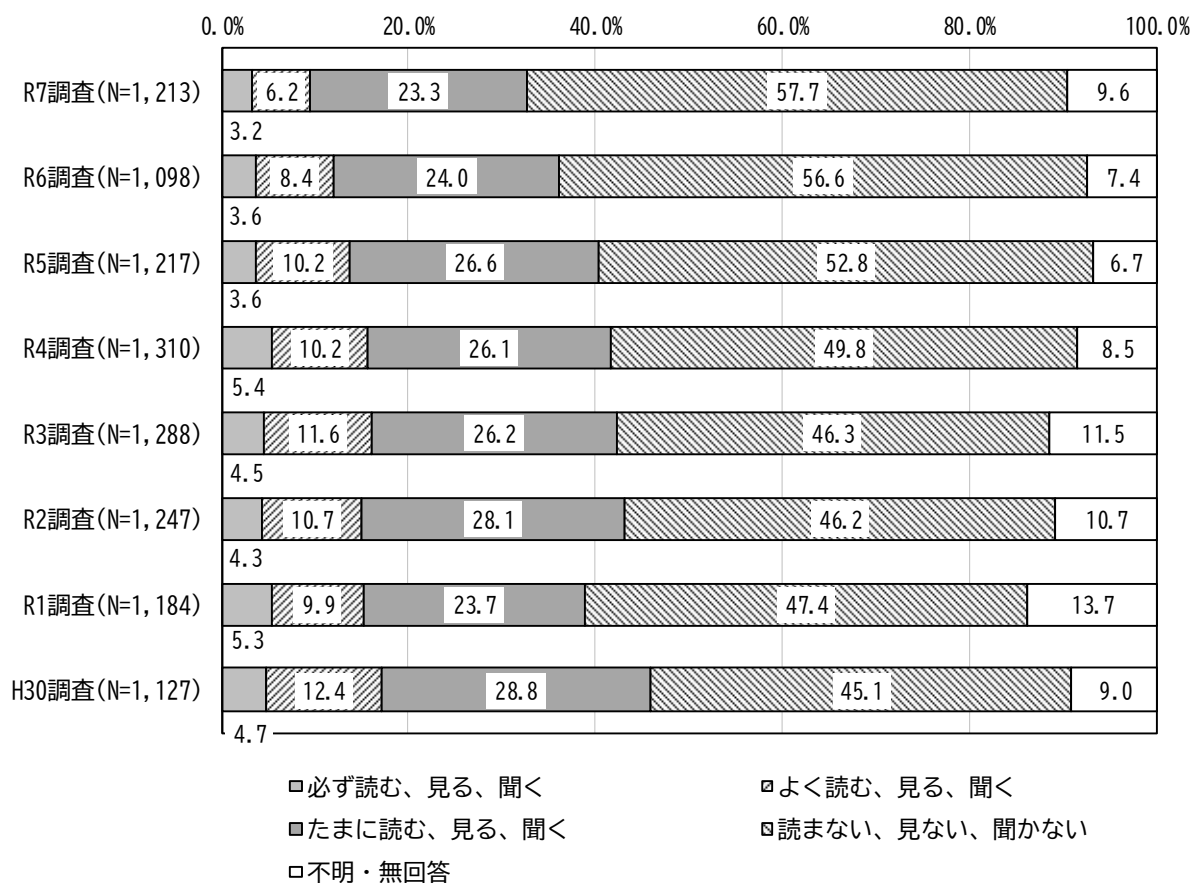
④甲賀市フェイスブック（単数回答）



⑤ 行政情報コーナー「きらめきこうか」（あいコムこうか「まちかどKOKAデイリー」内）

平成 30 年度調査からの推移をみると、令和 2 年度から「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』の割合が減少している。

⑤行政情報コーナー「きらめきこうか」（あいコムこうか）（単数回答）



●全体でみると、「読まない、見ない、聞かない」が57.7%で最も多くなっており、以下、「たまに読む、見る、聞く」が23.3%、「よく読む、見る、聞く」が6.2%、「必ず読む、見る、聞く」が3.2%と続いている。『読む、見る、聞く』は32.7%となっている。

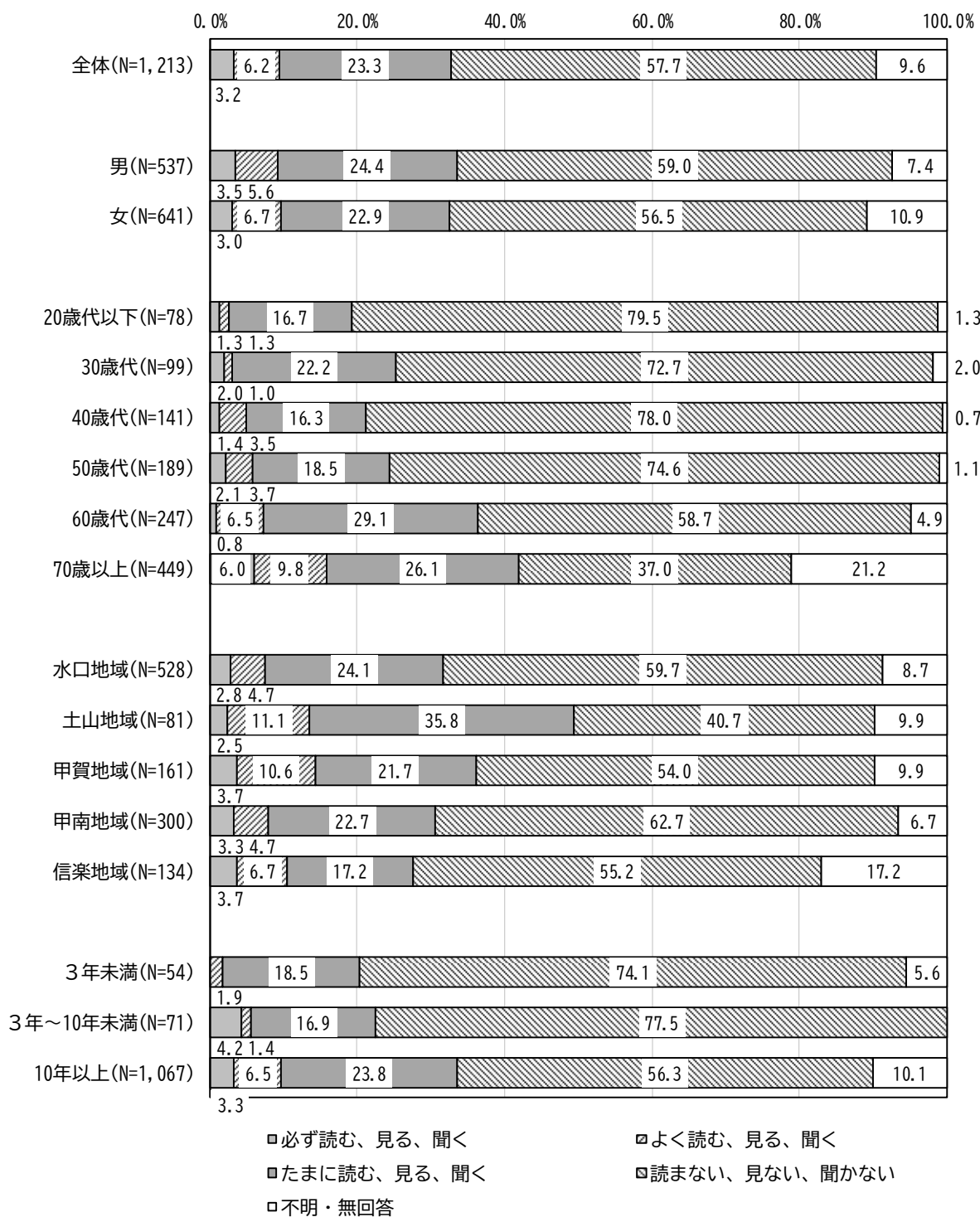
●性別にみると、男性、女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は33.5%、女性は32.6%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは70歳以上で41.9%、以下、60歳代で36.4%、30歳代で25.2%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは土山地域で49.4%、以下、甲賀地域で36.0%、水口地域で31.6%、甲南地域で30.7%、信楽地域で27.6%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは10年以上で33.6%、以下、3年～10年未満で22.5%、3年未満で20.4%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

⑤行政情報コーナー「きらめきこうか」（あいコムこうか）（単数回答）

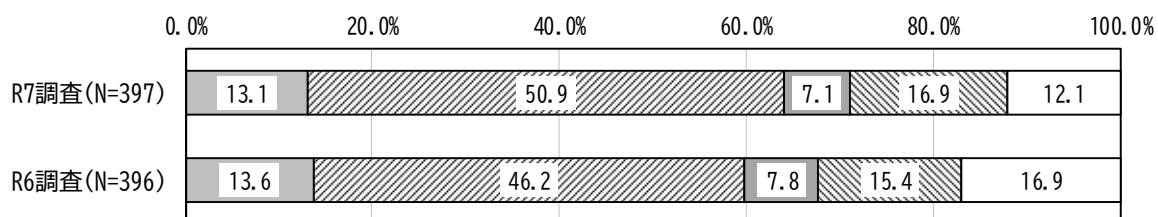


【行政情報コーナー「きらめきこうか」(あいコムこうか)のわかりやすさ】

行政情報コーナー「きらめきこうか」(あいコムこうか)を「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」と回答された方を対象に、わかりやすさ(読みやすい、見やすい、聞きやすい)についてたずねました。

昨年と比較すると、「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた『わかりやすい』の割合は増加している。

⑤行政情報コーナー「きらめきこうか」(あいコムこうか)(単数回答)



□思う □どちらかといえば思う □思わない □わからない □不明・無回答

●全体でみると、「どちらかといえば思う」が50.9%で最も多くなっており、以下、「わからない」が16.9%、「思う」が13.1%、「思わない」が7.1%と続いている。『わかりやすい』は64.0%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、男性は60.5%、女性は67.4%となっている。

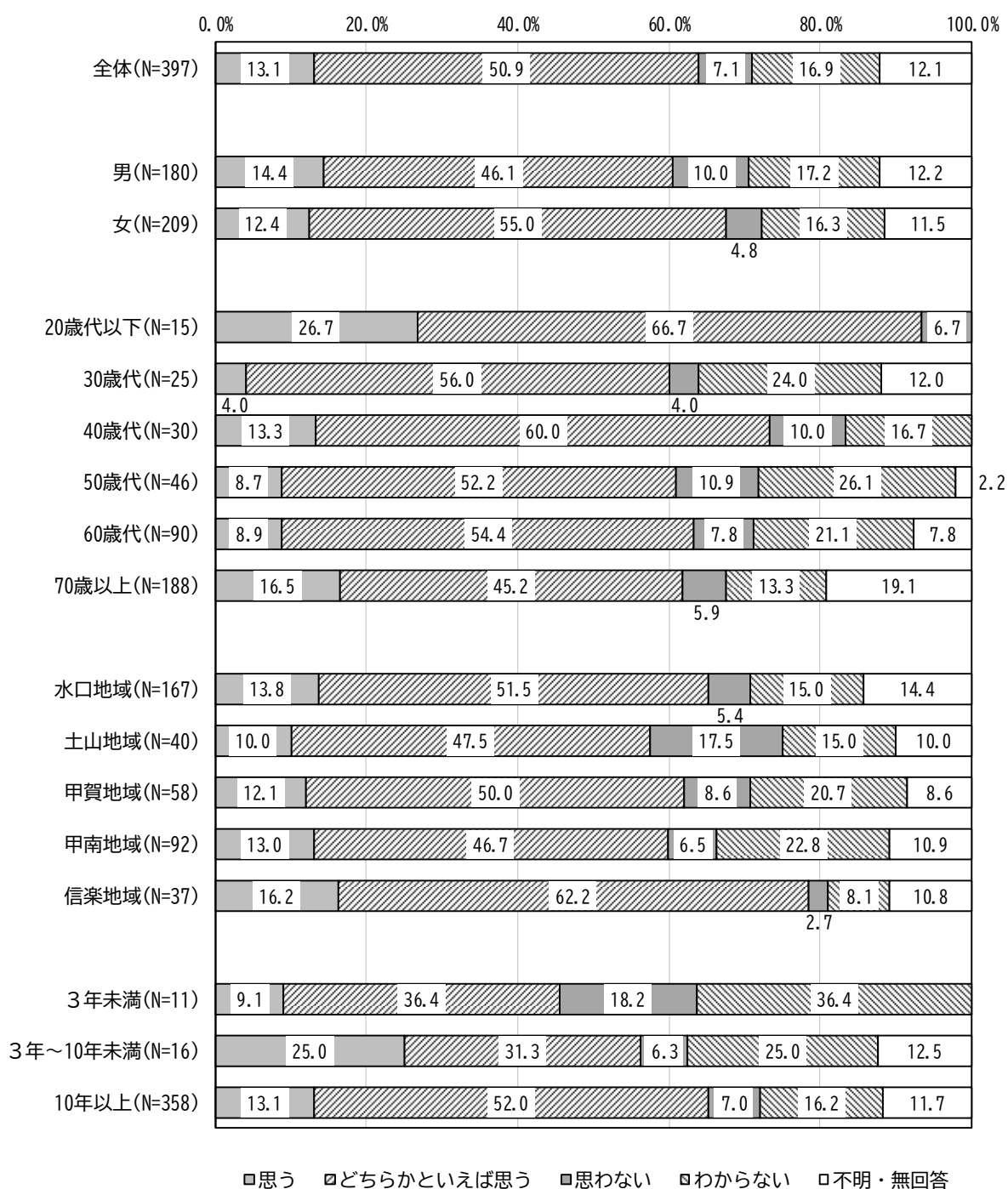
●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは20歳代以下で93.4%、以下、40歳代で73.3%、60歳代で63.3%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは信楽地域で78.4%、以下、水口地域で65.3%、甲賀地域で62.1%、甲南地域で59.7%、土山地域で57.5%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている(3年未満は「わからない」と同率)。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは10年以上で65.1%、以下、3年~10年未満で56.3%、3年未満で45.5%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

【行政情報コーナー「きらめきこうか」（あいコムこうか）のわかりやすさ】

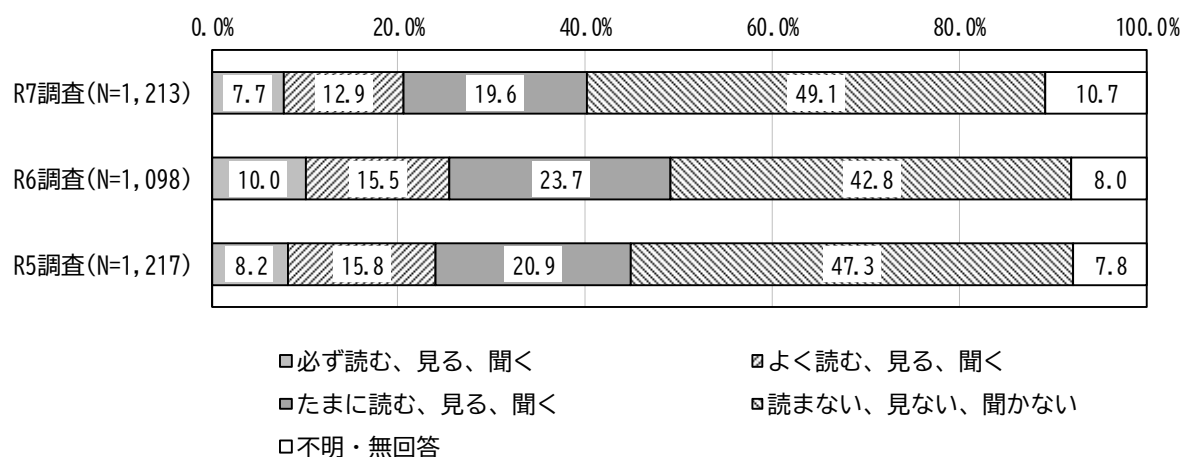
⑤行政情報コーナー「きらめきこうか」（あいコムこうか）（単数回答）



⑥ 音声放送端末機

令和5年度調査からの推移をみると、昨年まで増加傾向にあった「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』の割合が減少している。

⑥音声放送端末機（単数回答）



●全体でみると、「読まない、見ない、聞かない」が49.1%で最も多くなっており、以下、「たまに読む、見る、聞く」が19.6%、「よく読む、見る、聞く」が12.9%、「必ず読む、見る、聞く」が7.7%と続いている。『読む、見る、聞く』は40.2%となっている。

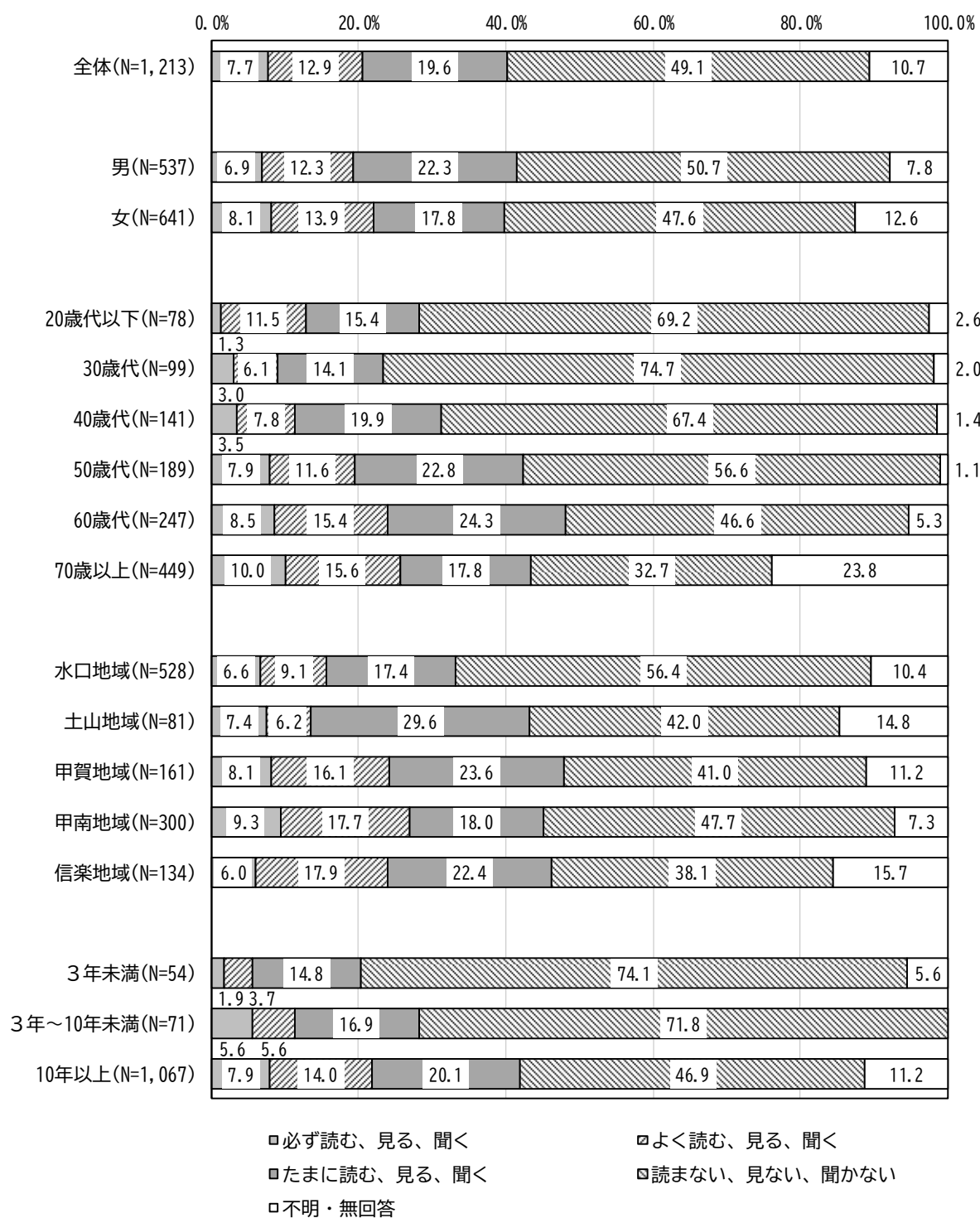
●性別にみると、男性、女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は41.5%、女性は39.8%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは60歳代で48.2%、以下、70歳以上で43.4%、50歳代で42.3%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で47.8%、以下、信楽地域で46.3%、甲南地域で45.0%、土山地域で43.2%、水口地域で33.1%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは10年以上で42.0%、以下、3年～10年未満で28.1%、3年未満で20.4%と続いている、年数が長くなるにつれて多くなっている。

⑥音声放送端末機（単数回答）

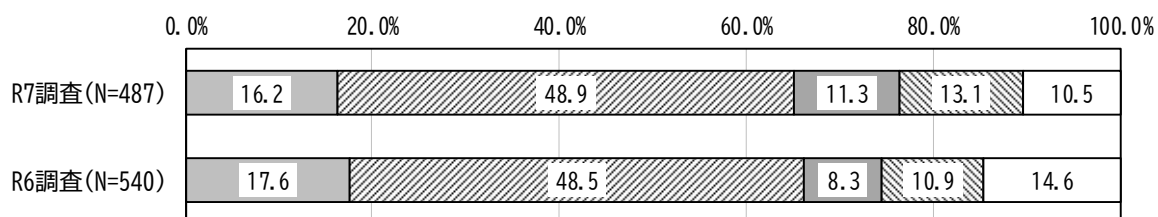


【音声放送端末機のわかりやすさ】

音声放送端末機を「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」と回答された方を対象に、わかりやすさ（読みやすい、見やすい、聞きやすい）についてたずねました。

昨年と比較すると、「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた『わかりやすい』の割合は僅かに減少している。

⑥音声放送端末機（単数回答）



□思う □どちらかといえば思う □思わない □わからない □不明・無回答

●全体でみると、「どちらかといえば思う」が48.9%で最も多くなっており、以下、「思う」が16.2%、「わからない」が13.1%、「思わない」が11.3%と続いている。『わかりやすい』は65.1%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、男性は63.2%、女性は67.1%となっている。

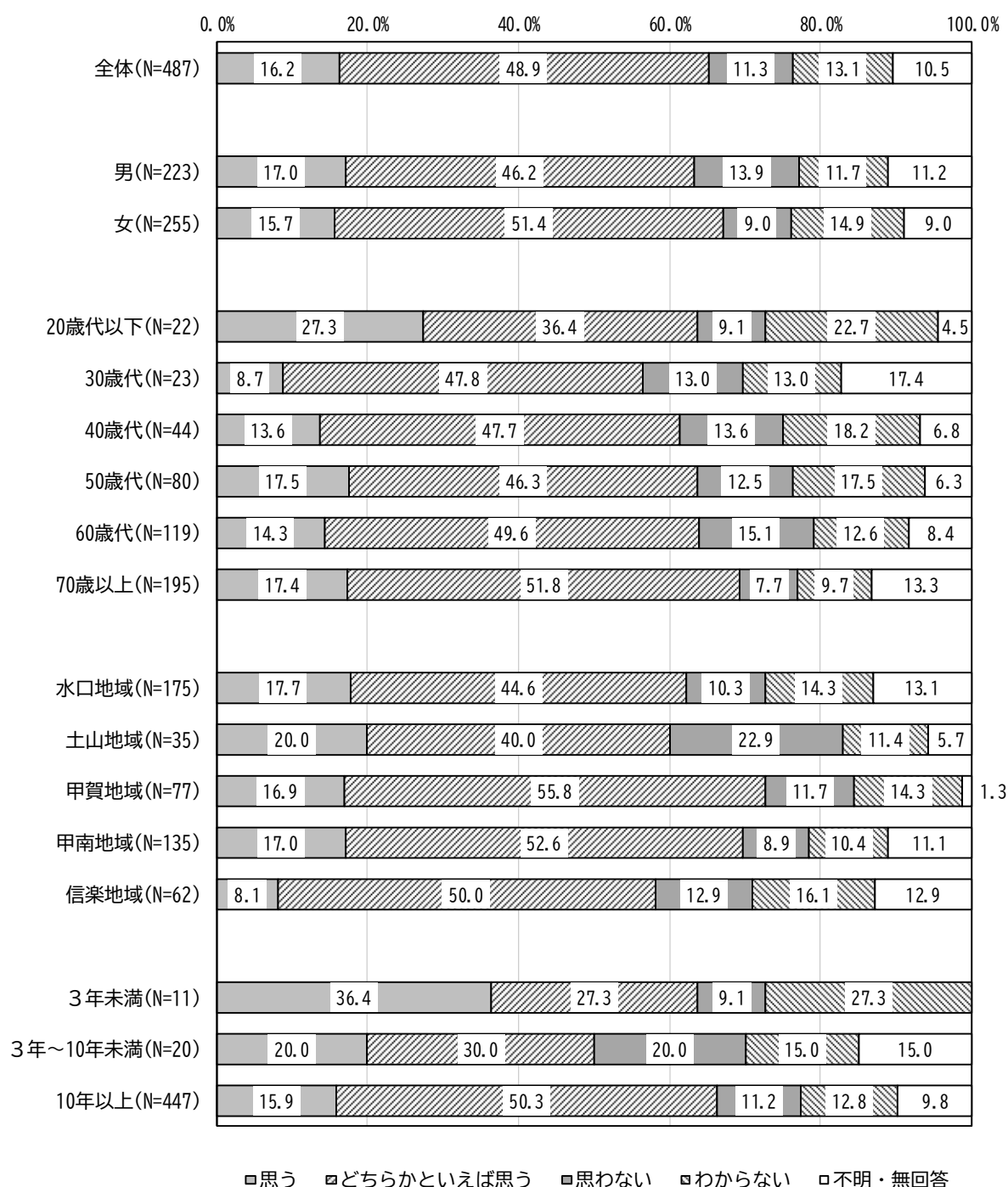
●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは70歳以上で69.2%、以下、60歳代で63.9%、50歳代で63.8%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で72.7%、以下、甲南地域で69.6%、水口地域で62.3%、土山地域で60.0%、信楽地域で58.1%と続いている。

●居住年数別にみると、3年未満は「思う」が、その他の年数は「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは10年以上で66.2%、以下、3年未満で63.7%、3年～10年未満で50.0%と続いている。

【音声放送端末機のわかりやすさ】

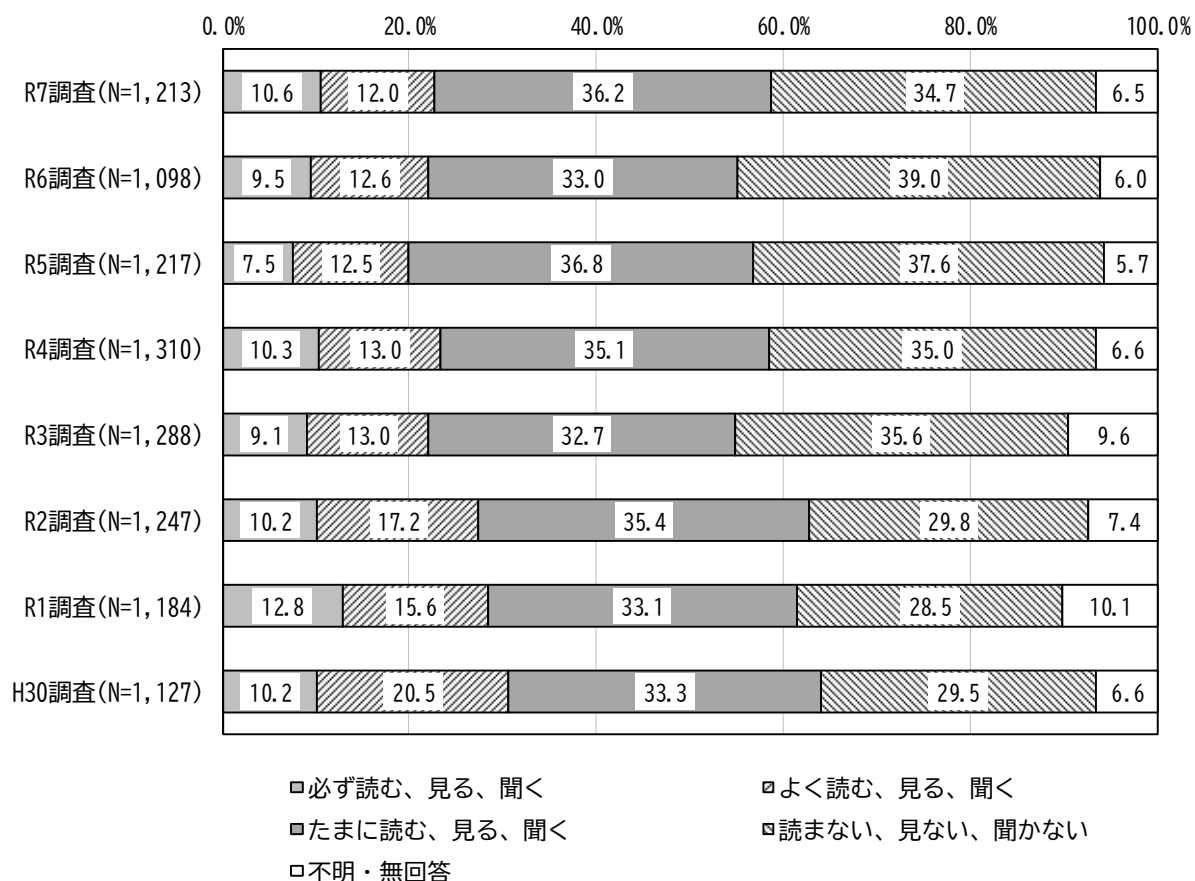
⑥音声放送端末機（単数回答）



⑦ 市議会だより

平成 30 年度調査からの推移をみると、昨年まで減少傾向にあった「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』の割合が増加している。

⑦市議会だより（単数回答）



●全体でみると、「たまに読む、見る、聞く」が36.2%で最も多くなっており、以下、「読まない、見ない、聞かない」が34.7%、「よく読む、見る、聞く」が12.0%、「必ず読む、見る、聞く」が10.6%と続いている。『読む、見る、聞く』は58.8%となっている。

●性別にみると、男性は「読まない、見ない、聞かない」が、女性は「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は59.5%、女性は58.8%となっている。

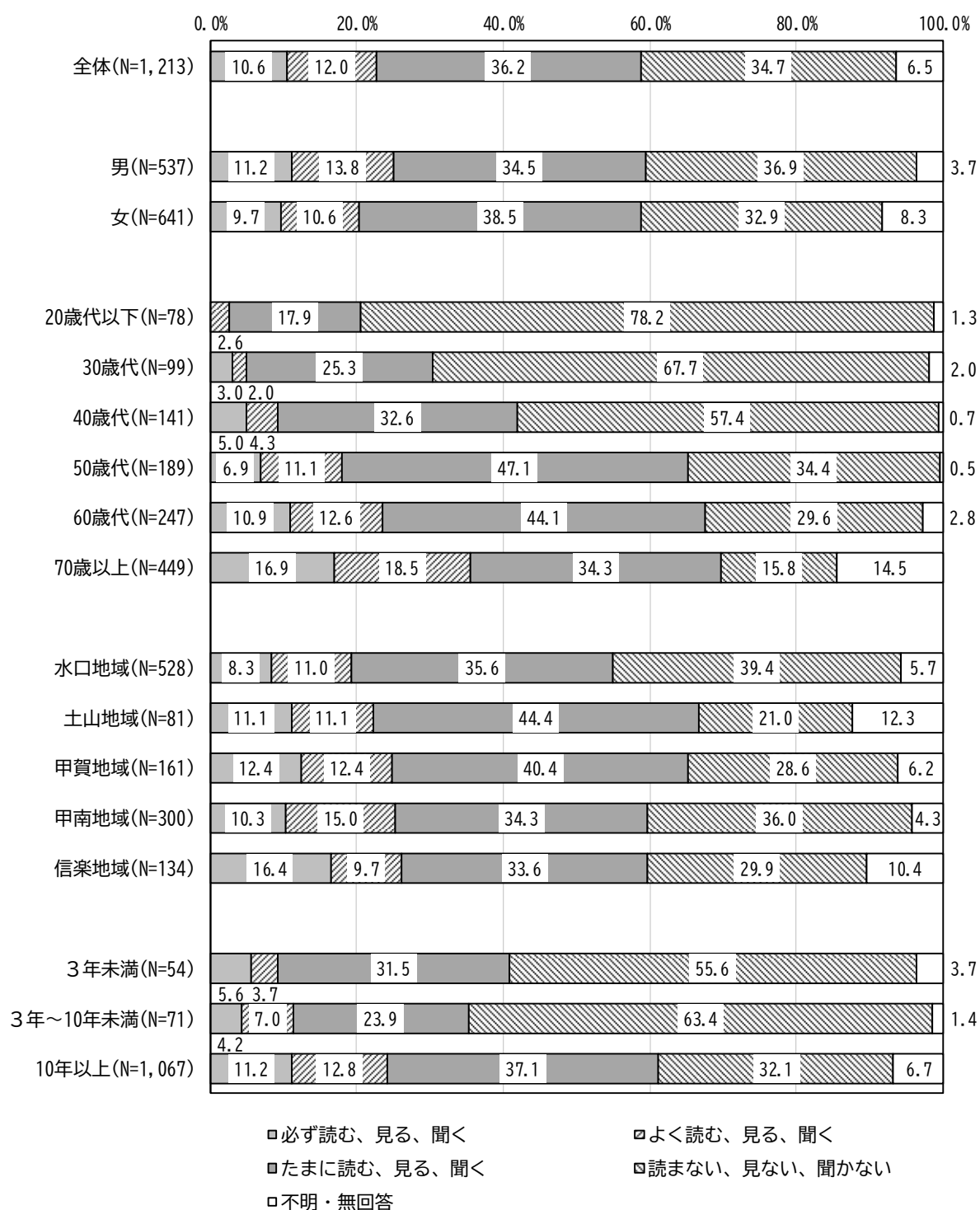
●年代別にみると、50歳代、60歳代、70歳以上は「たまに読む、見る、聞く」が、その他の年代は「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは70歳以上で69.7%、以下、60歳代で67.6%、50歳代で65.1%と続いており、年代が上がるにつれて多くなっている。

●居住地域別にみると、水口地域、甲南地域は「読まない、見ない、聞かない」が、その他の地域は「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多い

のは土山地域で66.6%、以下、甲賀地域で65.2%、信楽地域で59.7%、甲南地域で59.6%、水口地域で54.9%と続いている。

●居住年数別にみると、10年以上は「たまに読む、見る、聞く」が、その他の年数は「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは10年以上で61.1%、以下、3年未満で40.8%、3年～10年未満で35.1%と続いている。

⑦市議会だより（単数回答）

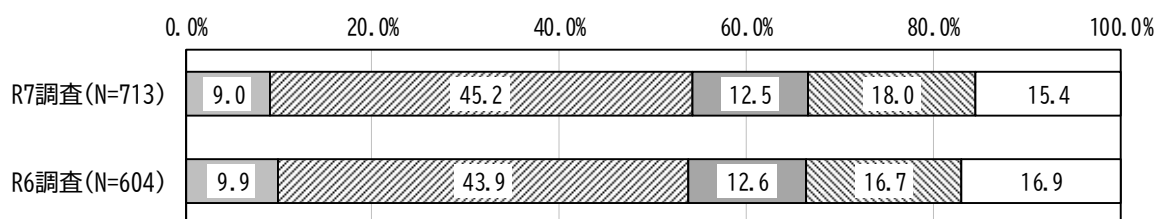


【市議会だよりのわかりやすさ】

市議会だよりを「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」と回答された方を対象に、わかりやすさ（読みやすい、見やすい、聞きやすい）についてたずねました。

昨年と比較しても、総じて変化は見られない。

⑦市議会だより（単数回答）



□思う □どちらかといえば思う □思わない □わからない □不明・無回答

●全体でみると、「どちらかといえば思う」が45.2%で最も多くなっており、以下、「わからない」が18.0%、「思わない」が12.5%、「思う」が9.0%と続いている。『わかりやすい』は54.2%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、男性は50.1%、女性は57.0%となっている。

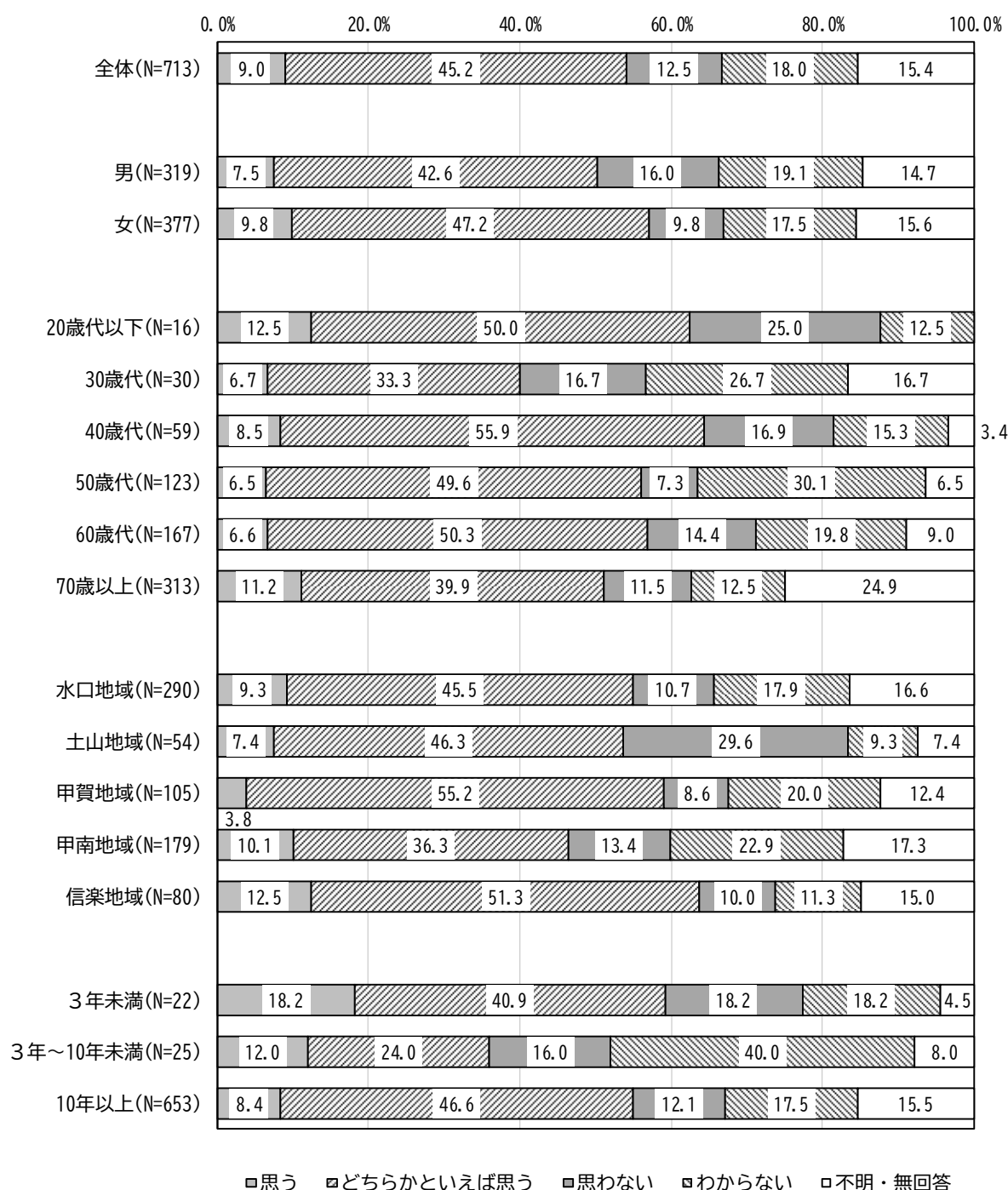
●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは40歳代で64.4%、以下、20歳代以下で62.5%、60歳代で56.9%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは信楽地域で63.8%、以下、甲賀地域で59.0%、水口地域で54.8%、土山地域で53.7%、甲南地域で46.4%と続いている。

●居住年数別にみると、3年～10年未満は「わからない」が、その他の年数は「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは3年未満で59.1%、以下、10年以上で55.0%、3年～10年未満で36.0%と続いている。

【市議会だよりのわかりやすさ】

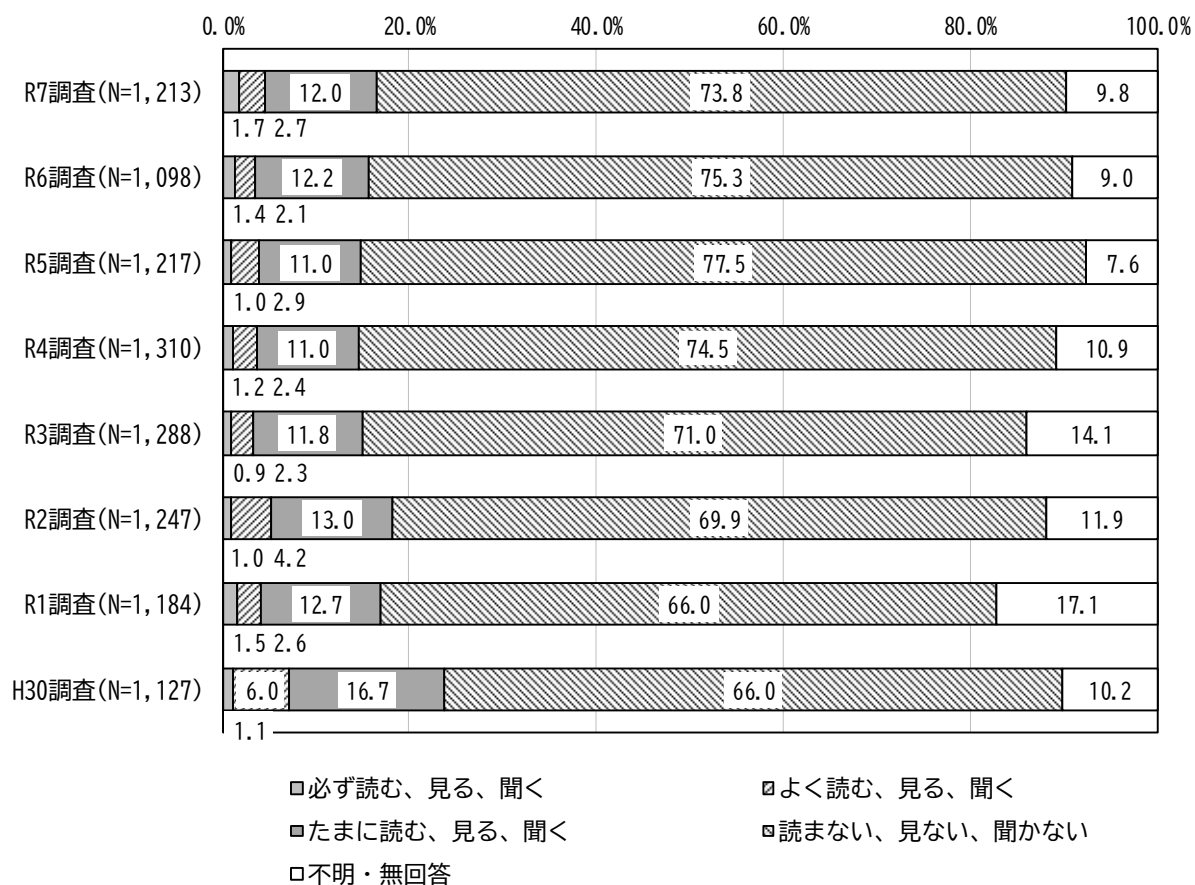
⑦市議会だより（単数回答）



⑧ 市議会ホームページ

平成 30 年度調査からの推移をみると、令和 4 年度から「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』の割合が僅かに増加している。

⑧市議会ホームページ（単数回答）



●全体でみると、「読まない、見ない、聞かない」が73.8%で最も多くなっており、以下、「たまに読む、見る、聞く」が12.0%、「よく読む、見る、聞く」が2.7%、「必ず読む、見る、聞く」が1.7%と続いている。『読む、見る、聞く』は16.4%となっている。

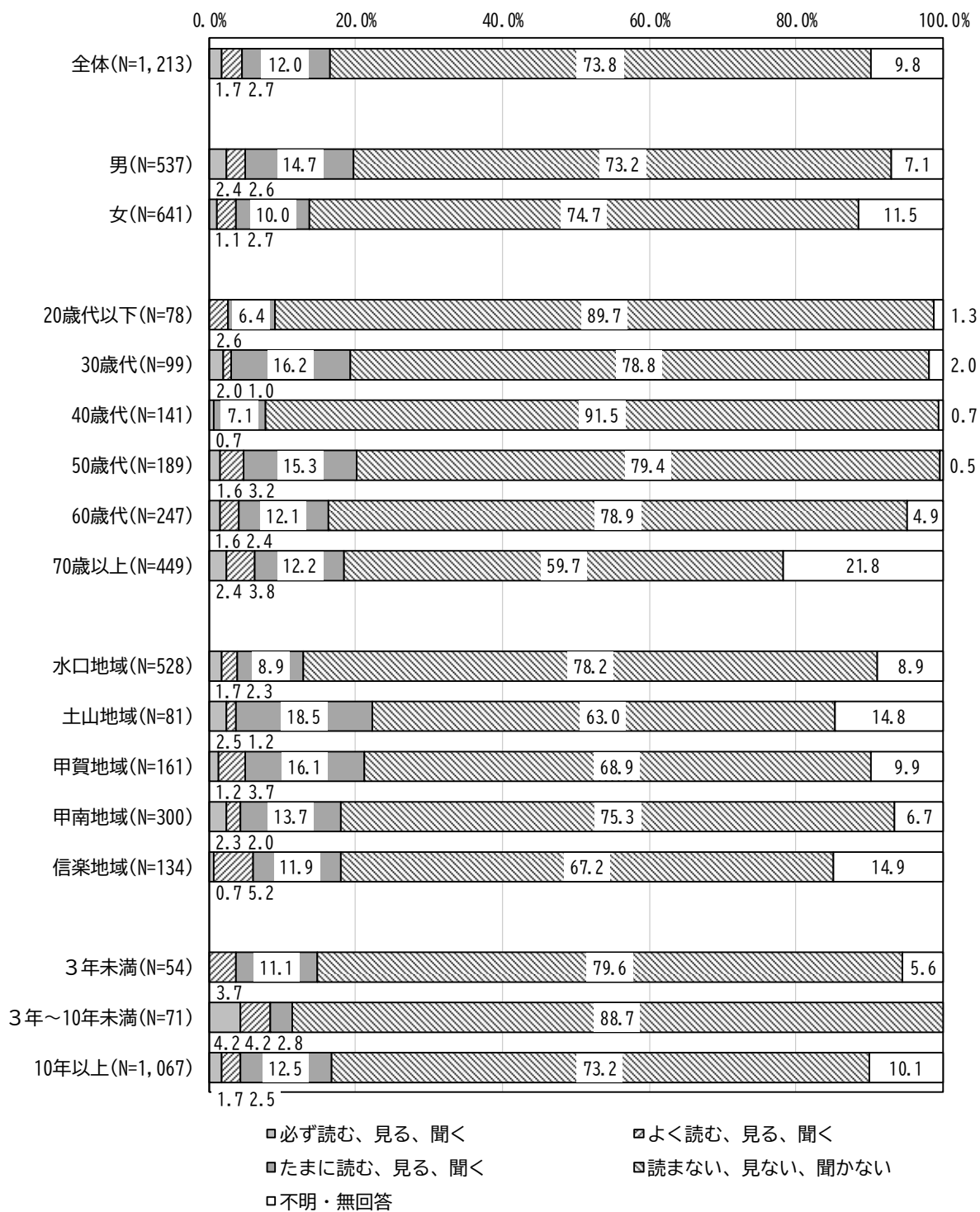
●性別にみると、男性、女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は19.7%、女性は13.8%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは50歳代で20.1%、以下、30歳代で19.2%、70歳以上で18.4%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは土山地域で22.2%、以下、甲賀地域で21.0%、甲南地域で18.0%、信楽地域で17.8%、水口地域で12.9%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは10年以上で16.7%、以下、3年未満で14.8%、3年～10年未満で11.2%と続いている。

⑧市議会ホームページ（単数回答）

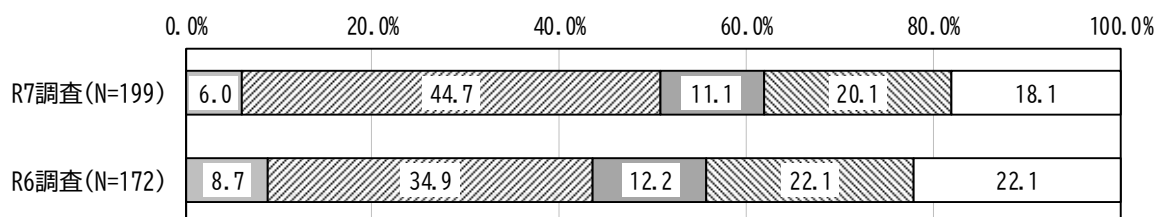


【市議会ホームページのわかりやすさ】

市議会ホームページを「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」と回答された方を対象に、わかりやすさ（読みやすい、見やすい、聞きやすい）についてたずねました。

昨年と比較すると、「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた『わかりやすい』の割合は増加している。

⑧市議会ホームページ（単数回答）



□思う □どちらかといえば思う □思わない □わからない □不明・無回答

●全体でみると、「どちらかといえば思う」が44.7%で最も多くなっており、以下、「わからない」が20.1%、「思わない」が11.1%、「思う」が6.0%と続いている。『わかりやすい』は50.7%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、男性は51.0%、女性は48.9%となっている。

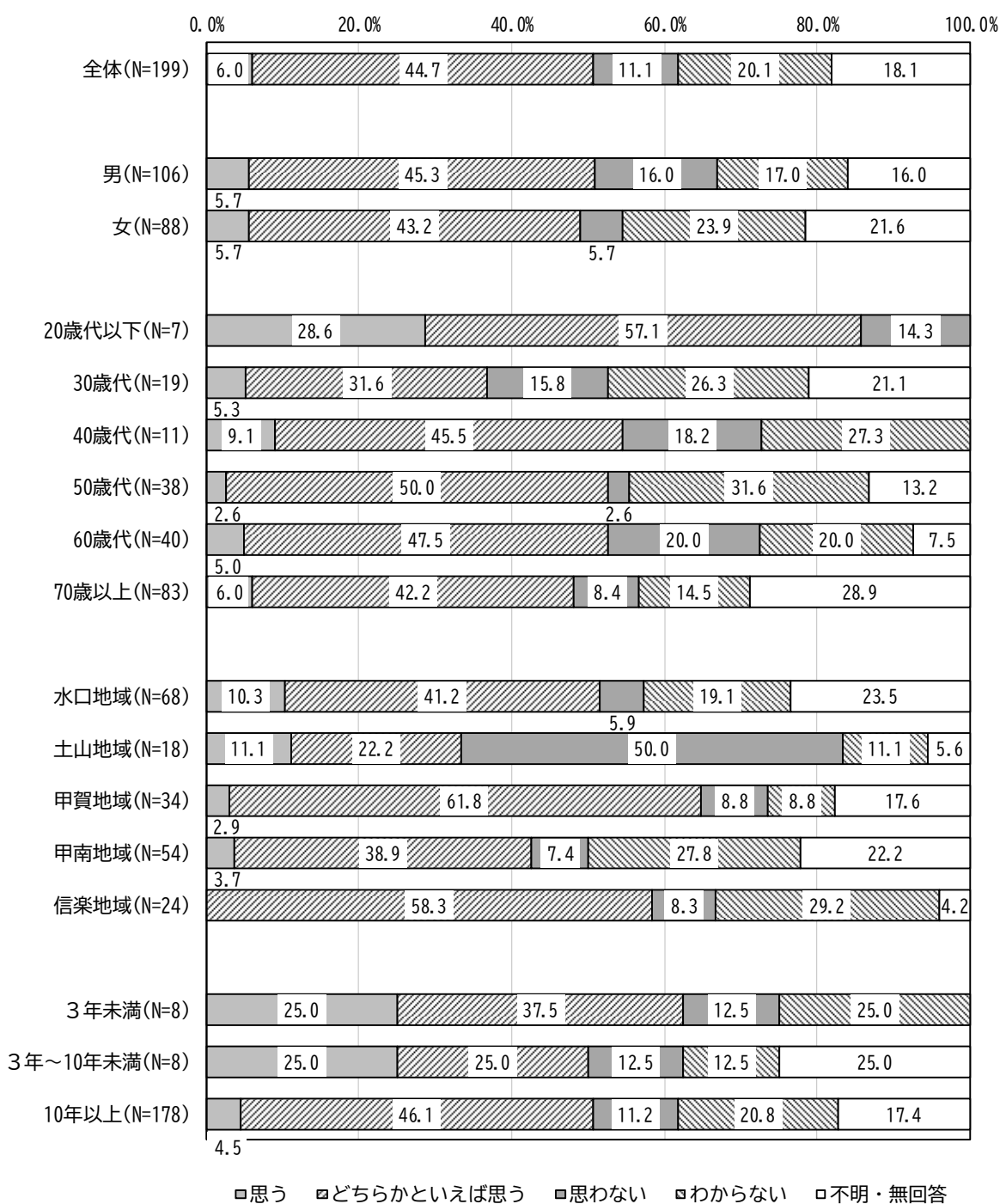
●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは20歳代以下で85.7%、以下、40歳代で54.6%、50歳代で52.6%と続いている。

●居住地域別にみると、土山地域は「思わない」が、その他の地域は「どちらかといえば思う」が最も多くなっている。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で64.7%、以下、信楽地域で58.3%、水口地域で51.5%、甲南地域で42.6%、土山地域で33.3%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえば思う」が最も多くなっている（3年～10年未満は「思う」と同率）。『わかりやすい』の割合をみると、最も多いのは3年未満で62.5%、以下、10年以上で50.6%、3年～10年未満で50.0%と続いている。

【市議会ホームページのわかりやすさ】

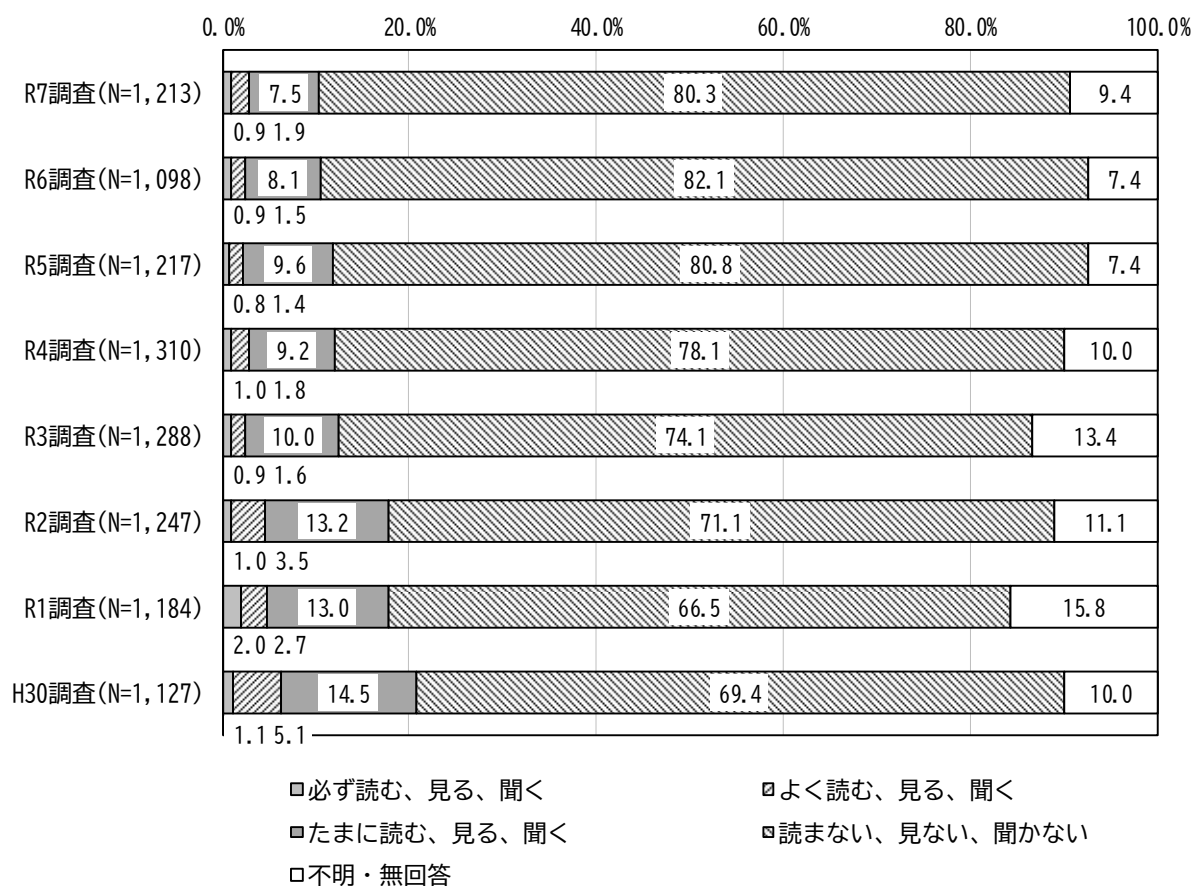
⑧市議会ホームページ（単数回答）



⑨ 市議会中継・録画（あいコムこうか）

平成 30 年度調査からの推移をみると、「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』の割合が減少している。

⑨市議会中継・録画（あいコムこうか）（単数回答）



●全体でみると、「読まない、見ない、聞かない」が80.3%で最も多くなっており、以下、「たまに読む、見る、聞く」が7.5%、「よく読む、見る、聞く」が1.9%、「必ず読む、見る、聞く」が0.9%と続いている。『読む、見る、聞く』は10.3%となっている。

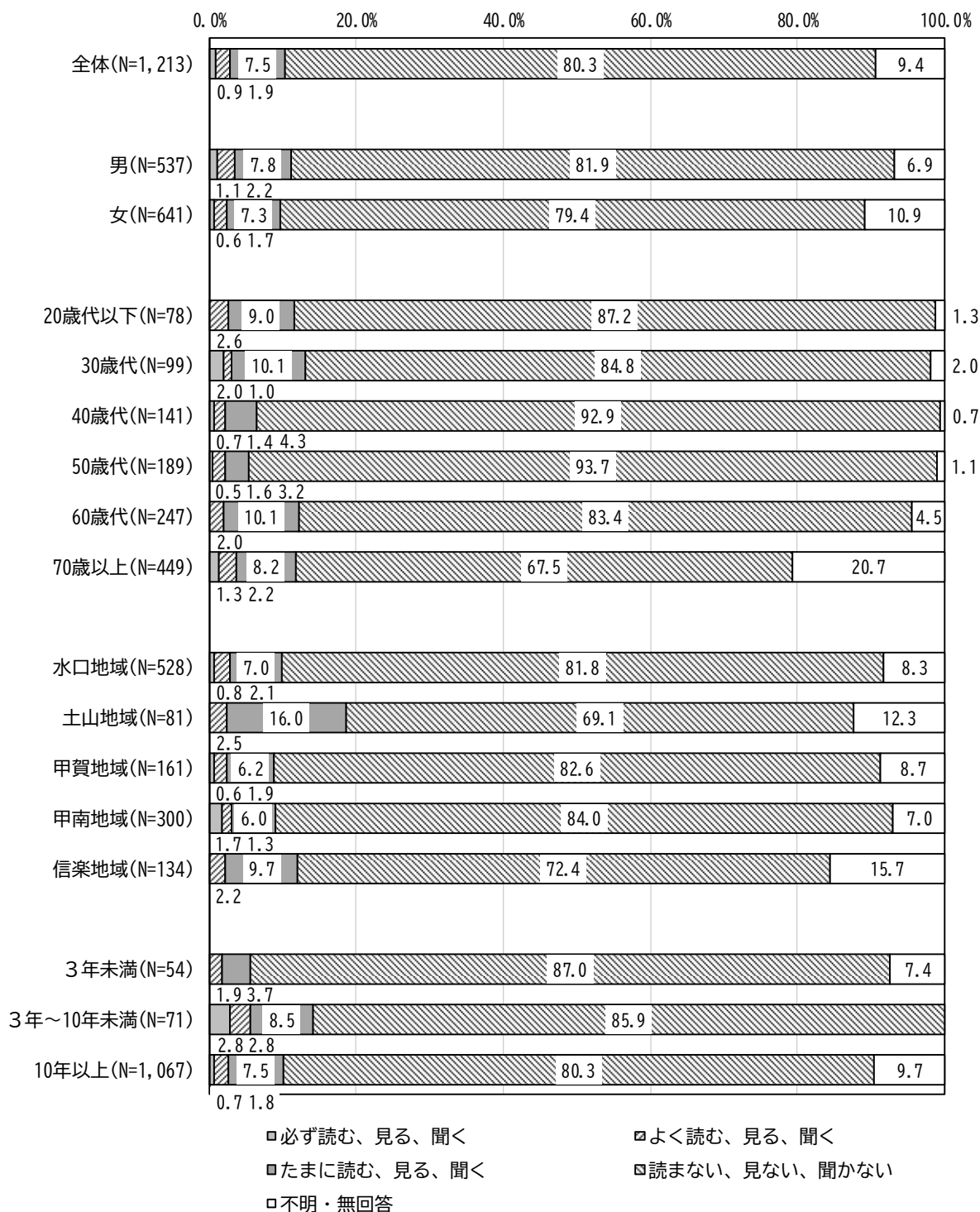
●性別にみると、男性、女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は11.1%、女性は9.6%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは30歳代で13.1%、以下、60歳代で12.1%、70歳以上で11.7%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは土山地域で18.5%、以下、信楽地域で11.9%、水口地域で9.9%、甲南地域で9.0%、甲賀地域で8.7%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で14.1%、以下、10年以上で10.0%、3年未満で5.6%と続いている。

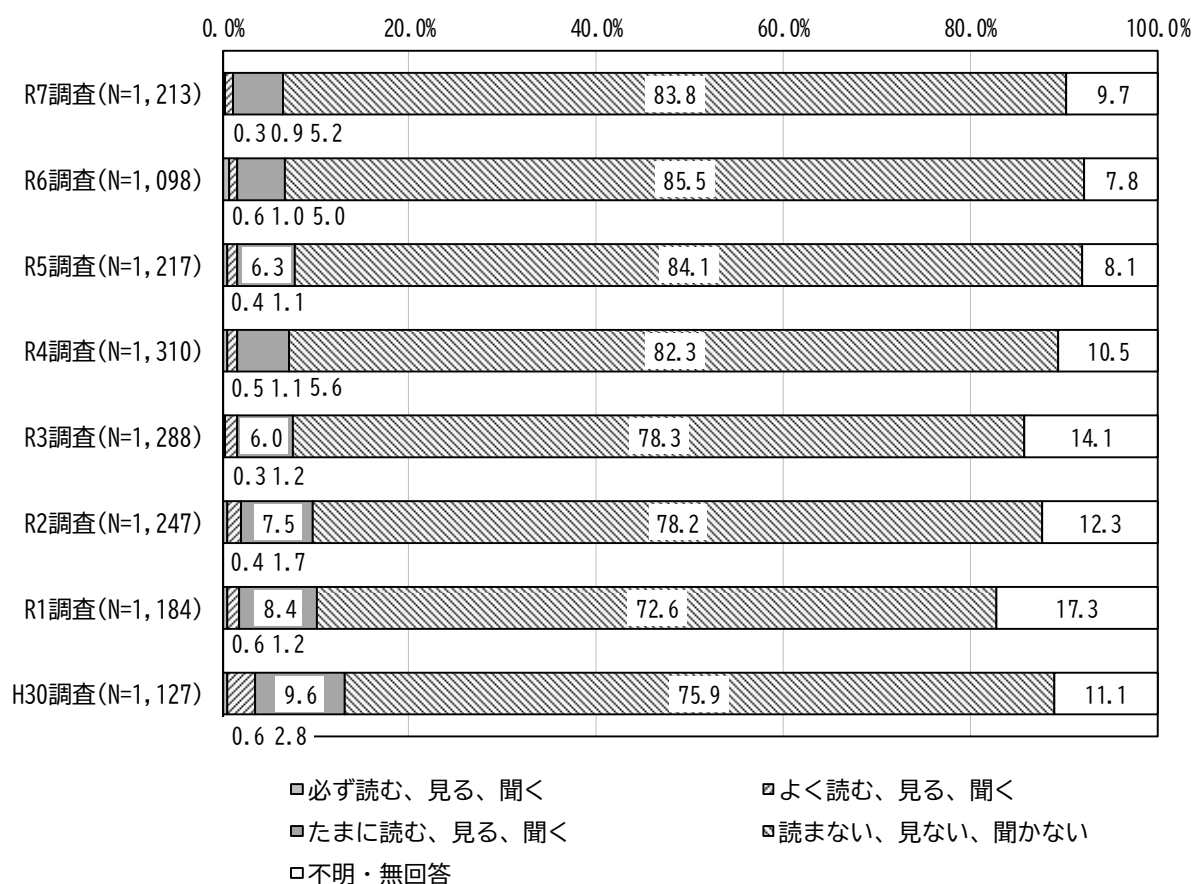
⑨市議会中継・録画（あいコムこうか）（単数回答）



⑩ 市議会インターネット中継・録画

平成 30 年度調査からの推移をみると、概ね同じ傾向となっており、「読まない、見ない、聞かない」の占める割合が大きくなっている。

⑩市議会インターネット中継・録画（単数回答）



●全体でみると、「読まない、見ない、聞かない」が83.8%で最も多くなっており、以下、「たまに読む、見る、聞く」が5.2%、「よく読む、見る、聞く」が0.9%、「必ず読む、見る、聞く」が0.3%と続いている。『読む、見る、聞く』は6.4%となっている。

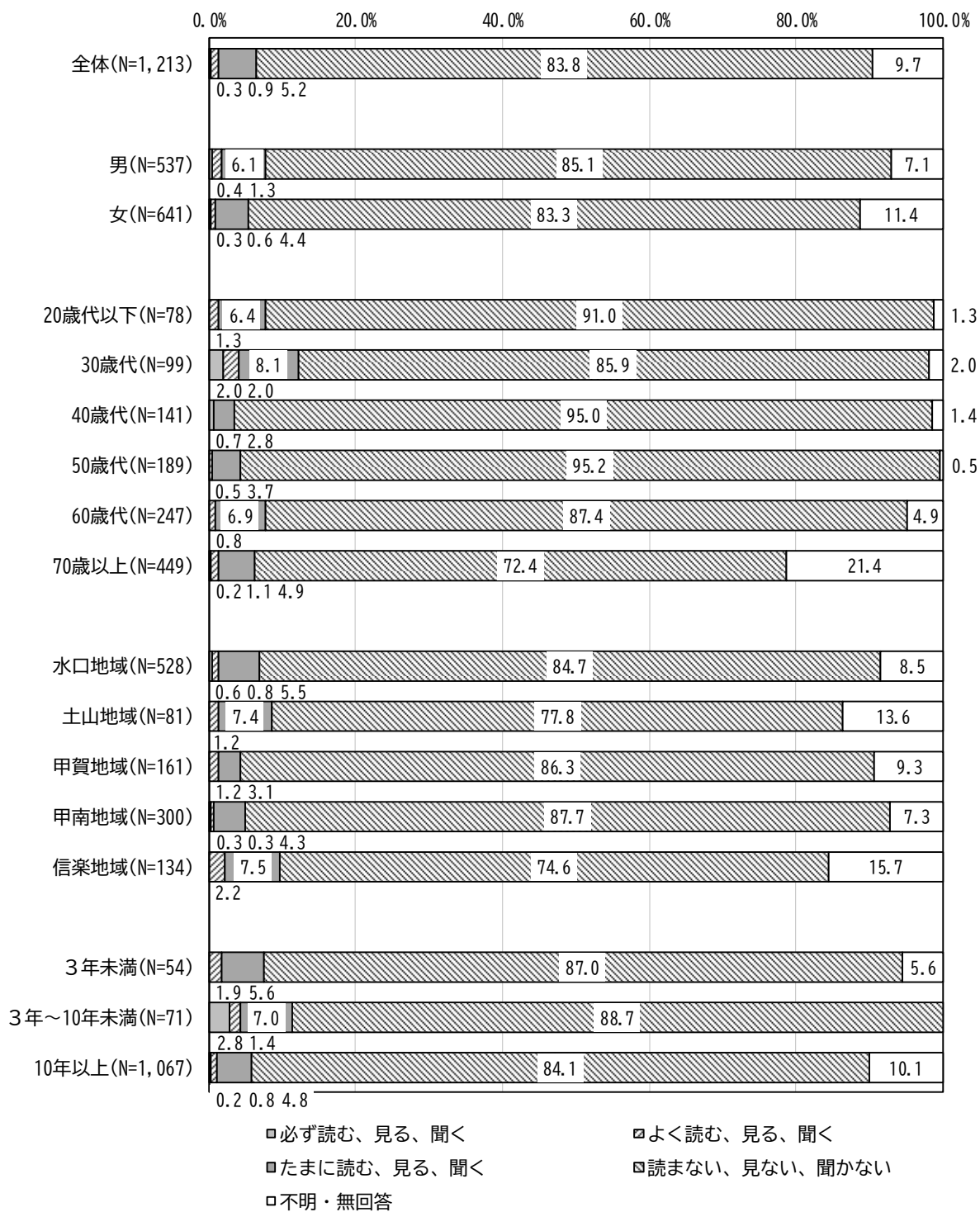
●性別にみると、男性、女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は7.8%、女性は5.3%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは30歳代で12.1%、以下、20歳代以下、60歳代で7.7%、70歳以上で6.2%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは信楽地域で9.7%、以下、土山地域で8.6%、水口地域で6.9%、甲南地域で4.9%、甲賀地域で4.3%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で11.2%、以下、3年未満で7.5%、10年以上で5.8%と続いている。

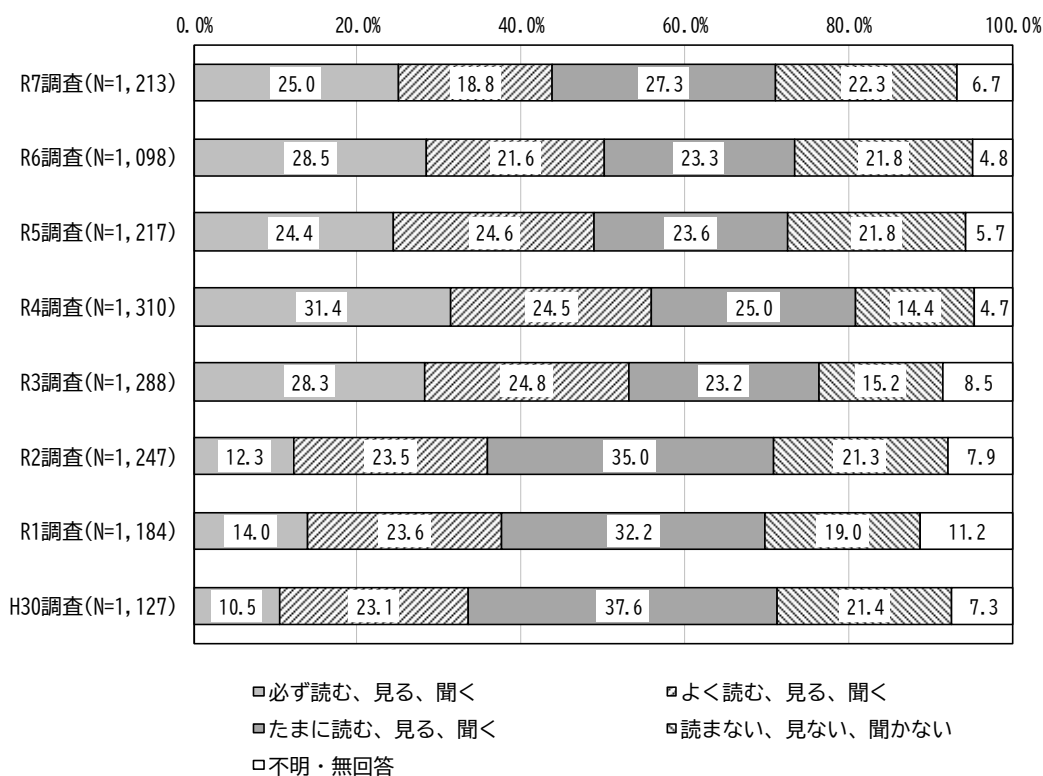
⑩市議会インターネット中継・録画（単数回答）



⑪ 区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（文書、チラシ、ポスターなど）

平成 30 年度調査からの推移をみると、令和 3 年から概ね同じ傾向ではあるが、「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』の割合が僅かに減少している。

⑪区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（単数回答）



※H30～R2 調査は「市の行事等のチラシ、ポスター（回覧、掲示、配布等）」の調査項目で実施しています。

●全体でみると、「たまに読む、見る、聞く」が27.3%で最も多くなっており、以下、「必ず読む、見る、聞く」が25.0%、「読まない、見ない、聞かない」が22.3%、「よく読む、見る、聞く」が18.8%と続いている。『読む、見る、聞く』は71.1%となっている。

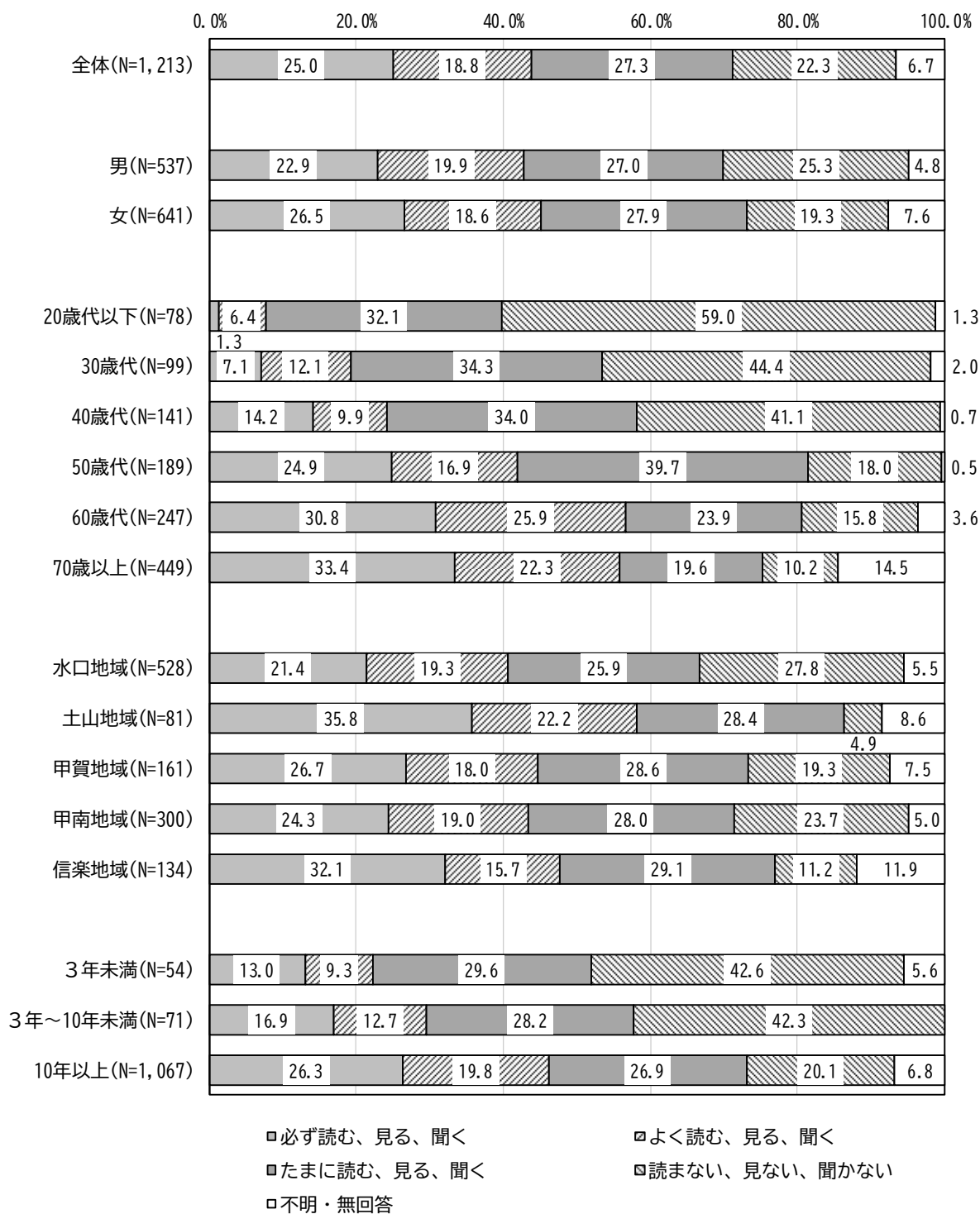
●性別にみると、男性、女性ともに「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は69.8%、女性は73.0%となっている。

●年代別にみると、60 歳代、70 歳以上は「必ず読む、見る、聞く」が、50 歳代は「たまに読む、見る、聞く」が、その他の年代は「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは50 歳代で81.5%、以下、60 歳代で80.6%、70 歳以上で75.3%と続いている。

●居住地域別にみると、水口地域は「読まない、見ない、聞かない」が、土山地域、信楽地域は「必ず読む、見る、聞く」が、その他の地域は「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは土山地域で86.4%、以下、信楽地域で76.9%、甲賀地域で73.3%、甲南地域で71.3%、水口地域で66.6%と続いている。

●居住年数別にみると、10年以上は「たまに読む、見る、聞く」が、その他の年数は「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは10年以上で73.0%、以下、3年～10年未満で57.8%、3年未満で51.9%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

⑪区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（単数回答）



7 スポーツについて

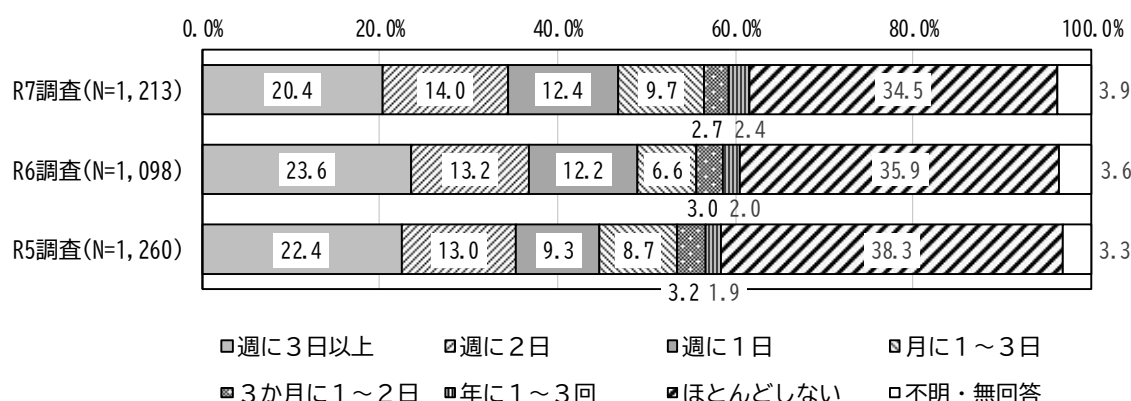
(1) 1回30分以上の運動頻度

《問 26》 1回30分以上の運動※を、どの程度行っていますか。(○は1つ)

※ 運動とは散歩などを含みます。また、学校の体育の授業や職業として行ったものは除いてください。

昨年と比較すると、「週に3日以上」と「週に2日」と「週に1日」を合わせた『週に数日運動する』の割合が減少している。

■ 1回30分以上の運動頻度（単数回答）



●全体でみると、「ほとんどしない」が34.5%で最も多くなっており、以下、「週に3日以上」が20.4%、「週に2日」が14.0%、「週に1日」が12.4%、「月に1～3日」が9.7%、「3か月に1～2日」が2.7%、「年に1～3回」が2.4%と続いている。『週に数日運動する』は46.8%となっている。

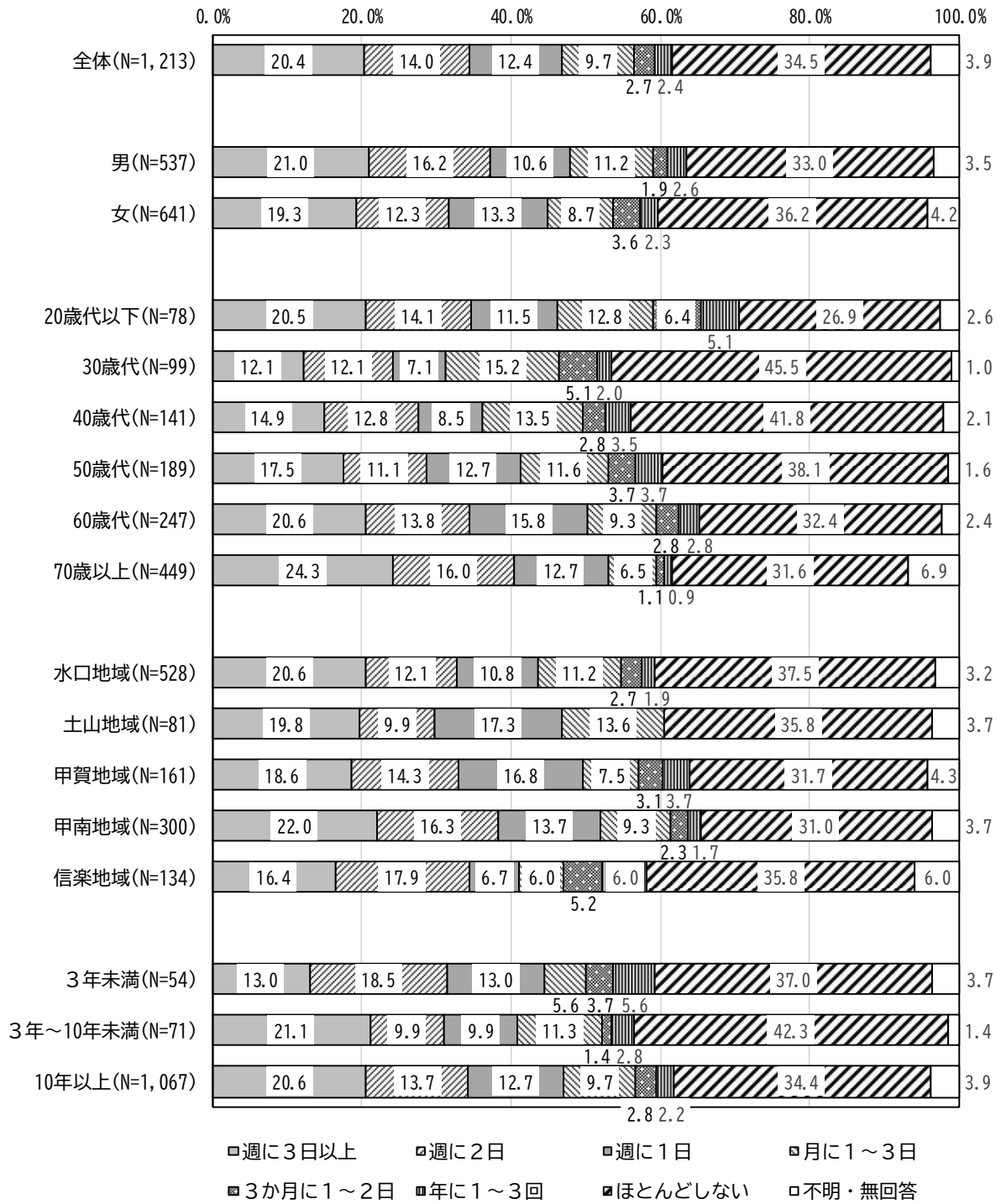
●性別にみると、男性、女性ともに「ほとんどしない」が最も多くなっている。『週に数日運動する』の割合をみると、男性は47.8%、女性は44.9%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「ほとんどしない」が最も多くなっている。『週に数日運動する』の割合をみると、最も多いのは70歳以上で53.0%、以下、60歳代で50.2%、20歳代以下で46.1%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「ほとんどしない」が最も多くなっている。『週に数日運動する』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で52.0%、以下、甲賀地域で49.7%、土山地域で47.0%、水口地域で43.5%、信楽地域で41.0%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「ほとんどしない」が最も多くなっている。『週に数日運動する』の割合をみると、最も多いのは10年以上で47.0%、以下、3年未満で44.5%、3年～10年未満で40.9%と続いている。

■ 1回30分以上の運動頻度（単数回答）

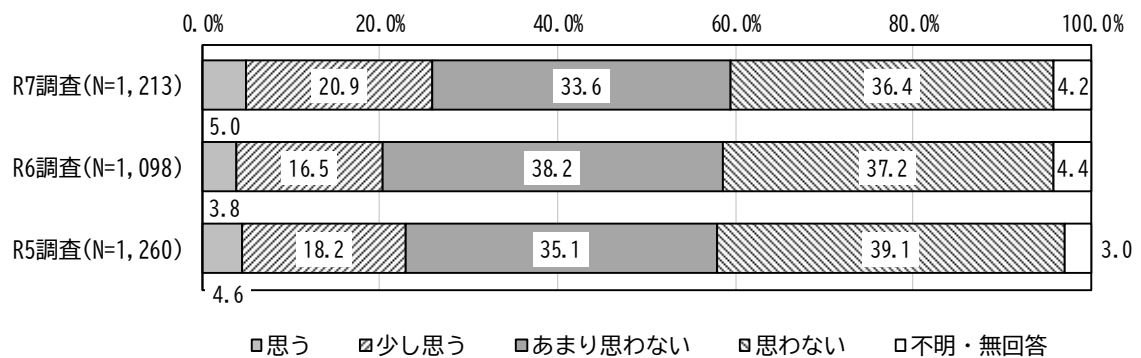


(2) スポーツボランティア活動の参加意向

《問 27》 スポーツボランティア活動に参加したいと思いますか。(○は1つ)

昨年と比較すると、「思う」と「少し思う」を合わせた『意向あり』の割合が増加している。

■スポーツボランティア活動の参加意向（単数回答）



●全体でみると、「思わない」が36.4%で最も多くなっており、以下、「あまり思わない」が33.6%、「少し思う」が20.9%、「思う」が5.0%と続いている。『意向あり』は25.9%となっている。

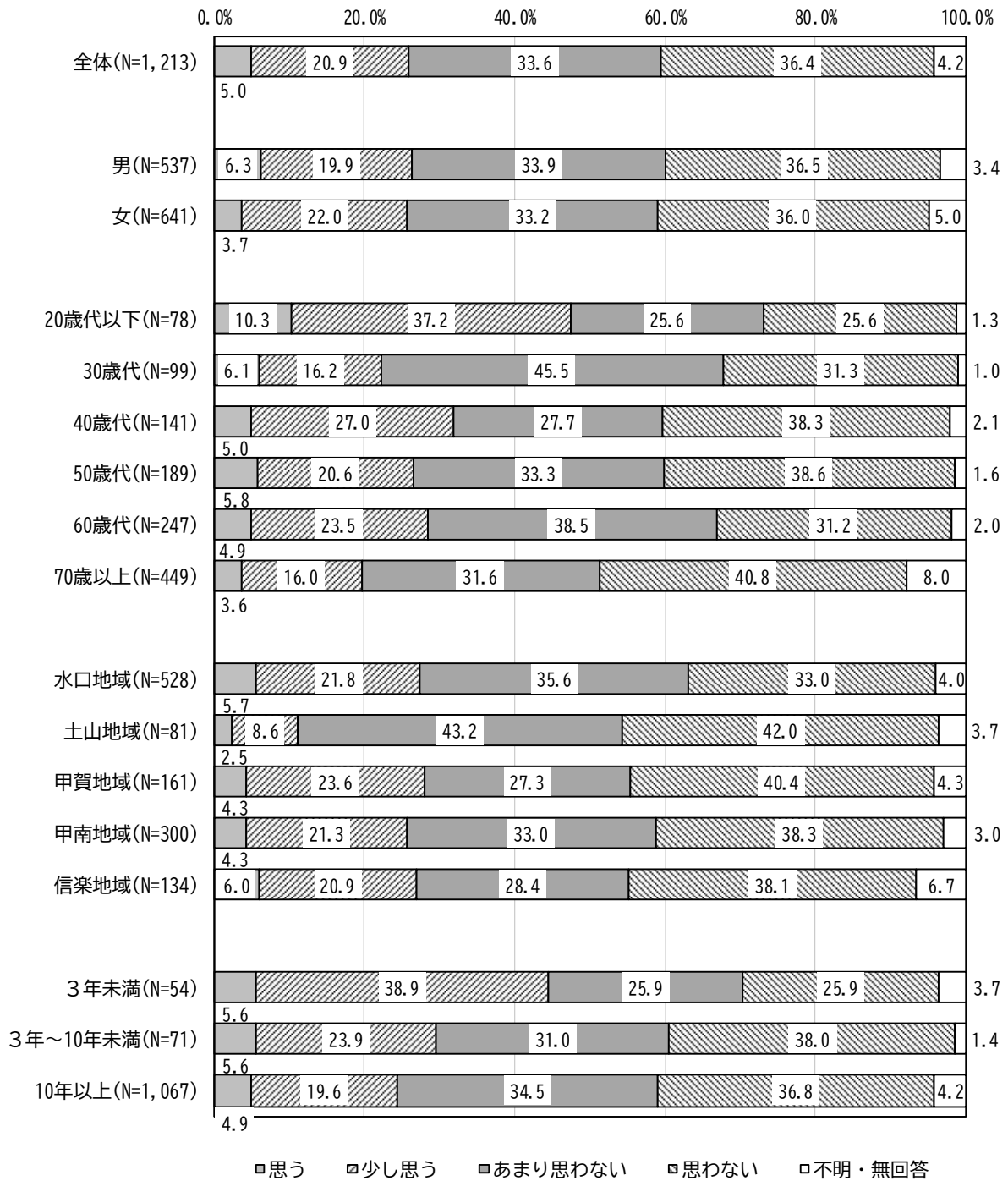
●性別にみると、男性、女性ともに「思わない」が最も多くなっている。『意向あり』の割合をみると、男性は26.2%、女性は25.7%となっている。

●年代別にみると、20歳代以下は「少し思う」が、30歳代、60歳代は「あまり思わない」が、その他の年代は「思わない」が最も多くなっている。『意向あり』の割合をみると、最も多いのは20歳代以下で47.5%、以下、40歳代で32.0%、60歳代で28.4%と続いている。

●居住地域別にみると、水口地域、土山地域は「あまり思わない」が、その他の地域は「思わない」が最も多くなっている。『意向あり』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で27.9%、以下、水口地域で27.5%、信楽地域で26.9%、甲南地域で25.6%、土山地域で11.1%と続いている。

●居住年数別にみると、3年未満は「少し思う」が、その他の年数は「思わない」が最も多くなっている。『意向あり』の割合をみると、最も多いのは3年未満で44.5%、以下、3年～10年未満で29.5%、10年以上で24.5%と続いており、年数が長くなるにつれて少なくなっている。

■スポーツボランティア活動の参加意向（単数回答）



甲賀市市政に関する意識調査

アンケートID 10001

= ご協力のお願い =

※上記のIDは無作為に割当てたものであり、個人を特定するものではありません。

日ごろから甲賀市市政へのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
市では、まちづくりの主役である市民の皆様の思いや願いをしっかりと受け止め、市政に活かしていくため、「市政に関する意識調査」を実施します。

いただいたご意見等は、高齢者から若者、子どもまで、健康でいきいきと活躍できる地域をつくるための大切な基礎資料とさせていただきますので、ご協力くださいようお願いいたします。

令和7年(2025年)7月

甲賀市長

岩永裕貴

ご回答にあたってのお願い

■ 令和7年8月19日(火)までに、ご回答をお願いします。

- ご回答は、インターネット回答(同封のインターネット回答操作案内参照)または本調査票のどちらか一方のみにてお願いします。
- 調査票でのご回答の場合は、同封の返信用封筒に入れて、郵便ポストにご投函ください。
※返信用封筒へのお名前のご記入は不要です。
- 今回の調査は、無作為に選ばせていただいた市内にお住まいの18歳以上の方3,000人を対象に実施しています。
- この調査は、個人を対象としていますので、お送りした封筒に書かれているあて名の方ご自身がご回答ください。(ご本人による回答が困難な場合は、ご家族等の方がご本人から聞き取って代筆ください。)
- この調査の回答は、無記名でお願いしています。回答いただいた内容は、統計的に処理しますので、内容が外部にもれたりしてご迷惑をおかけすることはありません。安心してご回答ください。
- 回答は、質問ごとに用意した答えの中から、あなたのお考えに近いものの番号に○印をつけてください。
- 回答したくない設問については、お答えいただかなくて結構です。

- 甲賀市をより良いまちにするために調査にご協力ください。わからない事があれば下記へご連絡ください。
- Please cooperate with our survey to make Koka City a better town. Please call this number as follows, if you have any questions.
- 고카시를 보다 좋은 도시로 만들기 위한 조사에 협력해 주십시오. 모르는 것이 있으시면 다음으로 연락해 주십시오.
- 为了把甲賀市变成更好的城市,请协助调查。如果有不明白的地方,请联系以下地址。
- Pedimos sua colaboração em relação a esta pesquisa, para fazer da Cidade de Koka uma cidade melhor. Em caso de dúvidas, favor entrar em contato pelo telefone descrito abaixo.
- Por favor coopere con la encuesta para hacer de la Ciudad de Koka una ciudad mejor. Si tuvieran alguna duda, pueden llamar al número de teléfono que figura en la parte de abajo.
- Rất mong mọi người hợp tác về việc khảo sát để giúp thành phố Koka trở nên tốt đẹp hơn. Nếu có điều gì không hiểu, vui lòng liên hệ tới số dưới đây.

【本調査に関する問合せ先】

甲賀市総合政策部 秘書広報課 TEL 0748-69-2101(直通) FAX 0748-63-4619

1. あなたご自身のことについておたずねします

《問1》 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|-----|-----|----------|
| 1 男 | 2 女 | 3 答えたくない |
|-----|-----|----------|

《問2》 あなたの年齢は、7月1日現在でいくつですか。(○は1つ)


- | | | | |
|----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 18～19歳 | 2 20～24歳 | 3 25～29歳 | 4 30～34歳 |
| 5 35～39歳 | 6 40～44歳 | 7 45～49歳 | 8 50～54歳 |
| 9 55～59歳 | 10 60～64歳 | 11 65～69歳 | 12 70～74歳 |
| 13 75歳以上 | | | |

《問3》 あなたのお住まいの地域はどちらですか。(○は1つ)

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 1 水口地域 | 2 土山地域 | 3 甲賀地域 |
| 4 甲南地域 | 5 信楽地域 | |

《問4》 あなたは、いつから甲賀市に住んでいますか。(○は1つ)

- | |
|--------------------------|
| 1 生まれてからずっと甲賀市に住んでいる |
| 2 甲賀市で生まれて、市外に転出後、再び転入した |
| 3 市外で生まれて甲賀市に転入した |


 《問4-1》 問4で「2」または「3」と回答された方におたずねします。
 転入後、何年ぐらい甲賀市に住んでいますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------|------------|---------|
| 1 3年未満 | 2 3年～10年未満 | 3 10年以上 |
|--------|------------|---------|

《問5》 あなたの世帯(同居)の構成はどれですか。(○は1つ)

1 単身	2 夫婦のみ	3 二世帯世帯
4 三世帯世帯	5 その他()	



《問5-1》 問5で「3・4・5」のいずれかに回答された方におたずねします。
あなたに、就学前または就学しているお子様・お孫様(同居)はおられますか。
(○はいくつでも) ※別居されているお子様・お孫様は含みません。

1 2歳以下	2 3歳～小学校入学前
3 小学生	4 中学生
5 高校生	6 専門学校生・短大生・予備校生・大学生(大学院生)
7 就学前または就学している子どもはいない	

《問6》 あなたの職業等は何ですか。(○は1つ)

1 会社員	2 公務員	3 自営業
4 パート・アルバイト	5 学生	6 専業主婦・主夫
7 無職	8 その他()	



《問6-1》 問6で「1～5」のいずれかに回答された方におたずねします。
あなたの勤務地(通学地)はどちらですか。(○は1つ)

1 自宅	2 甲賀市内
3 甲賀市以外の滋賀県内	4 県外

2. 市政全体に関する満足度等についておたずねします(市民意識)

《問7》 あなたは、甲賀市の住みやすさについてどのように感じておられますか。(○は1つ)

1 住みやすい	2 まあまあ住みやすい
3 どちらともいえない	4 あまり住みやすくない
5 住みにくい	

《問8》 あなたの甲賀市での暮らしの「満足度」と「重要度」についておたずねします。
 以下の①～⑧のそれぞれの項目について、右の欄の1～6の中から満足度合い、重要度合いに最も近いものを選んでください。(それぞれ○は1つ)

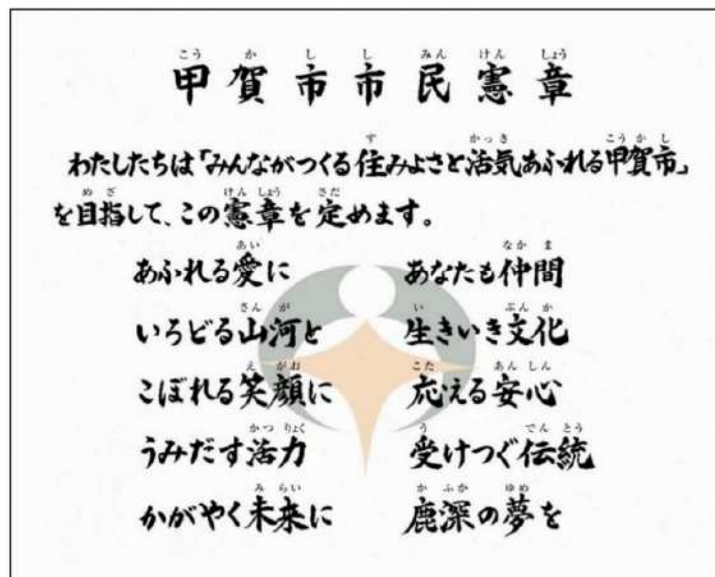
※ この調査項目は、「甲賀市市民憲章」で示している5つのまちづくりの方向性で分類しています。
 詳しくはP.5の「甲賀市市民憲章」をご覧ください。

	満足度						重要度					
	1 満足	2 どちらかといえば満足	3 どちらともいえない	4 どちらかといえば不満	5 不満	6 わからない	1 重要	2 どちらかといえば重要	3 どちらともいえない	4 どちらかといえば重要ではない	5 重要ではない	6 わからない
1. あふれる愛にあなたも仲間												
① 市民自治 (区・自治会、自治振興会、まちづくり協議会、市民活動)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
② 市民共生 (人権、多文化共生)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
③ 男女共同参画	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
④ シティプロモーション (情報発信、広報広聴)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
2. いろどる山河と生きいき文化												
⑤ 環境・資源・エネルギー (生活環境保全、脱炭素社会、廃棄物処理)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑥ 自然・公園・緑地 (自然保護、自然共生、公園整備)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑦ 歴史・文化財・景観 (文化財の調査、保護、活用、景観の保全)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑧ 文化・スポーツ (生涯学習、文化、芸術、スポーツの振興)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

		満足度						重要度					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
		満足 足	満足 どちらか といえ ば	どちら ともい えない	不満 どちら かとい え	不満	わ か ら な い	重 要	重 要 どちら かとい え	どちら ともい えない	重 要 で は な い	重 要 で は な い	わ か ら な い
3. こぼれる笑顔に 応える安心													
⑨	地域福祉（高齢者の生きがい、障がい福祉、地域福祉団体、ボランティア、セーフティネット）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑩	保健・医療（健康、疾病の予防と早期対策、地域医療体制、国民健康保険、後期高齢者医療保険）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑪	住まい・ライフライン（良好な住環境、公営住宅、上下水道）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑫	安全・防災（事故予防、防犯、消防、地域の防災体制、治水、砂防）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
4. うみだす活力受けつく伝統													
⑬	農林畜水産（農林畜水産業振興、地域ブランド、鳥獣害対策）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑭	商工観光（商業、地場産業、工業、観光振興）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑮	活躍・雇用（就労支援、女性の活躍、勤労者福祉）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑯	道路（広域幹線道路、道路整備）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑰	交通（鉄道、バス等）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

	満足度						重要度					
	1 満足	2 満足	3 どちらか といえ	4 どちらとも いえない	5 不満	6 わからない	1 重要	2 重要	3 どちらか といえ	4 どちらとも いえない	5 重要で はない	6 わから ない
5. かがやく未来に鹿深の夢を												
⑮ 都市形成（市街地整備、土地の有効利用）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑯ 若者・子ども・子育て（若者の活躍、子育て支援、就学前教育、保育、放課後児童クラブ、子育てネットワーク）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑳ 学校教育、社会教育（学校教育、社会教育、教育環境の充実）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
㉑ 行財政（職員の質、行政サービスの効率、財産管理、財政運営）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

※ 問8の調査項目は、下記の「甲賀市市民憲章」で示している5つのまちづくりの方向性で分類しています。



《問9》 あなたは、現在の暮らしに幸せを感じますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|------------------|
| 1 そう感じる | 2 どちらかといえばそう感じる |
| 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえばそう感じない |
| 5 感じない | |

➡ <問9-1> 問9で「1・2」のいずれかに回答された方におたずねします。
あなたは、どのようなことに幸せを感じますか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 収入(お金) | 2 就業状況(仕事の有無・安定) |
| 3 健康 | 4 自由な時間、充実した余暇 |
| 5 社会貢献 | 6 家族関係 |
| 7 友人関係 | 8 職場や学校等での人間関係 |
| 9 地域コミュニティ、ご近所との関係 | 10 その他() |

《問10》 あなたは、甲賀市に愛着をお持ちですか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-------------|
| 1 愛着がある | 2 まあまあ愛着がある |
| 3 あまり愛着がない | 4 愛着がない |

《問11》 あなたは、甲賀市の魅力を市外の人に自慢できますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 自慢できる | 2 まあまあ自慢できる |
| 3 あまり自慢できない | 4 自慢できない |

《問12》 あなたは、これからも甲賀市に住みつづけたいと思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|-----------------|-------------|
| 1 住みつづけたい | 2 住みつづけたいとは思わない | 3 どちらともいえない |
|-----------|-----------------|-------------|

《問13》 あなたは、市政(市役所のしていること)に関心をお持ちですか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-------------|
| 1 関心がある | 2 まあまあ関心がある |
| 3 あまり関心がない | 4 関心がない |

3. 自治振興交付金についておたずねします

《問14》 住民税の3%(概ね1億6,000万円)が市内23の自治振興会、まちづくり協議会(概ね小学校区)に自治振興交付金として交付され、地域の課題解決事業に自由度高く活用されています。そのうち2,200万円は主に敬老会(飲食、催し物等)に使われていますが、今後の施策の方向性として望ましいのはいずれでしょうか。(○は1つ)

- 1 従来どおり、敬老会に活用してほしい。
- 2 健康づくり(健康体操など)に活用してほしい。
- 3 移動支援(買い物、通院送迎など)に活用してほしい。
- 4 多世代交流(こども、若者と高齢者)に活用してほしい。
- 5 こども、若者の活動(地域の担い手育成など)に活用してほしい。
- 6 特に重視すべきものはない／わからない
- 7 その他()

4. 組回覧(回覧板)についておたずねします

《問15》 現在、市からの情報伝達手段の1つとして、紙文書を月に1回、それぞれの区・自治会を通じて組回覧(回覧板)という手法をとっています。

市からの組回覧(回覧板)文書についてご覧になっていますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|------------|
| 1 毎回読んでいます | 2 時々読んでいます |
| 3 ほとんど読まない | 4 読んだことがない |

➡ <問15-1> 問15で「1～3」のいずれかに回答された方におたずねします。

市からの組回覧(回覧板)について、どのような方法で受け取ることができればよいと思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1 メール配信 | 2 SNS(LINE、Facebook) |
| 3 地域の掲示板 | 4 市のホームページ |
| 5 今までどおりの回覧板 | 6 なくてもよい |
| 7 特に希望はない | 8 その他() |

5. 外国人市民との共生についておたずねします

「やさしい日本語」は、簡単な表現や言葉を使い、相手に配慮したわかりやすい日本語のことです。

(普通の日本語)	(やさしい日本語)
土足厳禁	➡ 靴を脱いでください。
地震です。高台に避難してください。	➡ 地震です。高い所へ逃げてください。

話すとき：ゆっくり、はっきり、最後まで話すなどの工夫をします。

書くとき：文を短くする、漢字にふりがなを振るなどの工夫をします。

《問16》あなたは「やさしい日本語」を知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1 よく知っている | 2 ある程度知っている |
| 3 見たこと、聞いたことがある | 4 全く知らない |

《問17》あなたは「やさしい日本語」を使いたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|----------------|
| 1 積極的に使いたい | 2 使いたい |
| 3 必要があれば使う | 4 使い方が分かれば使いたい |
| 5 使いたくない | |

《問18》あなたは、外国人に対してどのような場面で「やさしい日本語」を使って対応すると良いと思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|--|
| 1 仕事のとき | |
| 2 災害関連情報の提供や緊急災害のとき | |
| 3 日本の文化・習慣について話すとき | |
| 4 病院や薬、健康診断などについて話すとき | |
| 5 ゴミの収集、ペットなどの生活情報について話すとき | |
| 6 税金・年金・医療保険などについて話すとき | |
| 7 学校や保育園、幼稚園など教育について話すとき | |
| 8 妊娠・出産、子育て、福祉サービスなどについて話すとき | |
| 9 その他() | |

《問19》あなたが、日本に居住している外国人に関し、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題だと思ったことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- 1 職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること
- 2 交際や結婚を反対されること
- 3 就職・職場で不利な扱いを受けること
- 4 差別的な言葉を言われること
- 5 アパートなどへの入居を拒否されること
- 6 宿泊などの施設の利用や、店舗などへの入店を拒否されること
- 7 風習や習慣などの違いが受け入れられないこと
- 8 じろじろ見られたり、避けられたりすること
- 9 その他()
- 10 特になし

《問20》ヘイトスピーチ(特定の民族や国籍の人々を排斥する不当な差別的言動)について、どのように思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 不愉快で許せないと思った
- 2 日本に対する印象が悪くなると思った
- 3 自分には関係ないと思った
- 4 ヘイトスピーチをされる側に問題があると思った
- 5 表現の自由の範囲内のものだと思った
- 6 その他()
- 7 何も思わない

《問21》 市内に外国人が増えることをどう思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------|----------|---------|
| 1 望ましい | 2 望ましくない | 3 わからない |
|--------|----------|---------|



＜問21-1＞ 問21で「1」と回答された方におたずねします。

望ましいと思う理由を教えてください。(○はいくつでも)

- 1 外国の文化・生活習慣に触れる機会が増える
- 2 外国人の友人、知人をつくる機会が増える
- 3 外国語を学ぶ機会が増える
- 4 人口が増えて町に活気が出る(地域の活性化につながる)
- 5 働き手や消費者が増える
- 6 地域活動を支える担い手が増える
- 7 その他()



＜問21-2＞ 問21で「2」と回答された方におたずねします。

望ましくないと思う理由を教えてください。(○はいくつでも)

- 1 近隣とのトラブルが増えそう
- 2 文化・生活習慣が違う
- 3 意思の疎通が難しい
- 4 社会的負担が増える
- 5 外国人がコミュニティを形成し、社会的分断が進む
- 6 外国人材に仕事を奪われる
- 7 その他()

6. 人権^{じんけん}に関する^{かん}ことについておたずねします

《問22》「人権^{じんけん}が尊重^{そんちよう}されるまち」になっていると^{かん}感じられますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------------|---------------------------------|
| 1 そう ^{かん} 感じる | 2 どちらかといえばそう ^{かん} 感じる |
| 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえばそう ^{かん} 感じない |
| 5 ^{かん} 感じない | |

《問23》過去3年以内に、さまざまな団体^{だんたい}が行^{おこな}う人権^{じんけん}に関する^{かん}取り組みに参加^{とく}されたことがありま^{さん}すか。(人権^{じんけん}に関する^{かん}取り組みとは、人権^{じんけん}尊重^{そんちよう}のまちづくり懇談会^{こんだんかい}、セミナー、パネル展^{てんとう}等のことです。)(○は1つ)

- | | |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|

《問24》人権^{じんけん}の尊重^{そんちよう}されるまちの実現^{じつげん}に向けて、どのようにお^む考え^{かんが}ですか。(○は1つ)

- | |
|---|
| 1 実現 ^{じつげん} に向けて、自分 ^{じぶん} のできる限り ^{かぎ} の努力 ^{どりよく} をしたい |
| 2 特に努力 ^{どりよく} したいとは考 ^{かんが} えていないが、差別 ^{さべつ} しないようにしたい |
| 3 自分 ^{じぶん} ではどうにもならないので、なりゆきにまかせる |
| 4 できるだけ避 ^さ けて通 ^{とお} りたい |
| 5 差別 ^{さべつ} はないので、人権 ^{じんけん} 問題 ^{もんだい} は存在 ^{そんざい} しない |
| 6 特に考 ^{かんが} えていない |

7. 市の情報発信についておたずねします

「問25」市に関する次の情報を、どの程度読んだり、見たり、また音声等で聞いたりしておられますか。(それぞれ○は1つ)

※ 令和6年度より文字だけの情報発信でなく、グラフィック(イラストや写真)を用いて視覚的にわかりやすくする取り組みを強化しています。

					左記「1・2・3」のいずれかに回答された方におたずねします。											
					わかりやすい(読みやすい、見やすい、聞きやすい)内容になっていますか。 (それぞれ5～8で○は1つ)				グラフィックがあることで、 わかりやすい(読みやすい、見やすい) 内容になっていますか。 (それぞれ9～12で○は1つ)							
					1 必ず読む、見る、聞く	2 よく読む、見る、聞く	3 たまに読む、見る、聞く	4 読まない、見ない、聞かない	5 思う	6 どちらかといえば思う	7 思わない	8 わからない	9 思う	10 どちらかといえば思う	11 思わない	12 わからない
①	広報紙「広報こうか」				1	2	3	4	5	6	7	8				
②	甲賀市ホームページ				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
③	甲賀市公式LINE				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
④	甲賀市フェイスブック				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
⑤	行政情報コーナー「きらめきこうか」 (あいコムこうか「まちかどKOKAデイリー」内)				1	2	3	4	5	6	7	8				
⑥	音声放送端末機				1	2	3	4	5	6	7	8				
⑦	市議会だより				1	2	3	4	5	6	7	8				
⑧	市議会ホームページ				1	2	3	4	5	6	7	8				
⑨	市議会中継・録画(あいコムこうか)				1	2	3	4								
⑩	市議会インターネット中継・録画				1	2	3	4								
⑪	区・自治会等を通じた各戸配布や 回覧(文書、チラシ、ポスターなど)				1	2	3	4								

8. スポーツについておたずねします

《問26》 1回30分以上の運動※を、どの程度行っていますか。(○は1つ)

※ 運動とは散歩などを含みます。また、学校の体育の授業や職業として行ったものは除いてください。

1 週に3日以上	2 週に2日	3 週に1日
4 月に1～3日	5 3か月に1～2日	6 年に1～3回
7 ほとんどしない		

《問27》 スポーツボランティア活動に参加したいと思いませんか。(○は1つ)

1 おも 思う	2 すこ おも 少し思う	3 あまりおも わない	4 おも わない
------------	-----------------	----------------	-------------

質問は以上です、ご協力ありがとうございました。

回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、

令和7年8月19日(火)までに、ポストにご投函ください。

甲賀市市政に関する意識調査報告書

発 行 日：令和 7（2025）年 12 月

編集・発行：甲賀市総合政策部秘書広報課

〒528-8502 滋賀県甲賀市水口町水口 6053 番地

Tel:0748-69-2101／Fax:0748-63-4619